

黎明十年

千葉県立成田北高等学校



ニュータウン全景



校舎全貌



創立十周年記念事業



心をこめて演奏（平成2年6月17日）



第一回定期演奏会を開催（平成2年6月17日）



黎明祭—保護者も参加—（平成2年9月29、30日）



黎明祭—開会式—（平成2年9月29日、30日）



体育祭—綱引き—（平成2年10月7日）



体育祭—入場行進—（平成2年10月7日）



記念像「海へ」



記念像の除幕式（平成2年10月16日）



芸術鑑賞・前進座「さんしょう太夫」—受付—（平成2年11月14日）



芸術鑑賞・前進座「さんしょう太夫」—開演前（平成2年11月14日）



芸術鑑賞・前進座「さんしょう太夫」の舞台
(平成2年11月14日)



十周年記念祝賀会（平成2年11月14日）



十周年記念祝賀会
—白木ひろしカルテットの演奏—
(平成2年11月14日)

礎—成田北高の十年—



校地に堆積する成田層の貝化石



「千手ヶ池」を埋立ててグランドを造成



開校式並びに入学式—成田西高体育館で—(昭和55年4月15日)



竣工間近な南校舎—「校庭に散りしく白き貝」が見える—
(昭和55年2月13日)



開校年度職員—3月29日に竣工した南校舎を背景に—(昭和55年4月15日)



開校年度行事「文化月間」—吹奏楽部の演奏—
(昭和56年1月29日)



校旗・校歌制定式—成田市中央公民館で—
(昭和55年11月22日)



第2期工事(北校舎・体育館)が進む (昭和56年3月)



体育館竣工記念のバレー ボール模範試合
(昭和56年9月18日)



全校舎竣工 (昭和57年1月5日)



校舎竣工記念植樹—メタセコイアを植える (校舎落成記念式典の日に)— (昭和57年10月30日)

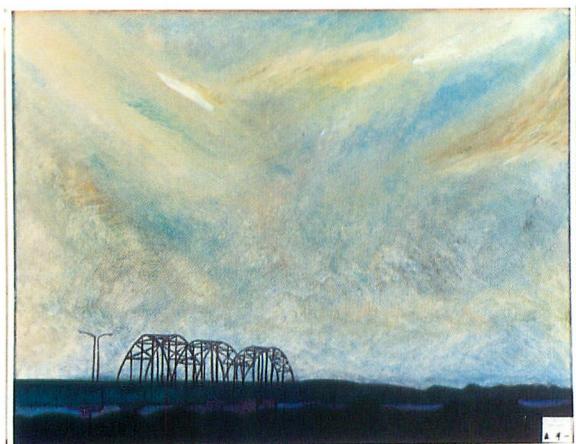


第1回卒業式挙行—ひとりひとりに卒業証書授与—(昭和58年3月9日)

特別講演—川辺敏先生「高校生の心とからだ」
(第6回PTA総会)—(昭和60年5月17日)



定着した学年PTA(昭和61年11月15日)



「第37回学展」油絵部門大賞受賞「変化のある空」森洋一
(昭和62年)



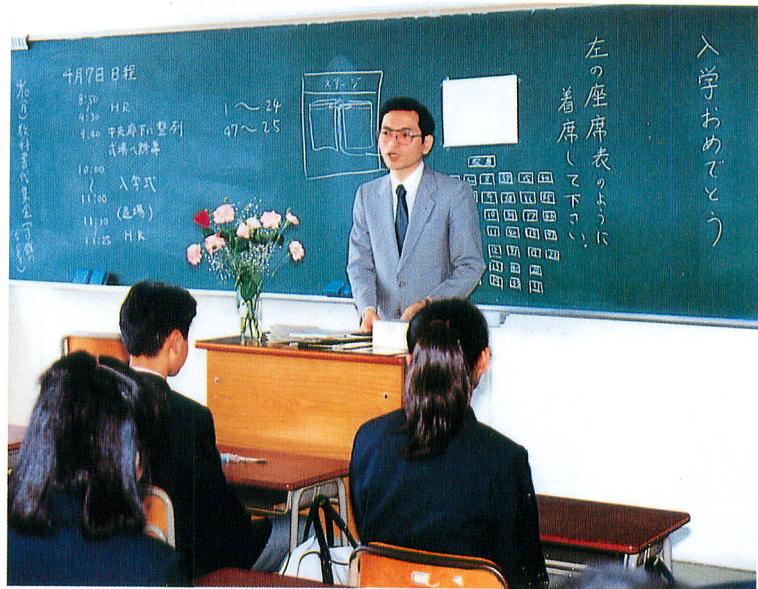
パン販売始まる(昭和63年5月9日)



「第37回学展」デザイン部門大賞受賞「自由キママ S M」加瀬大介(昭和62年)



平成元年度読書感想画中央コンクール
最優秀賞受賞「悲しみの大陸」 岡由美子



第10期生を迎える一入学式当日のH.R.でー（平成元年4月7日）



平成2年度職員（平成2年4月6日）



第8回卒業式挙行（平成2年3月9日）



現在の校舎全景（平成2年5月）

春夏秋冬、—成田北高の一年—



4月 成田北高の春—正門から見た校舎と桜並木—



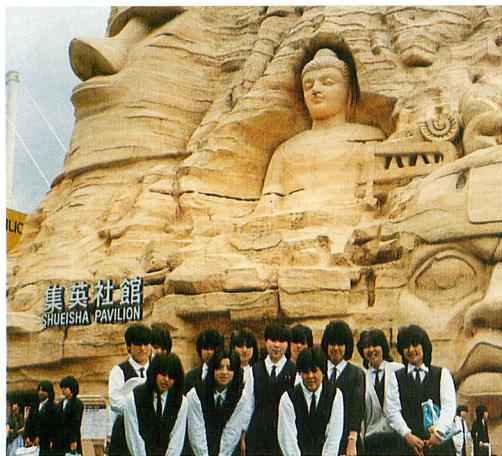
3月 学力検査実施—新年度の胎動—



5月 林間学校—新しい友との交わり—



4月 新年度のスタート—入学式での職員紹介—



6月 校外学習(遠足)—筑波万博でのスナップ—



5月 スポーツテスト—能力と体力の限界に挑戦—



9月 黎明祭—創意をこらしたアーチと看板—



7月 高校野球—胸を張って校歌を歌う—



9月 黎明祭—千客万来—



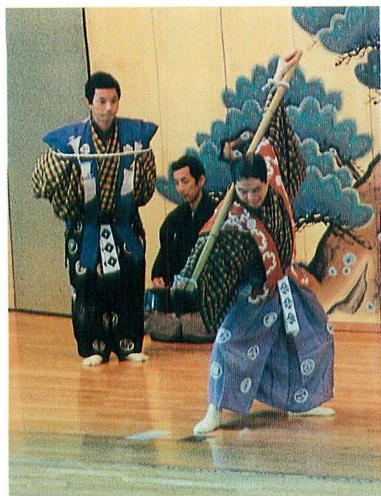
7月 野球応援—友のため母校のために燃える—



10月 スポーツ大会—クラス対抗リレーにわく—



7月 防災訓練—救助袋で避難—



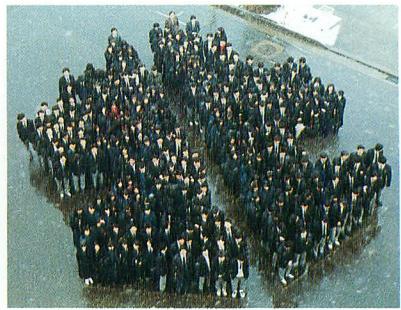
11月 芸術鑑賞会—狂言を楽しむ—



10月 修学旅行—瀬戸大橋が美しい—



1月 予餞会—職員劇に爆笑—



1月 小雪の舞う中で「北」の人文字
—卒業記念に—

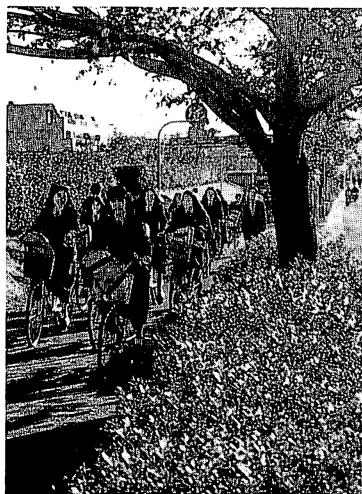


2月 校内マラソン大会—寒風をついて—



3月 卒業式一万感の思い、新たな決意—

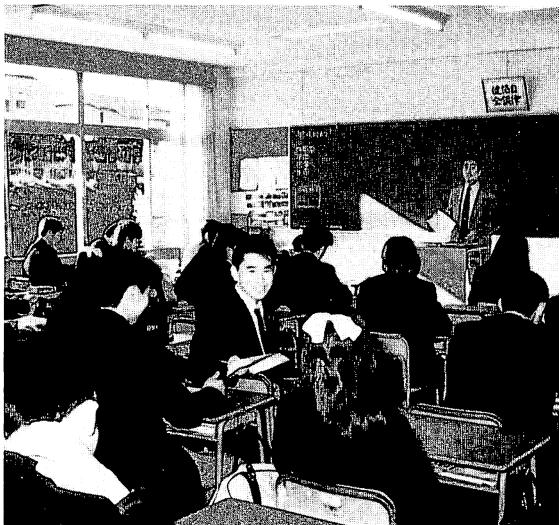
希望に燃えて—成田北高の一日—



朝陽を浴びてニュータウンの並木道を走る



朝一成田駅西口からバスに乗る—



成田北高の一日が始まる—朝のS H R—



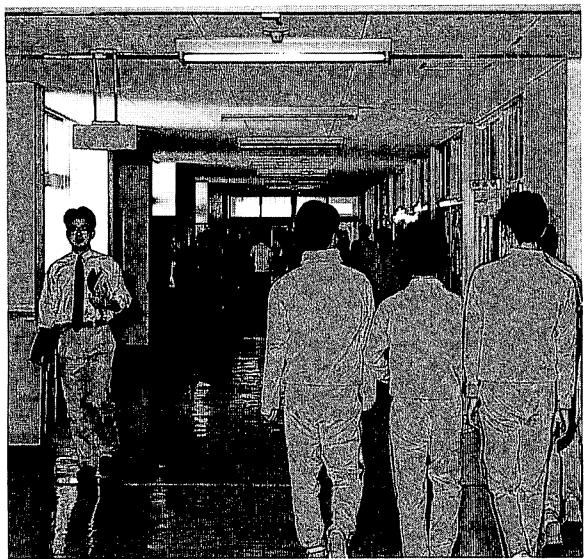
日々新たに—正門前の北高生—



教科準備室のスナップ—英語科—



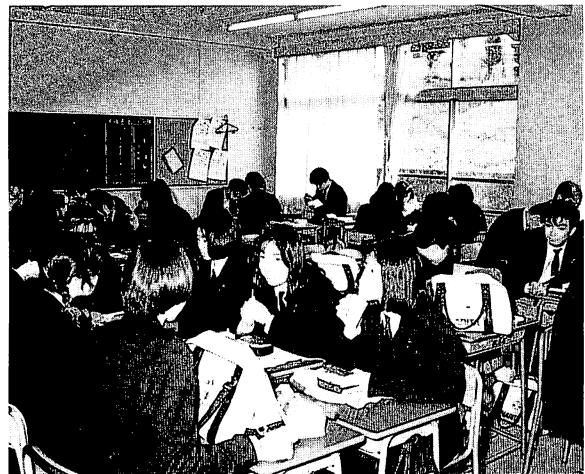
授業—学ぶ喜びを求めて—



中央廊下—体育を終えて—



授業—新しい発見に感動—



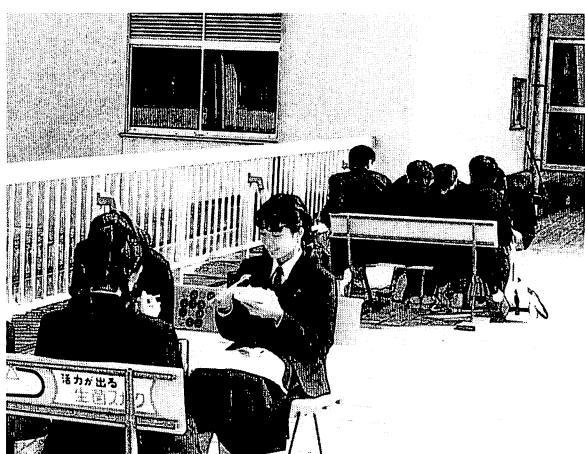
昼休みー友との楽しいひとときー



昼休みーパンの販売ー



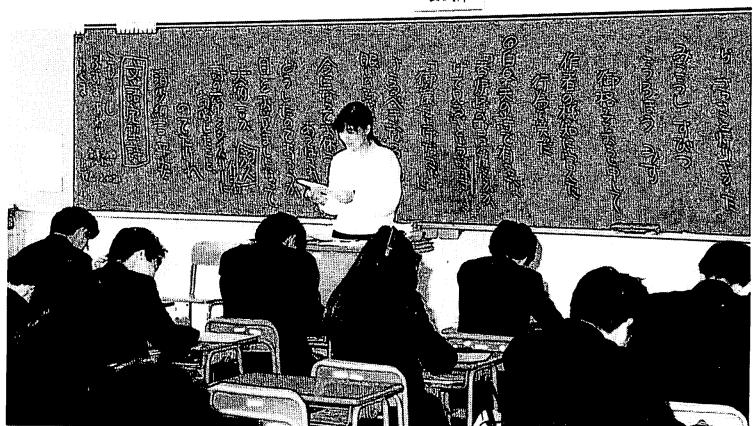
授業—L.L.教室でエイミィさんに学ぶ—



昼休みー青空廊下(屋上)に憩う生徒ー



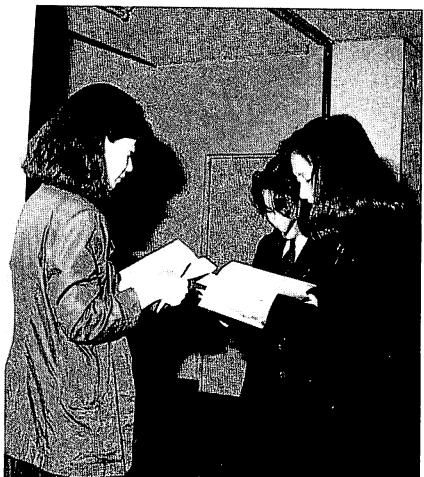
清掃—けじめある生活習慣—



授業—ひたむきに学ぶ—



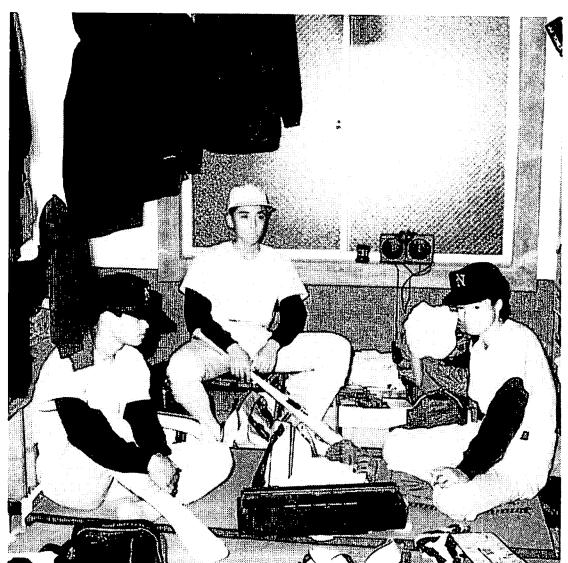
一日の生活を終えて一生徒界降り—



放課後も学ぶ場を求めて—先生に質問—



家路を急ぐ



部活動に新たな意欲と活力を燃やす—野球部の部室で—

校 歌

作詞 沢田繁二
作曲 寺内昭

一、黎明近き

成田路に

光を待ちて

佇めば

新星北に

またたきて

さやけく開く

英知の門

おおその名

北 高

奮ひ立ち

希望に燃えて

自律の旗

高くかかげん

二、若草萌ゆる 土深く
太古の海が 眠りみて
校庭に散りしく 白き貝
その成長の 線のごと

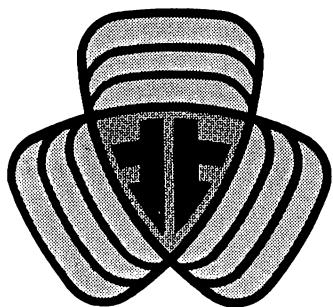
おおその名 北 高

記章を胸に
向上の 固く結ばん

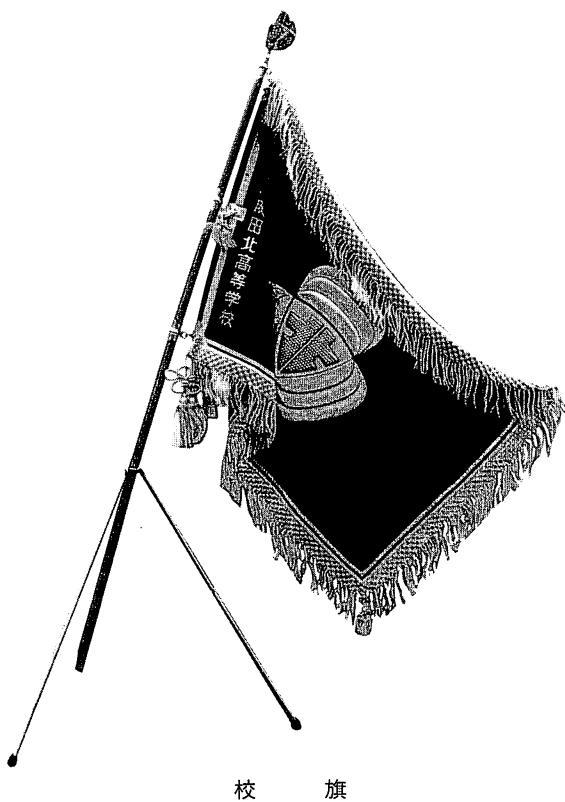
三、翼を挙げて ペガサスは
針路を北に 天翔ける
たどへ嵐は 荒ぶとも
若き生命に 力あり
おおその名 北 高

たくましく 未来に向ひ

健全の道 ともに進まん



校 章



校 旗

校章の由来

成田ニュータウンの北部地区にある本校の校地は、地質時代第四紀洪積世の地層である成田層が露出していて、太古の海底に堆積した貝類が化石として多産する。その貝殻の三枚を組み合わせたデザインで、本校の教育理想「知育・德育・体育の調和」を形象化し、また校訓「自律・協調・健全」を目指して努力する若人の進歩を貝殻の成長線で示した。中央には校名より「北」の字を配して、国際空港都市、成田から世界に雄飛するジェット機に模し、未来に向かつて発展する若人の可能性を表現した。

輝く北星

——創立十周年記念誌に寄せて——

校長 羽生正允



ここに成田北高等学校創立十周年記念誌を刊行するはこびとなりました。

昭和五十五年四月十五日、成田市の西北、緑に囲まれた成田ニュータウンの一角で本校は産声を上げました。スタートは一学年四学級、定員百八十名でまことにこぢんまりとした学校でした。当時を知る方のお話しによりますと、自分たちの手で学校をつくるんだという意気込みが職員、生徒、さらにPTA会員の方々の間に溢れ、苦労も忘れて学校づくりに取り組んだ毎日であったということです。そうは申しても、やはり学校環境など条件が整わず、困難の連続であつたことは想像に難くありません。本校五周年記念誌を拝見いたしますと、この間のご苦労のほどが手にとるようにしのばれます。ここで改めて、草創期の関係者各位に深く感謝の意を表するしだいです。

PTAの広報紙は年三回発行しており、すでに三十号を超えた。その創刊号に掲載されている岩上利男初代校長先生の入学式式辞の中に「本校の使命は、二十一世紀を展望した新しい時代に即した高等学校を建設し、世界にはばたく若者を育てることにあります。校訓として掲げた『自律』『協調』『健全』はそのために諸君が常に目ざしてほしい目標です」という主旨の、将来を見通した力強いことばがあります。十年後の今日でも、そのまま立派に通用する意義深い内容です。本校では各教室にこの校訓を掲げていますが、生徒一人ひとりが在学中にぜひこの精神を体得してほしいという願いからです。

本校十年間の歴史は目まぐるしい変貌と発展の中にその跡をたどることができます、現在本校でお世話になっている私たちは、ここに至るまでの県教育委員会をはじめ、先に述べた草創期の方々を含め、関係各位の一方ならぬご尽力を無にせぬよう、今後共日々新たなる気持で、本校の良き校風並びに伝統をさらに伸ばすべく努力を重ねてまいる所存です。

お蔭をもちまして、わが校も今や学級数三十、生徒数千四百名になんなんとする県下でも最大規模の学校となり、質量共に地域を代表する高等学校に成長いたしました。施設、設備も他校に優るとも劣ることなく立派に整備されました。生徒の学習面、生活面さらに課外活動の面でも着実に成果を挙げつつあります。中でも、美術部が全国的規模のコンクールにおいて再三にわたり最優秀賞を獲得したことは特筆に値すると考えます。この外の部活動でも本年度は多くの部がブロック予選を突破し、県大会に出場し、生徒の意気もさかんです。部加入率も年を追つて高まっております。加えて、この四月からは部、同好会も大幅に増設いたしました。これからも活躍が大いに楽しみです。このような次第で、地域の皆様方の本校に対する評価も

相応のものをいただいており、まことにうれしいことです。このことは本校に寄せる期待の大きいことの表われと受けとれると同時に責任の重さを感じずにはおられません。節目の時にあたり、一層の信頼をかち得るよう、又生徒にも満足してもらえる教育を推し進めてまいりたいと思います。

さて、これからは、いろいろな意味で多難が予想されております。すでに生徒急減期に入り、それと共に学級減も実施の段階にきています。又時代の要請に伴う学科改編や新しい学習指導要領による移行措置のことなど課題は山積しております。さらに国際化、情報化、高齢化の社会への対応も急務です。本校においても地域の要望を基礎に将来を展望した特色ある学校づくりとその具現化に向けて青写真作成にとりかかっています。

ところで、本校の卒業生も千九百余名に達しました。すでに実社会で活躍している者、あるいは上級学校で学生生活を送っている者等さまざまですが、いずれにしても次の世代を担う若者たちです。今後ますます精進を重ね、本校の名を高めてくださることを祈っております。長らく懸案であった同窓会員名簿も十周年記念事業の一環として、昨年の夏刊行されました。これが有効に活用され、本校発展の一助になれば幸いと考えます。

終わりに、本誌発行にあたり、ご多忙のところご協力をいただきました各位並びに編集にたずさわった手島教諭以下委員の方々にお礼と感謝の意を表してごあいさついたします。

伝統と文化の町 成田

創立十周年記念事業実行委員長 鬼澤和夫

成田北高等学校の創立記念日をお祝いしまして、実行委員長として一言ご挨拶を申し上げます。

成田北高等学校はみなさんもご存じのように、年ごとにめざましく発展して参りまして、こんなうれしいことはありません。「のびる」とか「発展する」ということは誠にいい気持ちの言葉ですが、私には全く、本校のためにある言葉のような気が致します。



今年で十周年記念を迎えることになりました成田北高等学校。成田は、成田山門前町と国際都市成田と、二つの顔を持つ町です。歴史は古く、風俗、人物、名勝、伝説など多くのエピソードや物語りがたくさんあります。県立成田北高校敷地を造成する以前は、千把ヶ池とよばれる用水池がありました。松崎宇湯川で、現在の玉造一丁目と五丁目にあたります。この千把ヶ池にも、昔話として悲話伝説がありました。

昔松崎村にお鶴という身体が大きく、働き者の娘がおり、名主の家に奉公していたということです。ある年の田植えの時期、名主はお鶴に「きょうの暮六ツまでに千把の苗を植え終えたら、その田をお前にあげよう」といいました。暮六ツとは、いまの午後六時のことです。その時間で、千把の苗は普通の者では、とても植えることはできません。名主は千把植えるつもりで頑張つてもらえば、得になると簡単に約束したのです。しかしお鶴は、田が自分のものになるというので、休みもとらず、一生懸命に働いたのです。そのかいあって仕事は予想以上に進み、日が沈まないうちに終わりそうです。様子を見に来た名主は、この早さにびっくりぎょうてん。「このままではお鶴に田をあげなくてはならない。これは大変だ」と、急いで寺に行き、まだ早い時刻なのに暮六ツの鐘をついたのです。

こんどはお鶴の方が驚きました。日が沈まないのに「ゴーン、ゴーン」と暮六ツの鐘が鳴っている。あと少しで千把の苗を植え終えるとばかり思っていたお鶴は、田植え仕事の手を休め、股下から後方の大太陽を眺め、「オテントウ様はまだ沈まねえ、オラの勝ちだ」とさけんだところ、がっかりして力が抜けたのか、そのまま田の中へ倒れ、顔をつっこんだまま息絶えたといいます。

その夜、お鶴が田植えた田は陥没して池になり、誰れいうなく、いつしか千把ヶ池とよばれるようになったということです。千把ヶ池の伝説には違つた説も多い。一つは、日が沈むのと苗を植え終わると、どちらが早いか競争し、千把を先に植え終えたお鶴が、はしたなくも股下から、「オテントウ様はまだ沈まねえ、どうだオラの勝ちだ」と眺めたところ、股下から太陽をのぞいた罰があたり、そのまま倒れ死んだと

いう。また、名主の子どもを背負いながら田植えをしており、因業な名主が暮六ツの鐘をついたとたん、その子が背中からすべり落ち、田に顔をつこんで死んだのだともいわれています。

本校の出来る前の話ですが、親の話を聞きますと、この千把ヶ池の湧き水は大変きれいな水で、覗がとれ、大変おいしい覗だったということです。緑に囲まれたすばらしい立地条件にある成田北高等学校が十周年を迎えるにあたり、益々教育設備も整備され、さらに先生方も各専門分野で十分研究されたペテランの方々ばかりで、本校の生徒諸君はほんとうに幸せでございます。子どもたちにとってよい教育環境とは、生徒一人ひとりのことを本気で考え、導いてくださる熱意ある先生がいらっしゃるかどうかだと私は信じていています。

私がみなさんに言えることは、人間は「信じあうこと」であり「自分の言動に責任をもつこと」であり、さらに「自分のすることに信念をもつこと」だと思います。人間関係をよくするには、話し合いも大切ですが、その前に、自分自身を大切にする、という気持ちがなくてはならないのは当然であり、自分のすることに信念があれば、自制心が強くはたらきますから、無茶な、無思慮な行動はとらなくなるわけです。

以上のことから、辛抱強い人柄、正しい人間、これはスポーツ競技によって強く正しく養成されると思います。この辛抱強く、正しく、人間らしい人間を育成するという理想をもつのが、本校の教育方針であると私は確信しております。

今後も世の中の激動に押し流されることなく、本校独自の信念を貫き通していくことを願っています。

ここに校長先生をはじめ教職員の皆様のご努力の成果をたたえ、さらに生徒諸君がなおいつそう飛躍されることを期待して、私のご挨拶といたします。

創立十周年を祝して

PTA会長 谷 照 雄



千葉県立成田北高等学校が、地域住民をはじめ多くの人々の要望と期待に応えるべく、発展著しい北総成田の地に創立され、以来着実なる歩みを続けて茲に十周年という記念すべき日を迎えたことは誠によろこばしく衷心より祝福申し上げる次第です。

現在の北高校は、学習指導や進路指導の充実、教育環境の整備、また運動部・文化部等の生徒諸君の活躍にも目覚ましいものがあり、まさにこの十年間に育くまれ蓄積されたものが一齊に開花した感があります。ここに至るまでの教職員の皆さんの学校創りにかける情熱とたゆまぬ研鑽と生徒諸君の日々の努力の結晶が今日の姿として生み出されたものと深甚なる敬意を表する次第であります。PTAも開校後間もなく設立され歴代諸先輩の並々ならぬ御尽力により組織も拡充し、諸活動において多大の成果を上げてきています。設立当時は、校地の緑化等の教育環境整備がPTAの主な活動であったと聞いています。現在の北高PTAは本来の目的である「父母と教師が力を合わせて、子どもの幸せと健やかな成長をめざして活動する」民主的な社会教育関係団体として育つてきていると思います。しかしながら、外に目を向けると、現在、子どもを取り巻く教育上の問題が多く取り沙汰されており、必ずしも子どもが健全に育つ条件が整備されているとは言えません。また、我が国の教育は戦後著しく普及、発展してきた反面、近年、様々な問題が指摘されており、この社会の変化に対応する教育の実現が強く求められているのも現実であると思います。

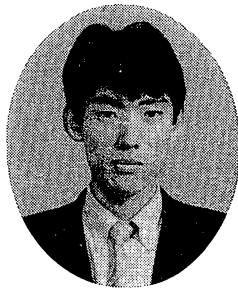
昨今の世相を「暖衣飽食の時代」と称し、物質的・外見的な潤沢さに比べて心の貧困や精神生活の衰弱が目立つてきており、このことが青少年の問題行動にまで波及して社会問題にまでなっています。この青少年の問題の中には、高校中途退学・非行・家出・自殺等があげられるが、いずれも家庭の問題と何らかのかかわりをもつてていることはいうまでもありません。

このような時こそ、我が北高PTAは、世の教育上の諸問題や青少年の問題行動の背景を的確にとらえ、他山の石としてその役割を十分に果たすべく努力していきたい。さらに、家庭・学校・地域全ての人々が相互理解の上に立つて協力関係を強化していかなければならないと考えます。

私たち北高PTAは、創立十周年という記念すべきこの節目を大切にし、子どもの幸福と健全育成のため親も先生方もといっしょに勉強していく活動を推進し、成田北高等学校の輝かしい未来への掛け橋となるべく努力する所存であり、今後共皆様方の御指導と御協力をお願い申し上げます。終わりにあたり、本校の益々の発展と関係各位の御健勝を祈念して創立十周年を祝福する言葉といたします。

初心忘るべからず

同窓会会长 大橋光夫



会員の皆々様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。千葉県立成田北高等学校も創立十周年を迎え、この上ない喜びを覚えます。

昭和五十五年四月十五日、古くから門前町として栄えてきた成田、これから世界の重要な都市としてはばたく成田に、千葉県立成田北高等学校が誕生いたしました。当時、我が成田北高は現在の南校舎しかなく、近くの成田西高を会場にして入学式を行いました。在学中は、二年目に北校舎の完成、三年目に、校舎、体育館、グラウンドの泥沼状態なども整備され、全体の形が整いました。

当時、マスコミが、学校や教師に対する批判をこぞって取り上げていましたが、成田北高の先生方には、情熱があり、対話があり、ふれあいがありました。朝日新聞の「声」という欄に、学校、教師に対する信頼感が奪われつつあるようで耐え難いと投書した先生、高校野球千葉県大会の試合に負けた後「次の大会では、必ず勝てよ」と、部員にラーメンを食べさせて励ましてくれた先生など、成田北高には、今にも体から情熱がはみ出しそうな先生方がたくさんいました。そのような中で、苦楽を共に出来たことを深く感謝しています。

そして、昭和五十八年より、会員の相互の親睦を図り、母校の発展に資する目的で、同窓会が発足しました。

毎年、八月第一日曜日に総会、卒業式には筒の贈呈、創立五周年には記念誌の発行、校舎に大校章の設置、そして十周年の記念事業と、母校の発展を願つて努力してきました。「初心忘るべからず」という言葉を胸に刻みこみ、これからも頑張つて行きたいと思います。

同窓会に対しましては、今後とも、御理解、御協力の程よろしくお願ひいたします。

最後に、千葉県立成田北高等学校の益々の御発展と、皆々様のご多幸をお祈り申し上げます。

創立十周年に寄せて

後援会会長 谷 重 吉



昭和五十五年、国際文化都市として大きく変貌しようとする成田市に、地域の強い要望と熱い期待を受けて開校した千葉県立成田北高等学校が、輝かしい歴史を刻んで、ここに創立十周年という記念すべき日を迎えたことは誠によろこばしく御同慶の至りです。

まだ、建設途上の荒涼とした成田ニュータウンの北端に近代的な白亜の校舎が出現した時、この北総の地の発展と成田北高等学校の躍進を予感し期待したのは、一人私だけではなかったはずです。そして、今日の勉学の面は勿論のこと運動、文化活動等の隆盛ぶり、整備された教育環境をまのあたりにする時、往時を偲び感慨の深さを覚えます。

初代校長岩上利男先生を先頭に全教職員、全生徒一丸となつて学校を創り上げようとするその気概と真摯な姿に心を打たれ、自分たちにも出来ることはないか、協力出来ることは何かと私たちが立ち上がったのもこのころです。岩上校長先生は、当時の御自身の心境を創立五周年記念誌の中で「私は、開校準備から開校後の四年間、北高の建設期を担当した訳ですが『道なきところに道を拓け』『進んで試練に挑戦せよ』などと生徒に望んだものでした。」と述べておられます。まさに、この想いと行動力に私たちは引き付けられました。

後援会は、開校の年に生徒の部活動を助成するという趣旨のもとにPTA会員の皆さんに募金を呼びかけたことが発端となり、昭和五十六年九月に設立されました。爾来年々、PTA会員を中心に多くの方々の賛同を頂き今日に至っています。生徒諸君の各種部活動、同好会の活動等、年々盛んになつてきており、各大会等で活躍していることは誠によろこばしい限りです。

今、社会では教育問題が多く取り沙汰されていますが、生徒の非行等の問題行動は依然として衰えを見せていないようです。全国的な高校中途退学も深刻な問題です。これは経済的な豊かさが増す中で、各種の社会的変化が様々な形で影響を与えており、この豊かさの裏で豊かな心や情操を育て強靭な精神力を育てる教育が十分ではなかつたことに起因するものと思われます。

このような時こそ、学校、家庭、地域社会が相互に協力し合い、責任を分かつて行動していくかなくてはならないと考えます。幸い我が北高校には生徒の非行等大きな問題は存在しないということは、教職員の皆さんのがゆまぬ研鑽と努力の結果であると敬意を表する次第です。後援会も、教育環境の整備や生徒諸君の諸活動助成のため今後も努力していく所存ですので、各位の変わらぬ御理解と御協力を賜りたく存じます。

終わりに、成田北高等学校が今後二十周年、三十周年に向けて益々飛躍、発展されることを祈念して、創立十周年に寄せる言葉といたします。

目 次

創立十周年記念事業	成田ニュータウンの近況	本校の全景
基礎—成田北高の十年—	春夏秋冬—成田北高の一年—	本校の全景
希望に燃えて—成田北高の一 日—	希望に燃えて—成田北高の一 日—	本校の全景
校旗 校章 校歌	校旗 校章 校歌	本校の全景
輝く北星—創立十周年記念誌に寄せて—	校長 羽生 正允	本校の全景
伝統と文化の町 成田	創立十周年記念事業実行委員長 鬼澤 和夫	本校の全景
祝 辞	PTA会長 谷 照雄	本校の全景
創立十周年を祝して	同窓会会长 大橋 光夫	本校の全景
初心忘るべからず	後援会会长 谷 重吉	本校の全景
創立十周年に寄せて	教頭 香取 秀紀	本校の全景
十周年記念事業準備経過と	記念事業等の概要について	本校の全景
創立十周年記念芸術鑑賞会におけるあいさつ	PTA会長 谷 照雄	本校の全景
創立十周年に寄せて I	同窓会会长 大橋 光夫	本校の全景
創立十周年を祝して	後援会会长 谷 重吉	本校の全景
創立十周年記念誌に寄せて	教頭 香取 秀紀	本校の全景
成田北高校の発展を喜ぶ	記念事業等の概要について	本校の全景

創立十周年に寄せて II

思い出すままに—北高の五年間—	二代教頭 菅谷 泰夫	4
北高の三年間	初代事務長 渡邊 和男	4
成北雑感	三代事務長 椎名 悅史	5
回顧	PTA二代会長 山内 克己	6
北高の思い出	PTA四代会長 丸山 成孝	6
創立十周年を迎えて	PTA六代会長 飯塚 信一	7
豊かな生活を	後援会副会長 藤倉 文子	7
大きな成長を	旧職員 富澤 浩	140
十年一昔	旧職員 伊藤 龍吉	140
思い出あれこれ	旧職員 富田 金秋	141
時は流れる	旧職員 有美 譲	142
黎明から朝の光の中へ	旧職員 越川雄次郎	142
雜感	職員 小松栄三郎	108
創立十周年を迎えて	職員 聽之沢 健	112
十周年記念に向けて	職員 香取 良和	112
いつのまにか国語科最古参	職員 坂元 善典	112
卒業生—佐藤浩美・森田早苗(一期生)、大野ゆかり・重吉	職員 坂元 善典	112
寿美恵(二期生)、竹内栄子(三期生)・安部志朗・	職員 香取 良和	112
高尾早苗・中川瑠璃子(四期生)、大沼弘史・多田	職員 香取 良和	112
雅乃(五期生)、小柴乃里子・立川敦子(七期生)、	職員 香取 良和	112
今村玲子・村越誠(八期生)、	職員 香取 良和	112
在校生—高橋伸子・脇田潤(三年生)、西原耕平・青野和子	職員 香取 良和	112
(二年生)、野澤瑞佳・竹中靖子(一年生)	職員 香取 良和	112
在校生—高橋伸子・脇田潤(三年生)、西原耕平・青野和子	職員 香取 良和	112
(二年生)、野澤瑞佳・竹中靖子(一年生)	職員 香取 良和	112
初代校長 岩上 利男	2	
二代校長 石井 功	2	
初代教頭 石井 寛	3	

沿革——成田北高十年のあゆみ——

沿革史	42
沿革年表	30
校務分掌の十年	10
生徒会活動の十年	57
生徒会規律委員会体育委員会放送委員会図書委員会	42
編集委員会美化委員会保健委員会社会福祉委員会	30
購買委員会黎明祭実行委員会応援委員会選挙管理委員会	10
文化部写真部映画研究部科学部電気部吹奏楽部	
運動部バレーボール部(男・女)野球部バスケットボール部サッカーパーク硬式テニス部剣道部	
軟式庭球部卓球部陸上競技部柔道部	
バドミントン部空手道部ゴルフ部	
同好会——軽音楽同好会イラストレーション同好会合唱同好会フォーカソング同好会	
郷土研究同好会パソコン同好会茶道同好会華道同好会ペン字同好会調理同好会工芸同好会少林寺拳法同好会	
心に残る行事・学校生活	
すばらしい思い出・友情——修学旅行——	
大自然の中、友との語らい——林間学校——	
校外学習(遠足)のあゆみ	
スポーツ大会	

115 113 109 105 105

成田北高を語る

卒業生座談会「いまだから話そう!」

在校生座談会「創立十周年を迎えて」

高校生活の抱負・成田北高への期待——平成二年度入学生

並びに保護者へのアンケートの集計結果について——

千葉県立成田北高についてのアンケート調査集計結果(I)

——本校平成二年度入学生——

千葉県立成田北高についてのアンケート調査集計結果(II)

——平成二年度入学生保護者——

現況並びに資料

十周年記念ブロンズ像製作者 編貫ひろ子先生のご紹介	8
編集後記	193
題字 校長 羽生 正允 イラスト イラスト同好会	189
イラスト イラスト同好会	179

耐寒マラソン大会
芸術鑑賞会を振り返って
読書感想文・画コンクール
「現代学生気質百人一首」へのとりくみ
交換留学生へのとりくみについて
本校に学ぶ留学生の横顔
AETの拠点校として
PTA広報「なりきた」のあゆみ
PTA・同窓会・後援会のあゆみ

卒業生座談会「いまだから話そう!」
在校生座談会「創立十周年を迎えて」
高校生活の抱負・成田北高への期待——平成二年度入学生
並びに保護者へのアンケートの集計結果について——
千葉県立成田北高についてのアンケート調査集計結果(I)
——本校平成二年度入学生——
千葉県立成田北高についてのアンケート調査集計結果(II)
——平成二年度入学生保護者——

P.T.A. 同窓会・後援会のあゆみ

AETの拠点校として

PTA広報「なりきた」のあゆみ

PTA・同窓会・後援会のあゆみ

卒業生座談会「いまだから話そう!」

在校生座談会「創立十周年を迎えて」

高校生活の抱負・成田北高への期待——平成二年度入学生

並びに保護者へのアンケートの集計結果について——

千葉県立成田北高についてのアンケート調査集計結果(I)

——本校平成二年度入学生——

千葉県立成田北高についてのアンケート調査集計結果(II)

——平成二年度入学生保護者——

十周年記念事業準備経過と

記念事業等の概要について

に開き、同時に実行委員会へと切り替えられ、記念事業実行委員会がスタートいたしました。委員は三十八名、委員長に鬼澤準備委員長が選ばれました。

記念事業の概要

教頭香取秀紀

平成元年四月の職員会議で創立十周年記念校内準備委員の先生方十六名が校長より委嘱され、一学期中に三回、話し合いを行いました。

そして九月十四日、第一回創立十周年記念準備委員会を開催することになりました。委員会のメンバーはPTA理事、同窓会役員、後援会役員、本校職員等合計三十三名です。委員長には鬼澤PTA会長が選ばれました。話し合った内容はつぎの通りです。

一、方針

(一) 生徒に有益に

(二) 簡素に

(三) 授業に影響がないように

(四) 寄付行為はしない

二、時期

平成二年度二学期を中心

三、内容

(一) 記念行事

(二) 記念事業

(三) 記念誌

(四) 同窓会名簿

その間各係で準備を進め、第二回準備委員会を平成二年四月二十五日

(一) 吹奏楽部記念演奏会（六月十七日 成田国際文化会館）

(二) 芸術鑑賞会 前進座「さんしょう太夫」（十一月十四日。成田国際文化会館。対象は生徒、職員、保護者、PTA役員、同窓会役員、後援会役員。午前午後の二回公演）

(三) 体育祭 体力の増進を目的として、生徒間または生徒と職員、さらに地域の人々との親睦を深めるため中学生招待レースや、PTA競技等の種目を加えた。（十月七日、中台運動公園グラウンド）

四、文化祭

例年の文化祭に加えてPTAの方にも参加できるよう

な催しを行なった。

二、記念事業

(一) 記念像の建立

(二) 学校案内標識の設置

三、記念誌

平成三年三月発行

四、同窓会名簿

平成二年七月発行

五、応援歌の作成

十周年を記念して、生徒・職員から募集する。

創立十周年記念芸術鑑賞会に

おけるあいさつ

あいさつ

校長 羽生正允

生徒の皆さん、こんには。本校では、毎年、秋の行事の一いつとして、芸術鑑賞会を実施しておりますが、昨年は、千葉県文化会館において、全校で素晴らしいオペラを鑑賞いたしました。

オペラにいたしましても、今日、前進座の皆さんが上演してくださいなお芝居にいたしましても、正直に言いまして、なかなか普段皆さんのが、このように生で鑑賞する機会は少ないのでないかと思ひます。しかし、皆さんのように、若くて、感受性の強い年ごろ、そういう時期にこのような優れた芸術・芸能に接することは、たいへん価値のあることであると思っております。場合によつては、皆さんの生涯を左右する、そういう催し物になるかも知れません。

これから社会は、豊かな心を持つことが、何よりも大切であらうと思います。そういう意味からも、本日、本校創立十周年を記念し企画いたしました、前進座「さんしょう太夫」を鑑賞することは、君たちにとって実りの多いものになるでしょう。加えて、今日の記念行事が高校生活の良き思い出となることを念じてやみません。

次に、ご多忙の折、ご来会たまわりました初代岩上校長先生、二代石井校長先生はじめ、旧職員の先生方、PTA関係の方々、更に学校関係者の皆様に対し、これまで本校の教育推進にご尽力たまわりましたこ

とを心より感謝申し上げます。お蔭をもちまして、本校も創立十周年を迎えたが、このよう立派なお子様をお預かりして、私共、教育者として、たいへん幸せに思つております。創立十周年をひとつ節目といたしまして、現状に甘んずることなく、また、創立当初の建学の精神を忘れず、今後も日々新たなる気持ちで、精進・努力し、名実共に地域を代表する高等学校に育ててまいりたいと存じます。関係者の皆様には、今後共、何かとご支援・ご協力等たまわりたくお願い申し上げます。

あいさつ

実行委員長 鬼澤和夫

成田北高等学校創立十周年、誠におめでとうございます。昨年より、先生方をはじめ各方面の方々が準備を重ね、このように十周年記念の行事を開催できましたことは、喜びにたえないものでございます。

先月には、十周年記念行事の一環の「海へ」と題する、若人が未来を目指し飛翔くことをイメージしたブロンズ像を校庭に設置することができましたが、今日また、このように芸術鑑賞会として、前進座公演「さんしょう太夫」を見る機会が得られましたことは、実行委員の皆様のお力添えのたまものと思っております。実行委員長としてこの場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

今日から明日に向かい、すばらしい十五周年、二十周年を迎えることを祈念いたしまして、ごあいさつに換えさせていただきます。

創立十周年に寄せて



創立十周年を祝して

初代校長 岩 上 利 男



成田北高等学校の創立十周年を心より
お祝い申し上げます。

この十年、年ごとに実績を重ね、学業
や部活動ほか各分野にいよいよ充実発展
を続けてることは、まことに喜ばしい
限りである。北高関係者皆さんのご尽力
に感謝し敬意を表したい。

私は北高の開設準備から四年半の縁であったが、忙しく夢中で過ごした草創期であった。当時、県当局は、人口急増地域のために、十年間に三十五校もの高校増設を計画実施していたのである。昭和五十五年の新設同期校は九校もあり、まさに新設校ラッシュであった。

成田市は、今や国際化、近代化の波で発展が目覚ましい。その社会的要請に応える教育を進めなければならない。しかし、どのような時代にも変わぬ教育の根本原則があることも考え、教育方針や校訓を真剣に考えたあの頃が懐かしい。これを受けて、その後の北高の充実発展に尽力された二代校長石井先生、三代の現校長羽生先生の功績は大である。創設期はゼロからの出発であるから、苦しみもあつたが創る喜びが勇気になつた。年々職員生徒が増え、施設も次々と出来上がる楽しみがあつた。夜遅くまで仕事に追われた開設準備の頃、一期生、二期生のこと、建設の鎌音響く中での授業、手づくりの植樹等、思い出は尽きない。

創立十周年記念誌に寄せて

二代校長 石 井 功



千葉県立成田北高等学校が創立十周年
を迎へ、益々充実発展を続けていること
を心からお喜び申し上げます。

私は成田北高に昭和五十九年四月から
昭和六十二年三月まで在任しました。私

の赴任当初は、まだ成田ニュータウンの
玉造地区は造成中であり、成田駅西口も整備中であったので、毎日、スクールバスを利用して生徒諸君と通つたものである。学校は開校五年目
で、施設設備は一応整備されていたが、沼地を埋め立て造成したグランドは、まだ軟弱で、雨が降ると数日間は使用できない状態であった。私は県教育委員会等のご支援をいただきながら、在任中このグランドの全面整備をはじめ、運動クラブの部室、体育館、ピロティの建設、語学演習室の整備など校舎内外の教育環境の整備に取り組んできた。特に在任中
は学級数の増加にともない、年々生徒数が増加していたので、通学自転車置場の増設に追われており、事務長さんには大変ご苦労をかけたものである。

生徒に対する実感としては、全般に明朗快活の生徒が多く、林間学校

時は移り高校生の急増期も過ぎて減少期に入った今、教育も量より質の充実が求められている。二十一世紀を担う人造り、国際化時代の教育を目指し、北高が更に飛躍発展されることを祈ってやみません。



成田北高校の発展を喜ぶ

初代教頭 石井 寛

や修学旅行、また全校生徒によるスポーツテストや耐寒マラソン、そして黎明祭や芸術鑑賞会等々、私は生徒諸君との生活の中で、生徒一人一人の理解に努め、先生方のよき指導もあって、中途退学者は、ほとんどなく卒業させることができたことをうれしく思っている。

また P.T.A. 関係では、歴代の会長さんを中心に、会員各位が校外補導、広報の発行、県外研修視察などの活動に積極的に参加され、相互の交流や親睦を深めることができたことを感謝している。

最近、私の住んでいる町からも北高への通学生が多くなり、白い通学バックを手にした生徒を見るにつけ、「成田北高忘れ難し」の感を強くしている昨今である。

十周年を契機に成田北高が一層発展することを心から祈念いたします。

昭和五十四年十一月、成田北高校の開設準備が始まつてからはや十一年になるとしている。創立十周年を迎える、名実共に立派な高校に育つた姿を見て、十周年を心から祝福したい。私たち新設当時の先生方の大半は去り、そして年々新しい先生方を迎えているが初代校長の岩上先生の建学の精神は次代の校長に引き継がれ、成田北高校の理想像は更に大きく育てられ今日がある。

現役の先生は勿論のこと、本校発展のために携わつて來た多くの人たちの努力のたまものと思う。

さて、在職時の思い出を記さなければならないが、昭和五十五年四月十五日の開校式・入学式そして秋の校旗・校歌制定式……と四年間の在職中はお祝い事づきで楽しい思い出に浸りたいところだが、私にとつては一日一日が勝負であり、緊張の連続で楽しい思い出が見つからない。と言うのも昭和五十五年開校は九校もあり、十年を経過した今みれば、各学校のムードも違うし評価も違つていて。新設時の怖さを身にしみて感じた毎日である。教育活動の総てが、P.T.A.との協力のあり方が、そして生徒の指導の一つが学校の将来に係る時代であった。でも苦労は過ぎてみれば懐しくさわやかである。私にとって楽しい思い出はゴルフ部の新設であり、生徒とともに練習場で、コースで汗を流したことである。

十周年を過ぎ、成田北高校は更に充実・発展期を迎えることにならない。これからも地域が誇りとする成田北高校、若人があこがれる成田北高校であつて欲しい。

思い出すままに

—北高の五年間—

二代教頭 菅 谷 泰 夫

(現市原八幡高校長)



北高に赴任したのは、創立五年目の昭和五十九年四月のことである。前校長岩上利男・前教頭石井寛兩先生のご榮転の後を受けて、石井功校長先生と共に着任であった。一步中に入ると、北高創造への教職員の意欲と熱意がひしひしと迫ってきた。私は、教員生活の一つの山場がこの北高生活に生起することを感じた。

北高で石井功・羽生正允両校長先生にお仕え申し上げた。三年間・二年間と愛情あるご指導をたまわった。校長の意を体して、校長の思われるところを具現化するよう尽瘁するのが教頭の務めであり、これもすべて子らの幸せのためである。そう考えるとき、いろいろと反省させられるこのごろである。

先生方にはあれこれと教えていただいた、ご協力をいただいた。事務室のみなさんにもいつも感謝していた。生徒諸君も好ましかった。PTAの方々にもよくしていただいた。目をつぶればひとつこまひとつこまが静かに浮かんでくる。

苦しいこともあっただし、もちろん楽しいことも多かつたが、まがりなりにも五年間を送り得たことは、周囲の方々からいただいたあたたかい

愛情と自らの健康のおかげと感謝している。四つの弁当箱と踏みつぶした靴の数が私の健康を支えてくれたと思つていてる。

ささやかな私の半生の中でも、すばらしい五年間であつたと思い続けている。北高の永遠なるご発展を利根川のほとりからお祈り申し上げる。

〃北高の三年間〃

初代事務長 渡 邊 和 男

(現県立鎌子商業高等学校事務長)



成田北高校が創立十周年を迎え、ますます発展の一途をたどっていますことを、心よりお祝いいたします。

成田北高校の開校から三年間、私にとっては短い勤務であったが、校舎建築や環境整備・内部設備の整備等に追われる忙しい時期であった。しかし、その中にも新しい学校を作り上げる充実感があった。成田北高校での三年間は、施設整備の三年間でもあった。

普通教室棟は開校前に完成していたが、不自由な面が多々あった。それなりに工夫をこらして利用された先生方には、今でも感謝しています。昭和五十五年に校地の土留工事及び校内通路工事、昭和五十六年に体育館・格技場工事、管理・特別教室棟工事、テニスコート工事、昭和五十七年に校門・通路舗装工事がそれぞれ竣工した。設計段階からの打合わせ、設計案の中でいかに北高としての特色を出すか等、私にとっては大変勉強になった。その中のエピソードは、校舎の立地条件から屋



成北雜感

三代事務長 椎名 悅史

(千葉県都市部土地対策
地価対策班副主幹)

創立十周年お目出とうございます。

早いもので私が知事部局から教育庁へ

出向命令を受け、北高にお世話になつた

のが五年前（昭和六十一年度）、その後

三年間（昭和六十三年度まで）勤務させ

ていただきました。現在ではまた、知事

部局に戻り地方行政（地価対策）を担当しております。

さて、成北在職中の三年間私なりに色々有意義な経験をさせていただきましたが、その中から体育館フロアの正面右側に掲げられている校歌額にまつわる思い出を述べてみたいと思います。

校歌額は、昭和六十三年度卒業生の卒業記念品として製作されたものです。最初は、既製のものを検討しましたが、体育館には小さすぎて不

外照明を他の学校より多く設置した時、定時制高校にするのですかと、冗談を言われた時もあった。又、土留工事も学校管理上、なるべく草刈りの手間を省くための設計を県当局に依頼をした。完成後に県から视察に来校した際に、「アルミガイド柵や擁壁の状況を見た時の一言が、「贅沢である」と言われる等、数多くのエピソードのあつた三年間であった。

最近、怠惰になりがちですが、あの三年間を振り返り初心に帰れと思う今日このごろです。

釣り合いであるため、成田園芸高校並びに成田西高校の校歌額をそれぞれ見学させていただいた結果、成田西高校のものと同等位のものが良いのではとなり、製作者と相談したところ金額的にとても無理でした（予算額の三倍位）。そこで、学年を主体に全職員、生徒達の協力のもと、佐倉東高校の松岡先生の御指導を仰ぎ自分たちで製作することとなりました。中でも結果的に製作責任者の津本先生の頑張りは大変なものがあったと思います。また、生徒たちも一所懸命ノミをあるいは、終業チャイムが鳴つてもノミを置こうとしない。特に熱心であり上手な生徒について津本先生に伝えたところ、普段は問題の多い生徒であるとのこと。これを聞いて、私は一層人の安易な評価は慎しむことを教えられました。

私も記念にと額字の内、作詩、作詩者名、作曲、作曲者名及び「黎明近き……併めば」までを彫らさせていただき、今から思うと本当に良い記念になつたと感謝しております。何はともあれ皆さんの協力のもと、千葉県一、いやある意味では日本一の校歌額が誕生したことは御同慶の至りです。

三年間本当に有難うございました。最後になりましたが、成田北高の益々のご発展を衷心よりお祈り申し上げ、お祝いとさせていただきます。

回

顧

二代PTA会長 山内克己



緑が校舎を包むころになると、開校当時の北高が脳裏に浮んでくる。砂埃の舞う開拓地に、草も木も疎らな砂漠に忽然と建ちあがった校舎。このような荒涼とした自然環境の中で、果して子供たちの情操教育が出来るのであらうか？

PTAの会合に集まる父兄の口から、誰となく「どうにかしようよ」とはいうものの、予算とて何も無い。「俺の家に余分の榽の木があるから、寄付するよ」「家にもツツジがあるわ」「じゃ、今度の日曜に、俺達も手伝うよ」となり、それからPTAと生徒たちが協力し、一本、二本と植木が植え込まれ、ようやく五年が経過したころに、校窓にも緑が映るようになってきた。

グランドとて同じ。元々沼地を埋め立てた所なのだから、埋めても埋めても地盤が沈下して仕舞う。しかし、このようにPTAと生徒が一体となり、お互いに努力と協力を重ねた結果なのか？生徒たちの素行まで良い結果が生れて来たようだ。私たちの念願は、自分たちの子供が学んだ学校に、後輩の父兄が安心して選択できる高校にすることである。

幸いなことに、創立十周年を迎える、一步一歩と、校風と伝統が培われて来たことを、心から喜ばしいと存じております。

創立十周年、おめでとうございます。益々成田北高の発展をお祈り申し上げます。

北高の思い出

四代PTA会長 丸山成孝



この度は、成田北高創立十周年、誠におめでとうございます。

私がPTA会長を仰せつかつたのは昭和六十年のこと、当時の北高は新設五年

目の熱意漲る先生方と、その志に答えて意欲的に学業、運動に励む生徒諸君により、ただ一人の中退学者も出すことなく、信頼に根ざした学校づくりがなされる一方、外国との留学生の交換を行い、多感にして向学心に富む高校生たちに貴重な留学体験の場を与えるなど、国際交流に対しても深い理解と協力を惜しまぬ学校側の積極的な姿勢に対し、深い敬意を覚えたものであった。

そんな折り、私方にも留学生を受け入れることになり、あれこれと不安を募らせたものの案するより産むが易し、帰国の際には何とも名残惜しい程に家族の一員と化した彼女を皆で見送つたものである。文化・風俗の違い、言葉の不自由さも乗り越えて心の通い合う感激を身をもって体験した良い思い出である。

思い出といえば、北海道で催されたPTAの全国大会で、ハーバード大学教授で世界的に有名な數学者の広中平祐先生から講話を賜つたこと

も忘れ難い。人間育成に関するいくつかの提案と、国際化時代に求められる日本人の資質などは、話を置き換えれば何にでも通ずるものであり大変感銘深かつたことを記憶している。

校訓の「自律・協調・健全」の精神を胸に、社会に羽ばたく青年たちの頼もし未来と成田北高の一層の発展を切にお祈りし筆を擱くものである。

創立十周年を迎えて



六代 P.T.A 会長 飯塚 信一

昭和五十三年、成田に新空港が開港し、変遷著しい時期の最中、昭和五十五年に、成田北高校が開校して今十周年を迎え、まことにご同慶の至りでございます。

昭和六十年四月に、私の末娘が入学した時は、未だ開校して六年目であったが、既に教育施設も充実しとても開校間もない高校には思えない情況であった。三代校長の羽生現校長先生を迎えた昭和六十二年は、丁度北高が千葉県高等学校 P.T.A 連合会の理事校であったので、校長先生と私は印旛郡市の代表理事となつた。そのため、印旛郡市の研修大会を主催したり、又、千葉県高校 P.T.A 研究大会の提案校にも当たつたため、千葉県 P.T.A 研究集会において高校生の健全育成を進める地域活動等について提案し、県内各高校 P.T.A 代表役員の方々の研究質問に答えた。このことは、開校八年目である本校が成田ニュータウンの一角にあり、全国から集ま

豊かな生活を



後援会副会長 藤倉 文子

平成二年六月十六日のある地方紙に、「明日成田北高吹奏楽部、初の定期演奏会を開催。国際文化会館で」の見出しで、

生き生きと練習に励む部員の写真と記事が載っていた。後援会の役員として感慨無量に読んだ。開校当時は、成田ニュータウンの一隅にボンと校舎が一棟あるのみ。体育館もなく、運動場も未整備。排水工事もこれからという。学園というには、程遠いものであった。開校二年目の五十六年に、「生徒に少しでもより良い豊かな高校生活」と願つて、父母が側面から支援しようとした後援会設立の声が高まり、山内 P.T.A 副会長を委員長に、校長、正副会長、各専門部委員長ら八名で、規約検討委員会が発足した。

規約づくり等、会を重ねて一つ一つ慎重に討議し、五十六年九月十八日に後援会設立総会を開き、北高後援会が誕生したのだった。毎年一回

いた子弟が多く、教育に対する関心度が非常に高いこと等を含めて、歴史は浅いけれども千葉県の北部に素晴らしい成田北高校ありと、参加した千葉県各地の高校 P.T.A 代表役員の方々より評価されたことは印象深い思い出となっている。こうして十年間に素晴らしい発展をとげ、知・徳・体の調和のとれた人間形成の上で、有意義な教育がなされ、地域の期待に応えている成田北高等学校がより一層発展することを祈念いたします。

総会が開かれ、トランペットとホルン各一つずつ購入と報告のあった時は、運動部だけでなく文化部の方にも援助が出来て良かったと、ほほ笑みながら聞き入っていたこともあった。

この稿を書くにあたって、大事に綴つてある広報「成北」を開いてみた。堅実な学者肌の岩上校長、人情味のあって一本筋の通っている石井

教頭、温厚な富沢教務、そして敏腕な渡辺事務長等、懐しい先生方の面影が浮かぶ。PTAも谷会長を中心に、学園づくりという目的に向かって一生懸命だった。

創立から十年、学園としての姿も整い、内容も充実し、多くの卒業生が巣立ちゆく成田北高に幸あれ。十周年記念おめでとうございます。

十周年記念ブロンズ像「海へ」製作者 綿貫ひろ子先生のご紹介

経歴 1937年	千葉県八日市場市に生まれる。	1987年	千葉県美術会準委員と改称。
1958年	千葉大学教育学部を卒業後、千葉県立匝瑳高等学校で教鞭をとるかたわら、千葉県美術会会員・新槐樹社会員として活躍。	新槐樹社関係	1975年 会員優賞受賞 1976年 努力賞受賞 1978年 奨励賞受賞 1983年 奨励賞受賞 1984年 奨励賞受賞
千葉県美術会関係		1986年	新槐樹社準委員となる
1961年	千葉県美術会賞受賞		
1969年	千葉県会議長賞受賞	現在	千葉県立匝瑳高等学校勤務
1975年	県展賞受賞		千葉県美術会準委員
1976年	千葉県美術会招待となる。		新槐樹社準委員

ブロンズ像「海へ」について

うるおいのある生活と香り高い県民文化の創造をめざして、千葉県は文化施設の整備や文化活動の普及振興に努めています。

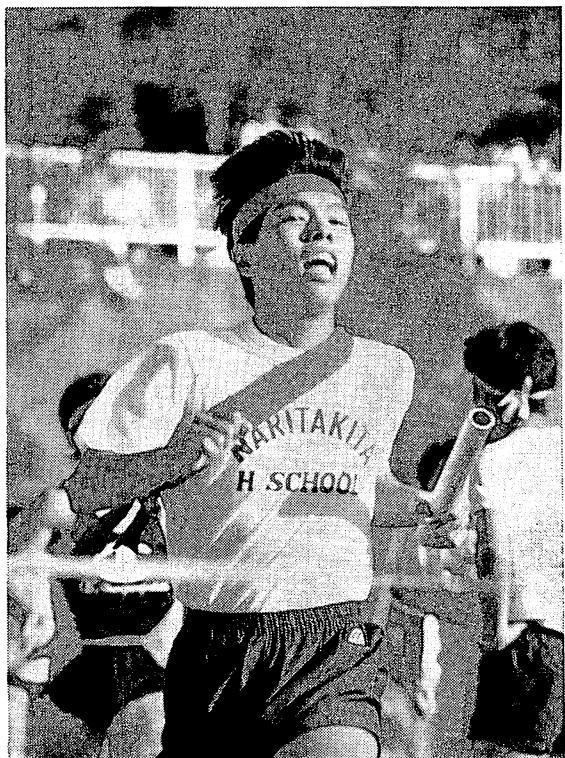
その一環として、千葉市の「青葉の森公園」に彫刻の広場を設け、具象彫刻を全国的に公募しました。

「海へ」は、昭和60年の第1回現代日本具象彫刻展に入選した作品です。人間の持つ生命感や強さを求めて大地にしっかりと立ち、海にかこまれた千葉のこの土地、その海へ向かって、広がりや発展を願ったものです。

(製作者 綿貫ひろ子)

沿革

—成田北高十年のあゆみ—



沿革史

の一つの節目を飾る記念碑になることを期待したい。

一 本校周辺の地理的・歴史的環境

- 一 はじめに
- 二 本校周辺の地理的・歴史的環境
- 三 成田ニュータウンの造成と本校設立の経緯
- 四 本校十年のあゆみ

本校は、房総半島の北部に形成された下総台地の一角を造成、整地して建設された。この下総台地は、標高二〇〇メートルで、下部に砂層と泥層となる成田層が堆積し、その上に常総層、武藏野ローム層、立川ローム層など、関東ローム層といわれる火山灰層があり、最上部の表土へといたっている。

- (一) 開校へ向けて
- (二) 草創期——飛躍へ向けての基盤づくり
- (三) 充実期——校風の確立と伝統の創造をめざして
- (四) 新たな飛躍をめざして——大規模校としての発展
- 五 おわりに

一 はじめに

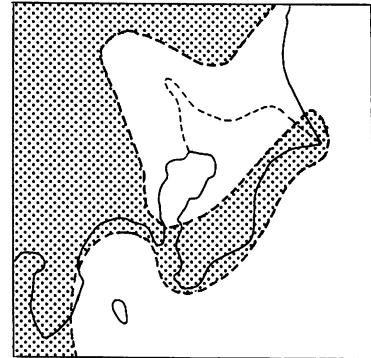
本校も、早や創立十周年を迎えることになったが、この一〇年の歳月は本校の発展の軌跡であったとともに、成田ニュータウンや新東京国際空港をはじめとして、成田市が大きな変貌を遂げた時期である。それは、本校の規模の拡充や生徒の動向にも、色濃く反映している。この間、本校は成田市をはじめ周辺地域に深く根を下ろして來たが、今後、地域の発展や期待にどう応えるかが、新たな課題となっている。

創立十周年記念を迎えたいま、本校の一〇年のあゆみを振り返り、この間に築いたものを今後の礎にしなければならない。この小論が、本校の教育理念や実践を発展的に総括し、更なる充実と深化を切り開く契機になることを念じるとともに、記念事業全般が、本校のたゆみない歴史

本校の校歌（作詞、沢田繁一氏、作曲、寺内昭氏）には「若草萌ゆる土深く 太古の海が眠りいて 校庭に散りしく白き貝（略）」と歌われているが、台地を崩した露頭中央部や校庭の土中に、多量の貝化石が堆積している。これは、成田層の中に含まれる貝層の貝である。洪積世後期に、鹿島灘の方向に湾の入口を持つた「古東京湾」といわれる内湾が、関東地方の大半を占めていたが、成田層は、この「古東京湾」の一角に堆積したものである。洪積世は、約二〇〇万年前から一萬年程前まで続いたが、その間、四回に及ぶ氷河期と、暖かな間氷期がくり返された。「古東京湾」は、ミンデルーリス間氷期を中心見られた内湾である。したがつて、「校庭に散りしく白き貝」は、一〇万年以上昔の貝化石であり、この一帯が、昔は海であったことの名残りなのである。やがて、地球は最後の氷河期であるウルム氷期を迎え、海退が進み陸地の隆起が見られるが、この時期に箱根火山や古富士火山がくり返して大噴火を起こし、安山岩質や玄武岩質の火山灰を噴き上げ、下総台地の関東ローム層を形づくった。下総台地には、その後、幾筋もの樹枝状の浸食谷が形成され、およそ一万年前に洪積世が終わって温暖な沖積世になると、海面が上昇し、浸食谷はおぼれ谷となる。印旛沼や手賀沼もこうして生ま

「成田」は、江戸時代中ごろから、「成田のお不動さま」として有名な成田山神護新勝寺の門前町として栄えてきたところである。寺の縁起によれば、御本尊である不動明王は、弘仁元年（八一〇）に嵯峨天皇の勅願によって空海が彫り、高雄山神護寺に安置させていたものという。この時代は、貴族政治の発展した平安時代であるが、やがて、農民の成長を基盤にして武士団が台頭した。奈良時代以来、律令政治のもとで、東国農民は調庸の負担や防人・衛士の兵役に苦しんできたが、それらを背

いて、鎌子方面に流路が変えられたのは近世初頭（一七世紀中ごろ）のことである。このように、本校周辺の地形は、成田層と関東ローム層から成る下総台地と、その浸食谷としての谷津が、複雑に交錯し合っているところにその特徴がある。本校の所在する成田ニュータウンも、「公津ヶ原」と呼ばれる下総台地の一部であり、成田市を南から北へ流れ利根川に合流する根木名川本谷から分かれた小橋川支谷と、印旛沼本谷から分かれた江川支谷にはさまれている。本校のグランドを含むあたりは、「千把ヶ池」と名付けられた用水池であったが、その位置は、小橋川支谷の谷頭の一つにあたっている。



古東京湾

れたおぼれ谷であり、中世末までは香取海の入江として、印波浦、手下浦といわれた。また、中世末までは、利根川や渡良瀬川も現在の東京湾に流れ込んで、銚子方面に流路が変えられたのは近世初頭（一七世紀中ごろ）のことである。

このように、本校周辺の地形は、成田層と関東ローム層から成る下総台地と、その浸食谷と

この将門の乱に際し、朱雀天皇は、藤原忠文を征東大將軍に任じるとともに、自分の従兄弟である京都広沢遍照寺の寛朝大僧正に、朝敵を誅伏するよう密勅を下した。寛朝上人は、神護寺の不動明王と宝剣を奉持して、淀川を下り、難波から海路をとつて、尾垂ヶ浜（匝瑳郡光町）に上陸した。寛朝上人一行が公津ヶ原まで来ると、乱による荒廃がひどく、上人は直ちに護摩壇を設置して、不動明王に朝敵將門誅伏の祈祷をしたところ、満願の日、將門は敗れて討死をし、乱は平定されたとう。この地が、成田市並木町の不動塚のあたりだと伝えられる。その後、天皇は「神護新勝寺」の寺号を下賜し、新たに堂宇の建立を命じたとあるが、詳細は不明である。室町時代、荒れた堂宇を見かねて成田村が不動明王を引きとつて安置し、永禄九年（一五六六）に、現在の地に本堂が建立された。この成田山新勝寺が広くその名を知られるようになったのは江戸時代中ごろ以後であるが、それには、照範上人などの事績に負うところが大きい。

また、成田には、義民「佐倉惣五郎」の靈を祀る宗吾靈堂（鳴鐘山東勝寺）もあり、いわば、「信仰の町」として全国にその名が広められている。

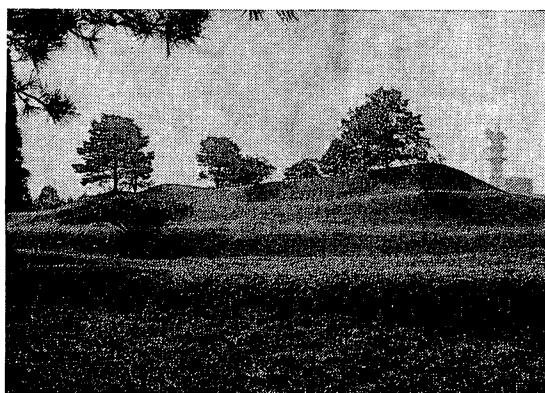
成田ニュータウンは、この成田市域の西南部に位置し、寛朝上人ゆかりの公津ヶ原に造成された。この造成に先立つ遺跡調査によつて、古墳期を中心に、先土器文化時代から平安時代までの重要な遺跡の存在が確

認された。

先土器文化時代の遺物は、ニュータウン内の10箇所の地点で採集されたが、米野遺跡（赤坂）以外は、地表採集や古墳の発掘調査の際に出土したもので、遺跡の詳細は不明である。米野遺跡は、瓢塚古墳群の第十二号墳の墳丘の下のローム層の中から発見された。出土した石器は、彫器一、搔器四、削器二、加工痕のある剝片五など、合せて五一点ほどであり、材質は、三四点が黒曜石であった。石器の中に、生活用具としての意味あいを持つ尖頭器が含まれていないため、米野遺跡は、長期間にわたる居住の場ではなかったと考えられている。尖頭器は、橋賀台や加良部地区で採集されているが、遺跡が確認されていない。ともあれ、洪積世末期のウルム氷期にも、この公津ヶ原に人びとの生活があり、しかも、多数の黒曜石の利用は、その人びとの交流の広さを伝えてくれるのである。

およそ一万年前、地球は洪積世から沖積世へと変わり、氷河期が終わって温暖な気候になった。海面が上昇し（海進）、日本は大陸から切り離されて列島化した。人びとは、弓矢を発明し、土器を製作して、比較的安定した定住生活を始めた。集落が形成され、貝塚が出現し、土偶・拔歯など、一定の精神文化を持つようになつたのである。こうして、約八〇〇〇年余りにわたって縄文文化の発達を見たが、この時代の人びとの生活と文化は、主に東日本を中心くり広げられ、その中でも千葉県は、貝塚などの遺跡の規模や数において、全国でも一、二を争うほどである。成田も、根木名川谷や印旛沼谷、尾羽根川谷の本谷・支谷に面した台地上に多数の集落や貝塚が形成された。なかでも荒海貝塚は全国的に注目されている。

成田ニュータウンとその隣接地域でも、早期から晩期までの各時期



船塚古墳の全容

水稻耕作や金属器文化の発達は、各地の「クニ」の発展と統合を進め、三世紀末から七世紀にかけて古墳文化を成立させた。古墳は畿内を中心と全国に広がり、その数は一五万基とも二〇万基ともいわれている。県内には約五〇〇基あるといわれるが、成田市内では、二一の古墳群に三一七基の古墳を数えている。

墳形は、前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳などさまざ

に、盛衰の推移はあるが、縄文文化の展開を見た。ニュータウン内で、縄文期の遺跡が一四箇所、住居址が二十数軒確認されている。特に、台方・橋賀台II遺跡（現在の橋賀台公園）からは、縄文早期の集落址が発見されている。床面の形も、円形、方形さまざま、住居の配列も、不規則に台地の縁辺に沿つて南北に分布していた。また、床面に炉址らしいものはほとんど見られず、炊事など火の使用は、すべて屋外で行っていたようである。

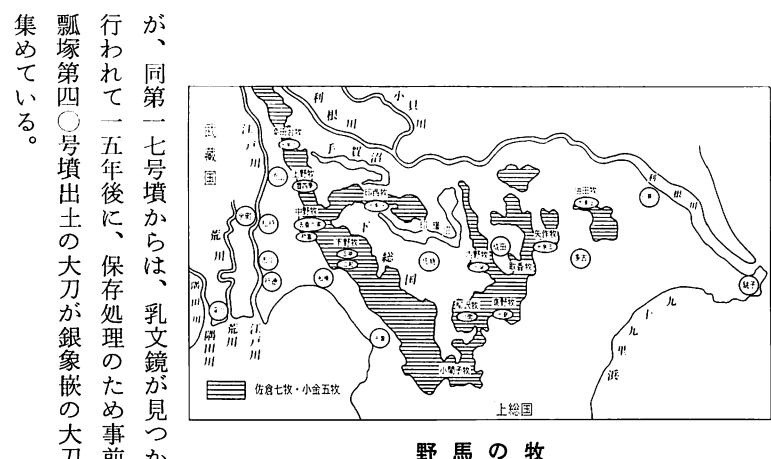
紀元前三世紀ごろ、大陸から伝来した水稻農業が本格的な発展を見せ始め、社会は飛躍的な発展をした。鉄文化や青銅器文化も発達し、「クニ」が成立した。この弥生文化は西日本を中心に発達し、千葉県をはじめ東日本での展開はそれほどではない。成田市内の弥生遺跡は四〇箇所であり、成田ニュータウン内では五箇所ほどである。

であるが、分布地は、根木名川谷、印旛沼谷などの本谷・支谷の流域の台地上に集中している。これは、水稻耕作の適地としての条件や、古墳で使用する石材の運搬などを考慮したことであろう。

成田ニュータウン一帯にはおよそ一二〇基ほどの古墳が分布し、「公津ヶ原古墳群」と総称されているが、それらはさらに瓢塚古墳群（前方後円墳一基、円墳三基、方墳一六基）、天王・船塚古墳群（前方後円墳三基、前方後方墳一基、円墳三七基、方墳七基）、八代台古墳群（前方後円墳一基、円墳二〇基、方墳一基）に分けられている。公津ヶ原古墳群は、県内でも有数の古墳群であるが、ニュータウン造成に先立つて、六〇基の古墳が発掘調査された。その結果、ほぼ六世紀の初頭から七世紀末にかけて築造され、なかでも、七世紀代の方墳の数が多いことが注目されている。最大規模を誇るものは、ニュータウンの中央部に位置する船塚古墳であるが、これは、全長八五メートル、後方部幅五〇メートル、前方部幅二五メートルの前方後方墳である。船塚古墳は、赤坂公園の中に、未調査のまま保存されている。規模の点で、これに次ぐのが天王塚古墳である。古墳の全長六三メートル、前方部幅三〇メートルの前方後円墳で、これも未調査のままである。

調査された古墳の内部主体は、直葬や木棺直葬が多く、横穴式石室が十数例、箱式石棺が四例ほどであった。

集落址は、橋賀台二丁目付近、赤坂二丁目付近、中台六丁目付近、中台一丁目付近、吾妻三丁目、玉造三・四丁目付近、玉造一・四丁目付近、成田西高付近などに一〇〇軒余りの堅穴住居址が発見されている。時代的にはれたり、重なったり、古墳の周溝で破壊されたりさまざまであるが、最大規模の住居址としては、一辺一〇メートルに及ぶものもあった。また、本校に隣接した八代からは、大規模な玉作工房址が発見



奈良・平安時代の遺跡としては、中台一丁目付近や成田西高付近の遺跡などから、百数十軒の堅穴住居址や十数棟に及ぶ掘立柱の建物跡が出ている。中世には、印東庄や埴生庄、遠山方郷、河栗郷などが成立し、千葉氏などが勢力を振った。江戸時代になると、成田市のはほとんどは佐倉藩に組み込まれ、一時期旗本領もあったが、成田ニュータウンの中台、橋賀台、加良部、赤坂のあたりは、内野牧という幕府の牧であった。内野牧は佐倉七牧の一つで、富里の七榮からニュータウンにかけて

されている。八代玉作遺跡である。その北北東五〇〇メートル程の地点にも、外小代玉作遺跡が確認されている。中台一丁目の遺跡には、石製模造品の工房址が九軒あった。

古墳や住居址などの遺跡からは、多数のさまざまな土器や石器などとともに、鉄器や青銅器、人骨なども出土している。瓢塚古墳群の第十六号墳からは、白銅製の変形四神鏡（仿製鏡）が、同第一七号墳からは、乳文鏡が見つかっている。また、発掘調査が行われて一五年後に、保存処理のため事前のX線透過を行つたところ、瓢塚第四〇号墳出土の大刀が銀象嵌の大刀であることがわかり、注目を集めている。

二二二〇ヘクタールの広さを持ち、約二百頭の野馬が放牧されていた。

一八六八年、明治維新となり、日本は近代化へ大きく一步を踏み出した。下総の地は葛飾県から印旛県となり、明治六年（一八七三）六月十五日、印旛県と木更津県が合併して千葉県となつた。この間、明治二年四月には東京府と葛飾県とで「下総牧々開墾大意」が作られた。五月には下総開墾局が置かれ、やがて開墾会社が設立されて、下総の牧の開墾が進められた。初富・二和・三咲・豊四季・五香・六実・七栄・八街・九美上・十倉・十余一・十余二・十余三は、開墾が始まった順序を物語つてゐる。成田ニュータウンのあたりは、明治の初めには八代村、船形村、台方村、江舟須村、郷部村などの一部であつたが、明治二十一年の市制・町村制の施行で、郷部村は成田町に、他の村々は、下方村など六村とともに公津村となつた。そして、ニュータウンの造成が行われるまで、この一帯は栗畑と山林、谷津田などであつたのである。

三 成田ニュータウンの造成と本校設立の経緯

本校は、千葉県立成田西高等学校とともに、成田ニュータウン事業の一環として設立された。

(一) 開校へ向けて

明治七年における本県の産業構造は、農作物の生産が、県の総生産の六五%を占め、工業生産はわずかに1%にすぎなかつた。その後、本県における工業の育成と近代化政策が進められたが、昭和二十年代の前半においても、農林水産業が根幹的な地位を占めており、工業は農林水産加工業以外は見るべきものがなかつた。本県の工業振興政策が本格化したのは、京葉臨海地域の埋立土地造成による「京葉工業地帯」の造成が始まつた昭和三十年代以降のことである。昭和四十年代に入ると、京葉工業地帯の発展は著しく、あわせて、茨城県の鹿島工業地帯の建設も進

展し、又、昭和四十一年には、成田市三里塚に新東京国際空港が設置されることになった。

こうして、北総地帯の中心に位置する成田市は、人口の社会増加による急速な都市化が予測されるところとなり、それに伴うスプロール化が懸念されることとなつた。昭和四十四年、成田ニュータウン事業の基本計画・基本設計が作成され、それによると、計画面積四八二ヘクタール、計画人口六万人、住宅約一万六〇〇〇戸、道路・公園・上下水道・電気・ガスなどの都市基盤の整備を行い、日常の生活単位としては、八住区で編成し、各住区は小学校を中心にしてまとめられることになった。一住区の人口は平均七五〇〇人程度とし、原則として小学校・幼稚園・保育所・診療所・購買施設などを整え、二住区ごとに中学校、公民館、郵便局などを設け、全体として高校二校を設置する、というものであつた。既設の成田市立西中学校を含めながら、昭和四十七年四月に開校した市立向台小学校を手始めに教育施設が整えられ、昭和五十年四月に千葉県立成田西高等学校、昭和五十五年四月に本校が開校したのである。

(二) 本校十年のあゆみ

昭和五十四年九月五日、千葉県議会において、千葉県立成田北高等学校設置に関する千葉県教育委員会議案が可決され、本校の開設が正式に決定された。同年十一月十五日には、岩上利男委員長をはじめとする八名の開設準備委員が任命され、開校へ向けての準備活動が本格化した。なお、開設準備室は、成田西高校の一室をお借りすることになり、以後、翌年四月十五日の開校式・入学式を含めて、成田西高校には、さまざまご指導、ご援助を賜わることになる。



本校の制服

文字は金張り、寸法は一八ミリメートル、裏ネジ式とした。価格面で多少高価

十一月二十七日、第一回開設準備委員会が開かれ、開校へ向けての事務分掌を決めるとともに、諸印刷物の様式や生徒心得など、教務関係、生徒指導関係をはじめ、全般的な準備と検討が具体的に進み始めた。校章や制服の検討も着手され、第二回準備委員会では、校訓と教育方針の検討に入った。

校章は、本校建設予定地を、岩上委員長を先頭にして具さに見て歩くうち、台地の中腹の露頭やその周辺に、前述した洪積世後期の貝化石層を発見した。手にした二枚貝やカシパンウニの化石をヒントに、三本の成長線を持った三枚の貝殻を組み合わせたデザインとするに至った。

三枚の貝殻は、本校の教育理念の根幹である「知育・德育・体育の調和」を形象化したものであり、三本の成長線は、校訓「自律・協調・健全」を目指して努力する若人の成長する姿を象徴している。三枚の貝殻が合わさる中央には、国際空港都市成田を雄飛するジェット機を模して、校名の一部「北」の字を配した。一〇万年を超える貝化石の永遠性と、科学の粹を集めて飛翔するジェット機に、未来に向かって不斷に前進する若人の可能性が表現されている。校章の製作はイデア工房に依頼し、材質はいぶし銀、

の三点を設定したのである。

本校教育の基本方針の策定を進めながら、早急に手を打たなければならぬ制服・通学バックや年間行事の検討、新入生の受け入れ準備などに着手した。

制服は、第一回準備委員会の時から検討を始め、男子については学生服、ブレザー、女子についてはスース、セーラー服、ブレザーなど、それぞれの長所短所が論議された。その中で、本校の制服のイメージとして、垢抜けたセンスのあるもの、国際的な感覚に富むものが求められるにいたった。第三回準備委員会の際、成田市内の四商店をまじえて協議し、男女ともブレザー型の方向で試作することになった。一月二十五日、第八回準備委員会で、男女ともブレザー型とし、色は濃紺、男子の

となつたが、いぶし銀の特性で、使えば使うほど艶が出て光り輝くという高校教育の理想を託したこと、高校卒業後も末永く記念として保存できることを考えて決めたものである。

校訓ならびに教育目標については、岩上委員長の試案をもとに、第二回準備委員会以降協議を重ね、校章にこめられた精神、知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目標に、自学自習の態度を育成し、教育機器を積極的に導入、活用しながら、新しい時代に対応した教育の実現を目指した。そして、校訓として「自律・協調・健全」を、教育目標として「一、一人ひとりの生徒を尊重し、個性の伸長と能力の開発を重点に自主・自律の精神をもつ青年の育成につとめる。

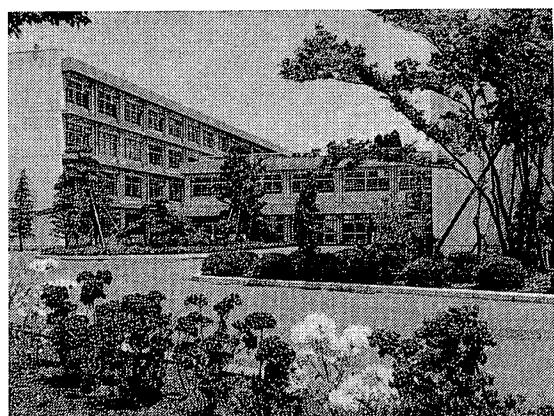
二、社会連帶の意識を養い、勤労と責任を重んじ、協調性に富む青年の育成につとめる。

三、心身ともに健全でたくましい実践力のある青年の育成につとめる。

上衣はアウトポケット、ズボンは千鳥格子とする。女子のスカートはジアンペースカート、丈は膝下一〇センチメートルとし、ネクタイは、男女統一のブルーに決めた。防寒用コートは、シングルのスクールコートで、色は紺とベージュの二種類とし、希望者のみ注文を受け付けることとした。なお、本校の制服取扱い業者は、地元とのつながりを大切にする立場から、成田市内の徳利、旭屋、川名部、玉屋の各洋品店とし、徳利洋品店が、業者を代表して学校との連絡調整にあたることになった。

同日、体操服や通学バッグ、上履きなどについても一定の方針を決定した。体操服は、二本又は三本のライン付きで、生地はポリエスチルとすることにした。通学バッグは、教科書などだけでなく、部活動用具も入り、しかも価格的にも安いスポーツバッグとし、白地に紺の校名入りにした。校名のデザインは、製図の専門家である石井副委員長が担当することとした。上履きは、機能的には運動靴が優れているが、踵をつぶして履く生徒が出ること、価格面でも高いことを考慮し、リノリューム張りの床でも滑らないゴム製サンダルとした。

年間行事としては、特に、林間学校、遠足、作文指導などを積極的に位置付けることにした。林間学校は、新設校としてのハンディキャップを早く乗り越え、生徒間、生徒と職員間の理解と親睦を深め、自然とのふれあいの中で学校生活のうるおいを得させるために実施することにした。片道五時間程度、生徒全員が同一の宿舎、複数のハイキングコースの設定、雨天時の対応、経費二万円以内という条件で、初年度は、七月二十七日から二十九日までの二泊三日の日程で、富士緑の休暇村に行くことにした。遠足については、クラスの親睦と体力の向上を図るとともに、身近にある郷土の文化財にふれることを目的に、房総風土記の丘へ徒歩遠足を実施することになった。また、年間行事の作成にあたって苦



校舎—花と新緑に囲まれて

慮することの多い各学期の時間の活用については、いくつかの行事を集約的で実施するとともに、進路面で重視され始めている作文力の養成にあてるることとした。

こうして、校舎の建設、

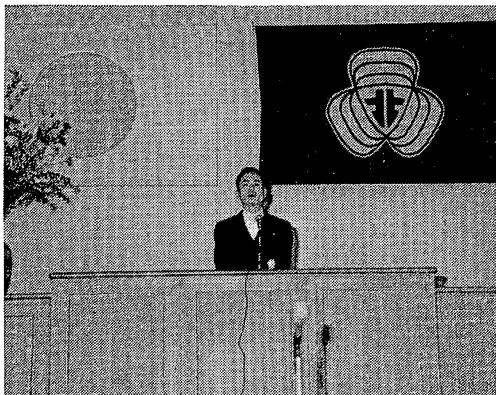
施設の整備とあわせて、本校の教育体制も整えられて

いき、昭和五十四年十一月から十二月にかけて、石井

副委員長と富沢委員が成田

市内や富里中学校などを訪問して、本校のPRにあたった。こうした取り組みの中で昭和五十五年度の本校志願者確定数は、男子一五三名、女子八九名、合計二四二名で、募集定員の一・三四倍となつた。入学学力検査は、二月二十八日、二十九日、成田西高等学校を会場に実施され、準備委員八名と近隣高校よりの委嘱者一三名が検査業務にあたつた。三月五日には、入学許可候補者一八八名（男子一一八名、女子七〇名）が、成田西高体育館の正面前に発表された。三月十九日には、入学許可候補者説明会が、成田西高体育館を借用して行われ、四月十五日に迎え開校式、入学式へ向けて、教務・生徒指導関係や入学手続きなどの説明が行われ、開校への段取りがほぼ整つたのである。

なお、校舎は、三月三十一日に、第一期工事の普通・特別棟（現南校舎）が完成したが、普通教室二四室、特別教室四室の規模であった。そ



開校式—岩上校長の式辞

のうち、一階の六教室は、校長室、事務室、応接室、それと生物室、地学室にあて、二階は、ホームルーム四教室と保健室、図書室に、三階の教室を女子更衣室とした。特別教室は、一階に調理室と同準備室、二階に被服室と同準備室、三階に社会科教室と同準備室、四階に視聴覚教室と同準備室が置かれた。生徒・職員・来客用の昇降口は、将来は女子更衣室となる二室のうち一室分があてられ、他の一室は印刷室兼倉庫として使用された。

(1) 草創期——飛躍へ向けての基盤づくり

総勢二二名の教職員の陣容も整い、四月七日、最初の職員会議が開催された。岩上校長より、教育目標、校訓、努力目標について具体的な説明が行われ、成田北高教育の基本的な方向が確認された。続いて、年間行事計画、時間割、職員の勤務体制について協議された。七日に次いで八日、十日、十一日と、連日職員会議がもたれ、生徒心得や生徒指導の方針、開校式・入学式、オリエンテーション、遠足、清掃分担、クラブ活動など、緊急を要する案件について詳細な検討がなされた。

四月十四日、二回目の入学前指導が行われた。午前中は、各ホームルームで通学バッグや上履き、校章、クラス

章等が配布され、開校式、入学式へ向けての指導があり、午後は、成田西高体育館へ全員が移動して、式場の準備と式の予行を行った。

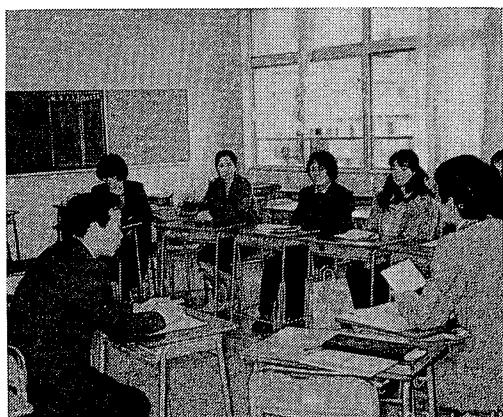
翌四月十五日、成田西高体育館において、本校の開校式、入学式が厳粛に挙行された。まず、寺田欣一県教育委員より「ここに千葉県立成田北高等学校を開校する」との開校宣言があり、ひき続いて岩上校長によって一八八名（男子一八八名、女子七〇名）の入学が許可され、本校の第一歩が踏み出されたのである。席上、岩上校長は式辞の中で、開校に至るまでの関係各位の助力に深く謝意を表してから「(新入生)諸君は

本校にとって、名誉ある第一回生として、本校の輝かしい歴史の冠頭を飾り、よき校風や伝統の基礎を築く責務を自覚しなければなりません。それが本校の命運を決める第一の要件であります。……本校の使命は、二十一世紀を展望した新しい時代に即した高等学校の建設」と強調し、校訓の体現を訴えた。「第一の自律とは、本校の校則をわきまえ……自分の規範を持つて自主積極的な正しい行動力を養うことです。……第二の協調は、……ひとりひとりが本校を代表する一員であるとの自覚で、学校のこと、相手のことを考えて協力し、責任を果たす誠意を望むものであります。第三の健全は、……心身の健康と安全に努めることで……これら徳性や体力の上に養われる知識や技能こそが、まさに豊かな人間性なのであります。……」と、新入生諸君の自覚と奮起を訴えた。

開校式の翌日、学校生活の第一日は、交通ストのため臨時休校というハプニングに見舞われたが、十七日から十九日までの三日間で、無事にオリエンテーションを終えた。そこでは、各先生方から、生徒諸君が学校の歴史を自分たちの手で創造すること、新しい時代に対応できる人間になることの意義が強調されたのである。

解を深めるとともに、英気を養い体力の向上をはかり、あわせて郷土の歴史と文化に親しむことを目的に、房総風土記の丘へ徒步遠足を行つた。天候にも恵まれ、さわやかな初夏の風に吹かれて、明るく楽しい一日を過したのである。この房総風土記の丘への遠足は、遠足を含む諸行事のあり方が全面的に見直された昭和六十三年度まで、昭和五十八・五十九年度を除く七年間、一年生の遠足として実施され続けたのである。道路事情の悪化が深刻化する中で、行程・内容共に、高校生の遠足として申し分のない条件を兼ね備えている数少ない例であろう。

五月十日には、PTAの設立準備委員会がスタートした。準備委員会の世話役の選出に始まり、規約、役員、事業計画、活動方針の全般にわたって検討が始まられ、六月十四日の設立総会へ向けて、意欲的な準備が進められていった。設立総会では、最近の青少年や学校をとりまく社会環境の変化に、親や教師が手を携えて的確な対応をするための共通理解がはかられ、その基盤づくりが進められた。以後今日まで、本校のPTA活動、とりわけP(父母)とT(教師)の連携はきわめて充実したものであるといえる。PとTの持ち場と役割を相互に尊重しあいながら、積極的な協力体制を確立し、理事会を軸に意欲的な委員会活動が取り組まれている。地道な活動をつみ上げている研修委員会、綿密な編集作業を重ねて、号ごとに内容を充実させ、この一〇年間で広報「なりきた」(第二十八号までは「成北」)第三十一号を数える実績を上げた広報委員会、成田祇園祭や宗音靈堂お待夜祭の期間をはじめ、年末や二月期など、必要に応じて夜遅くまで校外の巡回指導にあたる校外指導委員会——こうした活動が、開校以来、マンネリ化に陥ることもなく、堅実に引き継がれてきたことは、本校の好ましい教育状況を語る上で欠かすことのできない要因の一つである。



PTA—学級懇談会

五月十三日からは、ホームルームの生徒と担任との面談が実施された。人間関係の面でも、教育内容の面でも、中学時代とは根本的に異なる学校生活を送り始めた生徒にとって、担任と親しく言葉を交わし、不安や疑問が解消できる場がつくれたことは、高校生活になじみ、落着きを持つ点で非常に有効であった。とりわけ、上級生のいない初年度に、こうした機会を設定したことは、生徒と学校との間を緊密化させる上ですぐれた教育効果を持ったのである。この制度も、行事が錯綜する一学期の中ごろに、時間を捻出するための努力を払いながら、大事にされて今日に至っている。

五月から各ホームルームから選出された委員によって、設立の準備が進められてきた生徒会の設立総会が、一学期も押しつまつた七月三日に

六月十六日から二十一日まで、保護者とホームルーム担任との面談が行われた。開校式・入学式とも成田西高を会場にお借りした

ため、初めて我が子の通う学校を見ることになり、大勢の保護者が来校された。この保護者との面談は、多少、制度の手直しは行われたが、現在まで精力的に継続されている。PTAを基盤に、保護者・生徒・職員の関係が大切にされ、自覚的な努力がなされてきた具体例といえる。

少、制度の手直しは行われたが、現在まで精力的に継続されている。PTAを基盤に、保護者・生徒・職員の関係が大切にされ、自覚的な努力がなされてきた具体例といえる。



スポーツ大会—本校名物の相撲

開催され、引き続いて七月十五日には、第一回の生徒会役員の立会演説会と投票が行われ、本校生徒会が正式に発足したのである。各ホームルーム選出の準備委員は、生徒会の創設とともに、部の結成にも尽力し、初年度早くも、吹奏楽、写真、科学、サッカー、柔道、卓球、硬式テニス、バレー、ボーリー、野球、陸上の一一〇部とゴルフ同好会の発足を見た。生徒会は、二年目からは黎明祭への取り組みを本格化させ、日常的な活動とともに、生徒の自主的・主体的な学校生活への参画の母体となつていた。とりわけ、黎明祭へ寄せる本校生徒の意欲と期待はきわめて強いものがあり、その推進役としての生徒会本部の活動は、高く評価されるところである。初年度は、神崎青年の家で、八月二十四日から二十五日にかけて一泊二日の日程で開かれた校内リーダー研修会も、本校の生徒会活動やホームルーム活動を推進し、黎明祭を組織する上で、少なからぬ役割を果たしてきた。

一学期の期末テストも終わってほっと一息ついた七月十七日、クラス対抗の球技大会が催された。体育館もなく、未整備のグラウンド

ではあったが、生徒も職員も一體となって、実に生き生きと競技にうち興じたのである。二学期（十月九日）には、スポーツ大会として規模を拡大し、種目数、参加人数も格段に増やして実施された。これらの行事は年をおうごとに盛り上がりを見せ、参加する生徒と応援する生

徒の熱気には目を見張るものがあり、それぞれの競技において發揮される部活動の生徒のリーダーシップともあいまって、本校生徒の健全さを示すひとこまである。

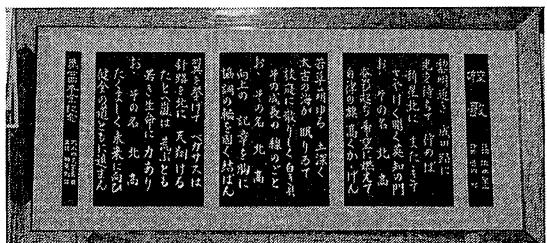
七月二十七日から二泊三日の日程で、開設準備委員会の段階で企画された林間学校が実施された。場所は富士山麓の富士緑の休暇村であった。天候にも恵まれ、三湖台へのハイキング、キャンプファイヤー、富士ビジターセンターの見学と、予定を無事消化し、楽しく思い出深い三日間となつた。翌年度も富士山麓で行われたが、三年目・四年目は磐梯高原、五年目は河口湖、六年目以降は、八年目（昭和六十二年度）の河口湖以外は、長野県の蓼科高原で行われている。当初の四学級から六学級へ、さらに七学級、一〇学級へと、学校の規模が大きくなるにつれて実施上の困難が増大しているが、生徒間、生徒と職員間の親睦と相互理解を深め、学校生活にうるおいを与えてくれるという積極面が評価されて、一〇学級となつた今日も、一年年の重要な行事として取り組まれてゐる。

この年の秋、久住地区の方々からツゲの木が一〇一本寄贈され、十月十八日に植え込み作業が行われた。作業は、保護者、生徒、職員が一丸となって、前日から植え込み用の穴掘りをしておいたが、全ての作業が完了したのはすでに太陽が西に傾くころであった。

十一月二十二日、成田中央公民館で校旗・校歌制定式が挙行された。校旗は学校の象徴であり、校歌は学校の心である。高校生活の折々に、さまざまの思いで仰ぎ、見つめるのが校旗である。汗にまみれ、涙にむせんで、成田北高生であることを高らかに歌い、時には無心に、ふと口遊び、卒業後も母校を思う時口をついて出る歌が校歌である。校旗は、校章と同様イデア工房が製作し、九〇〇×一三五〇ミリメートルの正絹

綾錦西陣織りの生地の中央に、校章を純金糸縫刺繡「北」市松盛上刺繡共色ふち取り刺繡で入った、大変見栄えのする立派なものであった。校歌は、作詞を沢田繁二一先生、作曲を寺内昭先生が担当され、きわめて格調の高い、感動的なものであった。校歌の歌詞としては、決して短いものではないが、生徒はよく歌うし、愛着を持つている。それは、歌詞・曲ともに、若者の心をとらえる新鮮さとリズム感を持っているからであろう。式辞の中で岩上校長は「学校創設期にある本校一期生の諸君にとっては、優れた学校づくりに課せられた最大の使命を自覚し、校旗に恥じない努力研鑽の誓いを第一としなければなりません。……校歌の大意は、国際空港都市としての成田市に新しい時代の幕あけとともに新星のように誕生し注目を集めている北高生は、自らに厳しく、知識を磨き、向上を期して力をあわせ、心身を鍛えて優れた学園を築き未来へ羽ばたこうと教えてくれております。建設の意気に燃える現在の本校にも、また、発展を続けて歴史や伝統を築くであらう未來の本校にとつても、力強く格調の高い歌詞であり曲であることを諸君は誇れるのであります」と述べたのである。

翌年一月十九日から二十九日までの十一日間、生徒会が主催して文化月間がとりくまれた。のど自慢大会、百人一首大会、自由展、職員展など、ミニ文化祭として小規模ではあったが、一期生全員が何らかの作品を展示して、この催しに参加した。一年目から、臆することなく、積極



校歌の額

的に取り組んだ意欲と行動力が、二年目の第一回黎明祭（九月十八日・十九日）へと結実していった。第一回黎明祭は「新しい高校文化の創造」をテーマに、生徒会長石井幹夫君の提起した「文化祭のための発表でなく、発表のための文化祭を作ろう」の精神で取り組まれた。こうした姿勢が貫かれ、つみ重ねられて、黎明祭の伝統が育まれ、本校生徒の

高校生活への参加と創造の最も重要な場となつていったのである。

二月七日には、寒風をついて第一回耐寒マラソン大会が敢行された。本校のマラソン大会は、一・二年生を対象に行われ、苦しさに耐えながら精一杯若さを發揮し、熱氣あふれる気持のよい行事として発展している。

昭和五十六年度、五十七年度は、初年度の意欲あふれた実践と体制づくりをふまえて、本校教育の一層の充実化がはかられた。五十六年度の入学式こそ、前年度と同様、成田西高体育馆をお借りしなければならなかつたが、七月二十三日には第二期工事としての体育馆・格技場が完成し、ひき続いて八月六日には、同じく第二期工事の管理・特別教室棟（現北校舎）が完成、さらに、翌年の一月五日には、管理・特別教室棟の第三期分の完成も見て、ここに本校の校舎建築は完了した。

夏休み中ではあつたが、二学期からの学校生活に備えて、八月二十日から南校舎から北校舎への引越し作業が行われた。暑いさなか、生徒・職員が一丸となって、汗をふき作業を進めた。また、九月二十七日には、クレーコート三面のテニスコートが完成し、多少の雨でもプレーが出来るようになつた。貝殻まじりの砂地にネットを張ってバレーボールの練習をしたり、教室にマットを敷いて体育の授業をしたり、成田西中の体育馆をお借りしたり、中台のテニスコートまで行つたりという不

しかし、まだ千把ヶ池を埋め立てて造成したグラウンドの水はけは悪く、少し雨が降ると泥をこねる状態が続いた。また、部室もなかつたため、運動部員の更衣は大変な不便を強いられていたのである。

この年、初年度の文化月間は、「黎明祭」と名付けられて、本格的な文化祭へと発展した。その中で体育館の完成を記念して、実業団バレー ボールチームの日立茂原対日本電気の模範試合が行われ、生徒に深い感動を与えた。

またこの年は、現在にいたる北高教育を特徴づけ、充実化させる新しい試みが始められた年であった。その一つは、十月十六日に行われた芸術鑑賞会である。成田国際文化会館で、成田園芸高校と合同で、モリエール作の「町人貴族」を鑑賞した。観劇後、成田山新勝寺の光輪閣を見学し、御内仏殿では弘法大師の作と伝わる秘宝波切不動尊を拝観させていただくという貴重な機会に恵まれた。以後、芸術鑑賞会は、毎年恒例の行事となり、生徒がすぐれた文化に接し、教養を高め、感性を陶冶し、視野を広げる催しとして根づいていった。第四回芸術鑑賞会では、小見川町野田芸座連をお招きし、無形文化財である小見川囃子を鑑賞したり、第五回では能・狂言に親しんだり、第八回では、林家木久藏一門の落語を楽しむというように、演劇・音楽・古典芸能と、幅広くすぐれた文化を生徒に提供していくた。

もう一つは、初年度から始めた読書感想文指導が、九月二十四日の発表会の試みとなつて現われたことである。形式的指導に流されることがなく、指導の充実と深化が図られたことは、その後の読書感想文指導や昭和六十二年度から始めた読書感想画指導への意欲的取り組みに引き継がれていった。

七月十六日、野球部が初めて公式戦に名乗りをあげ、千葉公園球場で

成東高校と対戦した。全校一丸となつての応援も空しく、二対一四で八回コールド負けを喫してしまったが、グラウンドでプレーする友人のため、母校成田北高のために声をからした経験は、さわやかな思い出の一ページを作ってくれた。

十月二十五日から二十八日までの三泊四日の日程で、二学年が奈良・京都方面に初めての修学旅行に出かけた。成田北高生としての自覚と分別を持つて、友人との人間的なふれあいを深めながら、古都の味わいを堪能した。四期生からは広島にまで足を運び、広島の「歴史」と、奈良、京都に見る日本の歴史の奥行きを学んだのである。昭和六十一年度の六期生の修学旅行は、趣きを変えて岩手・青森・秋田へと足を伸ばし、東北地方の旅情と生活・文化にふれたが、本年度、第十期生は、ウインタースポーツとしてのスキーに親しむ体験旅行を試みることになっている。

昭和五十七年四月七日、創立三年目を迎、初めて本校の体

育館で入学式が挙行された。ここに三箇学年がそろい、名実共に学校としての体制が整つたのである。生徒数五四四名（一年生一八〇名、二年生一八二名、三年生一八二名）、職員数三八名であった。

三年目を迎えて、年間の行事計画やその内容について、基本的な輪郭が固まつた。例えば、



修学旅行一巣島神社で記念撮影

遠足は、一年生が房総風土記の丘への徒歩遠足（昭和五十八年度は筑波山、五十九年度は林間学校）、二年生が上野公園での博物館見学やレクリエーション、三年生が工場見学やディズニーランドというように一応のパターンを持つようになった。例外としては、昭和六十年度に、全校で筑波の国際科学技術博覧会（科学万博）へ行ったことと、平成元年度に二・三年生が横浜博覧会へ行ったことである。

六月十七日には、生徒会が主催して映画会が取り組まれ、「クレーマー・クレーマー」を鑑賞した。この催しを第一回として、翌年度からは三月にも開催されたが、以後、一学期に実施されるものは生徒の希望をアンケート方式で集約し、三月のものは生徒会顧問が選定する形で作品を選んでいる。本校生徒会の意欲と健全さを物語る活動として、生徒の学校生活の中に根づいている。

十月三十日、校舎落成記念式典が本校体育館で挙行された。開校二年目にして、普通教室棟をはじめ管理・特別教室棟や体育館まで整備され、三年目のこの年には校門並びに校地舗装工事が完了し、全校三〇学級を収容できる規模の学校としてその竣工を見たのである。本校の周辺は、成田ニュータウンの造成工事の進捗状況とも相まって、きわめて恵まれた教育環境が整えられていった。また、保護者の方々のお力添えもあって、約五〇種、大小五〇〇本の樹木が植えられ、本校の緑化も一気に進められた。体育館の西側には、竣工記念樹としてメタセコイアが、生徒・職員の手で植えられた。生きている化石として世界の注目を集め、中国四川省に生育していたメタセコイアの種をアメリカで発芽・生育させ、その後、日本にも広く植えられることになったメタセコイアこそ、成田層の貝の化石層を持ち、国際都市成田に開校した本校の記念樹として最もふさわしいと、岩上校長の発案で選ばれたのである。

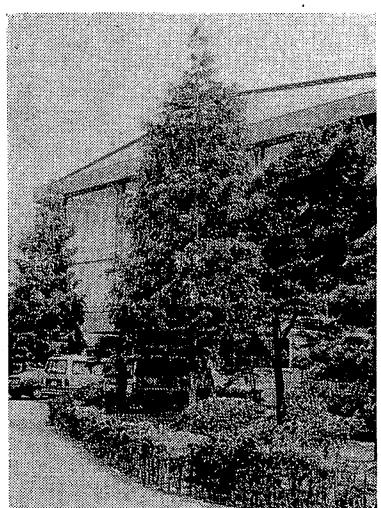
第一回黎明祭

は、この校舎竣工記念行事として催され、テーマ「開拓」にふ

さわしく、清新の気があふれた盛り上がりを見せたのである。

初めての卒業生を送り出すことになった二月三日、第一回の予餉会が開催された。一・二年生の創意・工夫にあふれた出し物と、富山教諭の脚本・演出による職員劇「にぎり飯のうた」で、高校生活の最後を飾るにふさわしく、思い出深い、楽しい一日となつた。こうして本校の予餉会と職員劇は、本校の学校生活を象徴する心のこもった行事として、高校生活の掉尾を飾るものとなつていくのである。現羽生校長には、毎年職員劇の「主役」をつとめていただいている。

三月九日、第一回卒業式が挙行された。卒業生一八一名を送る晴れの式典は、大里庄次郎県教育委員をはじめ多数の来賓をお迎えして盛大に行われた。一人ひとりに卒業証書が授与され、高校三年間が新たな人生の飛躍の土台になることが期待されたのである。



大きく育った開校記念植樹
「メタセコイア」

（三）充実期——校風の確立と伝統の創造をめざして

四年目を迎えた昭和五十八年度から、本校は六学級規模となり、男子一三七名、女子一三四名、計二七一名の新入生を迎えることとなつた。さらに、七年目の六十一年度には七学級規模へと拡大され、男子一七六

名、女子一四四名、計三二〇名の新入生を迎えた。昭和五十八年度から六十二年度までの五年間は、四学級規模の三年間で築かれた成田北高教育が、六学級・七学級規模で試され、成田北高の校風として引き継がれ、成田北高の伝統として確立されるかどうか問われる時期であったといえる。

六学級となつた一年生は、筑波山へ初めてのバス遠足を実施した。林間学校は、裏磐梯高原で従来通り七月末に行われ、磐梯山登山に、五色湖ハイキングに、キャンプファイヤーにと、楽しく熱気に満ちた三日間であつたが、部活動の発展の中で、夏休みの林間学校はこの年が最後となつた。各運動部とも活動が本格化し、夏休みには合宿に取り組む部が増えたため、林間学校とかちあう状況が出て来たのである。検討の結果、部活動育成の観点と林間学校の教育的意義をふまえて、林間学校は一学期の五・六月に実施することにし、昭和五十九年度は五月二十七日から二十九日まで、昭和六十年度は五月二十五日から二十七日まで、昭和六十一年度は五月二十四日から二十六日まで、いずれも二泊三日の日程で行われた。林間学校に対する生徒の期待と当該学年職員の奮闘努力によって、生徒間の親睦・交流、相互理解の深化という所定の教育目標を達成しつつも、新たな問題が幾つか生まれて来た。それは、一学期の五・六月の時期は、年度初めの諸業務に加えて、生徒との面談、中間テ

スト、スポーツテスト、保護者との面談、進路説明会……と、大切な行事がたて統くこと、特に中間テストの前後に実施することは、一年生の学習に支障が出ないかどうか、六学級・七学級規模という生徒の増加が、実施上の困難をもたらしていないかどうか、また、せつかくの行事が、学校生活に対する生徒の落着きを損ねないかどうか、などであつた。いずれもないがしろに出来ない問題点であり、学年規模が一〇学級



黎明祭のクラスコンテスト（仮装）

た。初年度の文化月間に始まる文化祭へのとりくみの努力と実績、生徒の熱意は、開校五年目にして遂に一般公開を実現させた。第四回黎明祭は、五〇〇名に上る一般入場者があつたが、一切のトラブルもなく、内容的にも一段と充実したものとなつた。大成功をおさめた喜びと感動が、後夜祭での歌に、踊りにこめられて、遅くまで青春のすばらしさが謳歌されたのである。

四年目の十二月二十四日から四泊五日で、第一回スキー教室が、信州車山高原スキー場で開かれた。冬の自然の美しさと厳しさを味わい、ウインターランドボーツに親しむ機会として、参加した四二二名（男子二二一名、女子二〇名）の生徒諸君は、新鮮な感動に満たされたのである。

四年目の十一月二十四日から四泊五日で、第一回スキー教室が、信州車山高原スキー場で開かれた。冬の自然の美しさと厳しさを味わい、ウインターランドボーツに親しむ機会として、参加した四二名（男子二二名、女子二〇名）の生徒諸君は、新鮮な感動に満たされたのである。

になつた時点で、再度協議することにした。

第三回 黎明祭は、非公開ではあつたが、「ファイーリ

東高校長、茂原工業高校長に

ご榮転された。後任には、石井功校長、菅谷泰夫教頭が着

任せられ、きめ細かな教育、職員が働きやすい環境づくりに

努力されることを表明され

た。

スポーツテストに汗を流す



今まで本校グランドで実施していたスポーツテストを、昭和五十九年度から中台陸上競技場で行うこととした。水

はけが悪く、条件の思わしくない本校グランドで競技するより、ターダントラックのよい環境を提供することによって、生徒の意欲・積極性を引き出し、スポーツに打ち込む喜びを体験させたかったのである。よい条件でプレーすることによって記録も大幅に伸び、運動能力章合格者は、今までの十数名から一気に一〇〇名前後に増えた。基礎的な運動能力に自信を持つて、部活動にもよい影響を与えていた。

昭和六十二年度の人事異動で、石井功校長は県立銚子商業高校長にご榮転となり、現羽生正允校長が着任された。常に生徒の中に身を置き、生徒を見つめる目の温もりと生徒へ語りかける言葉の深さが、成田北高教育を包み、支えていく。

四 新たな飛躍をめざして——大規模校としての発展

昭和六十三年度から一〇学級規模となり、四七〇名（男子二五一名、女子二二九名）の新入生を迎えた。一〇学級規模への拡大は、今までの成田北高教育の体制と実践を継承し、ふまえながらも、一定の改革を余儀なくされた。

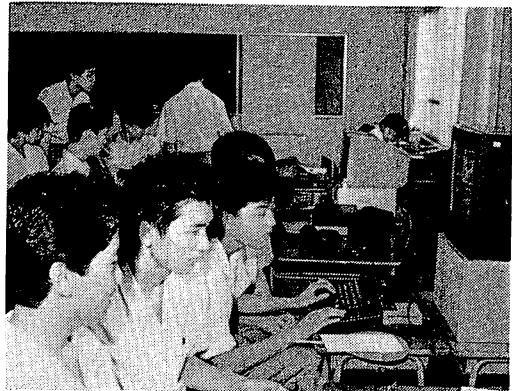
教育課程については、音楽・美術・書道に工芸を加えて、四科目から一科目の選択とした。また、三年の文科系・理科系とも、一単位選択科

目の対象を大幅に増やしたのである。

必修クラブについては、一・二年は変更しなかったが、三年は全員進路クラブに所属させて、進路指導の時間として活用することとした。さらに平成二年度からは、必修クラブ指導の問題点を解消し、あわせて、部活動の育成を図るために、一・二年の必修クラブを部活動に昇格させた。そして、この機会に映画研究同好会と空手道同好会が部に昇格し、工芸、パソコン、調理、華道、茶道、ペン字、郷土研究、少林寺拳法の制度は、NHKの「視点」でもとりあげられるなど注目されたが、ク

が、新たに同好会として発足した。なお、演劇同好会は、昭和六十三年度に部に昇格している。

本校は、昭和五十七年の秋から、佐倉市や印西町のロータリークラブの要請で交換留学生を受け入れてきだが、学生を受け入れてきながら、当面継続一部改正をふまえて、この年、本校の「成績評価・単位認定等の規定」を変更し「留学」の項を追加した。本校生徒の海外「留学」にあたり、海外での修得単位並びに学業成績を勘案し、それまでの休学扱いから留学制度への道を開いたのである。本校における交換留学生制度は現在まで順調な発展を見せ、カナダから二名、オーストラリアから三名、ニュージーランドから二名の留学生を迎える。本校から西山麻由（アメリカ）、丸山知恵（オーストラリア）、早川利恵（同）、近藤桂子（同）、與世里幸子（ニュージーランド）、岩崎力（同）の七名を派遣してきた。交換留学制度は、留学を希望する生徒の励みになっているだけでなく、海外からの留学生と一緒に学ぶことによって、本校生徒の視野を広め、国際感覚を培う環境をつくり出しているとともに、生きた英語に接する場ともなっている。留学制度の導入によって、留学する生徒の後顧の憂いを除き、一層の意欲をひき出すと同時に、本校教育の充実化に寄与していくと思われる。また、本校は、平成元年度から、この地区のAET（アシスタン



パソコン同好会の発足

ト・イングリッシュ・ティーチャーの略）の拠点校に指定されている。

昨年度はパトリシア（イギリス）が、本年度はエイミイ（アメリカ）が、本校の英語教育のアシスタントをしてくれている。

年間行事については、昭和六十三年度の林間学校を一〇学級規模で実施することのはずを、他の行事とかかわらせながら検討した。その結果、若干の問題はあるが、生徒・職員の人間関係を深め、学校生活にじんでいく上に評価できる役割を果たしているとの判断から、当面継続することに踏み切った。そして、行事の調整と合理化をはかつて、從来の全校遠足を廃止して、一年生の林間学校と二・三年生の遠足を時期的に組合わせて実施することにした。また、一学期末に行っていた球技大会を、期末テストの答案指導と組合わせて学年別に実施し、できるだけ多くの生徒がゲームに参加できるように改善した。



防災訓練一救助袋の実地訓練

二学期末に避難訓練と消火器の実地訓練、九月一日に防災講話、

二学期末に避難訓練と消火器の実地訓練を実施していたが、三〇学級規模では、とても内容のある訓練は不可能となった。そ

こで、九月一日に防災講話を実施し、二学期の十月か十一月に、全校生徒による避難訓練のあと、一年生は救助袋の実地訓練、二年生は消火器の実地訓練、三年生は防災映画と講話の総合的な訓練を実施することに



除草作業

した。訓練課題が散漫になることなく、人数の上でも集中が可能のため、訓練の成果は向上している。

日常の清掃や除草についても大幅な手直しをした。七学級規模までは、帰りの S.H.R の前に全員で清掃にあたつていたが、清掃箇所と清掃内容に比して人数が多過ぎるといふマイナス面が、年ごとに深刻化していく。そこで昭和六十二年に、何度も何度かの検討・協議をへて、当番制に切り替え、清掃時間も S.H.R. 後とした。清掃をさぼる生徒が出ないかどうか心配されたが、ほとんど心配される程のこともなく、責任感や自主性を涵養する上で、清掃監督の職員の指導を徹底させる上でもかえってよい結果を招いている。除草も、昭和六十三年度前半までは、グラントをクラス数で分割し、クラス毎に分担させていたが、実情は時間の浪費に近かつた。そこで、グラントを除く校舎周辺の植込みなどをクラス数で分割し、年間を通して分担させることにした。特に大掃除の時には、日常の清掃分担で余る人員を全て取り組ませ、徹底をはかるようにしたのである。

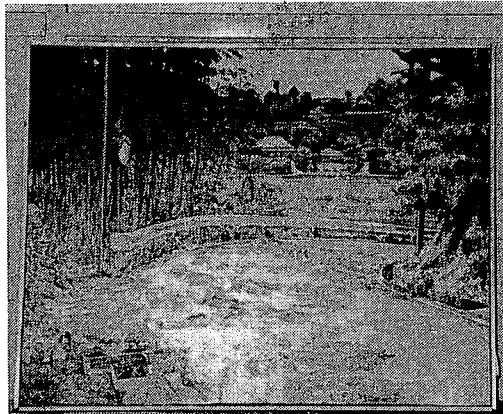
昭和六十三年度は、生徒指導の面でも、今までの実績と成果を基礎に一つの飛躍が試みられた年である。開校時から高校生としての本分を見失なわず、社会や学校のルールを守り、高校生としてのマナーを大切にすることを厳しく求めて來たが、その中には、一貫して生徒と職

員・学校の信頼関係を強める努力を続けて来た。こうした基盤をふまえて、昭和六十三年度から長期休業中のアルバイトを原則的には届出制にして、生徒を信頼し、自主的に時間の活用をはからせるとともに、勤労の意味と社会的責任を自覚させる方向で指導することにした。あわせて、学校に内緒でアルバイトに従事し、特別指導を受けたりするような状況は作り出さないことを求めたのである。自らの人生設計と進路希望の実現に対する意欲と厳しさを堅持し、長期休業中の時間の活用を前向きに、計画的にとりくませる指導を貫くことによって、この方針転換の趣旨が生きてくるであろう。

また、平成元年度からは、女子の開襟シャツと黒のストッキングの着用（十月～翌年三月）を認めた。黒のストッキングについては、生徒会のアンケートの結果にもとづく要望に応えたものである。生徒との信頼関係を基盤に、生徒の自主性を尊重しながら生徒の自覚を促していく指導の一つである。この精神は、特別指導を受けた生徒に対する処置にも生かされてきた。

なお、昭和六十三年の五月から、北校舎一階通路で橋本商店のパン販売が行われるようになつた。弁当持参を指導の原則にしていて、弁当が用意できなかつた生徒に、安全で、市価より安く提供してもらい、落着いて一日の学校生活を送らせたかったことと、その収益が経営者の橋本傭奈氏を中心とした国際交流活動（来日した外国人の日本語教育）の資金として活用されることに共鳴したからである。

このように本校は、学校規模が四学級から六学級へ、さらに七学級・一〇学級へと拡大する中で、それまでの学校づくりや教育体制が後退することなく、むしろ、かえつて前進を見せる状況が作り出されて來た。部活動にても、開校年度に一部、一同好会、二年目に五部が結成さ



丸山かおる「坂」

昭和63年度第38回学展優秀賞受賞

中央コンクール高等学校の部で、三年生の岡由美子さんが最優秀賞を受賞するという栄冠をつかんだのである。

平成元年度、この年の人事異動で、学校づくりに大きな足跡を残された菅谷泰夫教頭が県立市原八幡高校長にご栄転され、後任に香取秀紀教頭

れ、七学級規模になる前年に五同好会、その翌年に二同好会、一〇学級になった年に一同好会、翌年一同好会、そして、前述したように本年度には二同好会の部への昇格と七同好会の結成を見たのである。こうしたとりくみの中で各部ともすばらしい成果を上げて来たが、とりわけ、美術部の活躍はめざましかった。毎年のように学展や全日本学生美術展、全国高校生デザインコンクール、全国高校生ボスター・絵画・写真・映画コンクールなどで優秀な成績を残したが、昭和六十二年度には、ついに第三十七回学展で、三年生の森洋一君が油絵部門で学展大賞を、二年生の加瀬大介君がデザイン部門で同じく学展大賞を、顧問の齊藤（旧姓富山）公美子教諭が最優秀指導者賞を受賞するという成果を上げたのである。さらに、開校時から国語科・図書部を中心に全校的にとりくまれて來た読書感想文指導が、昭和六十二年度からは読書感想画指導もとり入れて、読書指導の一層の充実化をはかったが、そうしたとりくみの中で、昨年度の読書感想画

その一つは、常に生徒の人格と可能性を尊重し、厳しさの中にも生徒を思う人間的な温もりと期待感がこめられてきたということである。これから、本校職員と生徒諸君との信頼関係が生まれ、生徒諸君は、自らの存在価値を学校生活の中に自覚し、高校生活を自らの人生の中に位置づけてきた。本校の生徒諸君が、全体として学校生活に落着きと安心感を失わずにやってきたことや、開校以来、退学者をほとんど出さずに卒業させてきたということと深く関わっていると思われる。

また、開校初年度から実に多くの行事や教育的な取り組みがなされて

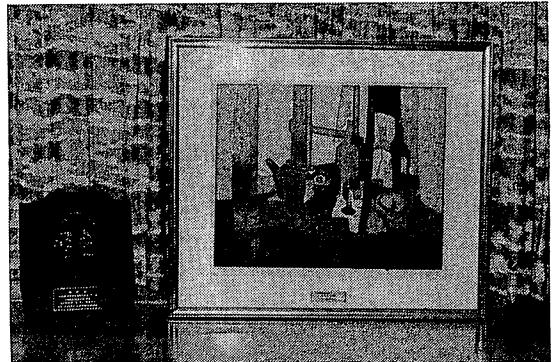
きたが、そうした取り組みの一つ一つが、形式主義に陥ったり惰性に流れたりすることなく、大切にされ、意欲的に取り組まれてきたことも特筆されよう。生徒諸君の学校生活に、幅と深みを持たせ、張りあいとうるおいをもたらすという点で軽視できない要因となつていいのである。

とりわけ、黎明祭は、内容的には多少の物足りなさはあるにしても、組織性や計画性を見るべきものがあり、生徒諸君が学校生活に対して、自主性・主体性を自覚する場として、大きな役割を果たしてきたといえるだろう。そして、この黎明祭への取り組みを中心とした生徒会本部の意欲的な活動も、生徒諸君が、自分と学校を対立的にとらえることなく、『成田北高の一員』としての意識を育む上で高い評価を与えられるとと思ふ。

が着任された。

五 おわりに

本年、創立十一年目を迎え、その一〇年のあゆみを振り返ってきたが、そこには、本校の教育を支え、貫いてきたいくつかの「柱」を見ることができる。



平成元年度読書感想画中央コンクール
最優秀学校賞の賞品（盾と名画）

更に、ホームルーム担任を中心とした生徒との個人面談、保護者との面談やPTAの諸活動などを通じて、生徒諸君や保護者の方と学校との相互理解を深める努力が、不斷に行われてきたことも見逃せない。昭和六十三年度からは、年に一度はあるが、PTAが主催して保護者の方と職員との親善ソフトボールが行われるようになっているし、本年度の黎明祭には、広報委員会が中心になって「ブティック・マゴン」がオープンし、手芸の実演指導や素敵な作品の展示即売が行われたりしている。こうした努力の積み重ねの中で、保護者の方と職員との相互の信頼感が育まれ、本校の教育にとって大きな力となってきた。

本校が地域に支えられ、期待されて今日に至ったことも付け加えなければならない。開校時から、成田市をはじめ香取郡を含む近隣市町村からの通学生徒数は八〇ペーセントを超していたが、五十九年度には九二ペーセントとなり、一〇年目の平成元年度には九四・九ペーセントとなつてある。自転車通学の生徒の安全指導や自転車置場の不足に頭を痛める状況は、地元と結びついている本校の姿を象徴しているのである。

最後にひとこと申し添えるならば、校長をはじめとする本校職員が、どんな行事がたてこんであわただしい時などでも、基本的に精神的な

ゆとりを失わずに対応して来たことも見落とせないところかと思う。このことも、生徒諸君の学校生活に対する落着きと安心感、健全さを支える点で大きく寄与してきたと思う。

しかし、何といっても本校の歴史は、まだ一〇年の歳月を重ねたに過ぎない。教育に課せられた責務を全うし、生徒・保護者・地域の熱い期待に応える学校づくり、教育の実践は、まだ緒についたともいえないかもしれません。この一〇年に築き上げたものに心をゆるめることなく、本校の教育的課題の実現に、なお一層邁進していかなければならぬことは言をまたないところである。

創立十周年を記念して、本校の一〇年の足どりをたどってみた。言葉足らずや誤り、見落しなど、不十分なところが多くあるかと思うが、本校教育の今後の発展のための『捨石』の一つにでもなれば幸甚と思う。みなさまのご批判・ご助言を心からお願いする次第である。

なお、この沿革史をまとめるにあたって、本校の「創立五周年記念誌」をベースにさせていただくとともに、高岡誠次先生、尾形肇先生、小松栄三郎先生をはじめ、多くの先生方のご助言、ご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

（文責 手島和史）

主な参考文献

- 「千葉県企業庁事業のあゆみ」（平成元年、千葉県企業庁）
- 「成田ニュータウン基本計画報告書」（一九六九年、県北総開発局）
- 「成田ニュータウン開発計画報告書」（昭和五三年、県企業庁他）
- 「公津原」（千葉県企業庁、昭50）
- 「公津原」（千葉県文化財センター、昭56）
- 「千葉県立房総風土記の丘年報13」（千葉県立房総風土記の丘、'90）

- 「千葉県 地学のガイド」（コロナ社刊、昭55）
「千葉県の歴史」（山川出版社刊、昭56）
「千葉県のあゆみ」（千葉県、昭58）
「成田市史」（原始・古代編）（成田市、昭55）、「同（中世・近世編）」（同、昭61）
「同（近現代編）」（同、昭61）
「成田 寺と町まちの歴史」（聚海書林刊、昭63）
「創立五周年記念誌」（千葉県立成田北高等学校、昭61）
「学校日誌」（同、昭55～平元）、その他関係書類、記録

沿革年表——行事を含む

昭和54年度

昭54・9・5	千葉県立成田北高等学校設置に関する千葉県教育委員会議案可決
昭54・10・26	千葉県立高等学校設置条例の一部を改正する条例案(改正条案)を県議会において議決 設置場所 成田市
昭54・11・1	改正条例公布
昭54・11・15	開設準備委員長岩上利男ほか七名に開設準備事務嘱託
昭54・11・24	千葉県教育委員会告示第一四号により千葉県立成田北高等学校第一学生徒募集 定員一八〇名
昭55・2・28	入学選抜学力検査実施(会場 千葉県立成田西高等学校)
昭55・3・29	入学志願者数 二四二名 第一期普通教室棟竣工
昭55・4・1	千葉県立成田北高等学校初代校長に岩上利男発令 ほか教職員一八名発令
昭55・4・7	第一回職員会議。教育目標、校訓、努力目標、年間行事計画、時間割、職員の勤務について
昭55・4・8	第二回職員会議。生徒指導及び生徒心得について
昭55・4・10	第三回職員会議。開校式・入学式について
昭55・4・11	第四回職員会議。オリエンテーション計画、遠足、清掃分担、クラブ活動について
昭55・4・14	第二回入学前指導。午前中各HRで開校式・入学式準備。午後成田西高体育館で予行
昭55・4・15	開校式並びに入学式。於成田西高体育館。第一回入学式(男子一

一八名、女子七〇名、計一八八名)
式典終了後開校祝賀会。於本校社会科教室

オリエンテーション

遠足。徒歩で房総風土記の丘へ

P.T.A準備委員会

生徒面接週間

P.T.A準備委員会

中間テスト

P.T.A準備委員会

初任研・研究授業。国語／山崎啓子 生物／林真一 英語／川合俊夫 音楽／上原令子

P.T.A設立総会及び学年懇談会。五六名参加、P.T.A発足なる

保護者面接週間。各

HRにて保護者と担任との個別面接始まる

期末テスト

生徒会設立総会

生徒会役員立会演説

会及び投票

映画会、全校集会、歌の練習

球技大会

終業式。林間学校事



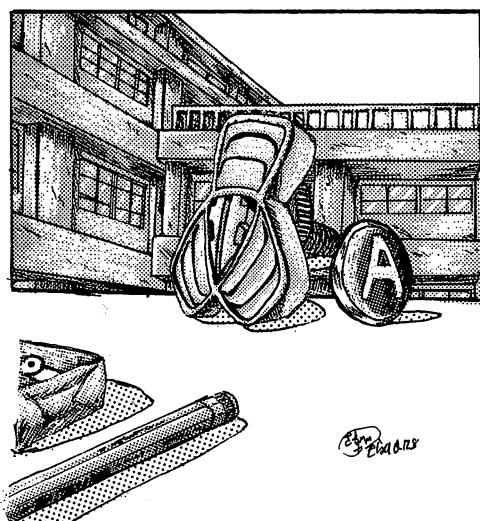
林間学校—富士山麓に遊ぶ



校旗·校歌制定式

10th

ANNIVERSARY
NARITA KITA



昭和56年度



必勝に燃えて—野球

昭 56 · 10 · 16	昭 56 · 10 · 13	昭 56 · 9 · 30	昭 56 · 9 · 27	昭 56 · 9 · 24
第一回黎明祭。テーマ「新しい高校文化の創造」。バレーボール 模範試合	表会。	（クレー）コート ト三面）完成	テニスコート 装の体育館で 新役員選出	読書感想文発 表会。
必勝に燃えて—野球				
「町人貴族」				

昭 56 · 9 · 1918	昭 56 · 8 · 1918	昭 56 · 7 · 6	昭 56 · 7 · 23	昭 56 · 7 · 21	昭 56 · 7 · 16
第一回入学式（男子九六名、女子八六名、計一八二名）	遠足。一年は房総風土記の丘、二年は上野公園	生徒総会（南校舎屋上で青空集会）	全校野球応援。公式戦初登場	PTA総会	遠足。一年は房総風土記の丘、二年は上野公園
第二期工事管理・特別教室棟（北校舎）竣工	第一期工事管理・特別教室棟（北校舎）竣工	第二期工事体育馆・格技場竣工	第一回林間学校（富士緑の休暇村）	校内リーダー研修会	第一回林間学校（富士緑の休暇村）
昭和56年	昭和56年	昭和56年	昭和56年	昭和56年	昭和56年

(モリエール作)鑑賞。
成田国際文化会館。午
後は成田山新勝寺を見

学
二学年修学旅行。京
都・奈良方面、三泊四

昭
56
·
10
·
25
日
合唱コンクール

昭
56
·
11
·
19
室棟竣工

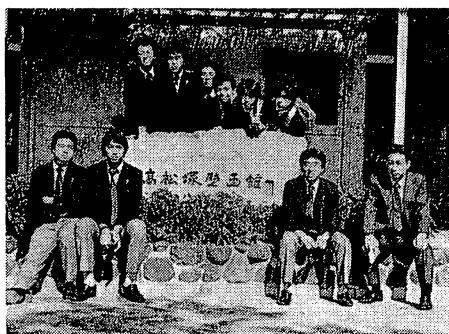
昭
56
·
1
·
13
第三期工事管理特別教
習会。優勝青山君

昭
57
·
2
·
13
入学者選抜学力検査

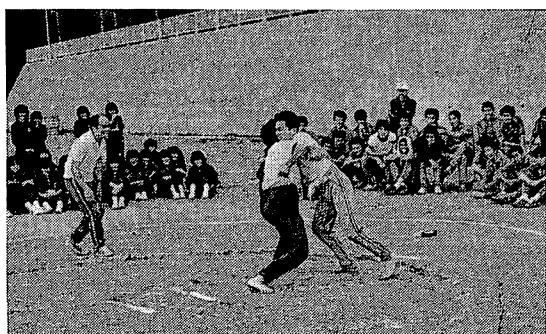
昭
57
·
3
·
21
第二回校内マラソン大

昭
57
·
1
·
13
会。優勝青山君

昭
57
·
1
·
13
入学者選抜学力検査



修学旅行—京都から奈良へ



スポーツ大会—相撲

昭和57年度

沿革一成田北高10年のあゆみー

昭 57 · 10 · 29	昭 57 · 10 · 22	昭 57 · 10 · 22	昭 57 · 10 · 22	昭 57 · 10 · 22	昭 57 · 10 · 22
会告示第八号により第一学年生徒募集定員二七校舎落成記念文○名	の『狭き門』を読み終えて』千葉県教育委員会。最優秀石井幹夫君「ジッドの『狭き門』を読み終えて」千葉県教育委員会告示第八号により第一学年生徒募集定員二七校舎落成記念文○名	日。岩上校長米	欧諸国歴訪講演会。最優秀石井幹夫君「ジッドの『狭き門』を読み終えて」千葉県教育委員会告示第八号により第一学年生徒募集定員二七校舎落成記念文○名	スボーツ大会 読書感想文発表会。	P T A 総会及び講演会。広浜見名子先生「少年非行と家庭教育」生徒会映画会「クレーマー・クレーマー」全校野球応援。対流山東高、延長一四回裏、サヨナラ勝ち一年林間学校（磐梯高原）生徒会リーダー研修会（佐倉草ぶえの丘）



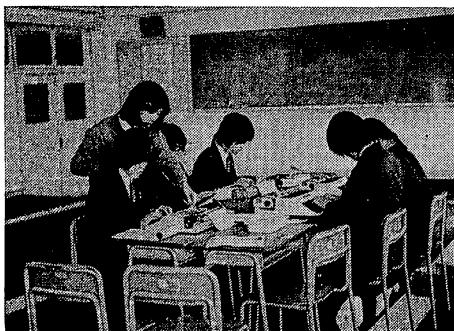
竣工記念式典（昭和57年10月29日）

昭 58 · 3 · 24	昭 58 · 3 · 9	昭 58 · 3 · 2	昭 58 · 3 · 12	昭 57 · 11 · 22	昭 57 · 11 · 22	昭 57 · 11 · 18	昭 57 · 11 · 18	昭 57 · 10 · 30
第一回卒業式（卒業生一八一名）	第一回予餞会。職員劇「にぎり飯のうた」好評。作・演出富山教諭	体育倉庫竣工	三年テーブルマナー講習会（成田ヴューホテル）	二年修学旅行（京都・奈良方面）	芸術鑑賞会（東京チエンバーブラスコワイヤーの演奏）	文化祭大盛会。後夜祭盛り上がる	化祭。テーマ「開拓」	校舎落成記念式典
第三回耐寒マラソン大会。優勝瀬川二郎君	第四期生入学学力検査	第一回卒業式（卒業生一八一名）	第一回予餞会。職員劇「にぎり飯のうた」好評。作・演出富山教諭	二年修学旅行（京都・奈良方面）	芸術鑑賞会（東京チエンバーブラスコワイヤーの演奏）	文化祭大盛会。後夜祭盛り上がる	化祭。テーマ「開拓」	校舎落成記念式典
第四期生入学学力検査	第一回卒業式（卒業生一八一名）	第一回予餞会。職員劇「にぎり飯のうた」好評。作・演出富山教諭	二年修学旅行（京都・奈良方面）	芸術鑑賞会（東京チエンバーブラスコワイヤーの演奏）	文化祭大盛会。後夜祭盛り上がる	化祭。テーマ「開拓」	校舎落成記念式典	化祭。テーマ「開拓」



離任式

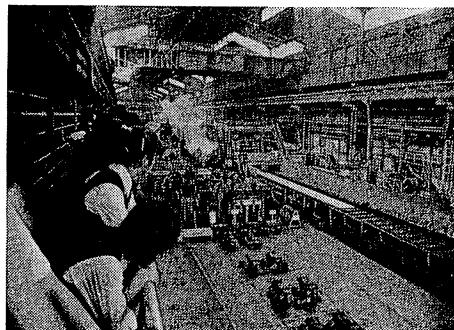
昭和58年度



英会話部の活動



服装はきちんと！



遠足一川崎製鉄を見学一



若さ・情熱・友情—野球応援—

教職員四三名
第四回入学式（男子一三七名、女子一三四名、計一七一名）
全校遠足。一年筑波山、二年上野公園、三年川鉄・歴博の見学
生徒総会
PTA総会。第二代会長に山内克氏が就任
スポーツテスト
野球応援（対鎌谷高。試合には負けたが全校応援で盛り上がった）
球技大会
一年生林間学校（磐梯高原）
生徒会リーダー研修会
第三回黎明祭（テーマ「存在の証明」）

昭和59年度

石井校長、菅谷教頭着任

始業式、新任式

第五回入学式（男子一六四名、女子一一一名、計二七五名）

林間學校（富士山麓）

二年逸足 三年工場見学・歴博の見学

黒民の田舎にて訓讀せらる

リーダー研修会

避難訓練。救助袋降下

全校登校日

実力テスト

續帆影

スポーツ大会

卷之三

第四回 芸術監賞会（郎

防災訓練

実力テスト

グラウンド整備完了

予饗会。職員劇 — モンスター・バスターズ

神功ニシテ
修勝者・寺田要

合名著發表

卒業式

沿革一成田北高10年のあゆみ一

三年の半ばを過ぎました。PTA活動の第一歩は出席をする事であると思いませんが、欠席が多く役員の方々に大変御苦労をかけている事をおわびしなければなりません。（中略）

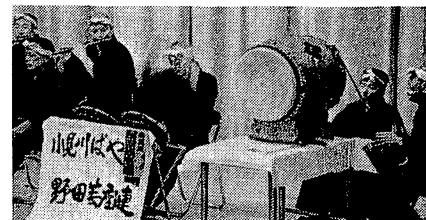
高校になると小中と違った問題が起きて来るし、それぞれの立場での主張が出てくるので大変ではあるが又、楽しみもあります。学校と家庭の連けい、親と子のふれあい、そしてこの三者が一体となって北高の伝統を作つて行かなければなりません。出逢いふれ合いを大切にして理解し理解されるような話し合いを基本にしたいと思いますが、うわべだけの話し合いが意外に多い事は残念です。「腹を割って話し合おう」とか「本音を話し合おう」と常に言われいますが、これは大変難かしい事だと思います。しかしそうして行かないといふ活動が空回りをしてしまう様な気がします。非行の問題等にしても、本音の話し合いか出来れば解決は難かしい事でない様に思います。子供が本音を出し親が本音を言い、先生が本音を言う形が出来る事が望ましいと思います。

PTAについて

增田茂



PTA総会



芸術鑑賞—郷土芸能 「小見川ばやし」を鑑賞—

(「広報成北」第十一号より—抜粋—)

昭和60年度

昭和61年度

昭和62年度

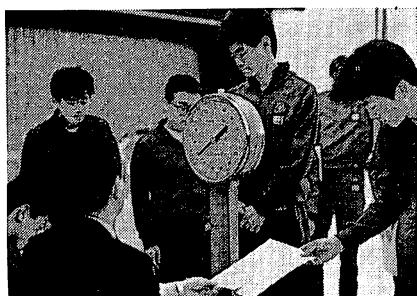
昭和63年度

沿革—成田北高10年のあゆみ—

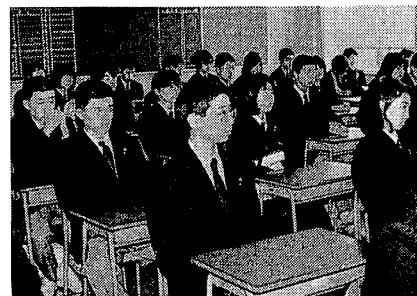
平成元年度

平元 ・ 10 10 21 16	平元 ・ 9 5 13 02	平元 ・ 10 9 9 1 6	平元 ・ 8 7 7 1 6	平元 ・ 7 7 6 1 24	平元 ・ 6 6 6 1 30	平元 ・ 5 5 5 1 31	平元 ・ 5 5 5 1 30	平元 ・ 5 5 5 1 30	平元 ・ 4 4 4 1 14	平元 ・ 4 4 4 1 11	平元 ・ 4 4 4 1 11	平元 ・ 4 4 4 1 11
・ 10 10 9 9 1 6	・ 13 02 1 6	・ 10 9 9 1 6	・ 8 7 7 1 6	・ 7 7 6 1 24	・ 6 6 6 1 30	・ 5 5 5 1 31	・ 5 5 5 1 30	・ 5 5 5 1 30	・ 4 4 4 1 14	・ 4 4 4 1 11	・ 4 4 4 1 11	・ 4 4 4 1 11
21 16	13 02	10 9 9 1 6	8 7 7 1 6	7 7 6 1 24	6 6 6 1 30	5 5 5 1 31	5 5 5 1 30	5 5 5 1 30	4 4 4 1 14	4 4 4 1 11	4 4 4 1 11	4 4 4 1 11
・ 9 5 1 6	・ 13 02 1 6	・ 10 9 9 1 6	・ 8 7 7 1 6	・ 7 7 6 1 24	・ 6 6 6 1 30	・ 5 5 5 1 31	・ 5 5 5 1 30	・ 5 5 5 1 30	・ 4 4 4 1 14	・ 4 4 4 1 11	・ 4 4 4 1 11	・ 4 4 4 1 11
・ 9 5 1 6	・ 13 02 1 6	・ 10 9 9 1 6	・ 8 7 7 1 6	・ 7 7 6 1 24	・ 6 6 6 1 30	・ 5 5 5 1 31	・ 5 5 5 1 30	・ 5 5 5 1 30	・ 4 4 4 1 14	・ 4 4 4 1 11	・ 4 4 4 1 11	・ 4 4 4 1 11

新任式、始業式 第十回入学式（男二一九名、女二五一一名、計四七一名）
 一年オリエンテーション 生徒総会。創立十周年記念事業校内実行委員会
 離任式 一年中間テスト
 二・三年中間テスト
 一年林間学校（長野県茅野市蓼科高原横谷峡）
 二・三年遠足（みなと未来、横浜博覧会）
 P.T.A.総会、学級懇談会
 スポーツテスト（中台陸上競技場）
 陸上関東大会出場壮行会
 一年保護者面談旬間
 リーダー研修
 P.T.A.・職員親善ソフトボール大会
 期末テスト
 球技大会（二年）
 球技大会（三年）
 終業式
 同窓会総会、後援会総会
 始業式。防災講話
 一・二年実力テスト
 第九回黎明祭（テーマ「新発実結」）
 始業式。防災講話
 一・二年実力テスト
 第九回黎明祭（テーマ「新発実結」）
 喜び！感動！—野球応援—
 スポーツ大会
 ミニリーダー研修会 投票



身体計測



入学式を前にして



喜び！感動！—野球応援—

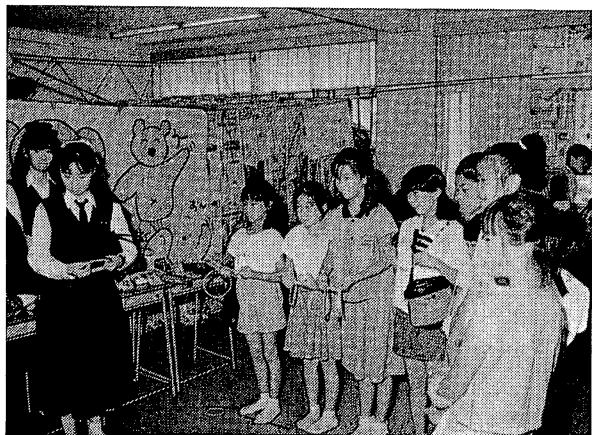


スポーツテスト

沿革—成田北高10年のあゆみ—

平 2 · 3 · 24	平 2 · 3 · 13	平 2 · 3 · 1410	平 2 · 3 · 9	平 2 · 3 · 7	平 2 · 2 · 10	平 2 · 2 · 9	平 2 · 2 · 8	平 2 · 2 · 2723	平 2 · 2 · 22	平 2 · 1 · 1411	平 2 · 1 · 18	平 2 · 1 · 11	平 2 · 1 · 11	平 2 · 1 · 11	平 2 · 1 · 10	平 2 · 1 · 3027	平 2 · 1 · 2624		
終業式	体育倉庫兼部室竣工	期末テスト	期末会	同窓会入会式	第八回卒業式（卒業生三二五名）	平成二年度入学学力検査	第十四回耐寒マラソン大会	三年期終テスト	始業式	スキー教室	期末テスト	学年PTA	芸術鑑賞会（「オペラ・メリーゴーランド」）	二期会「於千葉県文化会館」	映画鑑賞会	防災訓練	P T A 县外研修	生徒総会	一年中間テスト

修学旅行（広島・四国・瀬戸大橋・岡山方面）。中間テスト一・三年
映画鑑賞会
防災訓練
PTA県外研修
生徒総会
芸術鑑賞会（「オペラ・メリーウィード」—
二期会—於千葉県文化会館）



黎明祭

平成二年暮れ、N H K の方から電話をいただく。東洋大学へ毎年応募している短歌の件で、本校を取り材したいとのこと。—東洋大学の主催する「現代学生百人一首」に、短歌を応募し始めてもう四年。今年度の入選百首の中にも、本校生徒の作品から三首が選ばれたと、大学側から連絡を受けたばかりであった。今年度は、一万六千首を越す応募があり、二百首以上の作品を応募してきても、一首も入選しなかった学校もあるというところなので、本校の生徒諸君は、大健闘したといえるだろう。又毎年の頑張りが認められ、今年度は、「学校特別賞」をいただくことにもなった。N H K の取材は三年一月九日に行われ、一月十五日、ニュース番組の中で、放映された。



卒業式

砂時計ひっくり返して三分間逆立ちして見る不思議な世界（二年・石井充衛）／道端のかやつりぐさが揺れている夏が忘れた線香花火（二年・矢吹ゆかり）／教室でノートに書き取る中也の詩彼も見たのか秋の青空（一年・高橋昭憲）

(文責 山根 昌子)

校務分掌の十年

総務部

理解と協力のもとに全体を総轄する

一 誕生の経緯と組織の変遷

学校運営組織・分掌の中に総務部が誕生したのは、昭和六十三年度である。それ以前は本校創立当時より、教務部内の総務・涉外という係で存在していた。本校が発展し、生徒数とともに職員数も増加するなど規模が大きくなるにつれ、教務部内の係も多様化してきた。そこで昭和五十六年度（創立二年目）に進路指導部、昭和五十九年度（創立五年目）に図書部と次々に教務部より独立し、昭和六十三年度（創立九年目）に総務部も独立するに至った。独立してから三年目という若い分掌である。創立九年目にして誕生した経緯は、教務部内の総務係・涉外係の職務内容が、多様化し複雑化したためであり、換言すればそれだけ発展し、充実した職務内容に推移したからである。

総務部内の組織の変遷について述べてみよう。誕生時の昭和六十三年度は、総務・会議・儀式・涉外の四種類の係で、担当職員数五名という組織の構成であった。その後四種類の係名はそのままの形で現在に至っているが、含む職務内容が拡充されてきていることに加え、本校の職員数の増加ということで、それらの任に当たる職員数は、平成元年度に六名、平成二年度に七名と徐々に増えてきている。これらの職員はそれぞれの得意とする分野において、専門的知識・技能・経験を生かし、十全

の力を發揮しているといえよう。

二 握げる目標——平成二年度の目標を箇条書きで示しておく。

1 職員会議等の準備及び記録を確実にする。

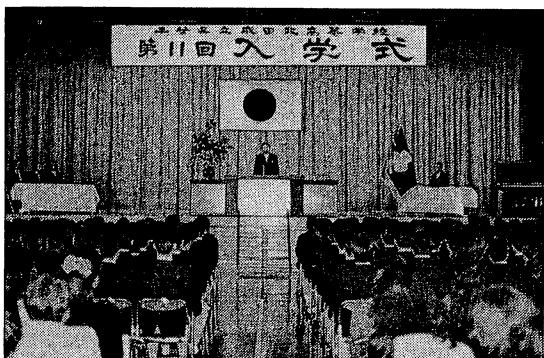
2 入学式・卒業式等の儀式が円滑に運営できるようにする。

3 PTA・同窓会・後援会の事務局としての役割を充実させる。

4 PTA広報委員会の活動の推進をはかる。

5 創立十周年記念事業成就のために充分な力を注ぐ。

以上の五点である。これらはいずれも、次の「各係の職務内容」の中で詳述する総務・会議・儀式・涉外の各係で、平成二年度の目標として適切だと思われることががらをスローガンにあげたものである。特に涉外係はその職務内容が豊富だということもあり、目標の中で多くを占めて



入学式

三 各係の職務内容

部内は総務・会議・儀式・涉外の四種類の係に分かれている。それぞ

れの職務内容について簡潔に記しておく。

1 総務

- ア 総務部全般にわたる企画・立案
- イ 賞状・掲示物等の作成・管理
- ウ 学校行事等の写真撮影による記録

2 会議

- ア 職員会議の準備・記録・配付書類整理
- イ 朝の職員打合せの記録・配付書類整理

3 儀式

- ア 入学式・卒業式の企画・運営
- イ 始業式・終業式・新任式・離任式の進行

4 渉外

- ア P T A 理事会・総会・学年 P T A の企画・運営

- イ 同窓会・後援会の運営
- ウ 学校説明会の運営

- エ 学校要覧の作成

- オ 学校案内（学校 GUI）

- デ 「黎明」の作成

- カ P T A 広報委員会の運営・広報紙「成北」の作成

成

- キ 創立十周年記念誌の作成

会員名簿の作成

沿革一成田北高10年のあゆみ



PTA総会



PTA広報委員会

部内の職員は以上の四種類の係に分かれて、充分にバランスを保ちながら、積極的自主的に活動しており、充分な成果を上げている。なかでも平成元年度末に、総務係の手により、規程集を作成することができたことは記憶に新しい。

四 問題と今後のあり方

まだ歴史の浅い分掌だということから、はたして現在の部内の職務内容が、完全に整理された形になつてゐるのか否かは疑問の余地がある。今後他の分掌から吸収すべき職務内容があるのか、あるいは逆のケースがあるのか。さらに多様化複雑化の傾向が進んだ場合には、部の分割化や新しい分掌の誕生等もあり得るのか。これらはこの先充分考えられる問題であろう。

本校はこれからもひとつひとつ確実に歴史と伝統を築いてゆく。それに伴つてそのときどきにふさわしい学校運営組織・分掌が確立されてゆくことだろう。総務部が今後も充分な活動ができるか否か、その時代に適した職務内容を持てるか否かは、担当職員の努力と他の職員の理解と協力にかかっていると思われる。

平成2年度 総務部主な年間行事

4月	新任式・始業式・入学式・PTA入会式・離任式・PTA理事会
5月	PTA理事会・PTA総会
6月	学校要覧の発行・学校案内（学校GUIDE「黎明」）の発行・PTA広報委員会（2回）・創立10周年記念懇会会員名簿の発行
7月	PTA広報紙「成北」第29号の発行・終業式
8月	懇会総会（10周年記念座談会も含む）・後援会総会
9月	始業式
10月	PTA広報委員会
11月	PTA広報委員会・学年PTA・PTA県外研修会
12月	PTA理事会・PTA広報紙「なりきた」第30号の発行・終業式
1月	始業式・PTA広報委員会
2月	PTA広報委員会・創立10周年記念誌の発行
3月	卒業式・PTA広報紙「なりきた」第31号発行・終業式

（文責 坂元善典）

教務部

一 組織の改編

学校の規模が年々拡大されるにつれ創立時に組織された教務部から、いろいろな部が独立することになった。昭和五十六年には進路指導部が、昭和五十九年には図書部がそれぞれ分かれ、さらに二四学級になつた昭和六十三年には総務部が設立された。

この間、教務部の多岐にわたる業務が整理され、おのおの独立した部に委譲されることになった。平成元年には二七学級になり、八人の教務部員は企画係・時間割係・教科書係・研修係・庶務係・情報処理係を担当することになった。平成二年には三〇学級に増え県内最大の学校規模になった。またこの年には、情報処理機器の多面的な活用と普及を図るためにコンピューター委員会が独立し、発足することになった。このようにして全ての教育活動が機能的に働くよう分割され、組織づけられ、現在の校務分掌組織が築かれてきたのである。ここに教職員全員が協力しやすい、しかも効率的な組織が完成されたのである。

二 教育課程の変遷

昭和五十五年の創立当初の教育課程は、県教育委員会より示されたもので、昭和五十三年に告示された学習指導要領の精神に基づくものであった。つまり、（一）学校の主体性を尊重し、特色のある学校づくりが出来るようになること、（二）生徒の個性や能力に応じた教育が行われるようにすること、（三）ゆとりある充実した学校生活が送れるようにすること、（四）勤労の喜びを体得させるとともに德育と体育を重視すること、の四つの基本方針である。昭和五十七年以降の入学者から実施された教育課程

は、その年度の前後に検討され、当初のものを一部手直しがされたのである。さらに昭和六十年、校長から「生徒数が次第に増加する中で特色ある学校づくりのための本校の教育課程はどうあるべきか」という諮問があつた。これを受けて学習指導委員会を中心に、精力的な協議が重ねられ次のような教育課程の改善がなされた。(一)本校の実情に応じ、生徒ができるだけ多様な教科科目を選択し、履修できるよう編成した。つまり昭和六十三年には芸術科に工芸が加わり芸術が四科目から選択できるようになった。また三学年の選択科目において芸術科目に確立統計、国語表現、英語ⅡAが漸次加わり幅広い選択が可能になった。(二)英語Ⅱは一・三学年にわたり学習していたものを二学年にまとめて履習できるようにして、学習効果が十分あがるように履習の仕方を変えた。

三 基礎学力の充実

学習指導においては指導の内容と方法に創意工夫を加え「わかりやすい授業」を実践し、学力の向上を図ってきた。教科の特性から英語と数学については、学力に応じた学習指導ができるように習熟度別学習指導を実施してきた。クラス分けの資料として学力検査成績、夏季休業後の課題テスト、定期テスト結果が利用された。評価にも工夫を加え習熟度別学習指導の成果をあげマスコミ等に取り上げられ、本校の特色ある学校づくりとして紹介された。しかし生徒の学力向上にともない習熟度別学習の意義が薄れたことや生徒数の急増により実施上の問題点が提起され、昭和六十一年に数学で、六十二年に英語でのこの制度は廃止された。また從来行われていた長期休業後の課題テストも廃止され、代わって基礎学力の向上策として校外テストを実施し、全国・県レベルでの客観的な学習評価資料を得ることにより、学習進度の充実を図った。また国語、数学の基礎力を養い、自主的な学習習慣を身につけるために

常用漢字テスト、英語単語テストを学年ごとに実施してきた。こうした方策と「わかりやすい授業」の実践が、一・二年の基礎学力を養うことになり生徒一人一人の能力と適性が伸ばされ、多様な進路を実現できる基盤になつたと考えられる。基礎学力を向上させるための「わかりやすい授業」に向け次のような実践をしている。(一)年間授業時間数を学期ごとに明確にし三五週を欠けることのないよう行事計画の立案を工夫している。(二)成績評価の事例研究を通し、単位の修得や進級、卒業の認定についての不合理な規定を改善している。(三)生徒の側にたつた時間割を編成するように工夫している。(四)学期ごとの成績評価に基づいて、生徒の学習実態を把握し、それに対応する授業計画を研究している。

四 特別教育活動の改善

知識偏重と個性の喪失に陥らないよう特に特別教育活動を充実するよう、教育課程の編成に創意工夫をしてきた。(一)昭和六十三年には一、二年は各種の必修クラブを履習し、縦割のもとに楽しい憩いの場として好ましい人間関係が育てられてきた。三年は「進路クラブ」を全員が履習し、生徒自らが進路の選択や社会に適応する能力や態度を身につけた。二年から、一、二学年の必修クラブは増設された多くの部、同好会活動に連動されることになり、部の活性化が促され、部活動の目覚しい成果を上げるようになってきたのである。またLHRと学校裁量時間とを結びつけることにより、ゆとりあるなかに学年、生徒会などの各種の教育活動や勤労に係わる体験的な学習が実施され充実した学校生活が送れるようになってきたのである。

五 学校行事の精選

創立以来、学校行事は儀式的行事、学芸的行事、体育的行事、旅行的行事、勤労的行事など多彩なものが年間行事に計画され実施されてき

た。これらの学校行事は全校または学年単位に実施され、集団への所属感を深め、学校生活に変化をあたえ、豊かなものに変える大切な役割を果してきた。ところが年々学校行事が増加する傾向にあり、授業時間数との関わりで行事の精選が必要ではないのかという声が聞かれるようになつた。そこで各行事の企画担当部が中心となり統廃合を含む行事の見直しを実施した。その結果は次のとおりである。(1)全校の春の遠足を二、三学年だけにし、一年生は林間学校に一本化し、同じ領域の学校行事がだぶらないようにした。(2)保護者の教育に関する関心が高く、しかも学校に対する要望や意見が多いので保護者との面談期間を延長し、十分懇談ができるようにした。しかし授業時数はなるべく欠かないよう特別教育活動の時間や学校裁量時間を活用するよう配慮した。(3)定期試験後の日課を充実させるため、全校で実施していた生徒会主催の球技大会を学年別に日程をずらした。これにより施設設備が十分活用できるようになり生徒の安全性と参加意欲が増してきた。この期間中、答案指導や学年集会など他の教育活動との連携をはかるように配慮している。

六 今後の課題

平成元年三月に告示された新学習指導要領には国際社会に対応する「世界の中の日本人」の育成が掲げられている。国際空港都市の中にあられる本校は、二一世紀に向けた教育目標として、国際理解教育が重要課題になると思われる。現在、この課題に関する取り組みには次のようなものがある。(1)法改正による留学の制度を校則に追加し、休学や退学をすることなく、外国の高等学校で学習することができるようになった。(2)ロータリークラブの交換留学制度により本校生徒が海外留学をし、また外国の高校生を受け入れており、日常的に異文化の交流の場が設けられている。(3)語学指導をする外国青年(A.E.T.)の地区の拠点校として英語

教育センター的役割を担っている。(4)高校生の海外派遣事業に参加し、東南アジア諸国の研修を深めている。(5)帰国子女の受け入れ体制を整え異文化の理解教育を行つてある。

本校の教育目標を達成するための教育プログラム作りには何よりも教職員の共通理解を得ること、そして協力体制を築くことが大切である。それには担任実務研修、初任者・経験者研修、新任職員研修等の今までの研修実績を新教育課程の編成に生かし、明日を見据えた校内研修に発展させる必要があると思われる。

(文責 赤井 正男)

生徒指導部

生徒指導部の活動と現在までの経緯

本校創立に向けての準備委員会で、どのような生徒を育てるかが話し合われた際、決定された方針は、教養ある社会人を育てようというものであった。「教養ある社会人」とは、「基礎学力を有し、高校生としての立場をわきまえ、善悪の判断力を備え、ルールを守り、マナーが身についている人間」と定義され、これらを具備した、どの職場でも好かれる人間をつくることが本校教育の目標となつた。

ところで、いきなり「伝統校なみ」と望んでも無理なので、何よりも先ず、地域に信頼される学校づくりをすることから始めた。初代の伊藤指導部長はそのために完璧とも言うべき生徒指導基準をつくられた。そしてそれは、今日に至るまで北高の生徒指導の基本的なレールとなっている。伊藤先生の生徒指導の根本理念は「生徒を生かす」ということであつた。当時は全県的に高校中退者が異常に増え始めた時期であり、

新設高校としては警戒を要したのであるが、厳しいながらも愛情ある、きめの細かい指導をされて、生徒を生かす指導に邁進されたのである。

創立時に最も力を注いだのは、「三ない運動」と服装指導の徹底である。この方針は今日に至るまで堅持されている。この一〇年間で起きたバイクの事故は、五十九年十月（四〇〇cc）と六十三年十一月（五〇cc）の二件だけで、入院したのは後者の一件だけである。死亡者も出ていない。今後とも、この「死亡者ゼロ行進」は続けられなければならない。

また免許は取らせなかつたものの、第一期生が三年生になつた昭和五十八年の二月に、普通免許を取るために教習所に行くことを許可し、通学範囲を考慮して成田自動車教習所と北総自動車学校を指定することとした。これは学校教育との調和の取れた教習をするために、教習所側にも協力を求めるためであった。翌年は十二月の期末考査が終つた日から教習所に行くことを許可した。これは近隣の普通高校では珍しかつた。更に五十九年度からは両教習所で「入所式」をやつてもらうこととし、それは今日まで続けられている。「三ない運動」を守らせる一方で免許を取りやすくする配慮もしたのである。

服装指導は学校の枠づくりをする上で最も重要なもののひとつであろう。制服制度を採つて以来は、きちんと制服を着せることが肝要である。創立当初から、始業式、全校集会、登下校時、終業式前等頻繁に服装・頭髪検査を行つた。しかし、六十三年度（二四学級）には六月の全校集会を、元年度（二七学級）には秋の全校集会をなくし、元年度には指導部の職員のみによる不定期の登校時指導に切り変えるといったよう、服装指導の回数を減らしていった。学級数が増えていったにもかかわらず指導回数を減らしていった。年を追う毎に生徒は手がかからなくなつていった。しかし、六十一年度から顕著になつてきた変形ズボン

のような例もあり、部分的には気を許せないものもあつた。また再検査指導は実のある服装指導を実施する上で欠かせないものである。再検査が続き「再々々検査」などをやつているうちに、次の服装指導に入った時期もあった。しかし、この水も漏らさぬ再検態勢が北高の今日をつくり上げてきたと言つても過言ではない。

本来学校は明るく楽しいところでなければならぬ。規制は少ないに越したことはない。そのような学校を目指し、少しづつ規制を緩和してきた。創立当初から禁止していたドロップ・ハンドルの自転車を六十一年度から、女子が肩から下の髪の毛を結わえることは六十二年度から、それぞれ事実上禁止しないことにした。元年度（一〇年目）からは、女子の開襟シャツと黒のストッキングの着用（十～三月）を認めることにした。黒のストッキングの着用は前年度の生徒会のアンケートの結果に応えたものである。規制緩和の中で最大のものは、やはり六十三年度（九年目）から実施した長期休業中のアルバイトの解禁であろう。それまでの八年間は学業専念の趣旨からアルバイトは禁止していた。ただ経済的な事情でどうしてもアルバイトをしなければならない生徒のみ特別許可をしていた。しかしそれも長期休業中のみで、就業時間は午後六時までとなつていて。五十九年度からは、長期休業中以外も特別許可をすることにし、就業時間も午後八時までに事実上延長した。またこの年から特別許可証をカードにした。三年生については五十九年度から家庭学習期間中のアルバイトを特別に許可することにした。五十九年度から元年度に至る六年間の家庭学習期間中のアルバイトをした生徒の平均の割合は、男子が七・五%，女子が一九・六%，計一三・一%である。多い年でも二割を越えることはなかつた。長期休業中のアルバイトを許可するようになつて、果してどの位の生徒がアルバイトをしたかを見ると、

夏休みについては、六十三年度は一・二%、元年度は一・四%、冬休みについては、六十三年度は一五・一%、元年度は一七・一%となつており、冬休みがやや多くなつてゐるもの、全体としてはまあまあの数と言えるのではなかろうか。

さて問題行動を重ね、退学寸前までいつてしまつた生徒をどう指導していくかは大切な問題である。問題行動を重ねたとしても、長い一生から見ればやはり「一時の迷い」に過ぎない。従つて退学だけは絶対に早まらせではない。また退学させないという方針は教育の大義であるはずである。本校はその教育の大義を割り引かずに追求してきた。出来るだけ時間をかけて指導し、生徒の努力の跡がはつきりした場合、退学の条件を緩和することにしたのである（六十年一月十四日）。その結果、六十年度には五名の生徒が、指導後の努力の跡が認められて卒業していった。その後も退学者は殆ど出でていない。敢えて言えば、本校の生徒が明るいのは、ひとつに「学校はわたしたちを見捨てない」との学校に対する強い信頼感があるからではないだろうか。それが生徒の心をなごませているのではないかと思つてゐる。

また、生徒の喫煙を防ぐため、六十年度に『タバコの教科書』を一〇冊購入し、「急がば回れ」との考え方で、各教室に配布し、喫煙の害を知らしめることに力を入れてきた。図書室にも集団図書用として五〇冊備えた。喫煙をした生徒の指導にもこの『教科書』を使い、独自のテストも受けさせて、タバコの害を深く知らしめてきた。このテストは三〇題の問題の九割以上が出来ないと不合格（すなわち「反省が悪い」とする〇×式の問題である。また、タバコの害を扱つたかなり衝撃的なNHKのビデオも使つてきだ。

高校生に相応しい男女交際の在り方を考えさせることにも力を注いで

きた。行き過ぎた交際は、特に女性を心身共に傷つけることを全校集会で強調してきた。生命の尊さを考えさせるため、また遠巻きに中絶の恐ろしさを知らせるために、六十年度から元年度までに、二年に一度、計三回「母と子の糸」という映画を上映してきた。

今日の交通安全指導の中で、自転車の走行指導は年々重要性を増していると思われる。生徒の意識を高めることを目的として、六十一年度の十月一日より「自転車通学許可証」を携行させることにした。さらに、登下校時の交通安全指導も、不定期ではあるが、指導部の職員のみならず、全職員の協力体制の中で実施されることもあつた。殊に六十三年度以後の学級増により自転車通学者も増え、重要視されるものである。

PTAの校外指導も創立当初からなされていた。祇園の祭りや宗吾御待夜祭での夜の巡回指導と、秋と冬の市内巡回の二回に渡る校外指導をしていただいた。六十三年度からは、「母親の目で息子たちの校外生活を見たい」と、母親も指導委員に加わって下さるようになった。

また夏休みの全校登校日（八月二十一日）について六十二年度に検討した結果、「もはや廃止しても生徒指導上問題がないだろう」ということで、羽生校長の勇断で六十三年度の夏休みから廃止することになった。

さて、生徒指導の立場からこの十年間を振り返つてみたが、その歩みは、学校の将来像を描き、そこに到達するために、いまどのような生徒指導をすべきかという姿勢を根本に置いてなされてきたものである。その「将来像」とは「総合的な学校」である。いわゆる「進学校」と呼ばれるようなものではなく、多様な生徒の多様な能力が引き出されるような学校である。そのためには「学校らしい学校」でなければならない。それはひとりひとりの生徒が大事にされ、常識的で均衡の取れた規則がきちんと守られ、生徒の学習意欲が満たされるところだらうと思う。こ

は、もちろん人によつて違うだらうが、本校の熱心な先生方のきめの細かい指導によつて、そして第一期生以来のそれに応えた多くの素晴らしい生徒たちによつて、更に労を惜しまず協力して下さった保護者の皆様によつて、かなりの程度まで目標が達成されたのではないかと思う。

(文責 小松 栄三郎)

進路指導部

一生徒の進路状況

創立から十年間の入学時の進路希望は、資料(1)のようになり、特に七年目からは進学希望者が六〇%以上になつてゐる。しかしこの間、生徒の進路意識はほとんど変わらず、中学の延長的な考え方の生徒が多い。性格的に温和であり、学習意欲に乏しい生徒が多くみられる。

一年次から日常の学習を積み重ねずに進級し、その結果、力不足のため進路の変更をせざるを得なくなり、進学希望から資料(2)のように、就職又は専門学校に変わるもの少なくない。

二 進路指導の現状

創立時より数年間は、部にとつて準備・体制造り・生徒の指導と大変な期間であった。その後は指導方法・部内組織等の検討を進め、また資料の整備と設備の充実を計り、どうにか他校以上の進路指導に達したのではないかと思う。

進路指導は、いさまでなく、個々の生徒が自分の適性能力に応じた進路設計をし、進路決定を行い自己実現をはかるための援助活動である。人間としての「生き方」指導でなければならない。生徒一人一人をみつ

めた指導でなければならない。一人一人に将来の目標を持たせ、その実現のために努力させる援助活動でなければならない。以上のような基本的考え方方にたって、三年生になつてからの進路指導ではなく、一年次からの進路指導を行つてゐる。各学年毎に左記の指導目標を設定し、目標達成に取り組んでいる。

△一学年△　自己理解を深めて将来への希望を明確にし、進路意識の高揚をはかる。

△二学年△　職業や上級学校について研究し、進路選択に必要な能力を養う。

△三学年△　進路の選択・決定を行い、将来の生活に適応する能力

入学時の進路希望状況

資料(1)

年度別	進路別		大 学	短 大	専門・各種	就 職	家業・家事	未 定	生 徒 数
	%	%	%	%	%	%	%	%	人
昭和55年度	31.7	13.4	25.9	19.4	2.7	5.9			186
58年度	28.4	14.8	27.7	17.3	0.4	11.4			271
61年度	45.6	18.1	19.1	8.8	0.3	8.1			320
平成元年度	46.4	22.9	14.4	7.0	0.4	6.8			472

3年次の進路希望状況

資料(2)

年度別	進路別	大 学	短 大	専門・各種	就 職	家業・家事	未 定	生 徒 数				
昭和57年度	%	25.0	%	8.0	%	35.0	%	28.0	%	3.0	0.0	人
60年度		15.5		12.5		29.1		33.6		0.4	9.1	
63年度		32.0		19.9		26.1		20.2		1.2	0.6	

L H R進路學習年間計画表

() 内は配当時間

資料(3)

月	1 学 年	2 学 年	3 学 年
4		進路適性検査（進路部） (2)	
5		産業・職業について調べよう (1~2)	進路別一斉指導 (進路部) (1) 公務員受験説明会 (進路部) (1)
6	将来の進路について考え方 ・将来の夢と希望 (1~2)	上級学校について調べよう ・大学、短大、専修の内容と特色 ・学部学科の種類と内容 (2)	就職先の決定をしよう (2~3) 就職希望者一斉指導 (進路部) (1)
7	自分について知ろう ・自己理解の必要 ・自己の特性と自己実現 (2)		就職の準備をしよう (2) 面接一斉指導（進路部） (1)
9	進路計画をたてよう ・進路と学習 (2)	先輩の進路について考え方 (1)	進学一斉指導（進路部） (1) 受験校を決定しよう (2)
10			進学の準備をしよう (2)
11	職業について考え方 ・職業の種類と内容 ・職業の目的と位置 (1~2)	適性と進路について知ろう (1~2)	
1			将来の生活における自己実現の 心構えをつくろう ・職業人になる心構え ・大学生活と将来の生活 (1~2)
2	進路計画を検討しよう (1)	進路計画を再検討しよう (2)	

と心構えを養う。

本校の進路指導は、担任による個別指導とL H Rによる進路學習を柱として、進路設計を進め、発達段階に応じた學習を進めながら目標達成のための努力をさせていく。部は、進路別説明会、進路相談、各種の模試、適性検査、受験指導、資料の提供等を行い、担任及び生徒を援助していく本来の活動を行っている。進路學習に関しては、生徒の実態を考えこれを重視し、「L H R進路學習年間計画表」(資料(3))を作成、またこれに必要な各種ビデオその他の資料を整備し、その提供を行ってきた。

個々の生徒の進路を実現するうえで、特に進学には学力の問題がある。

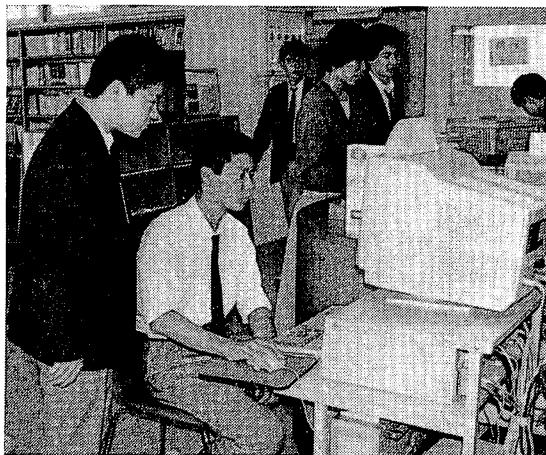
ある学年の調査によると家庭學習ゼロの生徒も少なきない現状である。学校をあげて自ら學習する習慣を確立させるための一層の努力が必要である。部としては、各教科・各学年の協力のもとに、年間を通しての補習及び夏季補習を実施し、学力向上対策として取り組んでいる。

いずれにしても、「自分の希望進路が実現し、成田北高に入つてよかつた」といえるよう、一人一人の生徒のために全力をあげて、今後も指導にあたりたい。

(文責 鬼沢 三郎)

図書部

図書部の十年



コンピューターを使う生徒

開校した初年度（昭和五十五年）の図書館は、普通教室の一室が充てられ、二年目に教室棟と管理棟をつなぐ中央廊下に面して図書館が完成した。当初、職員数の関係もあり図書部は分掌上独立しておらず教務部の中に図書係として位置づけられていた。仕事の内容も、蔵書の管理を中心としてスチール書架に分類装備された本をならべ、ときどき訪れる生徒への貸出のみであったという。三年目からカード目録の整備を始め本格的な学校図書館の利用体制の整備に入った。同時に、成田市立図書館との図書館ネットワーク構想が進められた。初代岩上校長の了承を得て、公衆回線による、コンピュータオンライン情報検索システムの準備が進められた。その後、校内での状況もあり、これらの研究は一次中断し、図書館資料の整備に重点が移された。五年目にして漸く独立した分掌としての図書部が設置された。

図書部という名称について、当初「文化部」・「図書館部」などいろいろの名称が考案されたが、一般的な「図書部」におちついた。図書部の独立にともない、部の基本理念・学校における役割・仕事内容などを設定。同時に、本校の教育方針の特色となることを期待し、校長を委員長とする学校図書館運営委員会が設置された。この委員会は、校長・教頭・事務長・教務主任・生徒指導部長・各教科主任・図書部職員で構成され、教育課程を援助する学校図書館のあらゆる活動の内容、問題点を検討する場となっている。昭和六十一年度よりコンピュータを導入。平成元年度には、県教育委員会のすすめる「特色ある学校づくり」の研究指定を受けてパソコン七台による書誌情報検索システムを完成。図書館内の四台のコンピュータが、パソコンLAN（ローカル・エリア・ネットワーク）で結合されており、貸出・返却用を始め開放端末による資料検索が自由に行えるようになっている。また、国語科・社会科・理科の各職員室に、図書館と共にデータを内蔵したコンピューター式が設置され、蔵書の検索・授業資料作成等に利用されている。現在のシステムは、全国的にみても最も進んだ情報検索システムとして、県内はもとより、北は青森県から南は大阪の高等学校からも見学が相次ぎ、将来の学校図書館のあるべき姿として各方面から注目を集めている。

昭和六十三年度から、千高教研学校図書館部会の事務局を引き受け、さらに、平成二年度からは、本校の羽生校長が千高教研学校図書館部会長に就任し、県内の図書館運動の中心として活動が続けられている。現在、図書館の蔵書数一万二千冊、スタッフは九名である。

開校当初から実施している読書感想文、芸術鑑賞会。昭和六十二年度から実施された読書感想画コンクールなど、図書館行事もさまざまな分野にわたって活動を続けていている。これらについては、項目を設けて詳述する。

（文責 尾形 肇・大木 実）

保健厚生部

本校保健厚生部の仕事は四つに大別される。

一、保健係

生徒の健康・安全についての管理・運営全般

二、教育相談係

学校不適応生徒のカウンセリング・専門機関への紹介・職員校内研修の運営

三、育英・厚生係

各種奨学生推薦事務及び職員の福利厚生に関する仕事

四、購買係

生徒の福利を目的とする物品その他の購買及び斡旋と運営

創立の昭和五十五年度は、四学級のため養護教諭の配置がなく、次年

度の五十六年より養護教諭が配置された。保健室の利用状況は、疾病処置簿からみると、生徒数の増加と共に増えて来たが、三〇学級になつてからの利用数は毎年同数くらいである。特に自転車通学が多い関係から

近年は登校の際の自転車転倒等が増えている。又疾病等には関係のない生徒が訪れて、心の悩みを相談して帰る生徒が多くみられる。来室の理由が単なる疾病だけではなく複雑になっている。

平成元年度年間計画

四月 身体計測・尿検査・胸部X線・心臓検診・職員胃部検診

五月 貧血検査・内科検診・尿検査

六月 眼科検診・歯科検診・耳鼻科検診

七月 定期健康診断案内

九月 夏季休業中の健康調査

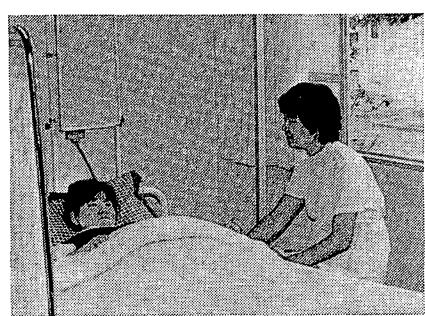
十月 修学旅行前健康調査

十一月 献血（希望者）

十二月 マラソン大会前健康調査

また、保健委員会では、平成元年度千葉県高等学校生徒保健研究発表大会で、「便秘について」を発表して優秀賞を受けた。

教育相談については、教育相談の係としての具体的系統的な活動には至っていないが、該当生徒が出た場合、従来通りに担任、学年主任段階で、面接・家庭訪問等をして対処しており、また、心の健康管理（悩み事相談）に関しては、保健室を訪れた生徒に対して、養護教諭が親身になって話し相手をしている。



問診風景

また、職員の教育相談研修会を六十二年には講師として、千葉県精神衛生センター相談課長、長野愛子先生、相談指導課次席、小松博子先生をお招きし「最近における高校生の諸問題とその指導法」について講演していただいた。六十三年には講師として県総合教育センターの大木みわ先生をお招きし、「ロールプレーイング」について指導していただき、平成元年度には教育相談研修会に参加された齊藤昌子教諭の報告会を実施した。

また、職員を対象に救急法講習会を、講師として、成田高等学校養護教諭の近藤克子先生を迎え、「人工呼吸法」等の講習を行った。

（文責 小早志 剛志）

管 理 部

沿革一成田北高10年のあゆみー

本校は、開校間近の昭和五十五年三月二十九日に、第一期普通教室棟の竣工を見たが、引き続いて翌年七月二十三日には、第二期体育館・格技場が、八月六日には第二期管理・特別教室棟が完成し、半年後の昭和五十七年一月五日に第三期管理・特別教室棟が完成して、本校は一気に三十学級規模の施設を整えたのである。普通教室棟だけであった初年度はともかく、二年度後半からは学年四学級規模の生徒で、校舎・施設の管理と美化にあたらなければならなかつた。したがつて、十学級規模になる昭和六十三年度まで、日常の清掃活動は、帰りの S H R の前に全校生徒で取り組んだのである。そして、月に一回は大掃除を設定し、特に学期末には教室のワックス掛けを徹底していく。また、一・二学期に各一回と、夏休みの登校日などを活用して、除草作業にもとり組んだが、グランドの整備も手のぬけない作業であつた。

管理部の努力目標としては、校舎内外の清掃・美化、施設・設備の保全、防災体制の確立と防災訓練に加えて、開校当初には校庭の緑化を推進することが大きな課題であった。管理部の中に緑化係を置き、校長を先頭に職員・生徒が、不斷に花と緑を増やす努力を続けた。校舎竣工記念にメタセコイアを植えたり、卒業記念に楓の木を贈つてくれたり、学校全体で緑化に心がけた。開校年度の秋には、久住地区の保護者の方々が、ツゲ一〇一本を寄贈して下さり、学校生活に大きなるおいがもたらされたのである。

本校の防災訓練は、一学期末に全校の避難訓練と一年生の救助袋の実地訓練、九月一日に防災講話、二学期末に全校の避難訓練と消火器の実

地訓練が行われた。

開校当初は四学級規模であつたため、職員数・生徒数ともに、校舎外の清掃・美化の徹底に不足であつた。特に監督指導の徹底を期すためには、三十学級が充足された本年度でも、職員数は不足がちである。それとは裏腹に、学年規模が六学級・七学級と拡大するにつれて、清掃にあたる生徒数が多過ぎるという問題が現われた。担当する清掃箇所に必要な以上の人員が配置されるために、手持ち不浄でぶらぶらしてしまう生徒が増えていたのである。『さぼり』を黙認せざるを得ない状況と、手持ち不浄の生徒が清掃の『邪魔』になるという状況が生まれ、ついに、一〇学級規模になる昭和六十三年度から、全員制から当番制に切り替えた。日課も、帰りの S H R の前に清掃していたのを、S H R 後に変更した。当番をすっぽかして帰ってしまう生徒が出ることを大変心配したが、そうした問題は心配したほどのことはなかつた。かえつて、監督の職員と生徒との関係が密になり、相互理解と信頼を深める機会となつたり、生徒の自主性や責任感を育くむ場として役立つたりしている。またこの年には除草作業への取り組み方も変え、グランドをその都度クラスごとに分担していたやり方をやめて、校舎周辺の庭や植込みを各クラスが年間を通して責任を持ち、特に大掃除の際には、当番にあたつていよいよ生徒全員が除草にあたることにした。

防災訓練の計画と実施についても手直しをした。三〇学級規模では生徒数が多くて、訓練の実が上がらないため、九月一日の防災講話と二学期の総合訓練の一一本立てとし、その充実を図ることとした。特に二学期の総合訓練では、全員の避難訓練のあと、一年生の救助袋の実地訓練、二年生の消火器の実地訓練、三年生の防災映画の鑑賞・講話を実施している。

日常の啓蒙活動として、昭和六十三年度から、清掃・美化・防災を柱に、「管理部だより」を年間五回程度発行し始めた。

本校の生徒は、故意に学校の施設や備品を壊すようなことはほとんどしない。悪質な落書きなどもほとんど見られない。清掃当番をさばる生徒も非常に少ない。しかし、最近の高校生全般に共通して見られる現象だが、指示されたことはきちんとやるが、それ以上のことを進んでやる生徒（やれる生徒）はきわめて稀である。清掃も、「四角いところを丸く掃いて」納得してしまうし、見えない所や自分の担当区域以外にはなかなか気が向かない。このような状況からの脱却をめざして、今、管理部・美化委員会ともども、学校生活に生徒自らが責任を負い、自主的にとりくむ姿勢を確立する努力を始めている。

（文責 手島 和史）

事務部

学校施設・設備の整備状況について

昭和五十五年開校してから十年を経過し、平成二年度には三十学級の大規模校となり、開校当時の四学級、普通教室棟のみの施設から出発した事を思えば隔世の感がある。

開校三年目までに、ほとんどの主要建物・グランド・校門・前庭の整備が完了し、徐々に学級増に対応しての附帯施設の整備の方面に力が入れられた。

体育倉庫兼部室は、昭和六十年度に一棟、平成元年度に一棟が完成して、二〇部室となり、ほとんどの運動部系の部室の使用が可能になつたのである。

体育館一階部分のピロティについても、昭和六十二年度に改修工事が完成し、体育の授業や学校行事において有効に活用されるようになった。

本校は、自転車通学者の数が多く、自転車置場を開校当初より毎年のように新設していくが、まだ不足の状況が続いているおり、増設を考えなければならぬ状況が当分続きそうである。

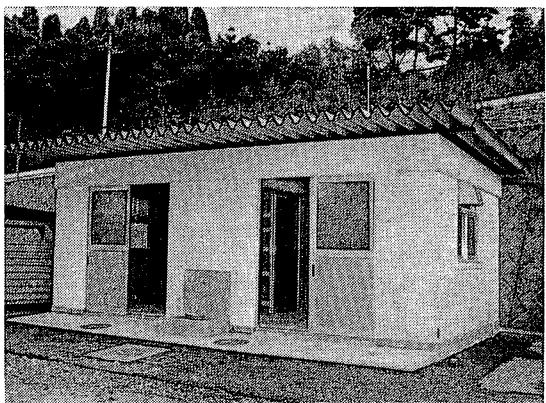
生徒数の急増によるゴミ処理の問題も大きな悩みで、焼却炉一基では不足の状況となり平成元年度末にも一基新設した。

また、三十学級となつた平成二年度には、芸術科の附帯施設としての工芸用窯場が必要となり、二学期末に完成した。

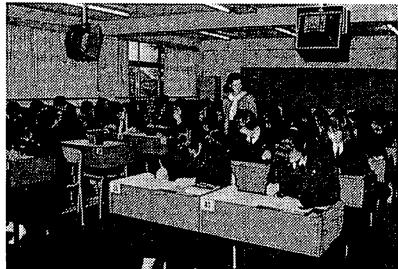
グランド整備については、水田と沼地であった場所を埋め立てて造成したため、地盤沈下が心配され、なかなか本格的整備ができない状況だったが、昭和五十八年地盤沈下の補修をし、昭和六十三年には、防球ネット工事が完成している。そして現在は、沈下が収まったように見え、本格的な整備が待ち望まれるところである。

校舎内等の設備の整備状況については、建築と同時進行で進められ、実験台、調理台等建物使用開始と同時に使用できる状況であった。

L・L教室の語学演習装置は、昭和六十年一月に完了して英語教育に大



工芸窯場の完成（平成2年10月）



L L 教室での授業風景

変役立っている。

徐々に学級増となり、空き教室もなくなってきた現在、情報教育の振興という面でのコンピュータ室及び文化部活動の出来る部室等、少ない施設をいかに有効に活用するかが今後の大きな課題だと思う。

(文責 大又 一雄)

必修クラブの効果的な運営方法、学校裁量時間の活用、各種学校行事の見直し、(三)平成元年度には体験を重視したスキー修学旅行、創立一〇周年記念事業計画、(四)平成二年には創立一〇周年記念事業計画の実施に向け、それぞれ協議した。

二 学習指導委員会

学習指導委員会は、学習指導に関する専門的な委員会であり、教務主任、進路指導主任、各教科主任等から構成され、学校の学習指導上の意志を決定する重要な機関である。また教育課程検討委員会の役割も担っている。教務部、各学年、各教科等から提案される学習に関する事項について研究協議をしている。その主なものには次のようなものがある。

(一)創立当初から五年間は、教育課程の改善、習熟度別学習指導、成績評価の方法、課題テストなどについて協議した。(二)昭和六十年度には各種の学校行事、特別教育活動、学校裁量時間について見直し精選した。また海外で留学する場合の内規を整えた。(三)平成二年には教科の特性を生かした時間割編成、内規に基づく成績評価の実践例の研究、新教育課程の研修、このように学習指導委員会は、現行の「ゆとりと充実」を掲げた学習指導要領に即し地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成する先導的な役割をなしている。また指導の過程や成果について適切な評価を行い、つねに学習効果があがるように指導計画の改善に工夫を加えているのである。教育課程の完全実施に向けた教育活動が、本校の特色ある学校づくりとして定着し、着実にその成果をあげているところである。

三 学年主任会

学校における教育の成果は各部の校務を遂行することと、各学年の円滑な運営によるところが大きい。学校教育に即した学年の目標をたてる

学年行事やLHRを企画するなど、学年を運営していくうえで各分掌、教科、学年との連携を深めることが何よりも大切である。そのため平成二年度に新設された組織である。構成メンバーは教務主任、生徒指導主任、学年主任よりなる。今までの協議題には次のようなものがある。
（一）「林間学校」「修学旅行」「テーブル・マナー」等の学年行事の企画、
（二）学期はじめと学期末の行事調整、（三）来年度一、三学年の教育課程の実施に向けた取り組み、（四）LHRの計画と調整、（五）学年会議の調整、（六）学年会計の執行と報告等。学年主任会はまだ緒についたばかりではあるが各学年の円滑な運営に効果があがりつつある。

四 その他の特別委員会

その他に「生徒指導委員会」「同和教育研究委員会」「体力向上委員会」「図書館運営委員会」「創立一〇周年記念事業委員会」「コンピュータ委員会」があり、それぞれの領域に関する専門的な研究協議を担当し、職員会議の諮問機関としての重要な役割をになつて いるのである。ここでは関連するところとの重複を避け記述を省く。

（文責 赤井 正男）

生徒会活動十年

生徒会

本校生徒会活動は、昭和五十五年四月に発足した生徒会設立準備委員会の活動に始まる。この委員会は生徒会組織と部活動組織の二班に分かれ、生徒会則作成と部創設に当たった。そして七月に第一回目の生徒総会となつた生徒会設立総会が開かれ、本校生徒会則及び選挙管理規則が制定された。こうして同月初めての生徒会役員選挙が行われ、第一期生徒会が誕生した。

第一期生徒会の任期は昭和五十五年七月から翌五十六年九月までと長く、この間に、球技大会、リーダー研修会、スポーツ大会、文化祭等の行事が行われ、本校生徒会活動の礎が築かれた。特に文化祭を昭和五十六年一月に文化月間という形で開催し、これを継承発展させて九月に黎明祭として実らせた功績は大きい。

この間、部活動は、初年度に吹奏楽、写真、科学、サッカー、柔道、剣道、卓球、テニス、バレーボール、野球、陸上の各部、それにゴルフ同好会が設立され、次年度には英会話、美術、電気、書道、バスケットボールの各部が設立され、ゴルフ同好会も部に昇格している。

昭和五十六年十月、第二期生徒会が誕生する。生徒会員の生徒会活動への今まで以上の積極的参加が活動方針として掲げられ、生徒会活動の一層の充実がはかられた。昭和五十七年五月の生徒総会では初めて三学年がそろって活発な討議がなされ、六月には初めての映画会が企画され

て「クレイマー・クレイマー」が上映された。また、八月のリーダー研修会は佐倉市草ぶえの丘で、一泊二日で行われ、文化祭の話し合いやゲーム学習、キャンプファイア等の研修に参加者は熱心に取り組んだ。草ぶえの丘でのリーダー研修会は、その後平成元年度まで八年間続くことになる。

昭和五十七年十一月には第三期生徒会が発足した。生徒会活動への全員参加が目標として掲げられ、アンケート調査の実施や投書箱の設置、教頭先生を囲む会等をとおして、生徒の意見となるべく多くの生徒会活動に反映させる努力が重ねられた。また、生徒会の広報活動も強化され、昭和五十八年一月には生徒会機関紙の発行等を担当する編集委員会が創設され、三月には、新旧の生徒会役員の手により、創立以来の生徒会活動の記録をまとめた手刷りの生徒会誌「北星第一巻」も作成された。昭和五十八年二月には、初めての卒業生を送り出す第一回予餞会が行われた。吹奏楽部や軽音楽同好会の演奏、剣道部の歌や有志の大喜利、職員劇と盛り上がった。特に生徒会顧問としても活躍された富山教諭作・演出の職員劇「にぎり飯のうた」は大好評で、富山教諭作の職員劇は本校予餞会の名物となつた。

昭和五十八年十月に発足した第四期生徒会のもとでは、念願となつていた黎明祭の一般公開（昭和五十九年九月）が実現した。実現までには、生徒会役員、文化祭実行委員を中心に多くの議論と準備が積み重ねられてきたことを、特に付け加えておきたい。また、校内の美化運動にも力を入れ、牛乳パック対策委員会を組織して、牛乳パックの回収と校

内美化のアピール活動を進めて成果をあげた。

昭和五十九年十月に発足した第五期生徒会は、生徒とルーム長、生徒会のコミュニケーションを深めることと、委員会活動の活発化を活動方針に掲げるとともに、生徒会行事の活性化に努力した。黎明祭の恒例となつた全校生徒参加のクイズ大会を初めて企画したのもその一つである。

昭和六十年十月に発足した第六期生徒会は、生徒会活動に皆が参加できる場を設ける、生徒会本部と委員会やクラスの結びつきをより充実させる、という二点を活動方針として生徒会の発展、充実を目指した。そのためのステップとして、第二巻で中断していた生徒会誌「北星」を、内容も一新して編集、発行する企画が立てられた。そして、第五期、第六期の生徒会役員を中心に「北星編集委員会」が新たに組織され、編集方針、内容についての議論を重ねたうえ、昭和六十一年三月、活字印刷による「北星」第一号が復刊した。

昭和六十一年十月に発足した第七期生徒会は、各行事に生徒一人ひとりが積極的に参加できるような雰囲気づくり等を活動方針に掲げ、親しみやすい生徒会をモットーに行事に工夫や改善を重ねた。

昭和六十二年十月に発足した第八期生徒会は、「生徒の生徒による生徒のための生徒会」をスローガンに、全校生徒とのつながりを強くする、生徒の意見を取り入れる、の二点を活動方針とした。昭和六十三年五月の生徒総会では、予算案をめぐって活発な質疑が行われた。六月の映画会は成田国際文化会館で行われ、事前アンケート調査で希望の多かった「戦場のメリーカリスマス」が上映されたが、生徒数の増加により適当な会場を設定することが次第に難しくなり、全学年による映画会はこれが最後となつた。第八期生徒会は、要望の強かつた自動販売機増設の問題にも取り組み、当時再び問題化していたパックの散乱をなくすた

めに、美化委員会と連携して実態調査や回収作業、校内美化キャンペーン等を開催して一定の成果をあげ、自動販売機増設の実現に大きく寄与した。

第九期生徒会は昭和六十三年十月に発足した。会長以下すべての役員が未経験者で、当初は手探りの様子であったが、よくまとまり、並々ならぬ情熱と企画力をもって活動し、行事をこなしてきた。着任早々に取り組んだのは、前役員も努力してきた飲料自動販売機の設置にともなうパック散乱の問題であった。美化委員会の協力を得て、全校にアンケート調査を実施し、継続的な散乱状況調査を何度も行いながら、販売機内に新種の飲料を導入した。その後、女子のストッキング着用に関して、全校の意見をまとめて、指定を肌色に加えて黒色も認めるよう職員に働きかけ、実現した。これらの日常的活動をとおして、役員たちは自信を深め、つづく予餉会、新入生オリエンテーション、リーダー研修会、そして黎明祭と、どれにも独自の企画を求めて情熱を傾けて取り組んだ。

現在の生徒会本部は平成元年十月に発足した第十期の役員である。

「全校生徒の意見を取り入れ協力し合う生徒会」を目指して、地味ではあるが熱心な活動を続けていく。平成二年度に入つてからは、新入生オリエンテーションやリーダー研修会等で、新しい企画をうち出し、それなりの成果を得てきた。今は十周年を記念する黎明祭の準備に取り組んでいる。

ここまで概略を追つてきたように、各年度の活動が数行の紹介ではとても不充分であることは承知している。ここでは生徒会本部の動きを中心まとめたが、その他の生徒も含めた生徒会全体の活動を描ききれないので残念である。それは多くの生徒たちの感動を、力を、十年間の



生徒会

さて、生徒会活動誌「北星」は昭和六十一年三月に第一号が発刊され以来、平成二年三月までに五号を数えた。その中の生徒会長の言葉を拾つてみると、大体において、全校生徒が生徒会活動へ積極的に参加してほしいというメッセージとなっている。いうまでもなく、生徒会とは生徒会本部のことのみを指すのではない。そして、生徒会活動や生徒会行事は本部が行い、他の生徒が追随していくというものでもない。しかし現実はどうか。「我々は必死にやっている。なのに……」というような、ある種の孤立感を味わうことがなければ、常に生徒会長から全校生徒の協力を求めるメッセージが発信されるだろうか。数々の宝のようなドラマを生み出してきた功績を評価するとともに、このような課題を指摘しておこう。

生徒会活動への参加協力のためにはいくつかのルートがある。つまり主にはクラス、委員会、部活動である。委

員会や部活動に積極的に参加し、クラスにも積極的に関わる姿勢が望まれる。生徒会本部はそれらの活動主体に刺激を与え、活性化を促す。生徒一人ひとりがもつている力が結集され、クラスも委員会も部も大きな力をもつようになるだろう。それが逆に生徒会本部を刺激する。そうなれば、本校の生徒会は自律的な動きを展開するようになるだろう。本部が動かすのではなく、全校生徒の力がクラス他をおして結集されて動いていく生徒会でありたい。

ここに、創立三年目の昭和五十八年三月に第一・二期生徒会役員が中心となって編んだ「北星」がある。ガリ刷りの粗末なものだが、いつか生徒会本部からの発信に対して圧倒的な返信が集まつてくることへの期待感がほとばしっていて。彼らの「幸福であった」「原点からの開拓」に、我々は今、全校をあげて応えなければならない。

私達は、ある意味で実に幸福であったと思います。施設などの面を考えれば、不便な事ばかりでしたが、私達は北高生徒会の種であつたからです。先駆者は常に壁でなければならないことを、私達は知っていたからです。毎日の活動の中で、困難な事があつても、正面から直視して、今、解決しなければ永遠に解決はないでしょう。と頑張って体あたりで協力し合つて、いろいろな山を乗り越えてきたからです。陰の努力も惜しみませんでした。けんかもしました。泣きもしました。頭も懸命にひねりました。毎日が懸命でした。それもすべて私達は先駆者である事を知つての活動だったからなのです。そして、私達を見守つて下さった先生方がいらしたからです。——楽しめたのです。——

(昭和五十八年三月九日)

(文責 小倉 晶文・安藤 清)

部・同好会活動年表

団体名	S. 55	56	57	58	59	60	61	62	63	H.1
野球										→
卓球										→
剣道										→
陸上										→
バレー・ボール										→
柔道										→
サッカー										→
テニス(硬軟)										→
吹奏楽										→
写真										→
科学										→
ゴルフ	---									→
バスケット										→
英会話										→
美術										→
電気										→
書道										→
軽音楽							---			→
イラストレーション							---			→
映画研究							---			→
合唱							---			→
フォークソング							---			→
演劇							---			→
バドミントン							---			→
空手道							---			→
少林寺拳法										→

—— 部として活動

- - - 同好会として活動

平成2年度創設同好会一覧

調理・将棋・華道・茶道・工芸・ペン字・パソコン・郷土研究

生徒会本部役員一覧

期	任 期	会 長	副 会 長	書 記	会 計
1	S. 55. 7～S. 56. 9	石井幹夫	西石田畑三十五子	渡平辺野光優	男子 森入田江典智子
2	S. 56. 10～S. 57. 11	千葉英雄	平大野橋優幸	櫻井寿	男子 鈴重木吉敏之
3	S. 57. 11～S. 58. 10	大橋幸雄	田中猪股孝昌	土屋阿史也	理子和 浅閑野口高園志子
4	S. 58. 10～S. 59. 10	猪股昌也	浅閑野口高園志子	尾木高野由佳	子映 堀鬼越沢一直徳美
5	S. 59. 10～S. 60. 10	安部志朗	益木田野幸一郎	尾関高口由聰	子司鬼古沢田直嘉美彦
6	S. 60. 10～S. 61. 10	村木義勝	石玉井橋正宏	恵之多小	田川雅忠乃和武吉田久美也子かおり
7	S. 61. 10～S. 62. 10	若林裕幸	塚森本田裕庸	一子吉立	久川かおり子岩坂本本美卓雪己
8	S. 62. 10～S. 63. 10	堀根英明	續藤明彦	立成川田敦郁	由美子坂米本須卓博己忠
9	S. 63. 10～H. 1. 10	村越誠	椎濱名田まり	実恵日川暮本匡静	人香石殿川岡明良りなつ
10	H. 1. 10～H. 2. 10	荒井利尚	多渢田木茂真	行純松片崎倉吉順	洋子石三井枝克光哉広

規律委員会

規律委員会は開校当初より設置され、登校時指導と通学用自転車の点検を中心に活動してきた。四クラスでスタートした最初の頃は、毎月一回の自転車点検で実際に自転車に乗り、ブレーキやライト等の整備具合を確認していた。また、登校時指導では正門付近で生徒の服装等のチエックを規律委員によつて行つたが、やはり生徒である委員が一般の生徒を指導するという難しさから、四年目以降は委員会の活動としては実施していない。

創立五年目頃から学校の規模も拡大していく中で、初期の委員会の活動とは少しずつ違つてきた。まず、生徒数の増加と学校周辺の道路整備が進んだ事に伴い、自転車通学をする生徒が急増した。自転車通学をする生徒の数は開校した年では全校生徒一八〇名のうち二六パーセントであったのが、十年後の現在では一、三五〇名の在校生の約九〇パーセントにまで増加している。自転車点検の方法も、実際に一台一台乗つて調べる事は不可能で自転車通学の許可を受けているか否か、ベル・ライト等は整備されているかを調べているという状況である。また、駐輪場の不足もあるのだが、体育館北側や部室周辺に置かれた自転車を仮設の駐輪場に置かせたりもした。また、自転車を整然と駐輪させるという仕事は校内だけではなく、スポーツテストを実施する中台運動公園、そして、生徒会主催で映画鑑賞会を実施した成田国際文化会館、夏の高校野球大会で全校応援を行つた大谷津球場でも行つた。

創立四年目までは、黎明祭の時に規律委員会でも展示・発表をしていたが五年目以降黎明祭が校内発表のかたちから一般公開へと変わったた

め、委員会としての発表は取りやめ、それに代わって、職員とともに正門付近に立ち、自動車の校内への入場制限や来校者の自転車の整理、また本校生徒の無断外出の防止などの仕事にあたつて来た。また、学期末に行われる防災避難訓練では、生徒の安全な避難誘導について規律委員が係となり万一の事態に備えている。

今後の規律委員会の活動では、自転車通学をする生徒の数が年々増加していることに注目する必要があり、実際に自転車の氾濫がいろいろな面で問題を引き起こしている。一例を挙げると、交通ルールを守らないことからくる事故の危険性や自転車の盗難などである。自転車の乗車マナーについては市民から時折苦言をいただくこともある。毎朝八時十分から八時三十分頃のはんのわずかな時間帯に約千名の生徒が自転車で登校して来るわけで、その中には信号を守らない者、車道に広く広がつての走行、安全確認をせず道路を横切る者なども見られる。これらの指導には主に、職員があたつて来ているが、今後、規律委員を中心に生徒の立場から自転車の安全走行を定着させていきたいと思う。また、自転車の盗難については、自転車通学を許可された生徒が自分の通学用自転車に貼付しているステッカーのおかげで、たびたび、市民の方々から放置自転車の連絡を受けて発見されている。物が豊かになり自転車も比較的容易に購入できるようになつたためか、自転車を駐輪する際、施錠しない者、大切に扱かっていない者が多くなつたことと、盗難の増加は無関係とは言えないようである。規律委員会としては、学校行事の際の警備と、自転車による安全な登校の指導が今後も活動の中心になると思われるが、生徒全員が安全な学校生活を送ることができるように、委員会活動により生徒の力で進めていきたいと考えている。

(文責 齋藤 伸之・兼坂 仁)

体育委員会

◎主な活動 球技大会・スポーツ大会・マラソン大会をはじめとした、体育的行事の計画・準備・運営及び授業時の準備・連絡。

◎思い出すことなど 体育委員会は各クラス男女一名ずつが選出され活動している。それゆえ、開校時は、四クラス計八名でスタートした。初年度は体育館もなく、スポーツ大会はグラウンドを使って行なわれたが、そのグラウンドも、石や貝が散乱しており、全校生徒の協力を得て石や貝を捨て、怪我のないようにと準備したものであった。今、全校六十名の体育委員会を考えると隔世の感がある。

生徒数の増加に伴ない、数々の体育的行事が行なわれ、中でもスポーツ大会は印象に残る一つである。体育祭的競技、球技大会的競技と共に相撲競技などが加えられたが、北高ならではと思える行事である。生徒の運営に教師側が積極的に参加し、温かい目で生徒を見守りつつスポーツを通して、教師・生徒間の和を計らんとしたもので、年々盛り上りをみせてきたものである。とりわけ、相撲競技は、トーナメントに教師が参加、行司、呼び出しを、仮装した若手の教師が行なう中で劇的なシーンが生まれ、ファイトあふれる数々の試合が行なわれた。個人競技ではあるものの、周囲が団体の得点を争うかのような盛り上りをみせた応援を行ない、スリルとユーモアにあふれた競技であったことは多くの言を要さないものであった。今後更に委員会の活動を充実させ、全員の一致協力を得て、体育的行事の運営に力を注ぎたい。

(文責 国本 正美)

放送委員会

昭和五十六年九月に本校北校舎の完成とともに放送室が設置され、開校二年目（昭和五十六年）の後期より放送委員会が発足し、活動を始めた。委員選出は希望者を優先し、他の委員と兼任できるよう要望し、協力を得た。初代委員長に渡辺光男が選ばれ、三名の委員とともに、四名で活動を開始したのである。委員会発足当初は人数も少なく、活動範囲も限られたものであつたが、徐々に人数も増え、活動も活発なものとなつていった。

委員会の主な活動は、昼休みの放送など委員会独自の活動がある。昼休みの放送では、前日の放課後に内容を録音してある放送用テープを昼休みに流している。他に、昼休みや放課後は各種委員会等の連絡放送を行っている。さらに、黎明祭への参加や各種コンテスト、研修会への参加、生徒会行事での放送サービスがある。黎明祭をはじめ、予餞会や生徒総会など、舞台裏で活躍している。特に黎明祭では、一週間前から行われるステージ参加者のリハーサルから当日まで放送と照明を担当している。そのほか学校行事での補佐がある。入学式、卒業式、さらに、球技大会や全校集会等あらゆる行事で手伝いをしてい

る。特に今年度は創立十周年記念行事の一つ体育祭にも放送部門を担当することになり、委員の生徒たちも張り切っている。

このように、放送委員会は学校で行われる大小さまざまな行事における放送サービスなどの活動を中心に、地味ながらも充実した活動を続けている。

(文責 藤田 利夫)

図書委員会は、開校と同時に発足した。発足当初は、図書館もなく本もないといった状況であったため活動もほとんど行われていなかつたという。本が入ってきた昭和五十五年の九月から、実質的な活動が始まつた。最初は、本の貸出返却のみであったと初代の委員長である石山久美子さんは回想している。図書館のまだ整っていない時期、普通教室の空いている教室に間借りし、スチールの本棚を壁際に立て、真新しい新刊書をならべただけの図書室で、委員会活動の産声が上がつたのである。

昭和五十八年の秋に図書館が竣工し、蔵書も二千冊余りとなつて委員会の活動も受入・貸出と急に仕事が忙しくなつた。石山委員長を中心としてまとまつた活動が展開され、新刊書の受入れ作業を積極的にこなし、新しい図書館の創造に多大な貢献をしたのが初期の委員会であつた。この当時の図書館司書は、教務部に席があり図書館の仕事を兼務していた。委員会の活動が組織的に行われていなかつたとしたら、今日の本校の図書館はなかつたといつても過言ではないであろう。三年目に赴任した私（大木）は、石山委員長から初期の状況を詳細にわたつて伺つ

たが、委員全員が自分の仕事として活動していたということである。図書委員会のこのような初期の自主的な活動は、その後の委員会に受け継がれ、その意気込みが薄れたとはいえ、現在も延々として自主的活動が続いている。

委員会活動の中で特筆すべきことは三つある。ひとつは、昭和五十八年に行われた県の図書委員会の活動報告を、印旛地区代表として本校の状況を報告した高橋真寿美（当時副委員長）さんの発表にみられる。当時、本校に赴任したばかりの委員会顧問である大野冬彦先生の発案によって委員会の組織は大きく変化を遂げた。活動は、今まで以上に活発に行われ、図書委員の自主的組織が固まった時代でもある。さらに今村委員長の昭和六十年には、顧問の指導による読書会が行われた。本校で読書会が行われた最初である。委員は、事前に「はだしのげんはピカドンを忘れない」（岩波ブックレット）を全員が読み、一般的な生徒も参加した読書会に発展したのである。意見は、なかなか思うように出なかつたが、「原爆の惨状についての認識と戦争の悲惨さを確かめあつた会となつた」と、今村委員長は語っていた。この読書会は、さらに黎明祭へと発展していった。他校の図書委員会生徒との合同読書会を開催し、意見交換を行つた。当日は、日中友好協会の協力を得て第二次世界大戦書会であったのである。

昭和六十一年に図書館にコンピュータが入つて、委員会の活動もしだいに変化した。昭和六十三年からは、本格的にコンピュータを中心とした活動が展開された。ふだんの貸出返却は四倍近くに増え、仕事の量も責任も大きくなつたのである。カウンターには委員が欠かさずたち、返却された本の書架への返却と貸出量の増大とともに毎日こなさなければならぬ仕事が増えた。平成元年度からは、コンピュータの好きな図書委員が中心となってコンピュータ班、また、コンピュータに入力する書誌データを作成するデータ班が設置された。図書委員会コンピュータ班は、パソコン同好会設立の主要メンバーとして活躍するのである。

コンピュータの導入にともない、図書委員長を中心として「蔵書の充実」をスローガンに「蔵書一万冊」運動が展開された。昭和六十三年から委員長を二年間に亘って勤めた加瀬君の活躍は、卒業後の今も語り継がれているほどである。当時の図書委員は、自分達が卒業するまでになんとか蔵書を一万冊にしたいと、本の寄贈運動を展開したのである。在校生の保護者を始め、職員生徒から多数の寄贈図書が集まつた。角川書店に勤務する保護者や職員から数百冊、生徒から數十冊と約一千冊余りの寄贈があつた。委員会は、これらの本の受入れ作業に更に忙しく活動し始めた。当然生徒の図書館に対する親近感や関心が高くなつたことは言うまでもない。図書館へ訪れる生徒の数は、年々多くなり入館者数は一日二百名を越え、貸出数も一日五十冊を越える日も出てくるようになった。委員会の地道な継続的な活動なくしては、今日の図書館の隆盛もなかつたことであろう。

最後に歴代図書委員長を列記する。

図書委員長一覧								
年	度	委員長	年	度	委員長	年	度	委員長
昭和五五年		石	昭和五六年			昭和五七年		
昭和五八年		大	昭和五九年			昭和五九年		
昭和六一年		山	昭和六二年			昭和六二年		
平成元年		本	平成二年			平成二年		
米		須	小			加		
		田	加			瀬		
		山	瀬			村		
			倉			山		
			昭和六年			昭和六年		
			昭和五七年			昭和五七年		
			昭和五八年			昭和五八年		
			昭和五九年			昭和五九年		
			昭和六〇年			昭和六〇年		
			昭和六一年			昭和六一年		
			昭和六二年			昭和六二年		
			昭和六三年			昭和六三年		
			昭和六四年			昭和六四年		
			昭和六五年			昭和六五年		
			昭和六六年			昭和六六年		
			昭和六七年			昭和六七年		
			昭和六八年			昭和六八年		
			昭和六九年			昭和六九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
			昭和七一年			昭和七一年		
			昭和七二年			昭和七二年		
			昭和七三年			昭和七三年		
			昭和七四年			昭和七四年		
			昭和七五年			昭和七五年		
			昭和七六年			昭和七六年		
			昭和七七年			昭和七七年		
			昭和七八年			昭和七八年		
			昭和七九年			昭和七九年		
			昭和七〇年			昭和七〇年		
		</						

編集委員会

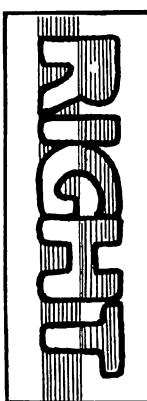
「編集委員会は開校の翌年に発足しましたが、五十七年、北校舎三階の教室を編集室とし、実質的な活動が始まったのです。当初は有志数名で構成し、活動内容もはっきり定まっておらず、暗中模索の状態でした。とりあえず、生徒会誌「北星」の編集と印刷が主な仕事でした。第一回黎明祭から始めた看板作りは、今では編集委員会の大きな仕事のひとつとなっています。卒業式、芸術鑑賞会などの校内行事が催される時には、連日、遅くまでの作業が続きます。

五十八年十月より、編集委員会の機関誌『RIGHT』が発行されました。クロスワード・パズルや先生方へのインタビューなど、毎号、趣向をこらして誌面の充実に苦労しています。」（五周年記念誌）

編集委員会の当初の様子は、このようであったようだが、現在は、編集委員会は、一年生は各クラス二名、二・三年生は希望者により構成され、三十名程になっている。今、一番大きな仕事は、昭和六十二年の三月に第一号が発行された「成田北高等学校新聞」である。年一回、三月の卒業式の日に発行し、四号までになった。これは、在校生と同時に、入学説明会の時に、新生にも配布されている。記事内容を考え、取材し、記事にするのは大変だが、頑張っている。

また、機関誌の「RIGHT」も、年に何回か発行している。年に一度の新聞とは違って、その時に応じた内容や、生徒が興味を持ったことなどを記事にしている。

編集室は当初、北校舎三階の教室を使用していたようだが、六十三年のころは、南校舎一階の教室が編集室だった。広い教室の真中に編集の



（文責 田口 富男）

ための本や筆記用具が置かれ、壁側には、芸術鑑賞の看板などが置かれてあった。平成三年度からは、その教室も使用できなくなり、今では編集室はない状態で、放課後の教室が編集の場となっている。また、編集委員会の仕事となっていた黎明祭の看板作りは、新しく出来た文化祭実行委員会で作り、生徒会誌の「北星」も、今は、生徒会の手で作られていている。

五周年の時と、十周年ではだいぶ趣きが違っている。「北星」は、六十二年に生徒会に移り、翌年、編集委員会による、「成田北高等学校新聞」が生まれた。黎明祭の看板作りも、平成二年からは、文化祭実行委員会が行っている。そんな中で、時に応じて感じたことを表現できる「RIGHT」だけが、続いている。

編集委員会の仕事は、今、「RIGHT」と「成田北高等学校新聞」の二つである。文章を書くことが苦手な今の生徒には、大変な仕事だが、自分の書いた文章が、活字になるのは楽しいことだと思う。また、記事を考えたり、実際に取材する中から、問題意識を持つたり、色々と学ぶことも多いと思う。より充実した紙面になるように、編集委員がそれぞれ、問題意識を持ちながら活動していく様な、そんな委員会を目指したいと考えている。

美化委員会

南校舎一階の、フォーカソング同好会、軽音楽同好会、編集委員会の使っていたやや暗い印象の教室も、今や三年生のホームルーム教室に生まれ変わった。成田北高も今年創立十年を経て三〇学級になったのである。校舎周辺の緑も少しずつ色濃くなってきた。雨の日は長靴でないと歩きにくかった砂利道も、舗装されたアプローチに変わっている。まつ白だつた校舎もやや没味がでてきて、落ちつい感じになっている。

この十年の間、美化委員会は、成田北高の環境の整備・美化に取り組んできた。日々の清掃活動、定期的に実施される大清掃、防災訓練などである。具体的には以下のようなことをやつてきた。

(一) 活動方針

委員の自主的、積極的な姿勢によって学校内外の美化につとめ、生徒自身の手によって学校を管理するという意識を育てる。

(二) 活動内容

- 1 定期的に校舎内外を巡回し、美化状況を点検する。
- 2 牛乳パックなどの散乱状況を点検し、美化につとめる。
- 3 校舎外の除草状況を点検し、美化につとめる。
- 4 大清掃の準備、後片付けをする。
- 5 防災訓練の際、消火・放水などの訓練に参加、実演する。
- 6 文化祭など、行事の時に、必要に応じてゴミの処理をする。
- 7 清掃用具が破損したり、不足した場合は補充する。

最近では、ゴミ処理が社会問題になると歩調をあわせるかのように、牛乳・ジュースパックの散乱ということが問題になつてきた。今、

北高生一人一人が、一パックの牛乳を自動販売機で買って飲んだとしたら、実際に一三八八個のゴミがされることになる。時にはそのゴミがゴミ箱にあふれていることもある。こうしたゴミの散乱が問題になり、美化委員会では、放課後数日間にわたり、牛乳パックを拾い、その数を調べて、学校全体に呼びかけていた。また、ゴルフ場の農業が社会問題化していく中、この成田北高でも、除草剤を使わない方針を貫くようになった。除草はすべて鎌などを使った手作業で実施している。その除草の準備や後始末にも美化委員会はたずさわっている。要するに陰で微力ながら校舎内外の美化を支えているのである。

テレビはもちろんマイコン、ファミコンの普及の中で、体験の間接化、希薄化ということがいわれている。たとえば、次のような話がある。ある野球好きの少年が、父親にせがんで野球観戦にいったところ、じつと見えて、「テレビの野球の方がずっとおもしろいや。お父さん、はやく帰つて家でテレビを見よう」といったのである。つまりテレビでは、音響効果、ズームアップなどを使って非常に見やすく聞きやすく、より刺激的でおもしろく観戦できるからである。この少年の話は極端かもしれないが、身体を使って苦労して楽しむよりも、テレビゲームなどで手軽に楽しむという傾向は、最近強くなつてきている。そうした中にあって、除草作業や大清掃など汗をかきながらの勤労体験を通して、その体験の意義を少しでも知つてもらえるように、美化委員会は今後とも活動していくと考える。

(文責 加藤 祐司)

保健委員会

保健委員会は、北高開校の昭和五十五年に設置された。各クラス二名の委員により構成されているこの委員会も、開校当初の八名から現在は六〇名を数える。当初は一年生のみの活動で、暗中模索・手さぐり状態からの出発だったが、一〇年間の地道な保健委員会活動の結果、千葉県公立高等学校生徒保健研究発表会で思いがけない優秀賞をいただくことができた。委員会の仕事としては、定期健康診断・予防接種などの保健活動における準備・補助・後片付けをはじめ、クラス内での傷病者の保健室への付添い。また、林間学校・修学旅行における救急鞄の管理・救急処置等がある。このように、保健委員はクラスと保健室のパイプ役として重要な役割りを果たしている。

保健委員会の保健衛生及び知識の啓蒙としては、黎明祭への参加がある。五十五年度は展示。五十七年度は「北高生の食生活と健康観」についてのアンケート調査結果の発表と、身長・体重・肺活量・血圧などの各種測定を行った。五十八年度は「成長と健康」をテーマに、本校と千葉県・全国の平均身長・体重を比較し、成長期におけるバランスのとれた食生活と極端な間食の害について小冊子にまとめた。平成元年度においては、「便秘とその対策」として生徒保健研究発表会の中間報告という形で掲示・展示を行った。

平成元年度生徒保健研究発表会に先立ち、二・三年生を中心に研究班を編成した。『やる気のある者は集まるように』という問い合わせに多くの生徒が集まり、生徒の研究への大きな期待と関心がうかがえた。テーマの設定にあたり、最近の生徒の健康状態や保健室の利用状況などを中

心に話し合い、便秘による腹痛が多くみられる事から、「便秘とその対策」について研究を進めることにした。まず始めに、どれ位の生徒が便秘で困った事があるか、また食事との関連を調べるために、全校生徒に對して健康アンケートを実施した。統いて、水分の摂取量や睡眠時間による影響を知るために、保健委員に対して一週間連續の食事調査を実施した。最後に、便秘の原理とその対策として文献を調べ、市販薬以外の治療法について身体のツボや身近な薬草があることも知った。薬草については夏休みに学校の近くを散策し、ドクダミやタンポポの根を掘り、乾燥させて保存した。発表の準備として冊子や掲示物を作成し、放課後は毎日発表の練習のために保健室に集まり活動。一〇分の時間内での発表という事もあり、ストップウォッチを使いながらの練習をした。また、視聴覚室を使い、校長先生はじめ何名かの先生方に見ていただきながらの予行練習も行った。発表当日、多少の緊張はあったものの、努力の結果、優秀賞(写真)をいただくことができた。

これからも北高生の健康管理のために、黎明祭にも積極的に参加するなど、保健委員会活動を充実させていきたいと思う。



研究発表会で優秀賞受賞

(文責 坂本 真砂子)

社会福祉委員会

社会福祉委員会は、北高開校の年、昭和五十五年に設置された。

委員会ではあるが、自主的な活動を重んじてるので、クラスに希望者がいない場合には、委員を置かないクラスもあるし、逆に、希望者が多いと、数名の委員を置くクラスもある。

開設時は募金活動からスタートしたが、昭和五十七年ごろから施設訪問などの校外活動も加わり、現在に至っている。

主な活動は次のとおりである。

- ・募金（赤い羽根共同募金、ユニセフ募金、愛のひとしづく運動、各地の災害救援募金など）

- ・施設訪問（月一回程度、日曜日を利用。訪問先は主に、成田市三里塚にある精神薄弱児施設『不二学園』で、運動会やマラソン大会など大きな行事の手伝いをしたり、子供たちの話し相手や遊び相手になつたりしている。）

- ・古切手収集

- ・高校生ボランティアリーダー養成講座、高校生ボランティアの集いなどへの参加（毎年、代表を二～三名派遣）

その他、過去には、点字や手話の勉強、拡大写本の製作なども、積極的に行われていた。

これらの活動の中で、ずっと中心的活動となっているのは、施設訪問である。「社会福祉」という言葉の響きから、「社会福祉」は難しいもの、自分とはまったく関係のないものというイメージを持つている生徒も多いようだが、実は「社会福祉」はとても身近なものである、ということ

を理解してもらうため、全校生徒に、施設訪問への参加を呼びかけている。

委員の作るポスターやちらしの成果で、あろう、毎回、委員以外の生徒も参加をしている。生徒たちの感想は、「参加してよかったです」「楽しかった」「自分でも人の役にたつんだなあと思つた」というようなものが多く、活動中は、生き生きとした、積極的な姿を見せてくれる。

委員の生徒たちの中には、委員会という枠を離れ、個人で老人ホームを訪問している者、ボランティアリーダー養成講座で知り合った他校の生徒たちとグループを作り、学校の休日を利用して、養護学校を訪問している者、点字を勉強している者、拡大写本で作った絵本を視力の弱い方にプレゼントした者などもいる。そういう生徒たちの活動の広がりを見ていると、地味ながらも委員会として、しっかりと根をおろしていることを実感する。

今後も、誰もが参加できる活動の機会を増やし、さらに多くの生徒へと、輪が広がっていくことを期待している。

今、私たち一人一人ができるることはとても小さいが、それを通じて、たくさんのことが見えてくるはずである。社会について、人間について、そして自分自身の生き方について……。

（文責 山根 昌子）



第5回千葉県精神薄弱児者
ソフトボール大会に協力

購買委員会



購買活動の様子

主要な活動は、北校舎一階の購買室で、体操服、文房具、通学バッグ、バッヂ、ネクタイ等を販売することである。活動は、曜日毎の当番制で行っている。創設時は、月々金の始業前（八時二五分～八時三五分）、

昼休み（一二時四五分～一三時一五分）、放課後（一五時三〇分～一六時）に活動していたが、昼休み以外の利用者が少ないと、委員会としての仕事が繁雑であること、学校周辺の開発により、文房具等を扱う店が増えたこと等を理由に、

昭和五十八年度からは昼休み、放課後のみに活動して昭和六十二年度より、昼休み（一三時～一三時一五分）のみに活動することとなつた。また、昭和五十七年度から

1 創設 昭和五十六年十月

2 活動の経過

購買委員会は、各HRより原則として一名を選出し、構成されてい。創設当時は、一、二年生のみA～D組の合計八名という小ぢんまりしたものだったが、学級増に伴い、現在は三一名から成る大きな組織となつた。

購買委員会は、各HRより原則として一名を選出し、構成されてい。創設当時は、一、二年生のみA～D組の合計八名という小ぢんまりしたものだったが、学級増に伴い、現在は三一名から成る大きな組織となつた。

購買委員会は、各HRより原則として一名を選出し、構成されてい。創設当時は、一、二年生のみA～D組の合計八名という小ぢんまりしたものだったが、学級増に伴い、現在は三一名から成る大きな組織となつた。

昭和六十一年度までは、黎明祭で「おだんご屋」として参加し、だんご、みつ豆、寿司を販売し、黎明祭において、食事の場を提供するのに役買っていた。卒業生、保護者の方々には、この「おだんご屋」を毎年楽しみにしていたという人もいる程であったが、学級増により、食品の取扱いを希望する団体が増え、また、委員の中に他の団体とかけ持ちする者が多くなり、委員会として参加することが難かしくなったため、残念ながら、昭和六十三年度より参加を見送っている。このように、購買委員会の活動も、学校を取り巻く環境の変化に伴い、少しずつ形を変えつつある。特に、現在抱えている問題は、委員会組織が大きくなつた分、逆に縦・横の連絡をとり全体として動くのが難しくなつたことである。このため、まずは「できる活動を確実にやること」を目標として活動していただきたいと思う。

最後に、購買委員会の活動より得た利益についてであるが、昭和六十一年度までは、在庫品の借入金に充てられていたが、その支払いを終え昭和六十二年度より、生徒の福利を目的として、生徒全員に還元するという形で利用されている。昭和六十二年度は、図書室コンピュータ導入に、昭和六十三年度、平成元年度は、芸術鑑賞会に、それぞれ費用の一部負担金として充てられた。

(文責 根本 直美)

3 歴代委員長

年 度	委 員 長	顧 問
昭 五 六		
五 九		
五 八		
五 七		
(前)(前)(前)(前)		
3 3 3 3		
D A B D		
前 永 野 々 宮 池		
道 井		
(後)(後)(後)(後)		
2 2 2 2		
B E C C		
飛 前 古 野 々 宮 池		
田 和 道 河		
郡 司	郡 司	郡 司
		郡 司 土 戸

六一	3 A	飛田和・(後)	2 E	秋山	郡司・根本
六二	3 D	秋山・(後)	2 D	石井	郡司・根本・大里
六三	3 D	秋山・(後)	2 D	石井	郡司・根本・大里・今村
平元	3 B	川島・(後)	2 E	飯塚	郡司・根本・大里
(前)	3 C	佐藤	2 H	吉岡	小早志・中嶋・矢野・根本
(前)	(前)	(前)	(前)	(前)	武田・(二)・小早志・根本
(前)	(前)	(前)	(前)	(前)	香取・(二)・矢野

黎明祭実行委員会

昭和五十五年度

なんとかして文化的行事を生徒の手で行いたいという初代生徒会役員の熱意により、「成田北高文化月間」（昭和五十六年一月十九～二十九日）が催された。これが学校文化祭のいわば第一歩である。「新しい自分の発見、感動のある明日」をテーマに、放課後のわずかな時間を利用して吹奏楽部や各委員会の発表、全生徒と職員による展示等が行われた。

昭和五十六年度

前年度の文化月間を継承発展させ、第一回黎明祭（九月十八・十九日）が開催された。「黎明祭」という本校文化祭の名称はこの年に生まれた。校歌の冒頭の言葉をとつて生徒会活動の夜明けを宣言したものである。「新しい高校文化の創造」をテーマとし、全クラスをはじめとして部・同好会・有志等一八団体が参加した。（実行委員長 千葉英雄）

昭和五十七年度

「開拓」をテーマに、全クラスに加えて多数の委員会が参加。文化部・同好会も八団体と倍増して、参加団体は三五に増え、内容的にも充実したものになった。黎明祭の二日目には、校舎竣工記念式典が挙行さ

れ、メタセコイアの記念植樹が行われた。（実行委員長 平野優子）

昭和五十八年度

「存在の証明」がテーマ。前年同様、文化部・同好会に加え、全クラス、多数の委員会が参加。中庭でのファイアストームを囲んでの後夜祭もUFO音頭やキリンさん音頭までとび出し、盛り上がった。（実行委員長 大橋幸雄）

昭和五十九年度

これまで積み上げてきた実績と全校生徒の強い要望が実り、一般公開が実現した。今では当たり前となつて的一般公開も、この時点では「時期尚早」との声もあり、生徒会本部役員や実行委員会（委員長 鈴木克明）を中心に何度も話し合いがもたれ、その努力があつて実現したのである。

この年からクラス参加は自由となり、参加クラスは四クラスと大幅に減少したが、一般公開が実現したこともあり、文化部・同好会を中心にして、テーマの「じやんぶ・飛躍」にふさわしく、内容的にはより充実し活気にあふれる黎明祭となつた。

昭和六十年度

テーマは「創造的刺激」。前年度のクラス参加が少なかつたこともあり、全校生徒が参加できる催しを行いたいという生徒会・実行委員会（委員長 鈴木高綱）の意向とクイズ好きの生徒会長安倍志朗君、副会長益田幸一郎君の発案が飛びつき、第一日目に体育館で全校生徒の参加による「史上最大！ 成田北高等学校クイズ選手権」が行われ、当初の不安を吹きとぼし成功裡に終わつた。この全校生徒参加によるクイズ大会は、形は毎年変化しているものの、これ以後黎明祭恒例の催しとなつた。

昭和六十一年度

テーマは「活力・負けるもんか!」。このテーマには、一般公開も三年目を迎えるが中だるみに陥ることなく、気合いを入れていこうという意志が込められていた。クラス参加も増え、全部で四四団体が参加し、にぎやかな文化祭となつた。有志による「戦争」をテーマにした展示と討論会等、意欲的な企画もみられた。後夜祭での「もちつき大会」も思い出深い。(実行委員長 篠田まゆみ)

昭和六十二年度

テーマは「静かなる革命—四年目の挑戦」。クラス参加が増えるとともに、模擬店が増えたのもこの年の特徴。(実行委員長 加山淳司)

昭和六十三年度

テー^マは「日進月歩'88」。

開会式に趣向を凝らし、実行委員長

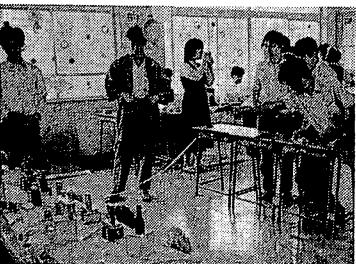
の古屋憲二君がウルトラマンに扮して聖火入場し、会場を沸かせた。また、本校周辺によく飛んできたカラスのぬいぐるみを

吊り下げるたり、カラスをデザインしたバッジを作つたりして、黎明祭をアピールしたのも印象に残っている。

平成元年度

本年度は本校創立十周年を記念し、黎明祭もこの十年間をまとめ、これから

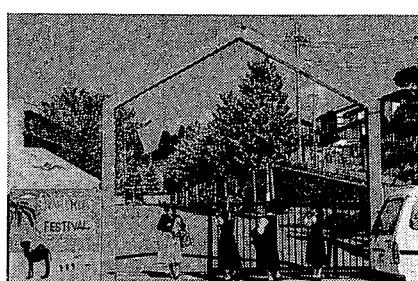
展望を探ることを意識した。テーマは「燃焼・SANKA・かんどうー北高十年目のそこぢからー」となつたが、これは黎明祭への参画がいまひとつ積極的でないことへの反省、そして単なる観客よ



黎明祭のスナップ(昭和62年度)

テーマは「新発実結」という新しい発見は実を結ぶ」の略造語。従来の流れの中に新しい

要素を取り込んでいこうとする気持ちをイメージしたものである。企画部門はほぼ前年と同様であったが、今一度、「黎明祭は全校生徒の参画によって行われる」(実施方針総則)という原点に立ちかえり、従来からあつたクラス紹介看板をふくらませる形で、クラス毎の造形コンテストが企画された。「大きなものをつくる」というテーマに対し、それぞれのクラスの特色ある作品が展示された。また恒例のクイズを核とした本部企画は、全校舎を使い、クラス全員が関わるオリエンテーリング的クイズとなつた。また装飾では大きな木製の入場門が設置され、来校者の目をひいていた。一般発表の参加団体数は、クラス・部・同好会・有志の四十五団体で、活気のある黎明祭となつた。実行委員会組織については、全クラスを組織化し、しかも生徒会本部に依存せず、ともに企画運営していくという理念にもとづいて、再編成が試みられた。つまり、従来、生徒会役員と有志で構成されていた実行委員会を、最低一名のクラス代表で構成し直し、そこから選ばれた役員と生徒会役員とで企画本部を設置した(実行委員長 米須博忠)。しかし、その組織が実際に稼動したかということになれば、厳しい評価になる。



黎明祭のアーチ

りも企画の主体となる方がはるかに楽しく、感動を得られるものであるということの再確認をうたつたものである。企画としては、クラス仮装コンテスト、それに北高はどんな学校かに焦点を当てた特集「北高を探る」（仮題）が、一般発表に加えられた。そして恒例であったクイズ中心の本部企画はとりやめられた。これは実施上のさまざまな難点と、これに代わる企画を立てうることによるが、全校生徒が一堂に会して活動する場面がなくなつたことは事実である。実行委員会は、昨年にひきつづき、全クラスから選出された委員によって構成されている（実行委員長 日暮匡人）。実行委員を対象としたリーダー研修会も開かれ、組織どおりの活動が期待されているところである。

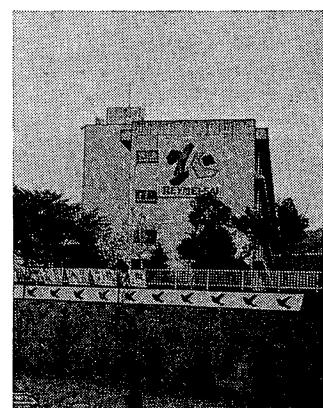
まとめにかえて

本年度で一〇回を数える黎明祭を振り返ると、そのときどきにさまざま試みがなされ、いろいろなドラマが生まれてきたことを強く感じる。文字どおりの「黎明」祭から、「開拓」「飛躍」「創造的…」「活力」「挑戦」「…進…歩」「…発見…」と、テーマを追うだけでも黎明祭の求めてきたものが連想される。それはおそらく若者らしいエネルギーに満ちた、創造性を伴う進歩、発展。だが、その目標を具体化するのは容易ではない。無数の先輩たちが頭をひねり、額に汗してやってきたのだらう。これまでの黎明祭の歴史の中から、一貫するものとしてこうしたことをつけみ出したとき、今一度我々は文化祭の原点に還ることになる。活力と創造性である。文化祭をどうやるかの答えが活力であり、文化祭で何をやるかの答えが創造性である。これら二つの要素によつて支えられる黎明祭は、いうまでもなく成田北高のオリジナリティを生み出すであろうし、そこから本校生徒会の「存在の証明」（昭和五十八年度テーマ）がなされるかもしれない。

では、活力というテーマにどうアプローチしたらよいのだろうか。まずは全校生徒の関与を促すことである。従来の本部企画はこの考えによる。そのためには、たとえば運営組織に関して実行委員会組織の再編や、発表に関してはクラスコンテスト部門のように、クラスによって支えられた黎明祭をつくることが一つの方策であろう。クラスという枠を取り払つて三〇クラス規模の全校生徒をまとめ上げるのは、もはや難しい。

創造性についてはどうだらう。文化部・同好会の発表が創造性にあふれたものであることは当然である。しかし、たとえばクラス発表に関しても、何の変哲もなさそうにみえる企画に何らかのひとひねりを加えることはできまいか。さらに、全校共通の企画として創造性を重視したものを立てるることもできる。この考えにもとづいて従来の本部企画もある、現在のクラスコンテストもある。

もちろん、活力と創造性の両方の組み合わせによって黎明祭の質が決まっていくのであらうから、どちらも重視すべきなのだろうが、一方ではどちらかとくに力点をおいても黎明祭を充実させることもできよう。このように本校の黎明祭を展望したとき、常に創造的に革新的に、いつまでも「黎明」の緊張感を、そして同時に活力にあふれ、燃える太陽に焼かれるような興奮を味わおうという意氣を、全校生徒がもち続けてくれるこことを切に願うのである。（文責 小倉 晶文・安藤 清）



黎明祭での飾り付け

応援委員会

応援委員会は、生徒会会則第五章委員会第二十九条によつて、評議会が必要に応じて設ける臨時委員会である。昭和五十六年、野球部の公式戦初参加により、その応援活動が始つた。応援委員は希望者制で、各クラスから何名という強制ではなく、応援活動を通じて高校生活を充実させたいと考えている生徒が中心となつてゐる。年によつては委員がなかなか集まらなく、委員会を結成するのに苦労した年もあつた。しかし、各方面の理解も得て、昭和六十一年からユニホーム等の必要な備品が整い、また、ある程度の人数が集まるようになったので、短期間の活動であるが、充実した委員会になつてきた。男子の力強い応援、チアガールの華麗な応援が、毎年スタンドを沸かせている。夏にその大輪を開かせる、ひまわりのように……。

委員の人数は、決して多い方ではないが、一糸乱れぬ少数精銳で、相手校に負けない応援を繰り広げてきた。これからも、北高魂を信条に力強い応援活動をしていきたいと思う。最後に、毎年吹奏楽部には、並々ならぬ協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

年	顧問	団長	(チアガールも含む) 委員人數
昭和六十年 平成二年	池田・渡辺(潔)	池田・津本	五名
昭和六十一年 平成三年	池田・兼坂	池田・大野	二八名
昭和六十二年 平成四年	池田・安藤	石安山	二九名
		橋岡	三一名
		志良一正	三五名
		朗和男	三〇名



力強く、たくましく—リーダー



美しく、華やかに—チア・ガール

十周年記念体育祭での応援団

—応援委員会の拡がりを受けて—

平成二年十月七日（日）、於・中台陸上競技場。台風に襲われることも予想され、天候を心配しつつ、曇天の中ながらも、盛大にかつ整然と開会式が行われるに至った。日頃、時にルーズな面も少しばらはのぞかせることのある本校生徒ではあるが、やはり時と場所は心得ているようで、実に立派に、スマーズに開会式のファンファーレが、中台陸上競技場に響きわたる中、入場行進が行われた。

赤・緑・青・黄・白の五色の鉢巻を着けた生徒たちは、各組の応援団の生徒を先頭に、堂々の行進である。その躍動感あふれる中にも整然とした行進の姿・準備運動の折に、グリーン一面にエンジ・ブルー・グリーンの体操服に身をつつみ、五色の鉢巻をした生徒が広がった姿は、誠にあでやかなものであった。

この記念すべき体育祭を盛り上げたのは、夏に応援委員として活躍した生徒の輪の拡がりであった。空手道をアレンジし、敵を倒せとするものの、日の丸の扇子と笛で味方を応援するもの、コマーシャルのコピーを利用し、「もっと、もっと！ もっと、もっと！」と走り回りながら、応援席のウェーブを巻き起こし、一体感を表現したものと実に多彩な応援風景が、周囲の人々の目を楽しませてくれた。



記念体育祭・応援風景

黎明祭から体育祭へと続く中、黎明祭の準備の合い間を縫つて、朝の始業前の時間、放課後、陽の暮れるまで、時には、土

曜日課の午後になってから暮色のたち込めるまで、企画の話し合いから始まり、練習をくり返すなど、指導にあたられた先生方の努力も大変なものであつたろうと敬意を表したい気持である。（文責 大沼 功）

選挙管理委員会

選挙管理委員会は、毎年十月に行われる生徒会役員選挙を管理・運営するために結成される臨時委員会である。具体的な仕事内容は、立候補者の受付、立会演説会の運営、投票の運営及び開票作業で、これらの仕事を各クラスから二名ずつ選出された委員が担当している。

かつては競争選挙が行われることもあった生徒会役員選挙も、近年、自らすんで立候補するものが少なくなり、昭和六十一年に行われた第七期役員選挙で副会長のポストを四名で争つたのを最後に、信任投票で決まってしまうケースが続いている。学校の規模が大きくなるにつれて、「面倒な仕事は、きっと誰かがやってくれる」という他人まかせの考え方を持つ生徒が北高にも増えてきたようである。北高十周年を迎えた今、生徒会活動は決して一部の生徒の犠牲の上に成り立つものではなく「全校生徒の協力があつて初めて実りのあるものになつてゆくものである」ということを、もう一度北高生みんなが再認識してくれることを、生徒会顧問として切望する。

（文責 梶本 一之）

文 化 部

写真部

写真部十年史

卷之三

五十六年になって、暗室が物理準備室内に理科教用として設置された。この暗室を使用して本格的な活動が展開された。二回生の田中、鈴木ら写真技術に習熟した生徒が入部したことによつて、写真部の第一期黄金時代が形成された。この時代には、成田市広報「コミュニケーション 成田」に鈴木君の作品「成田暮色」が掲載されたのを始め、高校生合同写真展に毎年入賞するなど着実に実績を積み重ねてきた。また、中央廊下に月例写真展が催され、校内の行事や催し物のトピックスをいち早く掲載するなど現在の進んだ部活動の体制が確立した。たとえば、入学式の状況を撮影し、次の日に登校した一年生向けに写真展を催した。また、黎明祭前日の準備状況を夜の一〇時ごろまで撮影し、夜中までかかって現像した作品を次の朝には、中央廊下に掲示するといった機動性ある活動が展開されていた。また、黎明祭のシンボルであるワッペンのデザインの撮影を依頼されるなど活動も多方面にわたつている。技術的な面も毎年の繰り返しはあるが、しだいに撮影技術・現像技術全体のレベルが上がつてきていていることも見逃せないことである。このような活動の実績をふまえ、昭和五十九年には、初めての夏期撮影旅行が実施された。当時の部



尾瀬にて

長である田中君を中心にして綿密な計画がねられ、顧問である越川先生の助言を得ながら準備を重ね、学校側の了解を得られた。県外への合宿をかねた旅行は、現在でも部活動の中で写真部のみであることを考えると、当時の活動が、現在も評価されているといえよう。歴代の顧問・部長、夏期撮影旅行は別記の通りである。

撮影旅行が実施され、部員一同きびしい山行をとおして、自然の美しさを体感した。どちらを向いても咲き乱れる花。白いカラマツソウ、夏の代表花ニッコウキスゲの大群落。紫のアザミ、アヤメなどなどである。尾瀬には、ゴミが一つも落ちていない。尾瀬沼への撮影旅行は、単に美しい自然を撮影するといふことばかりでなく生徒の自然保護意識を育てるのも大きな目標である。宿舎である尾瀬

部長・顧問一覧等

瀬沼の長蔵小屋では、セッケンは使用できず、風呂もない状況であった。また、六畳の部屋で一人が泊まるといった撮影旅行ではあつたが、誰一人文句も言わざる自然を守ることの大切さを身をもって知った合宿でもあつた。現在、映像表現の多様化にともなつて、写真部員の新規入部者が頭打ちであることが気がかりなことである。しかし、部員数九名と少なくなった現在ではあるが、作品の内容と質でカバーしている今日この頃である。

(文責 大木 実)

映画研究部

映画研究部は、一九八四年に映画研究同好会として設立された。この年、第一作として「宇宙研究同好会」(脚本・監督・橋本満)を製作し黎明祭で上映した。この作品は、北高がささいなことから財閥の息子の私設軍隊の攻撃をうけ、戦闘機をもつ北高宇宙研究同好会が、これを撃退するが、この戦いがきっかけで、さらに大きな危機にみまわれる……というSFならでは壮大な(?)ストーリーで、北高戦闘機のコックピットのセット作りや特殊撮影に苦労したが、成田高や成田西高の映研有志の協力もあって完成にこぎつけた。

一九八五年には、前年同様橋本満脚本・監督による「NIGHT AND DAY」を製作・上映した。この作品は学校に関心を失った男子高校生が、街で出会った女の子との出合いや別れを経て、精神的に立ち直っていくというストーリーで、上映時間約一時間の八ミリとしては長編になつた。台風の中での新宿ロケや早朝の九十九里浜での撮影などは忘れ難い。

一九八六年には、管理化が進んだ未来の学園を描いた「CRISIS

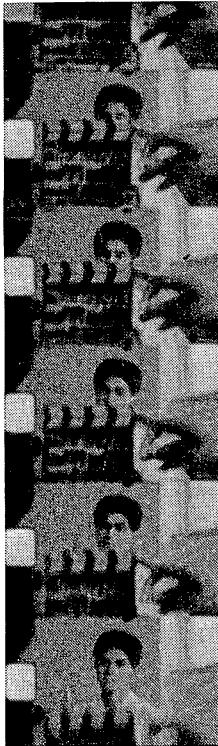
POINT」(脚本・山田浩・加藤功、監督・加藤功)を製作。また、一月三〇日には、成田高、成田西高の映画研究部と合同で、市立成田図書館のホールを借り、三高合同上映会を行い交流をはかつた。

一九八七年は、部員が少なく、短編の製作・上映にとどまつた。

一九八八年には、部員数も増えて、夏の高原(風土紀の丘を高原にみたてて撮影)を主な舞台に気弱な高校生の恋をコメディー風に描いた「夏色の風」を作成。映研としては新しいジャンルに挑んだ作品であるが映画製作の経験者に乏しく、準備不足もあって、内容的にもの足りない作品となってしまったのは残念である。

一九八九年は、一年生の脚本・監督(中山宗徳)による「点と線」(写真)を製作・上映した。これは、学校でおこつた自殺未遂事件に疑問をもつた二人の男子生徒が、独自の捜査を進めて眞実を追求していくという話で技術的には未熟な点も少なくない作品であるが、高校生の恋愛や友情といった人間ドラマに焦点をあてた意欲作で、多くの生徒や先生方の協力もあって、黎明祭では好評を得た。この年、活動の一層の充実をめざして、生徒会に部設立を申請して承認された。現在は、部員の数も増え、より本格的な映画作りをめざして部員一同はりきっている。

(文責 小倉 晶文)



「点と線」の一場面

科学部

沿革一成田北高10年のあゆみー

科学の進展は、現代を生きる人間に多かれ少なかれ影響を与えていた。科学技術の進歩は、人間生活を便利にし、豊かにしている。しかし、反面、人間生活を不快にし、人間性を喪失させていく。こういう時代に、身近な事物、現象に興味と関心を持ち、そのしくみ、理論を自分なりに考えたいと若者が集まつた。そして、科学部が創設された。

主な活動内容

◎創設当時は、部員数は少数で、顧問を中心に、自然の現象について調査、実験が行われた。

◎昭和六十一年度（顧問）梶本一之、（部長）湯浅佳成、（部員）八名
三年生が一名、一年生が七名の構成。この年は、成田市内を流れる根古名川流域、印旛沼の水質調査、岩石標本の製作、市販飲料水のpH測定などの活動を行い、黎明祭に調査研究を展示した。

◎昭和六十二年度（顧問）梶本一之、（部長）前期 高野彰二、後期 山本雅子、（部員）一二名

この年より、天体観測を行うようになり、夏に初めて校内合宿を実施した。部員数も増加し、部活動も定期的に行われ安定してきた。黎明祭では、星座の写真なども展示された。

◎昭和六十三年度（顧問）梶本一之、（部長）上野祥子、（部員）一二名

夏には、長野県飯綱高原で合宿を行い、前年度よりはじめた天体観測を充実させた。黎明祭では、天体写真、ジャンボシャボン玉の研究、自作太陽系モデルなどの展示をし、内容も豊富になつた。

◎平成元年度（顧問）藤井章裕、（部長）上野祥子、（部員）一七名

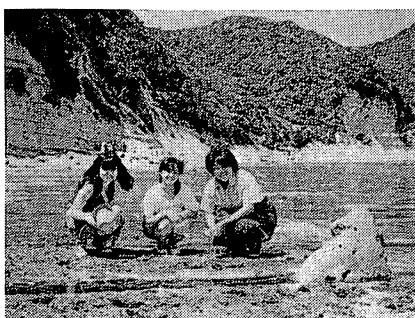
部員数はさらに増加し、活動にも活力がでてきた。この年は、環境問題にも取り組み、フロンガス汚染の実態研究、廃油利用セッケンの製作、家庭用洗剤の安全な使用に関する研究を行つた。さらに、天体観測、クレヨンの製作などを行い黎明祭で展示した。生徒の自主的活動も多く見られるようになった。

◎平成二年度（顧問）渡辺 潔、藤井章裕、（部長）小林泰子、（部員）一六名

残念なことに一年生の入部者はいない。この年は、夏に千葉県天津小湊町で合宿を行い、海辺の生物調査を行つた。さらには、前年度に引き続き、環境問題に取り組み、植物の生育とpHの関係を研究した。そのほか、鏡の製作などを行い黎明祭に展示した。

部員は、実験・観察などの活動を通じ、科学的思考力、表現力を身につけ、人間の幅を広げている。

（文責 藤井 章雄）



生物調査（於・上総興津）



実験の光景

電 気 部

電気部の十年 創設・昭和五十七年四月

顧問・尾形肇・江波戸好文

(年度)	(部長)	(部員数)
(五十七年)	大竹達哉	三名
(五十八年)	早川竜太郎	八名
(五十九年)	佐藤智徳	一五名
(六十一年)	山田浩	一九名
(六十二年)	山田浩	一六名
(六十三年)	森賢治郎	一三名
(元年)	鈴木義隆	五名
(二年)	照内嘉治	一八名
		一二三名

回顧

電気部は、開校二年目に、アマチュア無線技士（通称ハム）の免許を持つ生徒から部結成の申請が出され、職員「尾形・江波戸・大木・香取（良）～有免許者」を理事として、関東電波管理局に団体無線局を申請し、J I I Z F N のコールサインを取得して、成田北高アマチュア無線局として誕生した。

当初は、何も設備がないので、無線機やアンテナ等は顧問の私物を持ち寄って運用した。その後、部費での購入や卒業生からの寄贈等で、HF帯からVHF帯までの運用可能な無線機や、リモコンで方向を変えられるアンテナが揃い活発な活動が始まった。

全盛期には、近隣高校の無線クラブとの交信はもちろん、車に無線機を積んで高校周辺を通過するアマチュア無線家との交信、条件が良ければ国内全域、そして特殊な無線用語を駆使することで地球の裏側の人たちとの交信も行われた。その名残がお互いに交換しあった数百枚の交信カードとなって部室に保管されている。

運営上の悩みのひとつは部室の確保である。最初は空き教室がたくさんあつたので、その教室をあてがわれ、そこに合わせて屋上にアンテナを立て、そこからコードを引き回して運用するのだが、教室として使用することになると別室に移動、アンテナもまた立て替える。この繰り返しの末、現在の場所に一応落ち着いたが、ここは本来、社会科第二準備室（資料室）なので、今だ仮住居なのである。

ふたつめは、無線機の操作には免許が必要なため、入部者に免許取得者がいないと、活動不能になり、せっかくの無線設備が埃をかぶってしまう状況になること。

そこで、入部者が激減した折りに部員獲得の窮余の策として、電気部という名称から、電気に関連すれば何でも受け入れようとの方針で、オーディオ・電気工作・パソコンから、ラジコン・鉄道模型まで手懸けたこともある。その結果、部員は増えたが、本来の無線関係が隅に追いやりられて、模型クラブか廃品再生クラブといった相を呈し、研究の場とうより、放課後の雑談に明け暮れるサロン化してしまった。

やがて時代の流行が部活動にも押し寄せ、今や入部者のほとんどが、パソコン志向で、ゲームやコンピューターミュージックのプログラム作りに没頭している毎日である。

しかし活発に活動している部員をみるのは顧問として嬉しいことである。無線にしても、パソコンにしても、極めるには奥深い趣味なので、

流行に流されず、創造的研究心を持つてより有意義な活動をして欲しいものである。

(文責 尾形 肇)

平成元年度 一部、銀賞

追記

平成元年度後半より、第一回定期演奏会の開催に向けての準備を始め、平成二年六月十七日（日）に成田国際文化会館において六〇〇人近い聴衆を集め、成功裡に終わることができた。この演奏会を契機にさらに発展していくこうと、現在、部員一同練習に励んでいる。

吹奏楽部

創設 昭和五十五年四月

吹奏楽部は、開校の年に平野優子さんが中心となり部員を集め、また斎藤（旧姓上原）教諭が顧問となり活動を開始し、校内各行事における演奏のほか、成田ニュータウン秋祭りや、吹奏楽コンクールなど、校外における演奏活動を行ってきた。

一時期、部員数が激減し、吹奏楽コンクールなどへの出場も見合わせるなど、危機的な状況を迎えたこともあつたが、その危機も、部員たちの努力により乗り越えることができ、平成元年度には再び吹奏楽コンクールに出場し、同年、個人コンクール印旛地区大会に出場した河合里実さん（二年）が、サクソフォーン部門で金賞を受賞するなど、技術的にも向上しつつある。

主な活動

- ・各年度 野球応援、黎明祭、予饗会、卒業式での演奏
- ・成田ニュータウン秋祭りでの演奏
- ・成田プラスの祭典参加（昭和六十三年度より）
- ・吹奏楽コンクール出場
 - 昭和五十七年度 一部、優秀賞
 - 昭和五十八年度 一部、優秀賞
 - 昭和五十九年度 一部、優秀賞
 - 昭和六十年度 一部、優秀賞



第一回定期演奏会

	顧問	部長
昭和55年度	斎藤	平野 優子
56	斎藤	伊勢島奈穂美
57	斎藤	伊勢島奈穂子
58	斎藤	野島由里子
59	小松	野島庸治
60	小松	伊藤清子
61	山野井	岩井綾
62	山野井・小松	斎藤
63	山野井・小松	宮内岳太郎
平成元年度	山野井・梶本	高橋崇
	梶本	山内孝仁

(文責 梶本 一之)

美術部は開校三年目を迎えた昭和五十七年に創部され、その後三年間の間に、その活動の骨組みは確固たるものとなつた。部活動の中での創作作品は、主に、油絵とデザインの二つに大別される。

主な活動

学出品（油絵・彫刻・デザイン）

全日本学生美術展品（油絵）

全国高校生デザインコンクール出品

読書感想画コンクール出品

全国高校生ポスター・油絵・写真・映画コンクール出品

印象に残る作品群

創部以来、前記の展覧会・コンクールに多くの作品群を出品して来たが、今一步のところで、賞候補にはなるものの、入賞はならなかつた。それを打ち破つたのが昭和六一年の学展であつた。油絵部門で照め

ぐみ、デザイン部門で加藤功が入賞を果たしたのがよい刺激となつたものである。同年には、第一回関東地区読書感想画コンクールに於て、加瀬大介の「ビルマの堅琴」が優秀賞に、五十嵐扶由子の「黒猫」が油絵賞に輝いた。昭和六十二年には、学展で森洋一の「変化のある空」が油絵部門で、加瀬大介の「自由キネマISM」がデザイン部門で学展大賞に輝いた。第二回関東地区読書感想画コンクールでは、加瀬大介の「最後の一句」が二年連続優秀賞の栄に輝き、これらの実績が評価され、年度末に森洋一・加瀬

大介が教育奨励賞、千葉県議会児童生徒表彰を受けた。昭和六十三年は、学展で丸山かおるの「坂」が高校の部優秀賞を受賞、学展大賞に次ぐ賞に輝く。そして近年最も印象に残る作品と言えば、やはり、岡由美子の「悲しみの大陸」（別掲）であろう。この作品は、千葉県読書感想画コンクールで最優秀賞の栄誉に輝き、更に、読書感想画中央コンクールにおいても、高校の部最優秀賞を受賞。平成元年度の読書感想画コンクールのトップに立つたのである。この受賞により、教育奨励賞、千葉県議会児童生徒表彰も受け、嬉しいニュースとなつた。

（文責 斎藤 公美子）

賞に次ぐ賞に輝く。そして近年最も印象に残る作品と言えば、やはり、岡由美子の「悲しみの大陸」（別掲）であろう。この作品は、千葉県読書感想画コンクールで最優秀賞の栄誉に輝き、更に、読書感想画中央コンクールにおいても、高校の部最優秀賞を受賞。平成元年度の読書感想画コンクールのトップに立つたのである。この受賞により、教育奨励賞、千葉県議会児童生徒表彰も受け、嬉しいニュースとなつた。

書道部

△創設△昭和五十七年

（年度）
昭和五十七年
（部長）
赤間 賢二

（顧問）
津本 英昭

（顧問）
寺川久美子

（顧問）
岡田 紀子

（顧問）
高橋 典子

（顧問）
斎藤 容子

（顧問）
山内 美和



黎明祭の展示

△活動内容△

- 千葉県高等学校総合芸術祭（千葉県立美術館）への参加
- 黎明祭書道展
- 千葉県小中高校席書大会出品

大介が教育奨励賞、千葉県議会児童生徒表彰を受けた。昭和六十三年は、学展で丸山かおるの「坂」が高校の部優秀賞を受賞、学展大賞に次ぐ賞に輝く。そして近年最も印象に残る作品と言えば、やはり、岡由美子の「悲しみの大陸」（別掲）であろう。この作品は、千葉県読書感想画コンクールで最優秀賞の栄誉に輝き、更に、読書感想画中央コンクールにおいても、高校の部最優秀賞を受賞。平成元年度の読書感想画コンクールのトップに立つたのである。この受賞により、教育奨励賞、千葉県議会児童生徒表彰も受け、嬉しいニュースとなつた。

。千葉県小中高校書初大会

(千葉市) 参加

- 。毎日競書(月一回)への出品
- 。成田山全国競書大会への出品
- 。「書芸大観」への出品

。書道検定受験

毎月の競書出品を軸にしながら、大会、

書道展の作品づくりをしている。黎明祭の

作品は大作が多く作品点数も多いので、それにむけて夏休みに合宿をしたり一日練習を何日も続けたりして作品仕上げをしている。こうして出来上った作品を昭和六十一年度からは開放講座の方々の作品と共に黎明祭書道展に展示している。また北校舎玄関を始め、応接室、会議室、書道室廊下等、校舎内でも常時、皆様に鑑賞していただいている。



鬼澤裕子
平成2年度小中高席書大賞受賞(千葉県教育長賞)
会員主催

裕子さんが県教育長賞にかかる。昭和六十三年度、第七期卒業生の記念品が校歌レリーフだったがその校歌の揮



平成2年度書初大会

毫を大木田由美子さんがしてくれたのも記憶に新しいところである。

書道は一朝一夕に上達するものではなく根気を必要とし、部活として地味なものであるが生徒達は良く頑張ってきたと思う。これからもこの北高書道部から書を愛する者が生まれ、育つてくれる事を願っています。

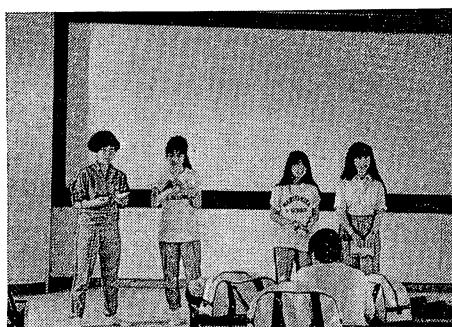
(文責 山内 美和)

演劇部

昭和五十九年四月、二年生の女子四名で発足した。文化祭公演にむけて、台本研究と基礎トレーニング、发声練習にはいった。中学生時代に多少の演劇経験はあったようだが、演劇そのものに対する知識は乏しく舞台に上ることしか考えていないようで、肉体訓練や、基礎トレーニングの重要性を理解させるのに苦労した。そんな理由から、千葉県の代表校として全国演劇コンクールに参加し優秀な成績をあげていた、県立二和高校と合同練習を行った。しかし、あまりにきびしい基礎練習に驚いてか、何人かの部員がやめてしまい、文化祭の公演そのものが、あやぶまれる事態となつた。急きょ、七月に裏方を募集し、ようやく谷川俊太郎作の劇中劇「部屋」を体育館で公演した。この第一回公演は、なんとか成功したもの、残つた部員が、たつた二名となり、めだつた活動ができない状態となつた。

昭和六十一年度になつて、はじめて三年生の男子三名と二年生の女子二名から、文化祭に何か公演したいとの申し出があり、六月より黒羽英二作「エレベーター」という作品に取り組み視聴覚室を会場に公演し

うやく同好会の体裁を整えはじめた。文化祭は音楽室に小劇場を作り、西沢周市作「ナナハン・ララバイ」をアトリエ公演した。公演で一番苦労したことは、会場が音楽室のため照明機具がないことであった。そのため三年生のA君が、ラーメン屋から空カンをもらいうけて来て、それで照明を作った。役者達の熱演が、観客の心をとらえたのか、中にはハンカチで目頭をおさえて見ている父兄の姿もあり印象的であった。



練習風景

平成元年には、部員も一年生を含めて一一名となり、一段と演劇部らしくなった。長年、部員達の念願だった部昇格も認められ、それを機会に千葉県高等学校演劇連盟に加盟した。またこの年は、第二十四回関東大会の運営実行委員として、二年生を中心参加した。東京・神奈川をはじめ、関東全県下よりの代表校の発表会だけに、実行委員の失敗は許されず、裏方の仕事に色々まごついたり、苦労が多かつたが、各県の代表校生徒の演技や、舞台作りのすばらしさ等に、学ぶことが多かったようだ。それが直接刺激になつたのか、ブロック大会ではじめて上演するには、むずかしいと思われる如月小春作の「DOLL」を台本に選択し

てきた。むずかしいというのは、この台本でブロック大会に参加するとなると、公演時間が二時間以上かかる台本内容を大幅にカットしなければならず、大会規定の三〇分に縮めるには、かなりの無理があるという不安が残るからであった。ともあれ、文化祭では音楽室で二回公演し、十月七日に、八街町中央公民館で、は

じめてブロック大会に参加した。はじめての学校外公演と、なれない公演会場でのリハーサル不足も手伝つて、満足のいく公演ではなかつたが、色々な意味で大切な経験をしたと思った。（文責 篠崎 昌美）

英会話部

顧問 小松英三郎 武田浩一 根本直美

年度	顧問	部長
五十六	三矢しのぶ	石山 久美
五十七	三矢しのぶ	一一名
五十八	三矢しのぶ 土戸 富子・大野 冬彦	四名
五十九	高嶋久美子	八名
六十	相馬 幸恵	八名
六十一	福田 静	八名
六十二	近藤真由美	七名
六十三	高木 満江	一〇名
元	小松英三郎・中島 洋美	

創設は昭和五十六年四月である。開校二年目より三矢先生の赴任とともに発足した英会話部は、未だ部の備品は何もなく、顧問所有のタイプを替わる替わる借りて練習していた。また、マザーグース等、テープを聞きながら英語の歌の練習をしたり、アメリカやインドの人たちと海外文通をしたりした。五十八年のスピーチコンテストには三名出場し、そのうち二名が県大会出場となつた。また五十九年には、県下の商業高校が主に出場する英文タイプ競技大会にも三名出場した。六十年には日本商工会議所主催の英文タイプ検定にも挑戦し、C級・D級・E級に二名合格した。また六十三年度にはE級に二名合格した。



英語劇のひとこま

校内の活動の文化祭時には一年目、二年目は展示を主とし、視聴覚室を使って海外をスライドで紹介した。五十八年には体育館のステージで英語劇「裸の王様」を演じた。これは自分たちで原作を翻訳して脚本をつくり、演出・衣裳作り等もすべて自分たちでやった。五十九年に「ハーメルンの笛吹き」も同様に自作自演し、六十年には「雪の女王」を上演した。

翌六十一年度には「クロスワード・パズル・宝物さがし」をした。校舎内の何箇所かに問題を忍ばせておき、それらを捜し当てる問題を解いていくというゲームで、賞品も用意してあり、三〇人くらいの人の参加者があった。

六十二年度は、体育館ステージの使用がむづかしくなり、教室での展示に切り換えた。「不思議の国のアリス」の世界を、教室を四つに仕切って再現した。

六十三年度は教室で英語劇を発表（写真）することを目指し「日本むかしばなし」の中より「舌きりすずめ」を脚本化、英訳し、演出もすべて自分たちの手で行つた。英語科の佐瀬先生には照明・音響の手助けを、数学科の宮部先生には心のやさしいおじいさんを歓待するすずめ役を演じていた。

六十三年度にはカナダのテリーさんが隔週一回英会話部に来て、カナダの学校、行事そして習慣について説明し、英会話の指導に当たってくれ

た。
元年度は、九月から英語指導助手として本校に赴任したイギリス人のパトリシア・オーロッククリンさんが毎週英会話の指導をしてくれた。
(文責 土戸 富子)

運動部

バレー・ボール部（男女）

創設 昭和五十五年四月

年度	男子顧問		女子顧問		主 將	部 員
	主 将	部 員	主 将	部 員		
五五	川合	千葉	千葉	石井	本間	本間
五六	丸山	斎藤	千葉	小松	内海	金剛
五七	椎名	堀井	石井	丸山	坂口	濱口
五八	椎名	浦橋	石井	大八木	葛生	大塚
五九	梅木	長谷部	内海	丸山	葛生	葛生
六〇	梅木	若松	金剛	二〇	向・石渡	向・石渡
六一	梅木	涌井	坂口	二二	今村・石渡	今村・石渡
六二	梅木	若松	濱田	一九	大八木	大八木
六三	石渡			一九	丸山	丸山
				一九	丸山	丸山
				一九	丸山	丸山
				二〇		
				二二		
				一〇		
				一一		
				八八		

連続の県大会出場を果たしている。

男子バレー・ボール部の特徴は、伸び伸びとしたコンビネーションバレーであり、速いバレーを目指し、それが出来つつあるところから県大会出場の常連となつたのではないだろうか。

一方、女子バレーが、長い低迷から脱し、まさに、昭和から平成へと変った本校飛躍の年に県大会出場を果し、着々と実力を自分達の伝統に築きあげつつあるところである。そのバレー・ボールは、男子とは少し趣きを変え、粘りのバレーと言えよう。粘り強いレシーブから、セミオーバン、速攻へと元気よくつなげていくバレーは、高校女子バレーの基本を着実に身に付けることに専心したおかげではないかと考えている。

この数年は常に県大会へ出場するまでのレベルに向上して来た。技術的な面はもとより、精神的な部分で伸びる可能性を充分に秘めているので、県大会三回戦突破（ベスト16）を目標に地味な練習で精神面を鍛え部員一丸となって頑張っている。

（文責 向井 秀男）

創設当時は体育館もなく、土のコートの上で、汗と泥でウェアを黒光りにさせながら、照明器具もないのに、道路の街灯を頼りに、夜八時頃までレシーブ練習をしたとのことである。

創部二年目の秋にブロック大会を勝ち抜いて男子が県大会へ出場した後、戦績は暫く低迷を続けるが、男子は六十二年度新人戦・六十三年度

総合体育大会・新人戦・元年度総合体育大会・新人戦・二年度総合体育

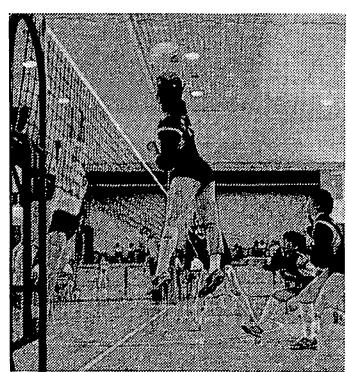
大会と六回連続の県大会出場を果たしている。

女子も元年度の総合体育大会・新人戦・二年度の総合体育大会と三回

野球部

「三回戦突破をめざして」

野球部は昭和五十五年学校創立と同時に設立されたが、グラウンドが整備され本格的に練習ができるようになったのは、五十七年ごろからであ



平成2年度千葉県高校総体に出場



天台球場にて

る。一期生の部員が三年になった五十七年度、夏の大会で公式戦初勝利をあげ、翌五十八年には秋の新人大会で予選を勝ち進み、初の県大会出場をはたした。五十九年にはグランドの工事が行なわれ、練習環境も整つてきた。

六十一年夏には、主将・颯佐光洋君がサイクル安打をはなつなどの活躍で一回戦を勝ち進んだが、二回戦で強豪市立船橋高校に破れてしまつた。六十二、六十三年の夏には、共に三回戦まで勝ち進みながら、力及ばず敗退している。

平成元年の夏には、テレビ放映の中、一回戦で優勝候補の野田北高校を三対一で破り、成田北高校野球部の名をおおいに高めた。キーナン、五十嵐投手などの活躍で上位進出の期待がかけられたが、二回戦でC

シードの安房高校の前に涙をのんだ。

こうした中、昭和六十三年七月には野球部

後援会が結成され、三年生部員の保護者である川崎貞男氏が会長となり、グランドの照明設備をはじめとして組織的な支援をいただいている。さらに平成元年七月には父母会が発足し、部員の保護者同士の理解と親睦をはかり、物心両面から部員たちの大きな支えとなつてきてている。

創立十周年をむかえ、今日の練習環境のもと、三回戦突破の目標を達成すべく好きな野球に思う存分打ち込めるのも、OB諸氏の活躍と、野球部後援会、父母会、地域の方々のご理解ご支援のおかげであり、応援に携わ

つていただいた方々、ならびに歴代の顧問の先生方のご尽力があつたればこそと、深く感謝いたします。

創部 (年度)	昭和五十五年四月	(顧問)	(部員)
昭和五五		伊藤・川合	戸井
昭和五六		伊藤・石渡	戸井
昭和五七		石渡	一九
昭和五八		石渡	二〇
昭和五九		石渡	一七
昭和六〇		加瀬・石渡	二四
昭和六一		加瀬・石渡	二三
昭和六二		加瀬・石渡・渡辺	二五
昭和六三		加瀬・渡辺	三〇
昭和六四		大木	三三
平成元		五十嵐	三六
平成二		林	
主な活動成績			
昭和五十七年度	全国高校野球選手権千葉県大会三回戦進出	島崎	
昭和五十八年度	秋季県高校野球大会県大会進出	佐藤	
昭和五十九年度	春季県高校野球大会県大会進出	大塚	
昭和六十一年度	全国高校野球選手権千葉県大会三回戦進出	戸田	
昭和六十二年度	同 二回戦進出	颯佐	
昭和六十三年度	同 三回戦進出	中林	
第八回北総地区高校野球大会準優勝			
平成元年度	全国高校野球選手権千葉県大会二回戦進出	（文責 渡辺範夫）	

バスケットボール部

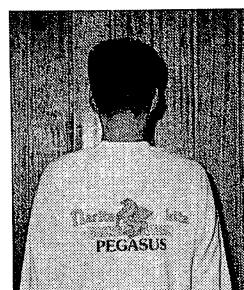
翔べ・走れ!! ペガサスの如く…

創部五十六年四月

バスケットボール部は開校当初から設立が強く望まれた部であったが、設備等の関係もあり、一年遅れで発足し、体育馆の完成した七月以後、本格的な活動となつた。創部時から真鍋先生が顧問として男女両方の指導を行ない、山崎先生がこれを補佐した。五十八年には、女子の顧問として志田先生が指導に加わった。六十一年からは、男子を米山先生、女子を志田先生が顧問として指導。六十三年以後は大沼が男女共に指導することとなり、小早志、米山、矢野の各先生の協力を得て、今日に至つている。

明るく・楽しく・心をこめて—With all of my heart!—

バスケットボール部のシンボルは、校歌の詞句にあるペガサスである。六十三年にこれをシンボルとしてユニフォームの中に生徒の手によるデザインが描かれ、元年以後は、チームTシャツにも別のデザインでプリントされている。ペガサスの如く、高き天空を目指し、伸び伸び、颯爽とコート内を走り、翔び、ゴールへと!をイメージしたものである。創部十年を迎えた今日、このチームニックネーム——成田北ペガサス——は生徒にも浸透し、常に飛躍を目指した日々の活動の糧となつてゐる。バスケットボールという競技を愛する者たちの集団であるこのチ



ユニフォームにペガサス

ームは、試合の時だけでなく、常に明るく、楽しく、心をこめてバスケットボールを楽しんでいます。殊に、社会科、数学科の先生方には準備室の関係でご迷惑をおかけしているのではないかと思うのだが、シートが入った時や良いディフェンス、ナイスプレーに対しては、自分達が自分達のチームを育てる目的もあり、大きな声で互いに讃め合い、喝采し、練習時でも、ガッツボーズ、ハイタッチ、ウェイプがとびだす賑やかなチームである。明るく、楽しくというのは、案外たやすいことなのかも知れないが、そこに「心をこめて」スポーツをする、練習をすることでチーム力を徐々に付け、勝利の喜びを知り、更に楽しいスポーツを目指すことを学んだ選手達に拍手を送りたい。

五年目から十年目への飛躍——主な試合を振り返る

創立五年目までは男女共に目立った戦績もなく、チームの基盤を築く時代であったようであるが、五年目を迎えた六十年の新人戦の頃から、男子は地区予選の代表権を争うまでになり、六十一年には、堂々と県総体の出場を果していいる。しかし、県大会では、当時常にベスト8に顔を見せる勢いの船橋芝山に完敗。その後、男子は、常にブロックの代表決

定戦に出場する力を備え、殊に、六十三年の総体予選では、前年度までの先生方の指導もあり、新人戦で完敗していた佐原を破り、代表決定戦で成田と対戦。残り二分で逆転するものの再逆転をくり返す展開の中、力尽きて惜敗。その後も各予選で代表決定戦まで駒を進めるのだが力及ばず敗退している。

さて女子の方はこの好ゲームを目の当たりにしたのが、刺激となつたのだろうか、昭和から平成に変る十年目の飛躍のプロローグは、この年になつた。各種大会で守りを覚え「勝つ」味を知り始めたのである。平成元年は、女子の大きな飛躍の年となつた。八月の北総大会では印

旗に惜敗したものの、九月の印旛郡市選手権で雪辱を果し準々決勝に駒を進め、佐倉南（県総体ベスト16）を破り、三位入賞を成し遂げた。その勢いもあり、新人戦ブロック予選では、その年チーム力ナンバーワンと評価されていた小見川とすばらしい戦いを展開。前半、高橋・山村のディフェンス・三点シュート、富井・川瀬のゴール下、桧垣の速攻・両藤田のムードメイキングのシュートなどで一七点をリード、底力のある小見川に後半追い付かれ、延長となるものの谷口の三点シュートで小見川に止めを刺し、更に古賀佐原女子に準決勝で完勝、決勝では惜しくも成田西に敗れたが、初の新人戦代表権を獲得し、県大会に出場。一月に行なわれた新人戦県大会では、一回戦前記小見川戦でのメンバーの活躍もあり市川東に勝ち上り、全国トップレベルの昭和学院に挑戦、大差で敗れたものの、けれん味のない高校生らしい戦いぶりであった。

更なる飛躍を目指して——天翔るベガサスとなれ——

昭和に啓蒙された面は多く、平成二年度になってからも女子は総体ブロック代表となり、松戸東に惜敗したが、チームの良い面は次代に受け継がれた。守りを重視し、切り返しての攻撃力も増し、男女共に新人戦での県大会出場、ベスト16・ベスト8を目指してのチーム努力が続いている。強豪の東京学館・佐原女子の中にあって、新人戦の二つの椅子を獲得するのは、難かしいことだが、今、選手達は、天翔るベガサスの如く飛躍を目指している。

（文責 大沼 功）



平成元年度新人戦（対昭和学院）

サッカー部

サッカー部は、五十五年度学校創立と同時に部として設立され、高岡教諭の指導のもと、グランド・用具等は不十分であったが、その活動を始めた。公式戦は五十五年度新人戦から参加しているが、他校との実力差は非常に大きかった。創設後の一、二年は施設等の問題があり、充分に練習することができず、思うように成績が上がらなかつた時代であった。五十七年度に新しく顧問として、永藤孝一教諭（現成東高校）を迎えて、本格的にサッカーの練習が始められた。個人技・組織プレーの向上を目指して、永藤教諭自ら生徒と一緒にプレーをし、チーム全体のレベルアップを図った。また、グランドの改修工事・用具の充実にともなって、練習試合等も本校でも数多くこなすようになり、少しずつではあるが確実に実力をつけてきた。そして、五十八年度新人戦において、初めてブロック決勝まで進出した。

サッカーは、手を使わずに足等を使ってボールをプレーする競技なので、自分の思うようにボールを蹴つたり止めたりするという行為に慣れまるまでには、相当の時間がかかるものである。創設当時から五、六年は、高校に入学して初めて本格的なサッカーをする生徒が多く、チーム全体の力を向上させるには、並々ならぬ労力と時間がかかつた。ブロック予選決勝リーグの常連になるまでに六年、また、決勝リーグに勝つて県大会初出場を決めるのに、七年の歳月を待たなければならなかつた。六十一年度に高校総体ブロック予選決勝リーグを突破し、念願の県大会初出場を決め、ようやく日々の努力が実を結び始めてきた。松戸矢切に二一〇で敗れはしたものの、全国レベルのチームに善戦した試合であ

つた。

六十二、六十三、平成元年とブロック決勝へ進出するも、あと一步といふところで勝てず、県大会出場は果たすことはできなかつた。チーム力も着いてきた年だけに、改めて勝負の厳しさを痛感させられた日々であつた。

平成二年度は永藤教諭の転勤にともない、新しく鈴木博之教諭を顧問として迎えた年であった。四月の関東大会ブロック予選決勝は成田高校と熱戦を繰り広げ、PK合戦（九人目で決まる）の末、県大会出場を果たした。県ベスト32。

部創設十年を迎へ、いよいよ県上位進出を狙えるチームになつてきた。ここまで道程は陥しかつたが良き指導者に恵まれ、また、保護者各位の理解と協力があつたればこそと思う。これからも我がサッカー部は、日々の練習に精進し、ベスト16、ベスト8を目指してがんばつていきたいと思います。あたたかい御支援御理解をお願いいたします。

（文責 池田 三男）

創設 昭和五十五年四月

年 度	顧 問	主 将	部 員
五十五年度	高岡	永藤	永藤
五十六	高岡	永藤	永藤
五十七	高岡	安藤	安藤
五十八	〃	野 村	〃
五十九	大熊	桜井	二〇〇名
六十	鈴木	松崎	二五名
六十一	・	鹿島	二六名
六十二	池田	永藤	三〇名
六十三	・	永藤	三二名
二元	池田	永藤	四〇名
二元	鈴木	岩城	四八名
二元	・	石井	四一名
二元	池田	大木	五六名
二元	・	鈴木	四六名



練 習

硬式テニス部

硬式テニス部は本校開校と同時に設立された。初代顧問津本英昭教諭のもと、男女両方の活動が始まった。活発な活動が行われ、個人戦で何度も県大会へ出場した。その後、女子のテニス部がなくなり、男子のみの活動が続いた。ここまでが第一期のテニス部の時代と言える。

そして、六年目の四月からわば第二期の時代が始まった。その年はブロック予選で敗退の試合が続いたが、翌年からは新一年生の活躍により戦績は一変した。昭和六十一年度に入部した一年生には、中学時代軟式テニス部員として県大会へ出場した生徒が三名含まれていた。その三名を中心に、その年の新人大会では早くもブロック予選を通過し、県新会へ出場した。それ以後今日まで、春の県総合体育大会、及び秋の県新

人大会において団体戦では全て出場を果たしている。なかでも、昭和六十二年度の県新人大会において、部の歴史の中で最高の成績である団体戦ベスト16進出を果した。一回戦拓大紅陵高校、二回戦清水高校を連破した。三回戦ではシード校で強豪の市川学園高校に完敗したが、部員たちの胸の中には、素晴らしい大会として強く印象に残った。その時の中心メンバーであった鈴木隆宏君と滝田豊秀君の並々ならぬ努力と、テニスにかける情熱は今でも忘れられない。その二人は翌年更に飛躍をとげた。昭和六十三年度県テニス協会主催のジュニアスマーテニス大会において、両君共一八歳以下シングルスに出場、予選四試合を突破した。滝田君が本戦一回戦、鈴木君が二回戦まで進んだ。また、二人がペアを組んだ一八歳以下ダブルスにおいては、予選四試合を突破し本戦へ進んだ。本戦においても一、二回戦を勝ち進みベスト4に進出した。準決勝

で優勝ペアに敗れ、三位決定戦でも惜敗したが、県のレベルで第四位の輝かしい成績を残した。この伝統は後輩にも引き継がれ、ますます部は発展していった。昭和六十三年度の県新人大会においては、ダブルスでは初めて、山田・川島組が出場した。また昭和六十四年度春の大会では、シングルスとして初めて、山田秀樹君が県大会へ出場し二回戦まで進んだ。また同年夏のジュニアサマー・テニス大会では一六歳以下シングルスにおいて、一年生の藤崎秀幸君が予選三試合を突破し、本戦二回戦へ進出した。更に同年十一月に行われたブロック一年生大会において、百余名の参加の中、同君が見事シングルスで優勝を果した。

以上、本部の主な戦績をたどってきたが、確実に部としての歴史と伝統を形成してきていると言え。心の底からテニスを愛し、自らの意志で積極的に部活動を行ってきた彼らの姿は、まさに高校生の部活動の姿として素晴らしいものであると言えよう。

今後も、その姿勢を変えることなく、北高校硬式テニス部のますますの発展を願つてペンを置く。

(文責 中川 真伸)



練習風景

剣道部

五十五年度学校創立と同時に剣道部が設立された。この当時は、体育馆も剣道場もなく、練習はグランドや校庭で素振りや、トレーニングぐらいしかできなかった。五十六年度は、七月に待ちに待った格技場ができ、やっと剣道部らしい部活動ができるようになった。この年から講師も厳しく指導され、剣道部の基礎を作つていただいた。五十七年度は、顧問が国本正美となり、部員も増し、朝稽古・放課後と二回行われるようになり、五十八年度には、香取良和教諭も加わり、より一層充実した指導ができるようになつた。秋の新人戦では、ブロック大会を男子二位、女子一位で予選通過し、県大会でも女子はベスト16という、すばらしい成績を残した。またこの年の冬は、三度も雪が降り、雪の中の朝稽古という、千葉県らしからぬ寒さの中で活動したことが思い出深いものとなつた。

五十九年度は、総体で男子がベスト32校に入り、高体連剣道専門部から優秀校として推薦され、賞状をいただいた。これも前年の五月から始めた朝稽古と部員一丸となつての稽古の成果であろう。その後総体ベスト32校に、六十年女子、六十一年男子、六十二年男子と四年連続で入る



気合いをこめて

ことができたことに対する生徒の努力に頭が下がる思いである。現在我が剣道部は、日頃の練習を大切にし、部員一同力を合わせて、各大会に臨んでいる。最終的にはインターハイ出場を目標にし、今後は、部員数の拡大にも力を入れ、さらに活気ある部活動にしてゆきたいと思っている。

創設 昭和五十五年四月

年 度	顧	問	主	將	部 員
五十五	富田 金秋	△男子▽	△女子▽		
五十六	富田 金秋 国本 正美	小林 博明 鈴木 根本	根本 敏子		一〇名
五十七	国本 正美	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		一〇名
五十八	国本 正美・香取 良和	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		二三名
五十九	国本 正美・香取 良和	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		二八名
六十	国木 正美・香取 良和	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		一九名
六十一	国木 正美・香取 良和	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		一七名
六十二	国木 正美・香取 良和	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		二〇名
六十三	国木 正美・香取 良和	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		一六名
平成元	国木 正美・香取 良和	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		一七名
	井上 青木 雅宏・三木 和美	鈴木 博明 鈴木 根本	根本 敏子		二二名

(文責 国本 正美)

軟式庭球部

創設 男子—昭和五十七年四月 女子—昭和五十八年四月

顧問 江波戸 好文 青柳 親佳 谷ヶ崎 明子

本校は昭和五十五年四月に開校されたが、軟式庭球部は創設されなかつた。

当時は地元の成田高校が全国大会で大活躍をし、千葉に成田ありと強烈なアピールをしていた。その陰で、本校は創立三年後の昭和五十七年

四月に男子、昭和五十八年四月に女子ができた。部員は、男子六名、女子五名で寂しいクラブであった。技術的な向上より精神面の鍛錬に力を入れ、長期休暇中はもちろん日曜日にも他校へ合同練習をお願いした。やがて創立当初の部員が最上級生になると、部員数も男子一五名女子一四名と増え、活気がでてきた。夏二回、春一回の合宿訓練を礎に、県大会での上位進出を狙った。部員のチームワークと毎日の厳しい練習の努力が実を結び、昭和五十八年十月の県新人大会男子個人の部で、稻川・瀬川組が、五回戦まで進出、上位一六組に、また五十九年全国大会千葉県選考会で、関・益田組が決定戦で涙をのんだ。更に同年十月、県新人大会女子団体の部で藤村・谷ヶ崎(現本校軟式庭球部顧問)組を軸とするチームは、県大会初出場ながら準々決勝まで進出、第四位に入賞した。その後六十年、六十一年と部員不足に悩まされ、やや低迷を続けたが、昭和六十二年には、再び息を吹き返し、県総合体育大会女子団体の部で準々決勝まで進出。個人の部で、遠藤・松永組と大野・海保組が、四回戦まで進出、関東大会出場にあと一步のところで涙をのんだ。更に平成元年度県総体で、田中・五十嵐組が、平成二年度全国大会千葉県選考会で、二年生の小泉・伊藤組が決定戦で惜敗し、あと一步のところまで、それぞれ、関東大会、全国大会の切符をのがしてしまった。

現在男子一三名、女子一九名の部



練習に打ち込む

宜しく御指導御支援をお願いします。

(文責 江波戸 好文)

卓 球 部

昭和五十五年開校と同時に発足した卓球部は、当初体育館もなく空き教室に卓球台を置いてと、いう劣悪な条件のもとで練習した。

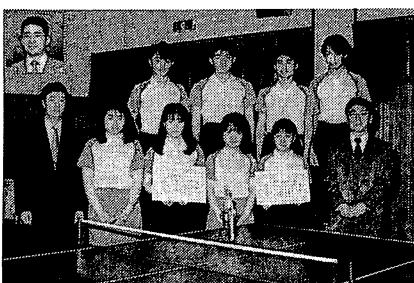
男子については五十七年、片貝が入部し、シングルス・ダブルス二種目で第七ブロック優勝、県大会においてダブルスベスト一六位と好成績を残している。その後五十八・五十九年と活躍している。五十八年に根本、五十九年に栗原・池田が入部するに至って部員の層も厚くなり、五十九年秋の新人戦ブロック予選において初の団体戦優勝に輝き、卓球部の全盛時代が到来した。六十一年は春・秋共に団体戦で県大会出場、特に春は県でベスト16に進出したが木更津中央高に敗退。六十一年から六十三年にかけてはシングルスにおいて村岡、本間、大木、木内、石井、山内らが県大会に出場している。六十一年春の総体ブロック予選では村岡・大木組がダブルス優勝、大木がシングルス優勝と目覚ましい活躍があつた。六十二年以降成田高と東京学館が台頭し、拮抗した試合で敗れ、団体戦で第七ブロック予選を通過するのが難しくなっている。

一方、女子については、中学の全国大会に出場した成田中出身のメンバーが所属している成田高が、他の学校に格段の差をつけてブロックに存在していた。残りわずかのポストをねらって北高がブロックで勝ち抜き六十年・六十一年と団体戦で県大会に出場した。またシングルスでは多田・根本らが県大会に出場した。

栄枯盛衰というべきか、六十三年度には、前年度県大会で団体戦ベスト4の実績校が部員二名という廃部寸前の状態に追いこまれ、一方北高

では宍戸・木ノ内・遠藤・佐々木が入部し、男子とは逆にチャンスが到来した。六十三年春の総体ブロック予選において、シングルスで宍戸優勝、秋の新人戦においてはシングルスで宍戸、遠藤県大会出場。平成元年秋の新人戦ブロック予選では、修学旅行から帰って翌日が試合という悪いコンディションであったが、四人で一番を棄権しながら団体戦優勝、ダブルス宍戸・佐々木組準優勝、シングルス宍戸準優勝、木ノ内県大会出場と素晴らしい成績を残した。創立五年目から十年目にかけて、女子については部員が少なく六十二年は部員が一名という状態にあった。県下の高校でも卓球人口が激減していることが悩みの種であるようだ。卓球の設備も充実してきており、六十二年には体育館一階に第二体育館ができ、卓球場にふさわしい立派な施設が完成した。卓球台も多数あるが部員数が少ないため十分活用されていないのが現状である。今後部員数を増やし県大会で上位の成績を残せるよう切磋琢磨することを願う次第である。

年度	顧問	問	部長
平成元	林	林	白井・林
五五	林	林・大木	品川・林田
五六	林	大木・大野	片貝・小川
五七	林・大木	大木・斎藤	根本・片山
五八	大木・大野	大木・斎藤	栗原・小澤
五九	大木・大野	大木・斎藤	本間・羽賀
六〇	大木・大野	大木・斎藤	木内・羽賀
六一	大木・大野	大木・斎藤	大徳・宍戸
六二	大木・大野	大木・斎藤・石田	松本・宍戸
六三	大木・大野	大木・斎藤・石田	斎藤・石田・大木
平成元	大木・大野	大木・斎藤・石田	斎藤・石田・多田



平成2年度3年生

(文責 斎藤 伸之・多田 敏)

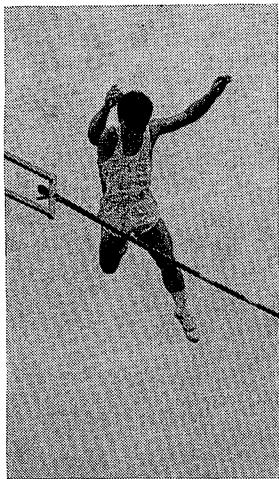
陸上競技部

成田北高校陸上部は学校創設と同時に、素人が一〇名程度集まつて設立された。当時はグラウンドも未整地で使用できないため、もっぱらニュータウンの道路を走ることが毎日のトレーニングであった。

その後徐々にグランドも整備され、用具も購入してもらい、部員もふえるにしたがい、部活動も盛んになった。二年目の五十六年には印旛駅伝に初参加して堂々三位に入賞することができた。

その後トラック種目も力をつけてきて、総合体育大会・新人大会でも地区予選を通過する者も数名でるようになつた。

五十九年度には、寺田君が県断続競走大会の三千米の部で第二位となり、次いで全国大会でも五位に入賞することができた。その後低調であったが、十年目の平成元年度の総合体育大会の棒高跳で小塩君が第四位に入賞することができ、陸上部として創部一〇年目にして初の関東大会に出場選手が誕生したのである。今後関東大会出場の常連校となるよう努力したい。

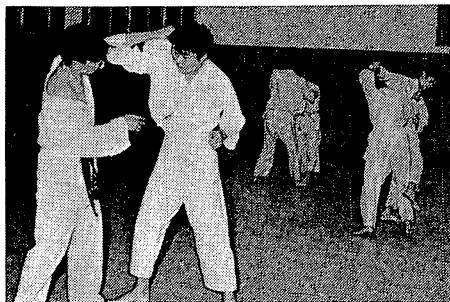


平成元年度関東大会 出場の小塩君

柔道部

部員數	主な戦績	部長	問顧	年度
一〇一	印旛駅伝第三位 県総合体育大会出場	木口政章	木口政章	五十五
一六二	寺田和好第五位 県断郊競走大会三千米の部	木口政章	木口政章	五十六
二二二	寺田和好第二位 全国断郊競走大会	木口政章	木口政章	五十七
二一〇	高橋健司 桶川親裕	木口政章	木口政章	五十八
一三一	高橋良高 石橋裕幸	木口政章	木口政章	五十九
一六一	田口忠 若林裕幸	木口政章	木口政章	六十
二二一	高岡・赤井 高岡・石井	木口政章	木口政章	六十一
二一五	高岡・石井・宮部 高岡・石井・宮部	木口政章	木口政章	六十二
一〇一	菅沢一雄 田口忠	木口政章	木口政章	六十三
一三一	高岡・石井・宮部 高岡・石井・宮部	木口政章	木口政章	平成元

柔道部の創設は開校当初に始まる。当時、新設高校の常として、校舎はすべて一度に出来ているわけではなく、南校舎があるだけであった。そのため生徒は屋外で練習をするという日々が続いた。その当時の生徒は、教室に畳をひいて練習しようとしたり、いろいろと工夫しようとしていたようである。三年目に柔道場が出来ると、本格的にいつでも練習が出来るようになつた。当時の生徒にとっては、とても思い出深い出来事だったにちがいない。



柔道部

うになり、精神的、技術的進歩が見られるようになった。

柔道の練習は、どうしても繰り返しが多くなる。単調な練習が続くことが多い。そんな中でいかに続けていけるかが、強くなる鍵になる。夏は、蒸風呂のような中で二時間も練習すれば、二キロは減る。冬は、凍るようななかで、畳は板のよう。投げられるたびに、傷みが背中を走る。冬には毎年朝練をおこなうが、このときはやはり辛いものである。それがまた、後でよい思い出になるのだが……。

柔道は、一時期ほどのブームではなく、人数が少ない時が多かった。

最近、漫画、アニメで『YAWARA』が人気だが、女子も最近は、柔道をやろうというものが多くなってきたようである。七期生では七人の女子が入部してきたこともあった。残念ながら、最後まで続いた者は少なかつたが、こういった傾向は望ましいと思う。柔道の底辺は、ぜひ広がってほしいものである。初期は試合出場者の全員が黒帯ということもなく、白帯のまま卒業していくものもあり、残念な思いをしたこと

多かった。最近は、全員黒帯で出場で

きるようになり、喜ばしい限りである。用具も、徐々にだが増えてきており、練習する条件も良くなってきた。

柔道部は、残念ながら、余り芳しい成績は残していないが、七期生の菅沢誠が九五キログラム超級で県でベスト8に残ったことが実績として残る。実績をあげるために、やろうという気概が三年間継続していくことが必要である。そして、沢山の生徒が、いつも

道場に集まって来るという状況がほしい。そして、OBの協力が。

これから柔道部が、さらに発展していき、より充実した部活動となつていくことを期待し、筆をおきたい。

(文責 大里 晃之)

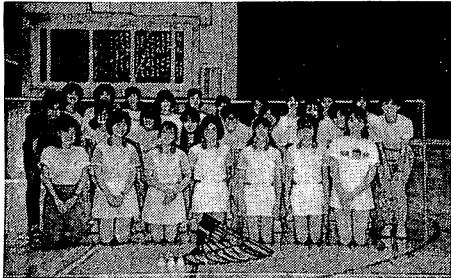
バドミントン部

現バドミントン部は、昭和六十一年六月、当時一年生の男女一五名の有志が集まり活動を始めた。その頃は、正式には「愛好会」としてさえ認められておらず、生徒が自分たちでシャトルやラケットを用意し、ピロティ（現第二体育館）や、正門前の駐車場を利用して、ただ打ち合うというものだった。もともと室内競技であるバドミントンを屋外でやるというのだから、風が吹けばシャトルが流れてしまい、また、ピロティでは高さが足りず、すぐに天井に当たってしまうという劣悪な条件での練習であった。

このような地道な努力が認められ、昭和六十一年十月、「バドミントン同好会」として正式に発足。だが、練習は相変わらず外であり、活動としては、まだまだ不十分なものであった。昭和六十一年秋、ピロティの改修工事が始まり、練習場所が一層限られるようになつた。しかし、第二体育館完成により、卓球部が移動することになり、周囲の方々の御協力を頂き、週三日、四分の一面ではあるが、体育館を使用できることになった。この頃から、同好会としての本格的な練習が始まった。また、三年生が引退後、二年生が女子しか残らなかつたため、これを機に、まずは女子部のみを作り、活動を充実させることとなつた。練習内容も、体育館では、技術・試合運びを中心とし、外では、体力作りに主眼を置いた。その年八月の北総大会、九月の東部地区大会と、初めて公式試合

に参加、なんとか二回戦に進出できるまでに成長した。同好会としての活動は充実してきたが、この頃までには、一年生が全員辞めてしまい、二年生も五名のみという細々としたものになってしまった。しかし、彼女らの熱意が認められ、昭和六十三年三月、部昇格の夢を果たし、新学期には、三名の新入生を迎えて存続の危機を乗り越え、新たなスタートを切った。けれども、それからの道程も、決して楽なものではなかつた。三年生引退後、一年生のみになつてしまい、その上、一一名が初心者だったため、なんとか試合ができるようになるまでには、夏休みになつていていた。練習試合をするにも相手が見つからず、中学校に申し込んだこともあつたが、結果は惨憺たるものだった。また、想像以上にハードなスポーツであるバドミントンに嫌気を感じ、辞めていく生徒もいた。

残った生徒で何度もミーティングを繰り返し、いかに部活動としての土台を築くかを話し合つた。その成果が少しずつ現われ、新入生を迎える頃には、次第に自主的な活動もできるようになつてきた。そして、平成元年夏のブロック一年生大会で、山内組が、ダブルスでブロック準優勝。創設以来初めて県大会に出場した。翌二年度、漸く部活動として全学年揃い、春の関東大会ブロック予選で、団体戦で四位入賞、総体ブロック予選では、個人戦ダブルスで、伊藤・山内組が三位、それぞれ県大会へ進出した。残念ながら、いずれも一回戦で惜敗し、県の壁の厚さを痛感した。しかし現在は、県大会一回戦突破



同 員 部

期には、三名の新入生を迎え、存続の危機を乗り越え、新たなスターを切つた。けれども、それからの道程も、決して楽なものではなかつた。三年生引退後、一年生のみになつてしまい、その上、一一名が初心者だったため、なんとか試合ができるようになるまでには、夏休みになつていていた。練習試合をするにも相手が見つからず、中学校に申し込んだこともあつたが、結果は惨憺たるものだった。また、想像以上にハードなスポーツであるバドミントンに嫌気を感じ、辞めていく生徒もいた。

残った生徒で何度もミーティングを繰り返し、いかに部活動としての土台を築くかを話し合つた。その成果が少しずつ現われ、新入生を迎える頃には、次第に自主的な活動もできるようになつてきた。そして、平成元年夏のブロック一年生大会で、山内組が、ダブルスでブロック準優勝。創設以来初めて県大会に出場した。翌二年度、漸く部活動として全学年揃い、春の関東大会ブロック予選で、団体戦で四位入賞、総体ブロック予選では、個人戦ダブルスで、伊藤・山内組が三位、それぞれ県大会へ進出した。残念ながら、いずれも一回戦で惜敗し、県の壁の厚さを痛感した。しかし現在は、県大会一回戦突破

が当面の目標となつて、部員のバドミントンに対する姿勢も変わり、熱心に活動に取り組んでいる。これからも目標に向かって、一歩ずつ歩んで行きたいと思う。

(文責 根本 直美)

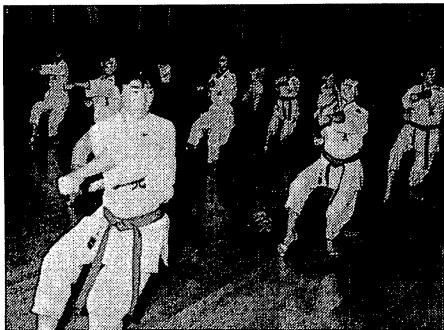
空手道部 ——顧問 安藤 清・兼坂 仁

昭和六十三年 春 芝生の中で

中庭の芝生の中で、空色のジャージを着た入学したばかりの一年生数名が、四股立ち（相撲のシコを踏む姿勢）で空手の突きの練習を始めた。空手愛好会の始まりである。四股立ちの姿勢の辛さに生徒は歯を食いしばつて耐えている。突きの方は当たつても、あまりいたくなさそうな感じさえする。芝生は夏になれば元気よく伸びているはずだが、その年の九月には方々で地肌が顔を出し、気の毒な位、すり切れてしまつていた。生徒達は芝生を気遣いながら練習をしていった。その頃に、空手道同好会が発足した（昭和六十三年九月二十九日）。冬に向かい、中庭で裸足でする練習は辛かつた。夕方五時頃には暗くなり、北校舎二階の会議室や、美術室の窓からの明かりで練習をした。半分凍つた地面に立つ足は冷たさで感触がない。「屋根のある所で練習したい。床の上で練習したい。」これは、皆、口には出さなかつたが共通の願いだったのでないかと思う。

平成元年 二月 朝練

「朝なら第二体育館が使える。」と、朝練が始まった。六時五十分集合、七時練習開始。夜が明けたばかりの床は冷めたかつたが、雨が降つても雪が降つても練習できるのは嬉しかつた。この頃、同好会になつた時七名いた部員は四名に減つてしまつており、新入生の入会人数が気が



「心・技・体」をきわめる

平成二年 春 部昇格

今までマネージャー以外はすべて男子だったが、女子部員が加わった。たつた一人で男子部員の中に混じり、一緒に練習を始めた。

平成二年 秋 女子部員

今までマネージャー以外はあまり余裕がなく指示通り黙々と練習を続けていた。最終日、「突き千本、蹴り五百本。」と顧問から伝えられた時生徒の目は点になった。全員で励まし合い、声をかけ合い、大きな自信と思い出を残して合宿は終った。

平成二年 二月 部昇格

身の成長を助けるとともに、本校の課外活動の発展に寄与したいという趣旨のもとに、空手道部に昇格した。

新入部員、男子七名、女子九名が加わり、他の運動部と比較しても、まったく引けをとらない部に成長した。

愛好会として活動を始めた頃を振り返ると、現在の空手道部はいろいろな面で恵まれている。しかし、空手道部が誕生した頃のハングリー精神を忘れることなく、今後も頑張っていきたい。

かりであった。

平成元年 四月 新入部員

二年生一名と新入生七名、マネージャー二名が加わり一四名になつた。人数が多いと同じ練習をしていても熱が入る。二年生は一年生を指導しながら自分達の技を磨いていた。

平成元年 夏 初めての合宿

練習の量と厳しさに部員の顔にはあまり余裕がなく指示通り黙々と練習を続けていた。最終日、「突き千本、蹴り五百本。」と顧問から伝えられた時生徒の目は点になった。全員で励まし合い、声をかけ合い、大きな自信と思い出を残して合宿は終った。

平成元年 秋 女子部員

今までマネージャー以外はすべて男子だったが、女子部員が加わった。

平成二年 二月 部昇格

身の成長を助けるとともに、本校の課外活動の発展に寄与したいという趣旨のもとに、空手道部に昇格した。

ゴルフ部

昭和五十五年、学校創設と同時に、初級ゴルフ同好会として発足。五十六年に部に昇格した。当時の設備はネットだけで校庭の片隅で練習を開始した。

毎日、ネットに向って打込みとアプローチの練習が中心であった。

五十七年になり成田市内のゴルフ練習場「珍重ゴルフ」のご協力で本

り返ると、現在の空手道部はいろいろな面で恵まれている。しかし、空手道部が誕生した頃のハングリー精神を忘れることなく、今後も頑張っていきたい。

主な活動・戦績

昭和六十三年十一月 空手道新人大会初出場

平成元年五月 関東高校空手道大会 千葉県予選出場

同六月 高校総体 千葉県大会出場

同十一月 佐原市空手道市民大会

型一位・二位、組手一位・二位・三位
同十一月 新人大会 団体型の部 ベスト16

団体組手の部 ベスト16

平成二年五月 関東千葉県予選 団体型の部 ベスト8

平成二年 西谷 耕一

昭和六十三年・平成元年 西谷 耕一

平成二年 西谷 耕一

西谷 耕一 石橋 力
(文責 兼坂 仁)

格的に練習することができるようになった。また、この年には成田国際ゴルフクラブ（現「小御門ゴルフクラブ」）で合宿練習も行った。五十八年度になり、日本ジュニアゴルフ選手権大会に出場した八百谷君の活躍を契機に五十九年度には関東高等学校ゴルフ連盟に加盟した。その後毎



第11回関東ジュニアゴルフ予選会

ている。練習は月曜日から金曜日まで連日打込み練習ができるようになった。同時にPTAの方々や、練習場の社長を始め研修生達からご指導をいただき、最近は大変実力もついてきたと思われる。関

東ジュニア大会において上位入賞する生徒が一、二名でるようになつた。 東関東支部においても成田北高校の名が知られるようになった。 現在部員数も三〇名を越えるようになり練習場や用具等が新しい悩みとなってきた。また、六十三年度より女子も入部ってきて、現在六名連盟に登録しているが、試合には残念ながら参加していない。今後の目標としては団体戦で関東大会に出場したい。そのためには一層の努力が必要と考えている。

(文責 高岡 誠次)

96

同 好 会

軽音楽同好会

この平成二年度で、軽音楽同好会は設立九周年を迎えたことになる。

私がこの同好会の顧問になつてから三年になる。「軽音楽」という名称を聞いた時には、音楽一般にあまり興味関心を持っていなかつた私にはいつたいどういう同好会であるのか見当がつかなかつた。実際に活動の様子を見た時の印象は「重音楽同好会」といった感じであつた。その演奏の音量は大変なもので、五分と練習場にはいられない程であつた。

本同好会の創設当時の経緯や様子については明らかではないが、創立五周年記念誌所載の、当時の顧問梅木範夫先生の文章によれば、創立五年目頃の活動状況は「志賀淳一郎君を部長とし、総勢三〇名を越すメンバーが日々練習に励んでいた。南校舎一階の普通教室を練習室として活動の場にしている。通常一バンド五～六名で構成され、各バンドごとに練習することになる」といった様子であったようだ。本年度の活動状況も、基本的にはこれと同じであるが、一点だけ本年度から大きく違つてしまつたことがある。それは「南校舎一階の普通教室」がなくなつてしまつたことである。これは軽音楽同好会にとっては非常な打撃であつた。校内の他の諸活動にあまり迷惑をかけないで活動するためにはこの校舎のはずれの空き教室というのは欠くことのできない存在であったのだ。これを失なつてしまつた本年度は学校内での練習はほとんど行い得ない状況になつてしまつてゐる。

軽音楽同好会の主たる目標というのは何

といつても九月の文化祭、そして二月の予

饗会での発表である。普段各グループごとに練習を重ねてきた数曲を演奏するのであるが、リハーサル時から本番にかけての熱

の入れ方というのは大変なものである。特に文化祭の場合には外部の業者より音響器材を借りて演奏を行うのであるが、当然のこととしてその値段や器材の設定について自分達で交渉を行うことになる。また発表時間は通常三時間ぐらいであるので、普段は各グループごとに文字どおりバラバラに練習を進めてきた生徒達が集まり、演奏発表の順序、時間、曲数等を相談して決めるこ

となる。文化祭当日は器材の設定のために時間がかかるので、朝六時頃に集合することになる。また服装についても「異装」が認められていいるので、全く私的な服装、髪型、顔でステージに登場することになる。こういったことについていろいろと意見もあるようであるが、やはり同好会員の熱意がこれを実現させていると言える。

文化祭とは別に日常的な演奏発表の場としては、各学期に一度程度開催されるミニコンサートがある。会場は南校舎四階の視聴覚教室や、音楽室を借りて行われる場合が多いが、大して宣伝をしているわけでもないのに多くの生徒がやってくるのには毎回驚かされる。

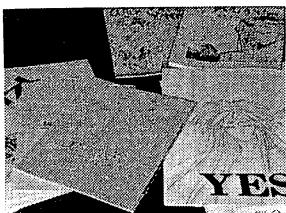
厳しい諸条件の下で活動を続いている同好会ではあるが、やはり活動のささえとなつてゐるのは自分達の好きな音楽を追求していく会員達のエネルギーであるようだ。

(文責 佐瀬 郁夫)



黎明祭に参加

イラストレーション同好会



同人誌など

年 度	顧 問	部 長
昭和 六十一	尾形・富山	
平成 六十二	富山・内藤	飛和田弘子
二 元三	多田・藤田	来栖和人
	富山・土肥	高野彰二
	・	幸恵
	・	貴博
	・	孝

(文責 繁縝 康世)

イラ同（イラストレーション同好会の略称）の発足は昭和五十八年六月。以来七年目を迎えた今年、藤田孝君を部長に部員一五名は、工芸室を活動場所として、日々放課後遅くまで制作やらトークに余念がない。会の発足は、入学間もない一年生女子の、挿絵のイラスト描きではない、ストーリーのあるマンガイラストをやろうという呼びかけが動機であつたが、その流れを継承し今日に至っている。部員は皆非常に個的なキャラクターの持ち主で、各自の描く登場人物に自己投影をしている作品も少なくない。定期刊行物としては、文化祭に向けて、オフセット印刷の同人誌「ダスト・BOX」を発行。その他として随时、「ライトセイバア」というコピー誌を発行し、新入生勧誘や卒業記念等に配布している。部員は他の部活動等とかけ持ちしている者も多く、原稿の締切りに追われて四苦八苦している光景がよく見られるが、産みの苦しみの後の楽しみを共有できるせいか、卒業後にもイラ同OBとの交流が深い。今後の課題としては、作品の内容を一層充実させること、相互に批判し合い高めあう関係をより深めることではないかと思われる。

印刷の同人誌「ダスト・BOX」を発行。その他として随时、「ライトセイバア」というコピー誌を発行し、新入生勧誘や卒業記念等に配布している。部員は他の部活動等とかけ持ちしている者も多く、原稿の締切りに追われて四苦八苦している光景がよく見られるが、産みの苦しみの後の楽しみを共有できるせいか、卒業後にもイラ同OBとの交流が深い。今後の課題としては、作品の内容を一層充実させること、相互に批判し合い高めあう関係をより深めることではないかと思われる。

主な活動 文化祭・予餌会への参加・発表会の開催
活動場所 北校舎四階 音楽練習室
回顧

昭和五十九年に発足した合唱同好会は、まだ、ピアノのない音楽練習室で活動。伴奏楽器が何もないため、とても苦労をした。その後、毎年入学式が終わったら、ということで体育館のアップライトピアノを、移動していただけるようになる。音取りも、速く、正確になり、そして、ピアノ伴奏にのって歌えるので大変気持ちよく、練習に熱が入るようになった。

文化祭、予餌会で、日頃の練習の成果を発表してきた。独唱、重唱が中心であった昭和五十九、六十年度。昭和五十九年度の文化祭、第一回発表会においては、当時の事務長、今井万峯先生に特別出演をお願いし、オペラアリアを歌つていただいた。昭和六十一年度からは、体育館ステージで、混声合唱を発表。昭和六十二年度には、体育館ステージでの混声合唱発表と、さらに、音楽室ステージで、同好会員オリジナルの台本による創作ミュージカルに挑戦。昭和六十三年度にも、オリジナルの

創設 昭和五十九年

年 度	顧 問	会 長	年 度	顧 問	会 長
昭和五十九	岡野倫代	尾高由子	昭和六十二	岡野倫代	秋山尚美
昭和六十	岡野倫代	高仲良恵	昭和六十三	岡野倫代	梶峰人
昭和六十一	岡野倫代	石井美代子	平成元	岡野倫代	今村玲子

合唱同好会



黎明祭で発表

を発表。そして、平成元年度においては、林光作曲、オペラ『あまんじやくとうりこひめ』を上演。演出、キャスト、大道具、小道具、衣装等苦労も多かつたが、小松栄三郎先生のお力ぞえや、卒業生の協力により成功。三月には、卒業発表会を開催。独唱、重唱、合唱曲をとりませたプログラムで発表。

現在、合唱同好会の練習には、ピアノ、キーボード二台、CDラジカセ等を使用することができる。発足当時と比べると、大変に恵まれた環境である。高等学校での合唱部員数減少傾向がいわれ、本校でも、会員集めには毎年苦労が多い。しかし、今までの積み重ねが、これから、もっともっと生かされるようになりたいと思う。

郷土研究同好会

（文責 岡野 倫代）
郷土研究同好会は、平成元年度末に、必修クラブ制度の改善策として一・二年生のクラブと部活動を連動させることにしたが、この制度改革を機に名乗りをあげたのである。本校の創立十周年を記念する一環になれば幸いであるが、はたして、これから活動がそれに応えたものになれるかどうかである。



練習風景

フォークソング同好会は、昭和五十八年九月に同好会と認められ、部員数一〇名でスタートした。当時の同好会の活動は、南校舎一階の教室を使い、作曲やフォークギターの練習などを行っていた。部員の中には「ポップコン」などに自作の曲などを応募している生徒等もいた。その後、部員数も激減し、昭和六十三年度にはついに部員がいなくななるという状況になつたが、翌平成元年度に二年生が約一〇名入部し、現

在に至っている。平成元年に再スタートしたときは、フォークソング同好会の本来の姿をめざして始まったのであるが、時代の流れだろうか、徐々に電気の力を借りる事となり、一昨年（平成元年）の文化祭では、フォークを歌った部員は一人で、後はロックという形になつたが、部員は練習の成果を精一杯出せた事と思う。

フォークにしろロックにしろ音楽を演奏し歌う点では共通しているし、音楽にかける情熱は同じだと思う。これからも同好会の存続に努めたいと思う。

（文責 伊東 明宏）

郷土研究同好会は、平成元年度末に、必修クラブ制度の改善策として一・二年生のクラブと部活動を連動させることにしたが、この制度改革を機に名乗りをあげたのである。本校の創立十周年を記念する一環になれば幸いであるが、はたして、これから活動がそれに応えたものになれるかどうかである。

本年度、部員は四名である（二年生が三名、一年生が一名）。発足したばかりであるが、なんとかして黎明祭に参加しようと努力し、年中行事がどのようになっているかを調査し、まとめてみた。それは、各家庭で伝統的に維持され、守られて来たさまざまな行事が、最近の生活様式と生活意識の急激な変化の中で、大きく崩れつつあるのではないか、と

いう問題意識（仮説）に立ってとり組まれた。調査は、本校の生徒を通して、生徒の保護者の方々にお答えいただくという調査方法をとった。

調査用紙の回収は九三五枚で、回収率は六七ペーセントであった。集計結果は、バレンタインデーの贈物の交換や、母の日、父の日のプレゼント、クリスマス・イブのケーキなど、新しい年中行事がかなり広がっているのに対し、伝統的行事が徐々に行われなくなりつつあることが読みとれた。今後のとり組みの中で、さらに調査・研究を進め、郷土の歴史と民俗の理解を深めていきたいと考えている。

（文責 手島 和史）

パソコン同好会

パソコン同好会は、平成元年の一学期頃より、図書委員会コンピュータ班の有志によって同好会設立の準備が進められていた。ところが必修クラブの改編とともに、突然降ってわいた同好会設立に便乗して設立されることになったのである。生徒も顧問も当初、自分たちの機器を使用して細々と活動する覚悟を決めていただけに、同好会設立は部員の活動意欲を高めた。しかし、活動内容や機器の高価なことなどが問題となつて一時は設立が危ぶまれるほどであった。しかし、当初から活動する部員が実際に集まっている同好会ということもあって、いろいろな問題も指摘されたが、設立の許可がおりたのである。情報化の時代と呼ばれる現代にあって、本来とくに存在してしかるべきコンピュータに関する部活動が北高になかったということは、まことに不思議である。しかし、ようやく本校にもパソコン同好会が発足したのである。

現在、二年生部員が一六名、三年生が二名の一八名で活動をしてい

る。毎週木曜日が定例の活動日で、他の曜日や昼休みなどは自由に活動している。女子部員も二名ではあるが、BASIC言語によるプログラムには、ワープロ教室や自作プログラムによる発表を行つた。黎明祭ミングやワープロの操作法などを習得すべく活動を続けている。黎明祭には、ワープロ教室や自作プログラムによる発表を行つた。

一年生部員のいない現在、同好会が今後も続くのかどうか危ぶまれるが、自前のコンピュータを揃えたりして活動を活発にしていきたいところである。初代の部長は、二年生の松尾卓人君である。

（文責 大木 実）

茶道同好会

講師 岡嶋ふじ子

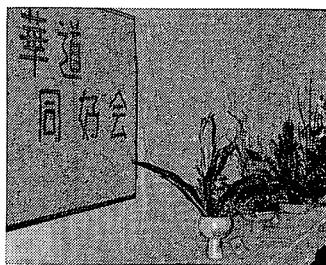
顧問 内海 曜子・佐藤 茂子

茶道同好会は、従来必修クラブという形式であったものが、平成二年度より、部活動振興の一環として同好会に昇格したものである。講師に、岡嶋先生をお招きして、毎週一・二回活動している。

茶道というと、一般的な印象として『形式ばつて』いると思われるがちだが、茶道の大成者である千利休は『和敬清寂』を茶道の本義として、亭主と客、あるいは客同士が互いに尊敬しあい、恭謙の気持ちをもつて接することを説いた。つまり形式と精神が一体であることを学んでいくものなのである。しかし高校における同好会活動においては、そこまで学ぶことは難しいので、実際には、点前（てまえ）と客の心得を主に勉強している。

十年ひと昔という言葉があるが、最近は一年ひと昔と言つても良いほど、時代がめまぐるしく変化している。物質文明の世の中にあって、人

現在部員一四名で活動している。活動日は毎週木曜日放課後。活動場所は生物地学教室



作品



お点前の指導を受ける

間は人とのふれあいよりも、物や機械を見つめる時間が多くなっているのではないか。そのような現在、心のふれあいを大切にすること、『静』の時間をもつことの重要性は増すばかりである。茶道同好会での活動が、生徒の精神活動の発達の上で、少しでも役立つことができれば幸いである。

(文責 佐藤 茂子)

華道同好会

華道同好会は、今年度(平成二年)四月に発足した種々の同好会の中の一つである。昨年度までは、教育課程に組みこまれていた必修クラブの一つとして、長年、東美栄子先生、その後、工藤真由美先生を顧問に、池の坊の岡嶋ふじ子先生、後に、中野孝子先生をお招きして、ご指導を仰いできた。今年度、必修クラブの改変にあたり、伝統的な日本文化の継承と発展のために、又、日常生活に花を生けることで生活のうるおいをもたらすために、更に、生け花を通じて相互の交流をはかり技術も体得することを趣旨に、必修クラブのメンバーを中心に部員を募集。三年生の栗山友紀子部長を選出して、

室で、自由花と生花の二班に分かれて、思い思いで楽しみながら、又、時には木枝や花ものに悪戦苦闘しながら、中野先生の優しいご指導のもと熱心に生けている。先生のご好意で、在学中に池の坊の免許の皆伝ができるようになりはからって下さり、それもまた、部員の励みとなつてゐる。今後の課題としては、一年生の入部を勧めること、そして、華道の良さをもっと広めたいこと、当面は、文化祭で日頃の成果を発揮して立派に生けたいことである。

(文責 繁綱 康也)

ペン字同好会

創設 平成二年四月

部長	伊藤 久恵	副部長	田中 薫	書記	帶金 和美
会計	久保田陽子	顧問	山内 美和		

活動日 每週月、火曜日

活動内容 北高生用の練習プリントで「いろは」から基礎練習

- ・毎月の競書雑誌への出品。段級取得さらに師範をめざす
- ・黎明祭への参加
- ・ペン字検定受検

ここ五、六年の間にワープロがどんどん普及し、はじめ違和感のあったあのギザギザ文字も抵抗なく受け入れら



練習に励む

れるようになってきた。もともと文字は意志の伝達のために発明されたものだらうから、活字やワープロの文字は機能的で読みやすくてよい。学校内における文書類もしかり、ほとんどがワープロ文字になつていい。きれいで見易くそれはそれでいいのだが、時々手書きのメモやプリントに出会つたりするとその人柄にふれたような気がして心あたたまる思ひがするのは私だけであろうか。文字を書く用具も多種多様で楽しい。そうした中、原点から出発ということでベン字同好会が発足した。書くことの中に少しの緊張感、コツコツ進んで練習する姿が好ましい。又書道室の前を通る吹奏楽部員がベン字練習の時間を作つてしまつたりするのもほほえましい。発展を願つている。

(文責 山内 美和)

調理同好会

調理同好会は、はじめ、調理クラブとして昭和五十七年四月に発足した。

毎年、希望する生徒数は四〇～五〇名ほどいる。この中で男子は毎年一〇名程度いる(殆んど三年生)。そして、男子がクラブ長を務めていた。かつてクラブ長だった生徒は、卒業後調理関係の学校に進学し、調理師の免許をとった。将来店を開業する予定であるといって頑張っている。平成二年四月からはクラブの改編のため同好会のかたちになつた。本年度の会員数は四五名(三年男子九名、女子一〇名、二年女子二一名、一年女子



同好会一同

工芸同好会

工芸同好会は、平成元年度の必修クラブ「バードカービングクラブ」を母体としている。この「バードカービングクラブ」が、平成二年度に、必修クラブの改変に伴い発展的に解散、新たに工芸同好会としてスタートを切ることになった。従来木工を主体とするバードカービングに加え、陶芸担当の

五名)である。写真は本年度(平成二年度)の会員である。クラブの時は、五〇分授業だったので時間のかかるものは出来なかつたが、今では放課後の活動と運動になり、時間の制約がないので色々のものができるようになった。男子生徒は能率よく作りあげる。女子はきれいに丁寧に作る。活動内容の主なものは、各種のクッキー・スペゲッティ・ペフェ・グラタン等である。毎年一年間の実習内容(作り方等)を冊子にまとめて配布している。生徒は、毎週この調理の時間を楽しみにしているようである。又学校で実習したものを家庭で応用して作り、家族が喜んでくれた等と話すことがよくある。毎週皆極めてなごやかな雰囲気で楽しく充実した活動を続けている。

(文責 郡司 美枝)



工芸同好会ろくろの実習風景

顧問として篠崎昌美教諭を迎える。顧問二名、部長佐々木秀夫を含め三年三名、二年二名、一年二名が、五月現在の陣容である。活動の情況は、週一回木曜日のほかは自由、その他に月曜日の昼休みに昼食を食べながらのミーティングが義務となっていて、家族的な部員間のつながりを大切にしている。

今後は、銀などを素材とするアクセサリーづくりなど、膨大の分野にも力を入れ、より専門的な知識、技術を身につけられるよう活動していく。

(文責 多田 敏)

少林寺拳法同好会

少林寺拳法は、古代インドで行われていたインド武術に、その源を発している。インド武術は初期の仏教に取り入れられて、特殊な発達を遂げていたが、それは、今日私達が寺院等で目にする、仁王像の姿によっても測り知ることができる。このインド武術は、今から千五百年前、菩提達磨によって、中国河南省の嵩山少林寺に伝えられる。天竺那羅之拘とか、阿羅漢之拳等と呼ばれ、座禅行と並ぶ寺僧達の修行法として、盛んに行なわれるようになる。

こうして生まれた禅門の行としての拳法は、その後、しだいに武術的因素を強めてゆく。やがて、少林武術の名は、天下に冠たり、と称されるまでになってゆくのである。

昭和の初期、中国へ渡っていた開祖宗道臣師家は、縁あって少林武術と接する機会をもつ。そして、北少林義和門拳第二十一代師祖を継承するに至るのである。昭和二十年八月、満州で敗戦を迎えた宗道臣師家は、極限状況下での人間の赤裸々な行為を目のあたりにして帰国する。

すると、敗戦直後の日本も混乱をきわめていた。宗道臣師家が見たものは、敗戦国民の惨めな姿そのものであった。人々は道義心や愛国心を失ったばかりか、生きる理想までも失っていた。この混乱から立ち直り、平和な日本を再建するために、剛健な肉体と不屈な精神力を基盤とした、自信と勇気と慈悲心に溢れる、青少年育成の必要性を痛感する。宗道臣師家は、拳を主軸とした人造りと、人造りによる国造りを目指し、北少林義和門拳をはじめとする、各種の拳技を再編整理して、行としての少林寺拳法を復元、再興し、今日へと至っているのである。少林寺拳法は、その成立過程をみてわかるように、単なる格闘技やスポーツではない。だから、相手に勝つのではなく、自己に克つことが目標となる。それは、自己の確立、また、変革へとつながってゆくものであるが、自分自身の弱さ、未熟さを充分に自覚し、それらを掘り起して、対決してゆくのである。自己を変えるのは容易なことではない。時には、放棄したくなることもある。しかし、決して向上をあきらめない。遠回りをしたり、小休止をしながらも着実に前進を続け、真に寄りどころとなる、自己の確立を目指す道なのである。

本校では、平成元年四月より、有志が集つて活動を始め、翌年の三月には同好会として正式に承認され、いっそ充実した活動がなされている。練習は、月曜から土曜までの週六日間、午後四時から六時まで行なっている。基本演練、剛法（突きや蹴り）と柔法（抜き・投げ・関接技等）の相対演練、座禅行、ウェイトトレーニング、ストレッチ体操が主な練習内容である。



自己に克つことをめざして

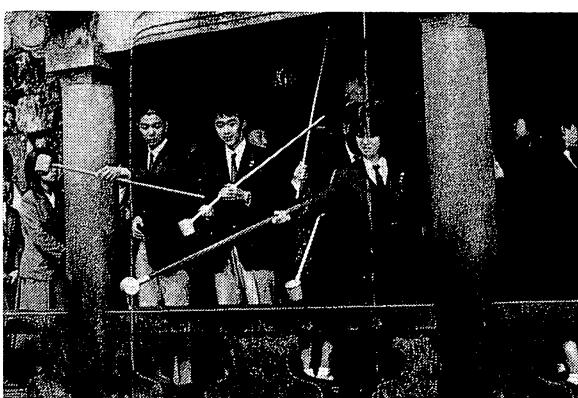
平成二年六月、全日本高等学校少林寺拳法連盟主催の千葉県大会に、初めて出場し、段外（茶帯）の部で一位、初段の部で二位となり、関東大会の出場権を獲得。同大会でも、予戦通過を果した。平成二年八月現在、九月一日にある社団法人日本少林寺拳法連盟主催の千葉大会を目指し、会員達は夏季練習に励んでいる。

（文責 大木 卓）

心に残る行事・学校生活

すばらしい思い出・友情—修学旅行—

楽しかった修学旅行——昭和60年度



京都清水寺にて

第二学年修学旅行は、十一月四日～七日まで、広島・姫路・京都への三泊四日の旅程で行われました。天候もますますで、楽しい旅行であったと思います。見学地では特に原爆資料館に深い感銘を受けた生徒が多かったようです。また、スケール雄大な宮島の大鳥居や姫路城の見学など、遠く広島まで足を伸ばした成果が充分ありました。京都ではクラス別行動でしたが、亀岡からの保津川下りも楽しく、各見学先では外国人に話しかけてサインを貰うことがはやったりなど、高校時代の思い出の一ページを飾る修学旅行でした。

(広報「成北」第一五号より)

初めての東北——昭和61年度

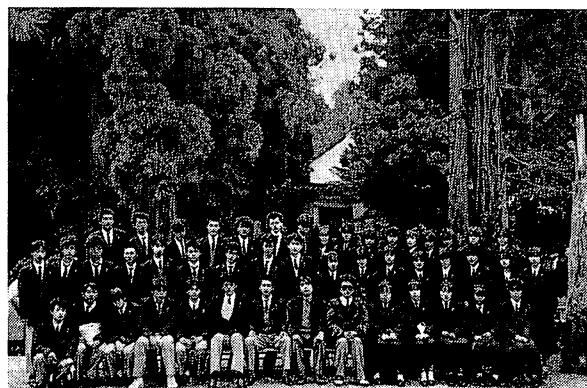
数多くの生徒が中学校時代に京都方面の修学旅行を実施しているとの事から、生徒の希望を受け、開校以来、初めての東北方面の修学旅行となつた。主な方面は東北地方の中でも岩手・秋田・青森の三県を中心に回る日程で実施された。

全行程は、寒さと雨、雪に見舞われ、東北の初冬を味わいながらの有意義な旅行となつた。

全行程の中から、かい摘んで当時の様子を振り返ってみたいと思う。

初日の昼は岩手県の名物のわんこそばを、生徒、教師共ども食べられるだけ堪能し、その後バスで一路小岩井農場へ向かった。夕暮れと小雨の中、小岩井農場の中を走り回った記憶がある。

二日目は、青森を中心に回り、その中でもりんご狩りは、寒さの中で酸っぱい味を味わった。その日の夜は、十和田湖畔の宿に泊ましたが、



平泉中尊寺にて

夜半から雪がちらつき、一面の銀世界を生徒は不思議そうに見ていた。

三日目は、昔銅山であったマイランド尾去沢の中を時間をかけて歩き回

り昔をかいじ見たのである。

東北方面は、関西方面と異なり、一風変わった修学旅行を高校生活の思い出とする事ができたと思う。

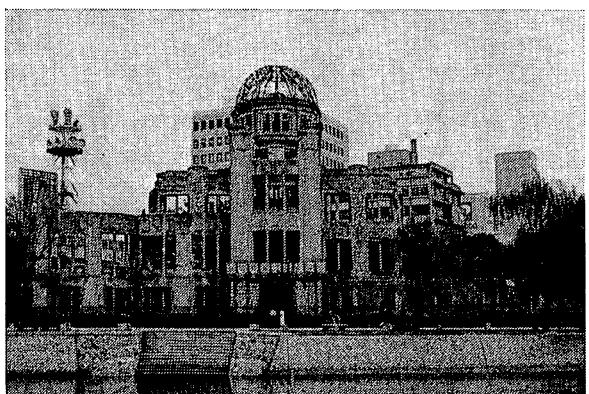
(文責 伊東 明宏)

秋雨の修学旅行——昭和62年度

十月二十四日、降りしきる雨の中、原爆ドームの前に立った。ビルが立ち並び、元安川が静かにたたずまいを見せる中、焼けたれ、鉄骨だけになつてなお天を仰ぐ姿は、我々に何かを叫んでいたようであつた。広島平和記念資料館では、ケロイドの肉塊、熱線で変化した屋根瓦やガラス、廃墟となつた広島市の模型などを見学した。なかでも石段に刻まれた人影の写真の印象は強烈であった。一瞬のうちに人間を蒸発させてしまうとは、新幹線の中では大騒ぎをしていた生徒達も、ここでは沈黙を強いられた。

芸の宮島では、厳島神社を参詣した。その大鳥居は、高さ十六メートルもあつた。しかし、それを支える四本の柱は、そのまま海中に置かれているだけだとされる。満潮の時は、海中に浮かんでいるかのように見える社殿の配置構成といい、造営者の発想の斬新さを感じずにはいらなかつた。その姿は、海の女神を招き入れるにふさわしい美しさであった。

倉敷の町は、まさに現代日本の文化を象徴しているかのような印象を受けた。白壁の土蔵の町並みと、エンタシスの柱も見事なギリシャ建築風の大原美術館とがうまく調和していた。エル・グレコ、ゴーギヤン、



原爆ドーム

ピカソ、セザンヌ、シャガール。しばし芸術の世界に浸つた。京都は、保津川下りである。雨がぽつりぽつり降りだす中、丹波亀岡から名勝嵐山まで十六キロのコースを下つていった。船を操る船頭さんの動きはすばらしく、かいをこぐ二人の息がぴつたり合っていた。「舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふるものは、日々旅にして旅を栖とす。」の一節が思い浮んだ。

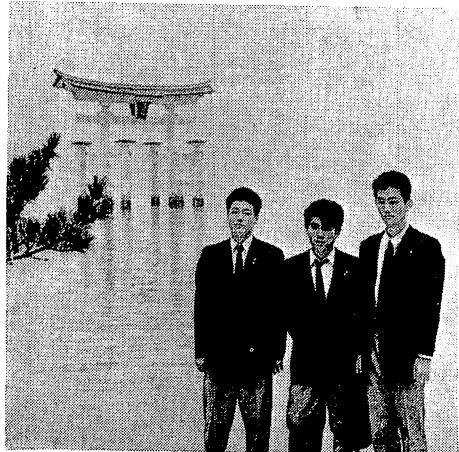
無事東京駅帰着。この旅で生徒達の新しいハーモニーが生まれてきただけでなく、先生方の結束も更に強まつた気がした。

平和への祈りを祈り鶴に——昭和63年度

(文責 加藤 裕司)

十月二十日(木)から四日間、職員、生徒三三七名が参加して、中国、関西方面への修学旅行を実施した。今年は、八月、九月とよく雨が降り、そのせいか、東北、関東の米作は、ここ数年来の不作となつたのである。しかし、体育の日あたりから好天が続き、旅行は四日間共天気に恵まれた。

第一日、東京駅発一〇時四分、五時間半余新幹線に閉じ込められ、い



宮島の大鳥居をバックに

ささか飽き飽きした。その日のうちに、広島平和公園を訪ね、その晩は宮島に泊まる。第二日、快晴。嚴島神社の赤い大鳥居を背景に記念撮影をしてから一路倉敷に。この美観地区は、昼食をいれて各自自由に散策した。

手打ちそば、カツ定等食べながら楽しいひとときを過した。夕方京都の宿舎に着く。ホテルからの夜景の美しさもさることながら、夜、みんなで菓子を食べたり、トランプで遊んだり、写真をとったりして時間のたつのも忘れるほどであった。

第三日、今日は、京都市内のクラス別コースである。F組を除いた六クラスは、午前中保津川舟下り。『かかる』『ライオン』等の名前をつけた大小さまざまの岩を横に見ながら、京都の山景色を心ゆくまで堪能した。このあと四クラスは映画村に、他は、神社仏閣を中心に行動した。F組は、神戸北野の異人館巡り等であった。

最終日、清水寺を見学。東京駅に着いたのは、一四時八分であった。帰宅迄の安全を願いながら解散したのは、一四時三〇分。平和公園の折り鶴、友情をあたためあつた日々——それは高校生活を美しく彩る思い出深い旅であった。

ささか飽き飽きした。その日のうちに、広島平和公園を訪ね、その晩は宮島に泊まる。第二日、快晴。嚴島神社の赤い大鳥居を背景に記念撮影をしてから一路倉敷に。この美観地区は、昼食をいれ

て各自自由に散策した。

手打ちそば、カツ定等食べながら楽しいひとときを過した。夕方京都の宿舎に着く。ホテルからの夜景の美しさもさることながら、夜、みんなで菓子を食べたり、トランプで遊んだり、写真をとったりして時間のたつのも忘れるほどであった。

第三日、今日は、京都市内のクラス別コースである。F組を除いた六

最初の訪問地は広島。四〇数年前戦争の終結として投下された原爆。その傷跡が今でも残され、訪れる人の涙をさそう。無数のハートが舞う中、車中で折った千羽鶴を、原爆症で命をなくした「サダコ」の像に捧げ、そっと合掌する。

戦争を知らない子供達でも、その悲惨さ、恐ろしさを感じ、平和を祈ったにちがいない。その後原爆資料館へ。皆一様に無口で見学していた姿が印象的であった。やがて広島をあとに宿泊地宮島に向かう。口数も多くなり、少し楽しさを取り戻した様子がうかがえる。

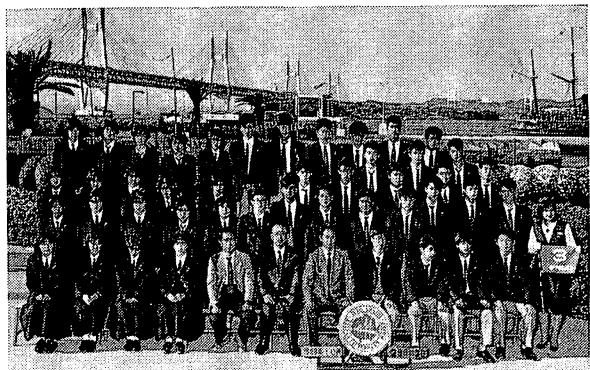
第二日目早朝、嚴島神社を参拝。朝日に映える寢殿作り様式の社殿は、平清盛の富と権勢によつて建てられただけあって、その工夫はみごとで、しばらくの間平安貴族の豊かさの心境にひたつた。

午前八時十五分、全員乗船。静かな瀬戸内海を四国松山港へ向かう。下船後バスで松山城へ。天守閣から外を見ると、松山市内のほぼ全景が望める。

近代俳人正岡子規を生み、その友人として招かれた夏目漱石が、名作「坊ちゃん」の舞台とした地だけあって、なんとなく文学の香りがする。奥道後温泉泊。

(文責 香取 一成)

修学旅行を終えて——平成元年度



瀬戸大橋をバックに

あとに一路高松へ向かう。午前一時金刀比羅宮に到着。両側にひしめくみやげもの屋の呼び声に圧倒されながらすすむと、やがて表参道の石段に出る。七八五段の石段を登つてお参りする風景は、今も昔も変らない。

そして生徒の溜息も知らない。

昼食後は待ちに待った瀬戸大橋クルーズである。感臨丸に乗船。

瀬戸内海の島々を点景に瀬戸大橋が超ワイドに広がる。

日本の技術革新のすばらしさにあらためて感心する。下船後はバスで最後の宿泊地岡山へ向かう。

最終日。皆眠そうな顔つきで宿舎を出発。倉敷美観地区を散策。倉敷川の河畔にどっしりと構える土蔵群や塗屋造りの商家を見て風情を楽しむ。

最後は日本三庭園の一つ、岡山後楽園へ足を向ける。いたる所からシヤッターの音がきこえる。旅の終わりを告げるひびきに聞こえた。

東京駅午後一六時三三分、全員無事に到着。旅を終えた。

旅を終え、静かにありかえつてみた。生徒一人一人の自覚と責任がこの修学旅行を楽しくさせてくれた。高校時代の良き思い出の一ページになることを願っている。

(文責 江波戸 好文)

雜感

小松栄三郎

北高の生徒たちが上品でまばゆく見えるときがある。ネクタイを締めていなくとも、ふにやふにやのYシャツを着ている生徒でも同じだ。みんなに共通している上品さがある。この感慨は光源氏が紫の上を育てたような気持だ。多くの先生方が彼らを大切に育んできたからだ。

私もいろんなことを言つてきた。今では懐かしく感じるものもある。「考えられないよ。」と言つてはよく生徒に笑われた。本当に女子生徒を心配して言つた「手をつないだらおしまいだ。」は今でも笑われる。「そういう生徒は化石だ。」などは全校集会で話をしている最中とつさにひらめいたもので、正直のところ、よくひらめいたものだと、自分でも感心した。そろそろワンパートーンかな、とこの頃しきりに思う。



八島池から車山高原へ

大自然の中、友との語らい——林間学校

蓼科高原に集う——昭和60年度

新緑の映える大自然の中、高校生活をより充実したものにと、第6回林間学校は、場所を蓼科高原に移して実施された。

日程五月二十五日から五月二十七日（二泊三日）

第一日。成田北高—中央高速道—尖石考古館—蓼科パークホテル
小雨の中着いた蓼科パークホテルは緑に囲まれ、窓からは山々が一望出来、本館とは別にコテージをもつ洒落たものであった。

第二日。宿舎—八島池—
(ハイキング)—車山スカイ
プラザ—宿舎

小雨も上り、朝の集いから

二日目はスタートした。朝の集いではねむい目をこすりながらも全員で体操をした。八島池から車山高原までのハイキングでは、滑つたり転んだり、靴やジャージを汚しながらも、友と語り、助け合つて歩き通した姿が印象的であった。夜は、キャンプファイヤーを囲んで、工夫を凝らした

出し物を演じ合い、肩を組んで歌つたり、生徒・教員が一体となって楽しいひとときを過ごした。

第三日。宿舎—諏訪大社・諏訪湖—成田北高

諏訪大社、諏訪湖を見学後、帰途についた。大自然の中、友・教師と語り合った三日間。お互い、楽しい、意義のある思い出となつた。

（文責 加瀬 政二）

雨のため、ハイキングを断念——昭和61年度

自律・協調・健全の精神を学びとり、心豊かな人間形成をめざして、前年と同じ蓼科高原において、七学級三〇三名の生徒が参加して、五月二十四日～二十六日の二泊三日の日程で行われた。

一日目は、途中で山梨県立美術館で名画を鑑賞する。現地に着くや、急斜面の林の中での飯盒いさん。湿った薪を使った火の自由にならないこと。カレーライスの味は別として、原始的な人間の営みを体験するには十分だった。

二日目は、早朝より小雨模様。空が明るくなり希望を抱くとすぐ雨。朝食前には予定が決まらなかつた。天候を気にしながらの食事。車山ハイキングを断念して、松本方面へ行くことにする。旧開智学校・松本城見学は修学旅行の気分である。城内公園での昼食の頃はすっかり天気が良くなり、生徒ともどもエネルギーを持て余し気味であった。夜は恒例のキャンプファイヤー。林間学校の楽しい一コマを過ごした。

三日目は、山梨宝石博物館を見学し、一路成田へ。高校生としての最初の行事として意義深い体験をしたと思う。

創立以来、時期が七月下旬、場所が富士山麓・磐梯高原・蓼科高原と変遷してきたのが、五月下旬に蓼科高原で実施ということに落ち着いて



楽しい食事のひととき

きたようである。林間学校の目玉としては、ハイキング・キャンプファイヤー・飯盒すいさんがあげられていた。当初、学年で企画されていた林間学校は、昭和六十三年度から「より実りある林間学校を!」ということで、学年主任・教務主任・生徒指導部長の五名の委員が検討することになる。基準として、自然環境に恵まれていること、施設が整っていること、雨天時の対応が可能であること、等があげられていた。

(文責 赤井 正男)

美しい富士を仰いで——昭和62年度

五月三十一日(日) 学校発(八時)——宿舎着(一一時)
六月 一日(月) 宿舎発(八時)——三ツ峠ハイキング——宿舎着(一六時)

六月 二日(火) 宿舎発(八時三〇分)——山梨県立美術館——

学校着(一七時)

七クラス、生徒数三二七名、引率教員一五名。雨天の事も考えて計画を立てたが、三日間とも上天気に恵まれた。体調が悪くハイキングに行

けない生徒数人と、付添いの先生を残して、ロッジを八時に出発した。道が狭いので、峠入口の手前でバスを降ろされ、あまり気分の出ないアスファルト道を半道程歩いた。山中に入り少しきつめの登りを二時間程歩いた。頂上(一七八六メートル)南西の岩山は、ロッククライミングの練習地として名高い。そこから吹いてくるそよ風は、汗ばんだ体に心地よい。みんなで食べる弁当はなんともうまい。



飯盒すいさんに悪戦苦闘

(文責 香取 一成)

下山路はなだらかな丘陵で、一面に草原が広がり、見下せば河口湖が見え隠れする。担任の先生方は、先頭になり後方になりながら生徒との会話を楽しんでいる。ロープウェイを横目に見ながら、遊覧船浮かぶ湖に着いたのは三時近くだった。冷たいジュースに喉をうるおす。いまもなお、朝の集いに眺めた富士山、宿舎の窓から眺めた夕焼けの富士山、三ツ峠から見た富士山の姿が、鮮やかに目に浮ぶ。

一〇学級での初の林間学校——昭和63年度



10学級規模初の林間学校

本校開校以来初の一〇学級の入学生を迎えたこの年、四月当初から一学年職員は、林間学校の準備の為、何度も学年会議を持った。それは過去、本校が行ってきた林間学校のどのような点を残し、どのような点を加えるかということであった。それまでの最高七学級での林間学校の経験を踏まえ、一〇学級の林間学校の運営をいかに効率的に、充実したものにするかの論題に終止した。中心となつたのは、車山のハイキング、食事、キャンプファイヤーについてであった。車山ハイキングは、一〇学級が一度に列となつてハイキングをするのは、安全指導上の問題も残り、これを五学級毎とし、頂上で合流し、再び分れて下山する形をとることとなつた。つまり、登山コースと下山コースがそれぞれ異なる方策をとつたのである。食事についてもそれまで行われていた飯盒炊さんは、キャンプファイヤーや炊さん施設等の兼ね合いもあって、これを中止した。さらに、食事場所も一〇学級同時に会食できる施設が無く、ハイキング指導の面も考慮し、五学級ずつが二ヶ所に分かれて食事を取るという形態となつた。現在、実施されている林間学校の

ものにするかの論題に終止した。中心となつたのは、車山のハイキング、食事、キャンプファイヤーについてであった。車山ハイキングは、一〇学級が一度に列となつてハイキングをするのは、安全指導上の問題も残り、これを五学級毎とし、頂上で合流し、再び分れて下山する形をとることとなつた。つまり、登山コースと下山コースがそれぞれ異なる方策をとつたのである。食事についてもそれまで行われていた飯盒炊さんは、キャンプファイヤーや炊さん施設等の兼ね合いもあって、これを中止した。さらに、食事場所も一〇学級同時に会食できる施設が無く、ハイキング指導の面も考慮し、五学級ずつが二ヶ所に分かれて食事を取るという形態となつた。現在、実施されている林間学校の

雄大な山頂からの眺め——平成元年度

平成元年度第一学年の林間学校は、昨年に続き、信州の蓼科高原に於て、五月二十八日から三十日まで二泊三日の日程で行われた。

一日目は往路に、山梨県立美術館へ立ち寄る。ここのお玉は、フランスの画家ミレーを中心とするバルビゾン派の作品の収集である。たいへん興味深かつた。二日目は、車

山高原へのハイキングに出発。

ハイキングとはいうものの、車山山頂への道はとても険しく、最初はおしゃべりして笑いながら登っていた生徒たちも、登る

につれ無言に。だが、山頂からの眺めは素晴しく、自分の足で

登りつめた充足感もあり、貴重な経験となつことだろう。

夜、広場にてキャンプファイヤー。しかしファイヤーストームに点火後、突然の豪雨に。生徒

形態の基礎となつたのがこの年の林間学校である。その訓練を兼ねた四月二十八日の房総風土記の丘への遠足も五学級ずつ二班の編成で行われ、一応の目途を持って、五月二十一日から五月二十三日の林間学校に出席したが、生憎の天候で、車山ハイキングは中止、松本城見学をはじめとする市内観光などどまつたことは、少々残念であった。

(文責 大沼 功)



車山高原を歩く

たちを急いで部屋に戻したが、雨の中ストームの火はいつまでも燃え続けていた。その後、室内に場所を移しキャンドルサービス。今度はもうそくの灯のもと、各クラスの出し物で遅くまで盛り上がった。三日目、楽しい思い出を胸に、昨夜の雨がうそのように青空の広がった蓼科を後に成田へ向かった。

(文責 山根 昌子)

十周年記念に向けて

香取 良和

私は創立三年目に本校に赴任し、今年で既に九年目の勤務となります。ようやく校舎が出来た状態から、この間数多くの方々の御努力により、周辺のニュータウンと共に見違えるような発展を遂げてきました。卒業生も一応全員と面識があるわけですが、皆さん各方面で活躍されているようです。在校生諸君は、このような先輩方の恩恵に答えられるように頑張って欲しいと思います。本校の一層の発展を祈念致します。

いつのまにか国語科最古参

坂元 善典

昭和六十年に本校へ赴任してから、六年の歳月が流れようとしている。赴任当時は、創立五周年記念誌の原稿執筆に追われていた先生方を、ひとごとのように傍観していたのだ。いまでは若輩ながらも、国語科のなかでは最古参。そしてこの記念誌の編集に携わるようになるとは……。
さまざまな場面で、それぞれの職員が、個性と能力を生かしている。そんな成田北高校が、年輪のようにひとまわりもふたまわりも大きく成長し、発展していくよう、今後も全力を尽くしたい。

創立十周年を迎えて
鶴之沢 健

昨年しばらくぶりのクラス担任として、張りつめた気持ちで林間学校に参加した。しかし高層湿原を抜け、車山山頂の展望台に立つた時には息絶え絶えであった。長蛇の列にはるかに遅れて最後尾のA先生が到着した。先生曰く「ぐらつく石があつたんで生徒が下山中、揺控しないようにどかして来た」。額の汗が輝いて見えた。教師は個業が多く協業に欠けると言われるが、本校の準備室は今日も授業をめぐつて喧々囂々、熱気満ちている。創立十周年を迎えた本校は今、教職員の「和」を築き生徒への思い遣りを深め、国際空港都市にふさわしい学校に飛躍しようとしている。

校外学習（遠足）のあゆみ

実施日	行き先		
	1年	2年	3年
S55. 5. 2 (金)	房総風土記の丘		
S56. 4. 28 (火)	房総風土記の丘	上野公園	
S57. 4. 28 (水)	房総風土記の丘	上野公園	川崎製鉄千葉工場
S58. 5. 10 (火)	筑波山	上野公園	川崎製鉄千葉工場 国立歴史民俗博物館
S59. 5. 30 (水)	—	上野公園	千葉市内の各企業 国立歴史民俗博物館
S60. 6. 14 (金)	国際科学技術博覧会	国際科学技術博覧会	国際科学技術博覧会
S61. 4. 30 (水)	房総風土記の丘	上野公園	川崎製鉄千葉工場 国立歴史民俗博物館
S62. 4. 30 (木)	房総風土記の丘	上野公園	ディズニーランド
S63. 4. 28 (木)	房総風土記の丘	上野公園	ディズニーランド
H元. 5. 31 (水)	—	横浜博覧会	横浜博覧会
H 2. 5. 23 (水)	—	上野公園	ディズニーランド

校外学習（遠足）の歩みを左の表にまとめた。科学博や横浜博など複数の学年で参加したものもあるが、各学年で特色ある校外学習を実施している。一年では林間学校の事前指導を兼ね、本校からもほど近い、房総風土記の丘へ徒歩で行った。二学年では修学

旅行の事前指導を兼ね、現地集合現地解散の形で、上野公園へ電車で行った。三年では卒業後の進路や生徒相互の親睦を深めることを考え、千葉市内の企業やディズニーランドへバスで行った。ただし、平成元年度より、一年の校外学習は実施していない。

△ (PTA広報「成北」第14号より) —昭和60年度—

曇天の下に、生徒、職員八百余名、バス十八台連ね、ここ筑波研究学園都市に集結し、世紀のイベント科学万博—つくば'85を見学。世界最大のスクリーンを仰視し、われ、鳥になつたるが如し。はたまた立体画像なるを見て、思わず目をそらしたり。碧眼の案内嬢の調子はずれの声に導かれて、凝視するは、外国の展示物。四千億余の金を投資した彩色豊かな各パビリオンを散策し、民間出展の各館に、未来への夢と我が国の技術の一端を垣間見、また娛樂的な要素を体感し、生徒との交遊を深めた。青雲の高校時代に、科学博があつたという事は、長い人生の道程の中、何回も想起されるであろう。

数学科 香取 一成

校外学習

つくば'85

△(PTA広報「なりきた」第二十九号より)一平成二年度一

抜けるような青空の
もと、突然出現するお

あかね

とぎの国——世界中の
子供の動き出した夢、

遠藤 あかね

3D 東京ディズニーランド

校外学習

ウラヤス・エキゾチカ

行きが、私達三年生に
とって、最後の校外学
習となりました。ゴー
ルデン・ウイークの谷間
だったこともあり、平
日とは言つても、「キャブテン EO」
を初めとして、あちこちに長蛇の列
が出来ていきました。この人気の理由
は細部に至るまで綿密に計算された
構成と、徹底したサービス精神から
くるのだなあと、社会勉強も、しっ
かりしてきました。

時間がなくて、あまり回れなかっ
たのが残念でしたが、この次は今回
回れなかつたところを楽しみたいと
思います。そして、昼間とはまた違
った面白さのあるという夜のディズ
ニーランドも、ぜひ見てみたいと思
いました。



校外学習

日本の至宝を一堂に公開

二学年主任 篠崎 昌美

五月二十三日、上野公園の噴水前

に集合し、国宝展を二学年全員で見
学する。東京での開催は三十年ぶり
り。しかも日本の至宝を一堂に公開
するる所であつて、平日にもかかわらず
多数の見学者があり、入場するのに

数時間要した。国宝展見学の後は
班別行動に移り、昼食後、上野動物
園や博物館、国立西洋美術館等自分
達で計画した見学場所を見て回つ

校外学習

「宇宙と子ども」の四時間半

三F 墨谷 憲基

五月三十一日、二・三年生は校外
学習として、横浜博覧会へ行つてき
ました。

来年二月にスキー修学旅行を実施
することになっている。その事前準
備を兼ねた団体行動の訓練として、
一人の事故もなく無事に終了し、
ほっとしている。

△(PTA広報「成北」第一号より)
—昭和59年度—

△(PTA広報「成北」第二〇号より) —昭和62年度—

三学年職場見学について

三年生は一学期も半ばをすぎた五
月三十日に、進路指導の一環として

でも、北高の皆と来ることはもう
ないのだなあと、帰りのバスの中
で、胸に淋しさがよぎったのは私た
けでしょうか…いやきっと私だけ
ではないでしょ。



(三年主任 高岡 誠次)

「宇宙と子ども」の四時間半
博覧会のテーマが「宇宙と子ども」
ということもあってか、各パビリオ
ンの形にもくふうが凝らしており、
見ているだけで楽しくなってくるも
のが数多くありました。その中でも
ガリバーがうつぶせに横たわってい
る形のものには、驚くと同時に興味
をもつたけれど、長蛇の列に並ぶ気
になれず、通過してしまい、後で悔
やんなりしました。

他のパビリオンや、日本初の動く
ベンチなど、数多くの楽しい体験を
して、有意義で充実した四時間半で
した。

三年生としては最初で最後のバス
旅行ということもあって、思い出に
残るとしても良い一日であったと思
います。

△(PTA広報「成北」第26号より)一平成元年度一

ス ポ - イ ツ 大 会



スポーツ大会—汗と泥にまみれて—

開校年度のスポーツ大会は、スポーツを通じて、生徒間および教師との親睦をはかることを目的として始められた。当時は、グランドとは名ばかりで、小石と貝がらがいっぱいであった。昔は千把ヶ池といわれた沼を埋め立てたところで、沈下がひどく、しばらくは使用できなかつた。そのような状況であつたが、どうにか工夫して実施することにした。種目は、男子がソフトボール、女子がバーレーボール、卓球は男女共通で行つた。とくにソフトボールは会場がとれないため、二キロメートル程離れた中台小学校建設予定地を借用した。生徒は自転車や徒歩で移動し、ベースやバット等の用具は車で運搬した。またバーレーボールは校舎前に一面準備した。卓球は使用していない二教室でダブルスを行つた。当時はこのように厳しい条件下での大会であったが、全員不平一つ言わないでゲームに熱中した。

三年目ごろよりグランドもきれいに整備され、体育館も完成し、すっかり条件が良くなつた。生徒も三学年そろい、一日では競技が消化できなくなり、一日半を使うようになった。種目も多くなり、特に全員で実施したフォークダンス、クラス対抗リレー、相撲など

開校年度のスポーツ大会は、スポーツを通じて、生徒間および教師との親睦をはかることを目的として始められた。当時は、グランドとは名ばかりで、小石と貝がらがいっぱいであった。昔は千把ヶ池といわれた沼を埋め立てたところで、沈下がひどく、しばらくは使用できなかつた。そのような状況であつたが、どうにか工夫して実施することにした。種目は、男子がソフトボール、女子がバーレーボール、卓球は男女共通で行つた。とくにソフトボールは会場がとれないため、二キロメートル程離れた中台小学校建設予定地を借用した。生徒は自転車や徒歩で移動し、ベースやバット等の用具は車で運搬した。またバーレーボールは校舎前に一面準備した。卓球は使用していない二教室でダブルスを行つた。当時はこのように厳しい条件下での大会であったが、全員不平一つ言わないでゲームに熱中した。

なお、平成元年度（第一〇回大会）の種目は、次のとおりである。

男子・サッカー（グランド）・バーレーボール（体育館）
女子・バスケットボール（体育館）・バーレーボール（グランド）
・テニス（テニスコート）・卓球（第二体育館）
「クラス対抗」・クラス対抗リレー（男女各四名）
・クラス対抗綱引き（男女各一〇名）

（文責 高岡 誠次）



球技大会での熱戦

が大変人気ある種目であった。
五年目ごろになると、全体的に落ちつきを持ったスポーツ大会となり、種目ごとに熱戦がくりひろげられている。なかでも伝統になつた相撲になると、全員がグランドの階段下の土俵のまわりに集まつて試合が展開される。職員の特別参加も多数あり、試合を一層盛り上げた。

耐寒マラソン大会

高校生活の中で、思い出に残る行事の一つである耐寒マラソン大会は、昭和五十六年二月七日に、岩上校長の擊つピストルの合図でスタートした。男子は正門から、給食センター、八代、印旛沼に向かって走り、片道五km、往復一〇kmのコースであった。女子は、同コースを折り返す五kmのコースで行われた。初年度は、生徒数も少なく約一八〇名で、健脚を競い合った。生徒には参加賞としてキャラメルと、一位から三位までの男女にトロフィー、上位一〇名まではノートの賞品があたえられた。参加賞のキャラメルは、第八回大会まで生徒に配られ、みんな美味しそうに食べていた。



寒さをふき飛ばして

歴代優勝者 男子

回	年月日	学年組	氏名	記録
1	昭和56. 2. 7	1 A	木口 政章	35分27秒
2	57. 2. 13	1 A	青山 敏彦	35分09秒
3	58. 2. 12	1 C	瀬川 二郎	33分40秒
4	59. 2. 4	2 C	瀬川 二郎	35分04秒
5	60. 2. 16	2 C	寺田 和好	35分45秒
6	61. 2. 17	1 F	熊谷 清治	37分28秒
7	62. 2. 7	1 G	神谷恵太郎	37分41秒
8	63. 2. 6	2 E	神谷恵太郎	38分44秒
9	平成元. 2. 4	2 B	山之内信幸	39分41秒
10	2. 2. 10	1 J	佐藤 正教	38分48秒

女子

回	年月日	学年組	氏名	記録
1	昭和56. 2. 7	1 A	志村 早苗	23分33秒
2	57. 2. 13	2 B	志村 早苗	26分00秒
3	58. 2. 12	2 D	宇井 初枝	24分21秒
4	59. 2. 4	1 C	竹内 和美	24分14秒
5	60. 2. 16	2 C	竹内 和美	25分15秒
6	61. 2. 17	1 D	北 さおり	24分31秒
7	62. 2. 7	2 E	北 さおり	28分00秒
8	63. 2. 6	2 F	山仲 惣子	29分08秒
9	平成元. 2. 4	1 B	山村 里佳	25分21秒
10	2. 2. 10	2 B	山村 里佳	26分31秒

て、これは輝かしい記録である。

今まで、事故もなく第一〇回大会までこられたのも職員と生徒の協力のたまものである。これからも、安全に努め健康増進に役立てたい。

(文責 国本 正美)

芸術鑑賞会を振り返つて

本校では、開校二年目から毎年芸術鑑賞会を催している。

現代の高校生の興味・感性では、日常触れる機会の少ない文化について、芸術公演を開催することで、本物の文化に触れ、豊かな情操や感性を養うことを目的としている。演劇・音楽・古典の三分野について、適切なものを選択し、交互に鑑賞を続けている。

第一回 演劇鑑賞 昭和五十六年十月十六日：成田国際文化会館

「町人貴族（モリエール原作）」

開校二年目で、一・二学年合わせ八学級という小規模校であったので、成田園芸高校の生徒とともに成田国際文化会館で観劇。

第二回 音楽鑑賞 昭和五十七年十一月十八日：本校体育館

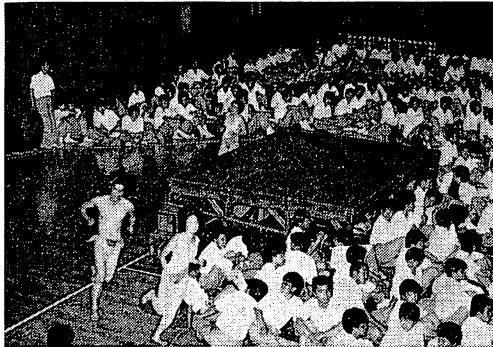
「東京チーンバー・プラスコワイ
ヤー」公演

東京芸術大学出身者を中心とした金管アンサンブル。一四名編成でクラシック・映画音楽等の演奏

および楽器紹介。ダイナミックな音量、ユーモアあふれる演奏で、クラシック音楽に対するイメージが身近なものになつた。

第三回 音楽鑑賞 昭和五十九年一月二十九日：本校体育館

「鳩山寛アンサンブル」公演



芸術鑑賞会「走れメロス」

東京交響楽団のヴァイオリニスト・鳩山寛を中心に、東京交響楽団のソリストで構成されるアンサンブル。弦楽四重奏、金管五重奏、ヴァイオリンソロ等で、クラシック音楽中心のしつとりとした芸術性の高い演奏を聴かせてくれた。

第四回 國土芸能鑑賞 昭和五十九年十一月十五日：本校体育館

「小見川雛子：小見川町野田下座連」公演

日ごろ、地元の祭り等で耳にしている祭り雛子の演奏。小見川雛子は、天保年間以前から伝えられる郷土芸能、無形文化財である。一人前の芸座師になるには一〇年の修業が必要であると解説され、街頭での祭り気分で聴くのとはまた違った芸術性が感じられた。

第五回 古典芸能鑑賞 昭和六十年六月二十七日：本校体育館

「狂言 萩大名・棒縛り・日本伝統芸能を守る会 学校公演部」公演

実際に本物を間近で見て、地声の大きさに圧倒され、ひょうきんな動きに腹を抱えて笑い、授業で習ったときには遠い存在に思えた能・狂言の古典が、目の前で生き返ったように感じられた。

第六回 演劇鑑賞 昭和六十一年六月十二日：本校体育館

「走れメロス：東京演劇アンサンブル」公演

太宰治の原作を、体育館のフロアーを舞台化する意表をついた演出で、生徒の目の前を演者がダイナミックに走り回り、汗や息遣いが間近に感じられる迫力ある舞台を見させてくれた。

第七回 音楽鑑賞 昭和六十二年十一月七日：本校体育館

「ニューオフィルハーモニー・オーケストラ千葉」公演

五〇名編成のオーケストラでクラシック・映画音楽の演奏。フル編成の音量はやはり本物の迫力。最後に、梶本教諭のタクトで校歌が演奏され好評を博した。

第八回 古典芸能鑑賞 昭和

六十三年六月十六日：本校体育館

「落語・漫談：林家木久藏一門

（全五名）」公演

たり、花束贈呈等の協力があつたことを付け加えておく。

（文責 尾形 肇）



林家木久藏一門を迎えて

前座の女性落語家、きく姫の「寿限無」の落語に始まり、漫談・マジックと舞台が続いた後、テレビでお馴染みの木久藏師匠が登場、当日の北高に到着するまでをおもしろおかしく『まくら』にして聴衆を引き付けてから、古典落語「松竹梅」を口演。

第九回 演劇鑑賞

平成元年十一月十一日：千葉県文化会館大ホール

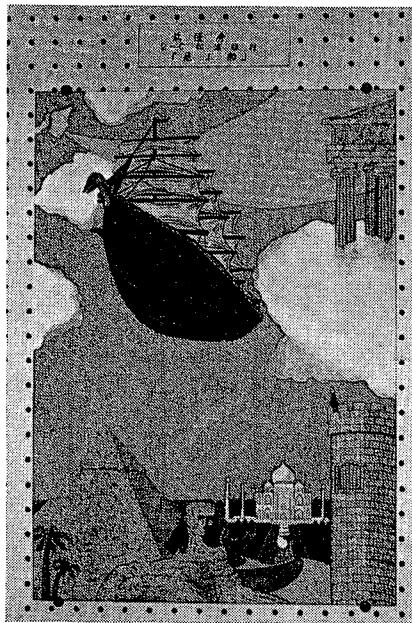
ル

「オペラ・メリーウィドー：二期会」公演

生徒増により、校内あるいは成田周辺で、全生徒・職員が観劇出来る会場の確保が困難になり、鑑賞会の継続が危ぶまれたが、上記会場で高校生向けオペラ公演の企画があり、検討の上実施した。土曜の午後、現地集合等、未経験の運営で不安もあったが、絢爛豪華な舞台、華やかな演出に時間の経つのを忘れ、オペラの魅力を十分堪能できた。

以上、芸術鑑賞会を簡単に振り返ってみた。目に見える成果は不明でも、高校生活三年間の芸術鑑賞は、何らかの形で生徒諸君の心に残り、豊かな情操を養うのに役立ったことと思う。

なお、毎回の公演に際しては、裏方として図書部職員及び図書委員の生徒諸君が、ポスターを描いたり、資料を集めて、パンフレットを作つ



読感画—豊かな感性を描く—

現在の図書部の主要な行事の中に「読書感想文」「読書感想画」コンクールがある。「読書感想文」は、多くの学校で実施され小学校から勤労青少年までを対象とする、全国的な教育運動の一環として展開されているので知らない人はいないと思う。しかし、「読書感想画」については、はじめて聞いたという人が多いのではないだろうか。

本校では、開校と同時に国語科を中心として「読書感想文」コンクールが実施された。当初から、全校生徒対象に職員全員が審査に当たるという方式で実施されてきた。この方式は、現在も踏襲されている。学校によつては、国語科や一部の教員の指導によって、事前指導から審査がなされているところもあると聞く。読書運動の一環としての感想文コンクールの意義を考えれば、全職員が協力して指導することが教育として大切なのではないかと思われる。本校でも一時、感想文の審査は国語科

や図書部の先生がやるべきで、担任を煩わせることに疑義が寄せられ、職員会議で論議されたことがある。しかし、読書という行為が、教育活動の基本であるという共通理解のもとに、現在も全職員が審査に当たる

方式をとっている。

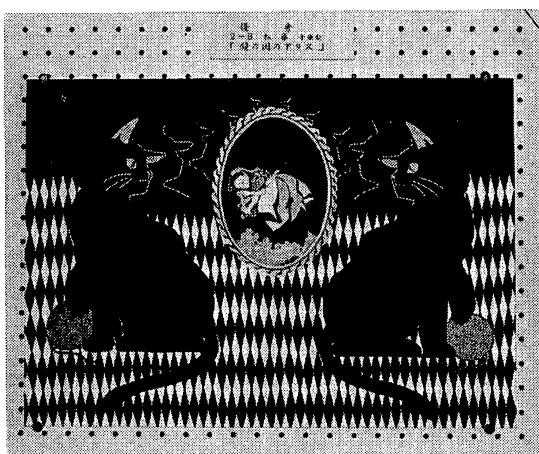
本校における読書感想文のあり方を紹介しよう。校内読書感想文コンクールは、夏休みの課題として全生徒に出され、九月の新学期に担任へ提出。これを正副の担任が手分けして読み（第一次審査）、審査委員会に各クラスから二点から三點の割で作品が提出される。これらを図書部・国語科・新着任職員で構成する審査委員会で審査する。（新着任職員の審査員は、平成元年度以降参加していない）

審査は、学年ごとに分担して実施される第二次審査（学年審査）。全審査員が一堂に会する最終審査会と一段階で進められている。第二次審査では、各学年から代表作品二〇点余が選出される。最終審査会は合議制で行われ、全員の委員が意見を発表する形で進められる。その結果、最優秀作品一点・優秀作品三点・優良作品六点・佳作一〇点が選出される。また、その中から特に優れている作品三点を選んで千葉県コンクールに応募されるのである。千葉県コンクールでは、昭和六十二年に当時二年生の佐藤ゆかりさんの作品が第二類「ノンフィクション」で「優良」賞を受賞したのが最初である。また、平成二年度の千葉県コンクールには、二年生の鶴岡友克君の作品『「羅生門」を読んで』と三年生の若竹智子さんの作品『「人間的強さ・人間的脆さ」を読んで』の二点の作品が応募された。結果、二点とも「優良」賞を受賞し、感想文コンクールでは、開校以来の快挙となつた。

一方、校内読書感想画コンクールは、昭和六十二年から始まつたものである。その前年、関東地区の第一回読書感想画コンクールが開催さ

読書感想文・画コンクール

れ、当時一年生であった加瀬大介君ら四名の作品を千葉県コンクールへ応募したところ優秀賞（五十嵐扶由子：二年生）、優良賞（加瀬）を受賞した。二人の作品は、さらに千葉県代表作品として、関東地区コンクールに応募され加瀬大介君の作品が高等学校の部で「優秀」賞、五十嵐さんの作品が「優良」賞を受賞することになった。加瀬大介君は、一年生から図書委員長をつとめ司書不在であった一時期の図書館を一人で支えた功績も大であった。翌年、二月に行われた受賞式には、二名の生徒を毎日新聞東京本社で挙行された表彰式に大木教諭が引率した。この実績を生かし、次年度から読書感想文コンクールと並行して感想画コンクールを全校生徒対象（希望者）として開催した。作品は、五〇点余り集まり千葉県審査では上位を独占し感想画の北高と言われるまでになつた。関東地区コンクールでも、加瀬君の作品が二年連続して入賞した。



読感画—物語を一枚の絵に

昭和六十三年度は、校内の応募作品数が六〇点を越え千葉県コンクールでは、上位独占であったが、惜しくも関東地区コンクールでは、豊田名実（当時一年）さんの作品が奨励賞に入ったのみであった。関東地区の感想画コンクールはこの年で廃止され全国規模の読書感想画中央コンクールが始まった。当初から指導

を熱心に担当してきた斎藤教諭（現佐倉高校）を中心として、校内体制を固め入賞を目標に本の選定から描画指導と熱心な指導がなされた。しかし、直接指導を受けず夏休みの作品として描いた岡由美子（三年）さんの作品「悲しみの大陸」（口絵）が、校内はもとより千葉県審査も文句無しの一位で、全国規模で実施された中央コンクールへ出品され、「90年度読書感想画中央コンクール高等学校の部で見事「最優秀賞」を受賞したのである。

衆議院選挙直前に行われた各党党首会談と同じ会場である東京日比谷の「日本プレスセンター」で、「90年度読書感想画中央コンクール表彰式」が行われた。当日、関係者はもとより作家、画家、出版社など多数の人々が参加し盛大に行われた。岡さんは、対象図書の作家や出版社の人たちと話し合われ、記念写真を撮るなどたいへん思い出深いものになつたようである。また、千葉県教育長、千葉県議会議長よりその功績を認められ記念品と感謝状が送られた。また、斎藤教諭はその指導力が評価され、島根県松江市で平成二年八月に行われた全国学校図書館研究大会の講師として、感想画の指導について研究発表した。

平成二年度の校内読書感想画の描画希望者は、二五〇名にも達し指導の成果が着実に生徒に浸透してきたようである。なお、感想文・感想画の優秀作品は、「読書感想文画集」として印刷製本され全校生徒に毎年配布されている。

「現代学生気質百人一首」へのとりくみ

三年 大巻フレーダ

あの日からわざと明るく過ごすのは哀しみおさえるわたしの手段

一年 村上 陽子

小野川の川面にうつる提灯の揺れる灯りが心なごます

三年 宮本 国博

気がつくと君の姿をさがして笑顔が似合う君がまぶしい

三年 糸賀 光代

あの頃の思い出だけがあつたかいたつた一人のクリスマスイブ

三年 清宮 敦子

いつからか増え始めてた幾つもの君の知らない時間の私

三年 芝山由貴子

昭和六十二年秋、百周年を迎えた東洋大学で、全国の高校生を中心

「現代学生気質百人一首」と題して、短歌の募集が行われた。国語の授業中、表現の実作として短歌を詠ませているが、その中から何首か選んで応募し、三首が入選した。それが右の歌である。俵万智さんの影響もあり、折からの短歌ブームの中のことであった。マスコミにとり上げられたりして、当時、大きな反響をよんだ。本校だけでなく、全国から集

まつた入選作を見ると、ただ、言葉を三十一文字にはめこんでいるだけのようにも思える。しかし、その歌が読む者をひきつけるのはなぜだろう。それは、どの歌もみずみずしい感性にあふれ、なかなか本心をのぞかせない、彼らの心情を垣間みせるからであろう。彼らは、自分たちの言葉で、自分たちの気持ちや生活を詠みこんでいる。その何気なさが歌に生命を与えていているのかもしれない。

北風とともに現わる鴨のむれ遠くで銃の音が聞こえる
昭和六十三年・二年 大野 雅子

君の目にきれいに星がうつるときすべての思いが星につらなる
昭和六十三年・一年 小出 喜美

鏡見てうつる自分に問いかける性格少し素直になりな
昭和六十三年・三年 大貫久美子

紀子さんの笑顔に学び我もまた鏡に向かいほころんでみる

平成元年・一年 有吉 直子

(文責 山根 昌子)

沿革一成田北高10年のあゆみ

昭和六十三年

昭和六十三年、平成元年と、また続けて募集があり、本校からも毎年応募している。以下は、その際の本校生徒の入選作である。

昭和六十三年

一人飲むイチゴフロートの中に数えきれない思い出溶かす

交換留学生へのとりくみについて

昭和五十七年度（創立三年目）の九月から、地域のロータリー・クラブの要請に応え、交換留学生を受け入れることになった。これまで七名の留学生を受け入れた。ここで彼らを簡単に紹介したい。

最初に受け入れたのはカナダのリッチモンド出身のアン・ニュートンで、佐倉ロータリー・クラブにお世話をいただいた。彼女はバレー部などにも入部し、多くの友人をつくり、本校のその後の交換留学生のスタイルをつくった。彼女は帰国後も日本語の勉強を続け、筑波万博にはコンペニオンとして再来日し、カナダ館で全校遠足で訪れた私たちを暖かく迎えてくれた。

翌五十八年度はダグラス・リドルがやはりカナダのバンクーバーからやってきた。とても元気のある男子で、何にでも挑戦した。相撲大会にも参加して準優勝したが、賞状を貰えなかつたことを随分残念がついた。このダッグも帰国後大学を終えてから再来日し、突然電話をくれたり、学校を訪問してくれたりして、私たちを感激させてくれた。船橋でバイトをやつたり、大阪の会社で働いたりして滞在費をつくり、日本と貿易をやるという留学時代の夢を果たす準備をしたのである。この時は印西ロータリー・クラブにお世話になつた。

六十年一月、今度はオーストラリアはアデレード出身のエリザベス・クラークがやってきた。初めてのオーストラリア人なので発音が分りにくかつたが、英語科の職員には良い勉強になつた。彼女もやはり帰国後大学に入り、日本語を勉強し、卒業後再来日して学校をひょっこり訪ねてくれた。「新潟の専門学校で英語を教えることになりました」と言つて

私たちを驚かせた。佐倉ロータリー・クラブにお世話になつた。

六十一年一月にオーストラリアのタスマニアからエリザベス・アダムスがやってきた。彼女は日本語をすでに勉強していく、結構話せた。彼女は誰にでも笑顔をふりまき、喜ばれた。彼女も帰国後、大学に進み日本語の勉強を続け、卒業後再来日し、学校を訪問してくれた。また日本語の手紙もよく書いてくれた。印西中央ロータリー・クラブにお世話になつた。

六十二年一月にやはりオーストラリアのタスマニアからナレル・カガヤってきた。この子はとてもおとなしい子であったが、八月に母親が亡くなるという不幸に遭い、やむなく年度途中の九月に帰国した。母親は「自分が死んでも留学を全うして欲しい」と遺言を残したそうであるが、ナレルには異国の地で母親と死に別れたことは耐え難かったのだろう。この年も印西中央ロータリー・クラブにお世話になつた。

六人目の留学生は久しぶりに男子で、ニュージーランドのオークランドから来たサム・ハーディである。サムは空手などもやって意欲的な学校生活を送つた。彼は来日する前からすでに日本語を上手に話せたので友達もたくさん出来た。この年も印西中央ロータリー・クラブにお世話になつた。サムは六十三年一月に来日した。

平成二年一月に今度はニュージーランドのハミルトンから七人目の留学生キヤロライン・レニーがやってきた。キヤロも明るい子で、毎日意欲的に学校生活を送つて、観光地などでゴミが落ちていると黙つて拾う子である。印西中央ロータリー・クラブにお世話になつて、この間に、本校から次の六人の生徒を交換留学生として外国に派遣した。

昭和六十一年三月 丸山 知栄

オーストラリア・ワイアラ

昭和六十一年三月 早川 利恵

オーストラリア・タスマニア

昭和六十二年三月 近藤 桂子

オーストラリア・タスマニア

昭和六十三年三月 與世里幸子

ニュージーランド・オークランド

平成二年三月 岩崎 力

ニュージーランド・ハミルトン

この交換留学制度は、地域の団体の要請で実施されているものである

が、本校にとつても、益するところ大であると思う。生徒は自然に外国人

人と接し無用な劣等感を抱かなくなっているのではないか。彼らと友人になった生徒の数は測り知れないし、日本語に四苦八苦している彼らを見て、英語で苦労している生徒たちは、共感を覚えたに違いない。

驚いたことは、最初のアンからエリザベス・アダムスまでの四人が四人とも、連続して再来日していることである。このことはすごいことだと思う。学校がどれだけのことをしてあげられたかはわからないが、帰国後また慕って来てくれたということは、少なくともわれわれの気持が通じていたと思うからである。確かにいろいろなことがあった。喜びも悲しみも、今では宝のような思い出になっている。

国際親善などといふものは特別な構えの中では決して生まれないのではないだろうか。何気ないやりとりの中から生まれてくるように思う。

(文責 小松 栄三郎)

本校に学ぶ留学生の横顔

—広報と新聞にその軌跡を追う—

私の日本での生活

留学生 アン・ニュートン



私はカナダのバンクーバーからきたアン・ニュートンです。

日本にきてからちょうど三ヶ月になります。

私が子供の時、私の兄は日本にきました。

だから私も日本に行きたいと思いました。そして日本語を覚えたかった。なぜならばバンクーバーにはたくさんの日本人やその二世がいます。そして友達もたくさんいます。ある人は、日本語を全く話せません。もし私が日本から帰った時、日本語が話せたら彼らはおどろくでしょう。

今私は三年生のクラスにいます。私のカナダの学校に比べて、この学校はとても大きいです。私は学校で先生と一緒に日本語の勉強をしています。私はうれしいです。なぜならばどの先生も親切で、やさしいからです。今私は、カタカナとヒラガナはできます。そしてやさしい日本語も話せます。けど漢字はとても難しいです。

私は学校で体育・数学・音楽・家庭・生花・書道と英語を勉強しています。私は英語の時間はとても楽しいです。でも時々私は、はずかしいです。なぜならば先生は私に英語で質問します。けど私は時々わからぬときがあるからです。

私は学校で浴衣を作っています。私は大好きです。それは日本の着物は、とてもきれいだからです。けれども帯がきつくてとても苦しいです。

私は制服がきらいです。なぜならばネクタイが結べないからです。私は学校にたくさんの友達がいます。だから学校生活はとても楽しいです。

今私は二番目の家庭にいます。そして私には三人の妹がいます。私は妹が好きです。なぜならば妹は五歳ですが、私の日本語の勉強を手伝ってくれます。彼女は良い先生です。

日本には、たくさんの習慣があります。それらの習慣を覚えることはとても難しいです。けれどもとても面白いです。私はカナダにももつとたくさんの習慣があればいいと思います。

私はカナダに帰るまでにやりたい事が四つあります。

まず東京のディズニーランドに行くことです。つぎに富士山を見ることです。三番目は俳句を作ることです。最後は漢字を理解することです。

まだ日本にきて三ヶ月です。だから生活になれることで精一杯です。

しかし残りの七か月で、自分の目標をなしとげるよう頑張るつもりです。どうもありがとう。

後記 英語科 江波戸好文

留学生のアン・ニュートンは、日本に来て以来ちょうど三ヶ月になります。

先生方をはじめ、ホストの方々、また生徒諸君の御協力により著しい日本語の上達をしています。前記の文章は、留学生自身が努力して書き綴ったものです（漢字は除く）。多少読みにく箇所があるかと思いますが、一読していただければ幸いに思います。

（PTA広報「成北」第六号より）

さよならアニー



昭和五十八年六月二十三日木曜日。留学生アン・ニュートンさんの送別会が行われました。アンは皆にアニーと愛称され、昨年九月一日より、北高の生活に入りました。そして、早くも一年がたつたのです。校長先生のお話について、特製の修了証書、記念品がそれぞれ、校長先生、生徒代表より贈られ、アニーからも学校に記念品をいただきました。アニーの最後のスピーチは、ところどころつかえながらも、心地良い日本語で話してくれました。笑いもあって、とても楽しいアニーらしいスピーチでした。

（—C 阿部記）



交換留学生 カナダより来校

——ダグラス・リダル君——

ダグラス・リダル君（通称ダッグ）は、カナダ太平洋岸最大の都市バンクーバーの高校生です。昨年七月より一年間、北高生として過ごします。以下は、ダッグが自分で書いたごあいさつです。

私はりゅう学生です。そしてカナダからきました。私は日本に九月にきました。私はなりた北高校が好きです。私はたくさん良いともだちが



将来は、栄養士をめざし大きな病院で働きたいという夢を持っているということです。よろしく。

(PTA広報「成北」第一三号より)

本校では毎年ロータリークラブ主催の交換留学プログラムに応募しています。今年は一月十九日より一年間の予定で、オーストラリアのタス

カナダに七月にかえります。日本が好きなのでたいへんさびしいです。私は日本にまたきたいです。いましすいにすんでいます。しすいの町はとてもおもしろいです。前は木下にすんでいました。日本はとてもおもしろいです。カナダにかかる時、私は「さようなら」のかわりに「行ってきます」というつもりです。

そうです。

将来は、栄養士をめざし大きな病院で働きたいという夢を持っています。

日本へ来ての最初の印象は、人の数が多いこと、人々がせわしなく動いていること、そして想像していた以上に人々が、隣接していたことだ

可愛いリズをよろしく

——留学生紹介——

英語科 江波戸 好文

日本へ来ての最初の印象は、人の数が多いこと、人々がせわしなく動いていること、そして想像していた以上に人々が、隣接していたことだ

日本へ来ての最初の印象は、人の数が多いこと、人々がせわしなく動いていること、そして想像していた以上に人々が、隣接していたことだ



私の住むアデレードは、最近姫路市と姉妹都市となり、お茶室のある日本庭園が造られたそうです。帰国してからは、大学に進み生物学を専攻し、栄養士になるつもりです。それと同時に日本語をもっと勉強して、また日本に来て通訳になりたいという夢も持っています。

(PTA広報「成北」第一五号より)

ダッグ

(PTA広報「成北」第一〇号より)

留学生バスを迎えて

英語科 土 戸 富子

エリザベス・クラークさん（通称ベス）は、南オーストラリアよりやつて来ました。家は南オーストラリアのアデレードから車で一時間十五分の所に位置し、生徒数二五〇名、教員数二二名というリバトンハイスクールを昨年の十二月に卒業して来ました。彼女の住むハムレイブリッジは人口八〇〇人の町で、主に農業に従事し、近郊で大麦や小麦の栽培をしていて羊などを飼っています。川が町をはさむように流れています。

エリザベス・クラークさんは、南オーストラリアよりアデレードから車で一時間十五分の所に位置し、生徒数二五〇名、教員数二二名というリバトンハイスクールを昨年の十二月に卒業して来ました。彼女の住むハムレイブリッジは人口八〇〇人の町で、主に農業に従事し、近郊で大麦や小麦の栽培をしていて羊などを飼っています。川が町をはさむように流れています。

ハッピを着て山車を引く

——バスの日本一〇か月——

交換留学生 エリザベス・クラーク

私はオーストラリアから日本へ来て一〇か月になりますが、広島・京都・姫路と訪れ、日本の文化に触れてきました。また成田や佐原のお祭りでは法被を着て山車をひきました。囃子の音色は格別です。

私はオーストラリアから日本へ来て一〇か月になりますが、広島・京都・姫路と訪れ、日本の文化に触れてきました。また成田や佐原のお祭りでは法被を着て山車をひきました。囃子の音色は格別です。

First Experience In Japan

Hi! My name is Elizabeth (Liz) Adams and I am 16 years old. I come from Tasmania, in Australia and I will be in Japan for one year on a Rotary Exchange Scholarship. I have 3 brothers, 1 sister, and a mother and father.

My favorite hobby is music. In Australia, I was learning the piano, clarinet and violin. I like all types of music, especially classical and pop music.

Whilst (= While) in Japan, I hope to learn to speak and write Japanese, and also to learn as many customs and traditions as I can. I have already attended one tea ceremony class and I found the experience very enjoyable and interesting.

There are too many differences between Australia and Japan for me to be able to list them all, so I will point out the main one that I have noticed so far.

I think the students who go to Narita Kita High School have a lot more respect towards their teachers than some of the students who attend my school in Deloraine. We do not have to bow at the beginning and at the end of each lesson; and if we enter a teacher's staffroom, we are not expected to say anything to all the teachers who are in the room. I think the Japanese way of showing respect is very good and I hope it continues for a long time.

I hope you have the chance to visit Australia, so you can see the things that I talk about and love.

[大意]

Hi! エリザベス・アダムス(愛称リズ)です。16歳、オーストラリアのタスマニア島出身です。ロータリークラブの交換留学生として、日本に1年間いる予定です。家族は7人。趣味は音楽で、ピアノ、クラリネット、バイオリンを習っていました。音楽は何でも好きですが、クラシックとポップスが特に好きです。

私は、日本にいる間に、日本語や、日本の習慣・伝統を学びたいと思います。先日の茶道クラブも、楽しくおもしろい経験でした。

私が気付いた、両国の(文化の)違いをあげてみます。成田北高の生徒は、私が通っていたデロラインの高校の生徒よりもずっと先生方を尊敬しているようですね。オーストラリアでは授業の始めや、終りに「礼」をしませんし、先生方の準備室に入るとき「失礼します」というようなことは何も言わなくてよいのです。でも私は、この「礼」はとても良いことだと思いますし、これからもずっと続くといいなと思います。

いつか、みなさんもオーストラリアに来て下さい。そうしたら、私が話したこと、私が愛しているものを実際目にすることができるでしょう。



(「成田北高校新聞」第1号より)

を話すようになると
思います。



マニア州から、交換留学生を引き受けています。名前はエリザベス・アダムズ(十六歳)、通称リズと呼ばれ、多くの生徒に慕われている可愛い生徒です。今のところ日本語はわからませんが、二、三ヶ月後には上手な日本語

本校では過去三名の留学生を引き受け、同時に三名の本校生徒をオーストラリア、アメリカ等に派遣しました。その結果は良好ですので、今後更にこのプログラムへの参加を活発化し、国際社会により一層対応できる人材を育成したいと思います。

(PTA広報「成北」第一九号より)

留学生紹介

——とても日本人的な彼女です——

英語科 江波戸 好文



今年も新しい留学生が一月十七日に来日しました。ナレル・ブラウン・カー。十七歳。オーストラリアのタスマニア州出身の女の子です。彼女は来年の一月まで、本校で日本の文化や日本語を学びます。日本人的な性格ですが、みんなからとても好かれています。

本校では今までに四名の留学生をアメリカやカナダ、オーストラリアから受け入れ、その交換として同じく四名の本校生徒を留学生として派遣してきました。そして十分な効果をあげてきました。

二十一世紀の日本の社会は、更に国際化がすすみ、同じ職場では他国民が同僚として働いていることでしょう。その時に備え、現在の若者は外国の文化や国民を積極的に理解する必要があるでしょう。

(PTA広報「成北」第二二号より)

留学生紹介 My first impression of Japan

Sam Hardy

Hello, my name is Sam Hardy and I come from New Zealand, I came to Japan as a Rotary exchange student on January 14th and will be spending one year at Narita Kita high school.



My first impression of Japan is that it is very crowded in complete contrast to New Zealand which only has a population of about 3 million people. The streets here are very narrow and the houses look completely different. Japanese society tends to be a lot stricter than in New Zealand that seems to be more individualistic. I like Japan and find that the people are really friendly to me.

The food takes some getting used to and I miss basic European foods such as bread. Generally speaking Japan is a lot more expensive than New Zealand, especially food which is 2 or 3 times the price at home. The differences though are really a lot of fun and I'm glad to be spending my year in Japan at Narita Kita high school.

(PTA広報「成北」第25号より)



留学生紹介

キャロライン・レニー

Hi! My name is Caroline Rennie, I am attending Narita Kita as a rotary exchange student, from New Zealand. In New Zealand I live in a town called Hamilton which is near Auckland. I attend a school which has about the same number of students as Narita Kita but that is where the similarities end!

New Zealand school is very different from school in Japan. High school in New Zealand has 5 grades. You start when you are 13 and finish when you are 18, but school is only compulsory until 15, so some students finish before they are 18 and find jobs. We have national examinations after 3, 4 and 5 years. At my school only the first 3 grades wear a school uniform and grade 4 and 5 wear anything they like. This year would be in grade 5 the highest grade, so it is strange coming to Japan to be in the lowest grade. In 4 and 5 grades, you get many privileges at school. For example, students may go home or to friends houses at lunch time, as in New Zealand you can get your driver's licence when you 15 or 16 so many students own old cars, which they drive to school.

In grade, 4 and 5 you only chose 5 subjects to study. The average number of students in each class is 20. When a period ends, the classes move to the teacher, not like in Japan where the teachers go to the classroom. And in every class, you have a different group of people so you get to know everybody in your grade.

We have similar club after school, but there are different sports (eg. rugby and netball). They do not practise everyday and most sports are either played in winter or summer not all year as in Japan. So you can join many clubs. Also this leaves time for part time jobs which most students have after school.

In New Zealand there is no school on Saturday so every Friday and Saturday nights there are always parties, which I like very much.

Thank you to everyone that has helped me and been friendly. I like Japan very much and look forward to the rest of the year.

C. Rennie

こんにちは。私はキャロライン・レニーです。私はロータリークラブの交換留学生として、ニュージーランドからきました。ニュージーランドでは、オークランドの近くのハミルトンという町に住んでいます。ニュージーランドで私が通っている学校は、成田北高校と同じくらいの生徒数ですが、あとは日本の高校とは全く違います。ニュージーランドの高校は5年制で、13歳で入学し、18歳で卒業します。でも、義務教育は15歳までなので、18歳前で学校を終了して働く人もいます。3年生、4年生、5年生の終わりには、国が行なう試験があります。私の学校では、1年生から3年生までは制服がありますが、4年生と5年生は制服ではなく自由です。ニュージーランドの学校では今年私は5年生、つまり最高学年になるはずだったので、日本に来て、今一番下の学年なので、何か不思議な気がします。また私の学校では、4年生と5年生は、他の学年よりもいろいろなことができます。例えば、昼休みには、家に帰ったり、友達の家へ行って食事することができます。またニュージーランドでは、15歳か16歳で運転免許が取れるので、自分の車(古い車ですが)を持っていて、車で通学する生徒がたくさんいます。

ニュージーランドでは、4年生と5年生で勉強するのは、5科目だけで選択制です。1クラスの生徒数は平均20人くらいです。日本では、授業のとき先生が教室へ行く方が多いですが、ニュージーランドでは、生徒が先生のいる教室へ移動します。授業は選択制なので、それぞれの授業で受けた生徒が違います。このため、授業でいろいろ生徒に会うので、同じ学年の生徒皆を知るようになります。

ニュージーランドでは、日本と同じように放課後に部活動がありますが、ラグビーやネットボールのような違うスポーツもあります。また、活動は毎日ではありませんし、たいていのスポーツは夏か冬のどちらかにやるだけで日本のように1年を通してやるということはありません。だから生徒は放課後アルバイトなどをする時間があり、実際にほとんどの生徒がアルバイトをしています。

ニュージーランドでは、土曜日には学校がありません。だから毎週、金曜日と土曜日の夜にはパーティーがあります。私はこのパーティーが大好きです。

私に親切してくれたり、親しくしてくれるみなさん、どうもありがとうございます。私は日本がとても好きです。私は日本でのこれから日々が楽しみです。

キャロライン・レニー

(「成田北高校新聞」第4号より)

A E T の 抛 点 校 と し て

AET (Assistant English Teachers) の制度は外国青年を招致して外国语教育の充実と地域レベルでの国際交流の進展を図るため、地方自治体、自治省、文部省、外務省が一体となって昭和六十二年度から始めた制度である。本校は初年度からAETを迎えて本校の英語教育の進展に資したが、平成元年度からは「抛点校」として一層充実した英語教育に取り組んでいる。元年度は英国のパトリシア・オーロッククリンさん、二年度には米国のエイミィ・ロビンソンさんをお迎えした。

(文責 小松 栄三郎)



外国人講師自己紹介

こんにちは、

A E T の パ ト リ シ ア で す

英語科 パトリシア・オーロッククリン

皆さん初めまして、私の名前はパトリシア・オーロッククリンといいます。イギリスのプラッドフォードという街に生まれ、ウェールズのスワンジー大学で地理学を勉強してきました。

今年の八月に A E T (英語指導助手)として日本に来ました。最初は暑さと生活に慣れるのに懸命でした。そして、県内のいろいろな街へ出かけ、お祭などを楽しみました。

さて、私は現在北高の他に多古、佐原、佐原女子高校へ行っています。

北高では、月曜日と木曜日に主に二年生に教えています。先生方をはじめ生徒も非常に熱心かつ親切で、日本に来て良かったと思っています。

今後は、仕事の他に日本語や日本文化を理解できるように頑張ってゆきたいと思います。また多くの人に会い、たくさん友達ができるらしいと思います。

最後に、学校関係者の方々に感謝の意を表し、私の自己紹介とさせていただきます。

(PTA広報「成北」第二七号より)

Amy Robinson

パトリシア・オーロックリンからの手紙

8th October 1990

Dear Komatsu sensei and fellow English teachers.

I hope this letter will find you all well and happy. I am now in my home town of Bradford living with my parents for a short while. I arrived back in England at the beginning of September after a few weeks holiday in Thailand.

All my family & friends are delighted to see me again and also to hear about my many experiences in Japan. Every weekend I am forced to go through all my photographs and answer 101 questions to do with Japan, school, foods, language, dress, culture, etc.... They find what I say very interesting, but I find looking back at my photos & recounting my experiences makes me feel homesick for Japan. I had a wonderful time.

I would like to thank all of the English teachers for making my one year in Japan so special. In your different ways you helped me settle in, made me feel welcome in the school and your classroom. You greatly aided my understanding of Japanese schools, Japanese culture and language. I have special memories of Kitako as it is my base school my first school. The students always showed the greatest enthusiasm to learn about me, my culture and my country. I always enjoyed telling them about what I did during my weekends and holidays, and listening to their adventures. Please share this letter with your students. I miss them. Kitako is a great school and its students were among the most earnest and nicest I could ever hope to meet. Tell them about me going back to "study" as it were for the next three years. I know it's going to be difficult for me as I'm sure it will be for those students wishing to go to university. It will be worth all the effort and hard work at the end of the day.

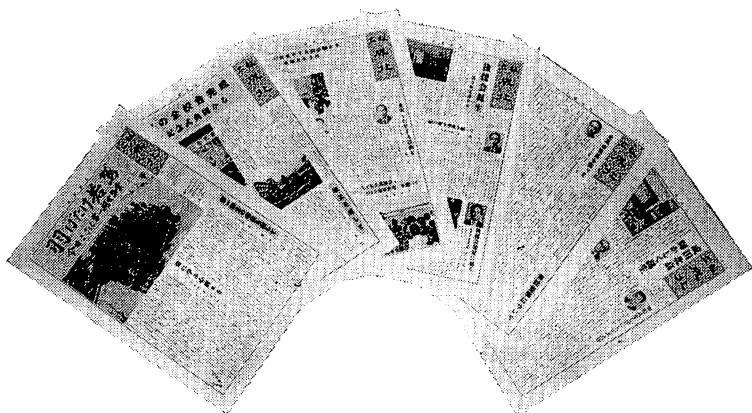
My special thanks to the English teachers of Kitako, as without your help and guidance, outside as well as within the classroom, I would have been lost with no idea of what to do. I hope that in some small way I furthered English education in your school as well as contributed to the course of internationalization.

I hope that I will hear from you soon. I will continue to write letters to you and hope one day to meet you again if not in the U. K., then in Japan. My best wishes to you all and thank you again for your many kindnesses.

Yours faithfully

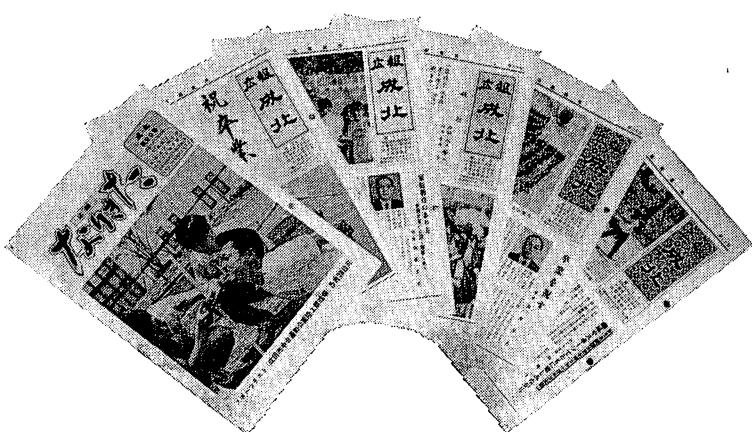
Patricia

PTA広報「なりきた」のあゆみ



B4判のころ

PTA広報委員会の編集活動により、昭和五十五年十月二十一日、PTA広報誌の創刊号が発刊された。同誌は今日まで継続的に発行され、その記事内容は、本校の歩みとともに充実し、発展の一途をたどってきている。



B5判になってから

たが、第八号からはB五判となり、コンパクトで保管しやすくなつた。第七号まで、年三回の発行日はまだ一定していなかつたが、第八号から一学期終業式当日、二学期終業式当日、卒業式当日の発行となり、ほぼ定着した。第一八号まで、名称は「成北」であつたが、第一九号からは、より親しまれるよう、また、読み違いのないように「なりきた」と改められた。

PTA・同窓会・後援会のあゆみ

PTAのあゆみ

創立十周年を迎えた千葉県立成田北高等学校、心からお祝い申し上げます。

本校は、昭和五十五年に日本の「表玄関」である「新東京国際空港」のある成田市の成田ニュータウンの一角に創設された。この年の三月十九日に行われた入学許可候補者説明会の席上、岩上初代校長（当時は開設準備委員長）よりPTA設立について要請があり、六月十四日の設立総会へ向けて、会則案の検討や役員の推薦などの準備活動に取り組んだ。設立準備委員長には谷重吉氏が就任し、総会までに準備委員会が三回ほど持たれた。

総会では、経過報告の承認、会則の議決が行われ、役員には、初代会長に谷重吉氏、副会長に伊藤倉吉、石畠邁氏、岩上校長、監事に小倉昭蔵、木口一福氏、理事に竹田栄男氏をはじめ一一名（校内理事を含む）が選出された。そして、初年度より理事会を中心に、校外指導委員会や広報委員会、研修委員会、緑化特別委員会などの委員会活動が精力的に推進された。校外指導委員会は、成田祇園祭や宗吾靈堂のお待夜祭などの校外巡回指導地区高P連の校外指導に取り組み、広報委員会は、広報「成北」を年二回発行していくことにして、昭和五十七年度からは学期ごとに発行することにし、年三回ずつ発行している。また、第二九号からは、名称を広報「成北」から「なりきた」に変更し、親しみやすい

紙面になっている。研修委員会は、総会時に講演会を開いたり、会員の研鑽と親睦のための県外視察旅行を実施したりしている。また、緑化特別委員会では、久住地区有志の方からのツゲの木一〇一本の寄贈をはじめ、保護者や地域の方々からの庭木の寄贈が相次ぎ、本校の緑化事業是非常な進展を見せた。

昭和五十六年九月十八日、前年度から検討、準備を進めてきた後援会の結成を実現させた。これは、本校の部活動の発展を助成しようという組織である。昭和五十八年度には学年委員会が設置され、翌年には地区別組織も作られ、本校のPTA活動は一段の充実を見せた。

最近ではPTA活動も、環境づくりだけでなく、学校側と保護者との共通理解と協力関係をより一層強める活動にも取り組んでいる。その一つとして、昭和六十三年度から先生方と保護者とのソフトボール大会が行われている。本年度からは、多数のお母様方の参加と応援をいただき、一層楽しい行事となっている。またゴルフコンペも開催され、会員の方だけでなく、会員OBの方々も参加され、本校PTA活動の深さと温もりをしみじみと感じさせられる行事となっている。こうした行事は日ごろ教室では見られない先生方の姿を見ることができ機会であると共に、保護者と先生方が、同じ一人の人間として、親として接することによって、本校の教育の基盤が更に強められるとともに、幅と厚みが加わることにもなっている。

創立十周年という記念すべき節目に学ぶ機会を持っている生徒のみな

さんは、終生忘れ得ない大きな思い出を持つことが出来たと思う。「人生に思い出のない者は不幸である」という言葉があるが、この思い出は必ず人生における心の支えになると思う。

いま、戦後のめざましい経済成長によって、社会構造が大きく変化し、物とかね中心の考え方方が広がり、世界でも有数の情報化社会が生まれている。子どもや親は受験戦争にあおられ、人間教育の場が非常に狭められてしまっている。二十一世紀を背負う青少年の健全育成は、心あるすべての人びとの切実な願いとなっている。

こうした中にあって、幸いにも成田北高は、校長先生を中心には諸先生方の熱心なご指導で、人間教育に積極的にとりくまれ、卒業生のみなさんは、社会的な高い評価を受けている。創立十周年を契機に、学校と保護者、同窓会、後援会がますます固く手を組み、地域社会にさらに深く根を張り、成田北高が限りない前進と発展を続けていくことを願ってやまない。最後に、在校生や卒業生のみなさんへ、関係各位と地域のみなさまの今まで以上のご支援が寄せられますことを祈念している。

(文責 第七代会長 石原 正一)

歴代 P T A 役員一覧表

	昭和55 年度	昭和 56 年度	昭和 57 年度	昭和 58 年度	昭和 59 年度
会 長	谷 重吉	谷 重吉	谷 重吉	山内克己	小野田和弘
副 会 長	石畠 邁 伊藤倉吉	石畠 邁 山内克己	石畠 邁 伊藤倉吉 山内克己	岡野 広 小野田 和弘 丸山成孝	小川精一, 丸山成孝, 村木宣夫
副 会 長 (校 長)	岩上利男	岩上利男	岩上利男	岩上利男	石井 功
監 事	小倉昭藏 木口一福	小倉昭藏, 木口一福	木口一福, 四宮達雄	四宮達雄, 高橋勇夫	四宮達雄, 北川公三
顧 問					谷 重吉, 山内克己
理 事	伊藤勝枝 岩館三郎 瓜生 和 菅原 孝 菅原 孝 藤倉文子 竹田栄男 今村米子 服部伸子 大橋一子 藤倉文子 重吉良明, 根本重治 宮園りつ	伊藤勝枝, 岩館三郎 瓜生 和, 菅原 孝 竹田栄男, 服部伸子 藤倉文子, 宮園りつ 竹田栄男 今村米子, 岩井好夫 大橋一子, 岩野 広 重吉良明, 根本重治 肥田隆弼, 丸山俊昭	伊藤勝枝, 岩館三郎 重吉良明, 根本重治 肥田隆弼, 丸山俊昭	今村米子, 越川光雄 重吉良明, 根本重治 肥田隆弼, 丸山俊昭	熱田和子, 押尾 喜代志, 斎藤正信 安部由美子, 江原 不二男, 高岡恒夫 越川光雄, 島村正江, 高仲 式 西山祥子, 山田清新, 吉岡 広 浅田智恵子, 飯島国扶, 石橋行与 居初弘次, 伊藤勝枝, 今村米子 植松三枝子, 大塚勝彦, 小沢洋子 桂木範子, 鬼沢春雄, 興石 千恵子 篠田寿行, 清宮昭男, 園田長作 高村 真, 戸井弘子, 長谷部 初江 吉田 喜和哉, 渡辺昭一, 岩館三郎
学校理事	石井 寛 渡辺和男 富澤 浩 富澤 浩 富田金秋, 越川 雄次郎 上原令子	石井 寛, 渡辺和男 伊藤龍芳 伊藤龍芳 富田金秋, 越川 雄次郎 高岡誠次, 上原令子	石井 寛, 渡辺和男 伊藤龍芳 富田金秋, 越川 雄次郎 高岡誠次, 上原令子	石井 寛, 今井万峯 伊藤龍芳, 富田金秋 越川 雄次郎, 高岡誠次 鬼沢三郎, 斎藤令子	菅谷泰夫, 今井万峯, 小松 栄三郎 富田金秋, 越川 雄次郎, 赤井正男 高岡誠次, 鬼沢三郎

歴代 P T A 役員一覧表

	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	
会長	丸山成孝	村木宣夫	飯塚信一	石原正一	鬼澤和夫	
副会長	山田清新, 飯塚信一 村木宣夫	清宮昭男, 石原正一 飯塚信一	海保博資, 鬼澤和夫 石原正一	石橋行与, 谷 照雄 鬼澤和夫	並木治雄, 岩澤貞男 谷 照雄	
副会長(校長)	石井 功	石井 功	羽生正允	羽生正允	羽生正允	
監事	北川公三, 原 靖	北川公三, 原 愛子	原 愛子, 富澤 浩	富澤 浩, 佐藤 満	富澤 浩, 佐藤 満	
顧問	谷 重吉, 小野田 和弘 山内克己	谷 重吉, 丸山成孝 山内克己, 小野田 和弘	谷 重吉, 丸山成孝 山内克己, 村木宣夫 小野田 和弘	谷 重吉, 丸山成孝 山内克己, 村木宣夫 小野田 飯塚信一 和弘,	谷 重吉, 丸山成孝 山内克己, 村木宣夫 小野田 飯塚信一 和弘, 石原正一	
理事	越川光雄, 桂木節子 岩館三郎, 渡辺昭一 高仲 弐, 鬼沢春雄 吉岡 広, 居初弘次 江原 篠田寿行 不二男, 園田長作 金岡恒夫, 興石 安部 千恵子 由美子, 戸井弘子 島村正江, 吉田 西山祥子, 喜和蔵 石橋行与, 武士田 大塚勝彦, 令夫 飯島国扶, 木野 小沢洋子, 登喜子 清宮昭男, 海保博資 高村 真, 多田節子 今村米子, 早川清子 浅田 内山彬 智恵子, 嶺岸 長谷部 初江, 本宮 植松 仁山 坂本欣自 三枝子, 木内英喜 桂木範子, 岩沢幸子 渡辺昭一, 中北 鬼沢春雄, 千鶴子 居初弘次, 石井 剛 篠原孝男, 岩沢幸子 篠田寿行, 笹原和子 園田長作, 福田裕子 千恵子, 西部光子 戸井弘子, 石橋輝一 吉田 興石 喜和蔵, 木野 登喜子	石橋行与, 武士田 大塚勝彦, 令夫 飯島国扶, 浅保博資 小沢洋子, 多田節子 篠田寿行, 高村 真, 早川清子 不二男, 園田長作, 今村米子 金岡恒夫, 興石, 浅田 内山彬 安部 千恵子, 智恵子 由美子, 戸井弘子 島村正江, 吉田 西山祥子, 喜和蔵 石橋行与, 武士田 大塚勝彦, 令夫 飯島国扶, 木野 小沢洋子, 登喜子 清宮昭男, 海保博資 高村 真, 多田節子 今村米子, 早川清子 浅田 内山彬 智恵子, 嶺岸 長谷部 初江, 本宮 植松 仁山 坂本欣自 三枝子, 木内英喜 桂木範子, 岩沢幸子 渡辺昭一, 中北 鬼沢春雄, 千鶴子 居初弘次, 石井 剛 篠原孝男, 岩沢幸子 篠田寿行, 笹原和子 園田長作, 福田裕子 千恵子, 西部光子 戸井弘子, 石橋輝一 吉田 興石 喜和蔵, 木野 登喜子	木野 大塚勝彦 登喜子, 中北 武士田 千鶴子 令夫, 福田裕子 塚本欣自, 石橋輝一 多田節子, 石橋行与 嶺岸, 藤崎倫子 とき子, 榎本 薫 早川清子, 小林敬子 内山 彬, 山田政雄 内山 彬, 古賀孔子 本宮 小暮宇輝 三枝子, 木内英喜 桂木範子, 岩沢幸子 渡辺昭一, 中北 鬼沢春雄, 千鶴子 居初弘次, 石井 剛 篠原孝男, 岩沢幸子 篠田寿行, 笹原和子 園田長作, 福田裕子 千恵子, 西部光子 戸井弘子, 石橋輝一 吉田 興石 喜和蔵, 木野 登喜子	木内英喜, 宇田 正 石橋輝一, 亀崎重光 武士田 千鶴子 令夫, 福田裕子 塚本欣自, 石橋輝一 多田節子, 石橋行与 嶺岸, 藤崎倫子 とき子, 榎本 薫 早川清子, 小林敬子 内山 彬, 山田政雄 内山 彬, 古賀孔子 本宮 小暮宇輝 三枝子, 木内英喜 桂木範子, 岩沢幸子 渡辺昭一, 中北 鬼沢春雄, 千鶴子 居初弘次, 石井 剛 篠原孝男, 岩沢幸子 篠田寿行, 笹原和子 園田長作, 福田裕子 千恵子, 西部光子 戸井弘子, 石橋輝一 吉田 興石 喜和蔵, 木野 登喜子	木内英喜, 宇田 正 石橋輝一, 亀崎重光 武士田 千鶴子 令夫, 福田裕子 塚本欣自, 石橋輝一 多田節子, 石橋行与 嶺岸, 藤崎倫子 とき子, 榎本 薫 早川清子, 小林敬子 内山 彬, 山田政雄 内山 彬, 古賀孔子 本宮 小暮宇輝 三枝子, 木内英喜 桂木範子, 岩沢幸子 渡辺昭一, 中北 鬼沢春雄, 千鶴子 居初弘次, 石井 剛 篠原孝男, 岩沢幸子 篠田寿行, 笹原和子 園田長作, 福田裕子 千恵子, 西部光子 戸井弘子, 石橋輝一 吉田 興石 喜和蔵, 木野 登喜子	藤崎倫子, 赤海 守 川島建一, 黒沢 恵美子 田代 弥一郎, 中北 小林敬子, 千鶴子 菅沢和枝, 日暮綾子 岩沢幸子, 吉岡 勉 笹原和子, 海保博資 西部光子, 藤岡靖子 大塚勝彦, 鳴崎廣三 中北 古賀孔子 千鶴子, 岩澤 榎木四郎 小暮宇輝, 石橋悦郎 榎木四郎, 山崎 晃 榎本 薫, 川瀬正子 宇田 正, 岩沢幸子 大島範子, 栗山光子 篠田安之, 丸田 大坪 れい子, 関謙次郎 藤岡靖子, 本宮範子 脇田 弥一郎, 黒沢 みどり 並木治雄, 正太郎 山田政雄, 中原 田代 小暮宇輝, 山村克己 榎木四郎, 五十嵐 吉岡 勉, 家康 角田弘明, 川又桜子 古賀孔子, 飯田豊子 岩澤 細野 彰 美濃子, 鈴木静子 鳴崎廣三, 渡邊城久 海保博資, 田中清子 鈴木 清,
学校理事	菅谷泰夫, 赤井正男 今井万峯, 越川 鬼沢三郎, 雄次郎 小松 高岡誠次 栄三郎, 富田金秋	菅谷泰夫, 香取一成 椎名悦史, 高岡誠次 鬼沢三郎, 赤井正男 小松 越川 栄三郎, 雄次郎	菅谷泰夫, 小松 三郎 椎名悦史, 香取一成 高岡誠次, 香取一成 赤井正男, 篠崎昌美 鬼沢三郎	菅谷泰夫, 篠崎昌美 椎名悦史, 香取一成 高岡誠次, 江波戸 好文 赤井正男, 好文 鬼沢三郎, 小松 栄三郎	香取秀紀, 香取一成 大又一雄, 江波戸 好文 高岡誠次, 篠崎昌美 赤井正男, 篠崎昌美 鬼沢三郎, 小松 栄三郎	

同窓会のあゆみ

昭和五十五年四月十五日に千葉県立成田北高等学校が開校して以来、今年で早十年という歳月が立った。開校の三年後、第一期卒業生が巣立つた。その卒業式目前の昭和五十八年一月に、各H.R.の正・副ルーム長を準備委員として同窓会の役員が選ばれた。これから成田北高の発展に資することを目的に、近隣の高校を参考にしながら会則の草案作成をし、同窓会設立総会を経て、五十八年三月八日に発足したのである。

役員は次のとおり。会長—石井幹夫 副会長—金子充宏、石畠朋子

書記—三浦賢一、石橋明美 会計—大橋光夫、飯田浩美 監査—木口政

章、志村早苗

本会は、千葉県立成田北高等学校同窓会と称し、事務所を千葉県立成田北高等学校内(成田市玉造五の一 TEL〇四七六一-二七一三四一一)に置く。本会は、会員相互の親睦を図り、母校の発展に資することを目的とし、会報の発行、会員名簿の作成、その他本会の目的を果たすために必要な事業を行う。このようなことを理解の上、卒業と同時に同窓会へ会員として入会して頂くのである。

このような十周年を迎える中で、毎年行っている行事は、八月第一日曜日前十時より、成田北高内において、同窓会の予算、決算、会則の変更及び重要事項を議決する総会を開催することである。毎年の卒業式には、新会員の方へ卒業証書用箇の贈呈を行っている。また、創立五周年記念には、成田北高初めての記念誌の発行に協力し、校舎脇へ大校章の設置をした。今年は、創立十周年記念誌の発行と記念行事への協力をし、地道ながら、母校発展への努力を行っている。

昭和六十三年の第七回同窓会総会では、午前九時からの役員会で役員の改選の案が出、十時からの総会にて、承認された。会員も徐々に増え、役員も同じ代の人ばかりではなく、いろいろな意見を聞けるよう、違う代の人たちにも参加していただき、次の役員が選出された。

会長—大橋光夫 副会長—鈴木敏之、白塚朋子、赤間賢一 書記—三浦賢一、石橋明美 会計—益田幸一郎、佐藤浩美 監査—木口政章、森田早苗

これからも、お世話になった母校でもあり、会員の皆様の相互のご協力をお願いしたい。

(文責 大橋 光夫)

歴代同窓会役員一覧表

	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
会長	夫宏子	夫宏子	夫宏子	夫宏子
副会長	幹充朋	光充朋	光充朋	光充朋
書記	石井子	橋子	橋子	橋子
会計	金石畑	大金石	大金石	大金石
監査	三浦	三浦	三浦	三浦
学年幹事長	橋	橋	橋	橋
A	大飯	大飯	大飯	大飯
B	木田	木田	木田	木田
C	田口	田口	田口	田口
D	志村	志村	志村	志村
E	大志	大志	大志	大志
F	井	井	井	井

	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度
会長	夫宏子	夫之子	夫之子
副会長	幹充朋	敏朋	敏朋
書記	石橋	橋木	木塚
会計	大橋	木橋	間浦
監査	三浦	橋田	橋田
学年幹事長	志村	益飯	藤口
A	大志	木田	田根
B	井若	堀森	根堀
C	林	田	田
D			
E			
F			
G			

後援会のあゆみ

後援会設立の発端は、開校初年度の昭和五十五年九月に「部活動助成募金に関する趣意書」を各PTA会員各位に呼びかけがあり、趣旨にご賛同下さる有志の方々より御寄付を募ったことになります。五十六年度に入り後援会設立の機運が高まり、第一回PTA理事会において、後援会規約検討委員会が設置され、PTA副会長の山内克己氏が委員長に就任。五十六年九月八日の第二回PTA理事会において、後援会規約検討委員会の報告を受け、規約検討、役員選出、設立総会日程などが話し合われ、昭和五十六年九月十八日、図書館において、後援会設立総会が開催される運びとなつた。当日、(一)後援会設立の趣旨説明、(二)後援会会則等、(三)役員選出の順で議事が審議され、初代後援会会长に谷重吉(PTA会長兼任)が就任し、後援会の発足を見た。

その後入学生の増加に併せるように後援会の会員も増え、成田北高の発展を側面から支え、よりよき教育環境の充実整備に向けて、会員各位の協力を呼びかけ、物心両面からの後援をしつつ現在に至つてゐる。成田北高の発展と呼応するようPTA活動も盛んになり校外指導活動、広報「成北」の発刊、研修活動など充実したPTA組織として発展してきた。後援会もそうしたPTA活動とタイアップし、今後とも、成田北高の発展に寄与してゆきたいと考えている。

(文責 谷重吉)

歴代後援会役員一覧表

創立十周年に寄せて II



大きな成長を



旧職員 富澤 浩

千葉県立成田北高等学校、創立十周年、
心からお祝い申し上げます。

昭和五十四年十一月十五日、岩上利男先生を委員長として総勢八名の開設準備委員会が組織されました。以来、早十年、昇竜の勢いで発展、充実を遂げている成田北高等学校の様子を伺うにつけ、私も開設準備委員の一員として底知れぬ安堵感と喜びに浸っております。準備委員会当時は成田西高等学校の一室

をお借りし、時に、即席ラーメンを啜りながら、ずしつとした重苦しい責任感と砂漠の真ん中に立たされたような不安に襲われたものです。冬の寒空のもとでの現地視察では、周囲には家は一軒もなく、身を切られるような北風の中に、鉄筋を剥き出しにしたコンクリートの塊が半ば立っているという風景でした。『四月までに出来上がるんだろうか』、『バスはどうするんだろうか』、『こんな所に生徒が来るんだろうか』、そんな不安を抱きつつ、定まらない足元に注意しながら見て廻ったことが強烈な印象として脳裏に焼きついております。

昭和五十五年四月十五日、成田北高等学校誕生。私は三年間の在職中教務を担当したわけですが、教育課程の編成、年間行事の設定など大変苦労したものです。また、各種書類の用紙一枚から準備したり、黒板の線の引き方を工夫したり、いろいろな想い出が彷彿として甦って参ります。

十年一昔



旧職員 伊藤龍芳

光陰矢の如しで、成田北高校が開校してすでに十年が経過し、校風・伝統も育まれ、落ち着きが出てきたのではないかと思思います。

私が開設準備委員として辞令を手にしたのが昭和五十四年十一月、以降四年間、生活指導を中心にして仕事をさせていただきました。

開設準備委員としての仕事の手始めは、制服（夏用・冬用）、校章、通学用バック等々の早期指定でした。当時、開設準備室として成田西高

す。私にとって何とも心残りは、三年間に十分な整備も出来ないままの転勤でした。あれから七年、見事な成長を遂げた成田北高等学校は、今や、地域の方々からの厚い信望と大きな期待を抱っていることは間違いません。これは偏に、これまでの多くのPTAの皆さんのご協力と職員の皆さんのご努力、そして生徒諸君の頑張りの賜と深く敬意を表する次第です。機を得て時折学校を訪れますと、校舎周辺の樹々も、すっかり落ち着きを増し、学校全体に調和し、成田ニュータウンに相応しい見事な環境を造り出しております。これから青年期に入ろうとしている成田北高等学校が、国際都市成田を中心には、地域の大きな大きな期待を担つて益々発展されることを願つてやみません。

(千葉県立佐倉東高等学校 教頭)

思い出あれこれ

旧職員 富田金秋



成田北高校は、今年で二十七年目を迎える私の教職生活の中で、最も忘れ難い勤務校の一つです。今、当時を思い起こすと、新しい学校づくりに無我夢中で一日一日を送っていました。昭和五十四年十一月に開設準備委員の辞令を頂いてから開校までの

五か月間、卒業が危ぶまれる二人の生徒を抱えて、在籍校との兼務で多忙な日々でありました。

久し振りに北高前を車で通り抜けると、学校を囲むようにして小学校・住宅が立ち並び、開校当時のボツリと北高のみが建ち、周囲は広大な空地であった面影は想像だに及ばない、まさに十年一昔の隔世の感がありました。

大きく発展を遂げ、十周年を迎えたことに心からお祝い申し上げるとともに、校章の由来のように、すばらしい伝統のもと成北高がますます飛躍することを祈念いたします。

(千葉県立富里高等学校 教頭)

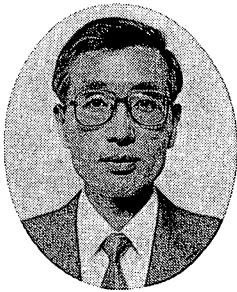
成田北高校は、今年で二十七年目を迎える私の教職生活の中で、最も忘れ難い勤務校の一つです。今、当時を思い起こすと、新しい学校づくりに無我夢中で一日一日を送っていました。昭和五十四年十一月に開設準備委員の辞令を頂いてから開校までの五か月間、卒業が危ぶまれる二人の生徒を抱えて、在籍校との兼務で多忙な日々でありました。

開校後は一期生の学年主任として、主に学年関係の仕事を担当し、房総風土記の丘への徒步遠足、富士緑の休暇村への林間学校、保護者面接週間等々岩上校長の指導方針のもとに、全職員の協力を頂いて職員・生徒一丸となって帰りの遅くなるのも忘れて、あらゆる角度から検討を加えながら計画を立案し、実施した日がつい昨日のことのように思い起こされます。また、三年目の夏には地元の成田大谷津球場での全校野球応援で、はじめて対流山東高戦に一勝をおさめたときの感動は、新設校ならではの味わいでいた。四年目からは涉外関係の仕事も担当させて頂き、PTA関ブロ大会や県高P連の研究集会、県外研修に参加し、バイク問題の三プラス一ない運動のことや生徒の進路対策問題等のことを学ぶ機会をもたせて頂きました。一方、地域の中学校訪問等もたせて頂き、二代目の石井校長に随行したときなど、ある中学校の校長先生から

「近ごろ進学の成績も上がりましたね」とお褒めの言葉を頂いたこともありました。……思い出は尽きませんが、お世話を頂いた方々に感謝の心を込め、成田北高校の限りない発展を祈念し、筆を擱きます。

(千葉県立若葉看護高等学校 教頭)

時は流れる



旧職員 有 美 譲

十年一昔という。今、求人のために担当者がひつきりなしに学校を訪れる。就職希望者は次々に決まっていく。求人難の時代である。

一昔前、今では信じられないような求職・難の時代であった。年々求人は減る一方で、求職者は増えていき、一期生が卒業した年は、そのピークに達した。今年度採用中止とか、求人については未定という企業が続出し、採用予定の企業も、どこもその人数を大幅に減ずる状況であった。職場開拓のために企業を訪問しても、「今までつながりの深い学校でさえ求人依頼出来ないので、新設校まではとても……」と冷たくあしらわれたことも度々あった。そんな中で新設校を訪れてくれる企業こそ大事にしなければいけないと思い、その応対には誠心誠意をつくした。そのことが、いざれ花開く時があると信じて。夏休み中もずっと一人、進路室に詰めていたのも、その現われであった。また、たとえ小企業であっても大事にしたし、職安には足繁く通い、近くに会社が出来るという情報に

は、遅早く飛んで行って繋がりを求めた。

こんなちっぽけな努力には、おかまいなしに時は流れて行く。

そして、あのないないづくしの開校時の苦労も、あたかもそんなことはなかつたかのように、時は流れていった。

(千葉県立佐倉南高等学校 教諭)

黎明から朝の光の中へ

——思い出すこと——



旧職員 越川 雄次郎

千葉県立成田北高等学校の創立十周年、まことにおめでとうございます。記念誌編集に当たられた先生方の御苦労は並大抵のものではなかつたことと拝察いたします。

在職時の思い出を一言書くようにとのお話で、大変光栄に存じます。

私は昭和五十五年四月の開校から昭和六十二年三月まで七年間勤めさせて頂きました。初代校長岩上利男先生をはじめ、先輩諸先生方のお導きや、同輩・後輩の先生方のお助けでなんとか学校草創の時を共に過ごすことができ、今更ながら感謝の念に堪えません。

近ごろ、成田北高等学校と共に勤めた先生方や、北高卒業生の結婚披露にお招きを受けたり、同窓会に顔を出したりすることが重なって、なつかしい面々との再会を喜んでおります。ことに在学中元気だった生徒が社会人として活躍し、人を指導する立場になつている姿を見ると、おのずとブレザーの制服姿と重なり、よかつたよかつたと一人で納得した

りしています。また、現在の成田北高等学校の評判や活躍の報を耳にし目にするとうれしい気持ちになつて、在職していたことが自分にとって大切なことだったのだと改めて実感しています。

成田西高等学校を借用した開校式・入学式、遠足、PTA、生徒会設立等生徒と職員が暗中模索で取り組んだ時期の思い出、校舎が次第に形作られ、生徒数も増え、高等学校らしくなつていった時期の思い出、卒業生を送り出すようになり、対外的にも活動の場を広げていった時期の思い出等々、まことに思い出は尽きません。私にかかわることですと、少々はうまくいった思い出もあるとはいえ、ほとんどは失敗で、今思い返しても忸怩たるものがありますが、そこは時が有効に働いてくれますので、かるうじて心の平衡を保てるというものです。

その中でひときわ鮮明なものは、昭和五十七年十月末、校舎落成記念式典とその記念行事として行われた第二回黎明祭のことです。

開校年度の文化月間、次年度の第一回黎明祭と準備段階を経て、三箇学年が揃い、生徒・職員の意氣が盛り上がつた結果の竣工記念式典であり第二回黎明祭であつたと思ひます。準備や実施の途次に起つたさまざまのトラブル、竣工記念式典と生徒たちの黎明祭とを同時に進行する上で起きた軋轢も乗り越えてしまえば思い出に過ぎません。文化祭の後夜祭はグランド中央の大焚き火を囲み、フォークダンスや合唱の大きな輪、あつと驚く隠し芸で揺れました。

黎明祭の熱気も去つた体育館に後片付けのため登校した文化祭実行委員たちの表情が静かでとても良かつた。生徒と職員とが熱くなるきっかけとなつた文字看板を背景に思い思いのポーズをとる生徒たちをカメラに収めながら、私もとても良い気分に浸つていました。この一連の行事は成田北高等学校の生徒活動にとって一つのエポックとなり、生徒の中

に活動のプログラムがしつかり組み込まれたように思います。

校舎竣工記念に植樹されたメタセコイアはどのくらい成長しているでしょうか。片手の輪に幹がすっぽり入りそうな、枝も葉もまばらな苗木を生徒たちと体育館前に植え込みました。それからもう八年になります。

生徒は成長し、木も生長しながら学校の成長に臨んでいます。校旗は学校の重要な局面に臨場しますが、校舎のあちこちの木々は生徒の日常に臨場しているのです。こつそり植えた小木に再会するのが楽しみです。

(教育庁高校教育課)

創立十周年を迎えて思うこと

第一期生 佐藤 浩美

北高が創立十周年という節目を迎えて、時のたつ早さへの驚きと同時に、わが母校が十年という歴史を重ねることができた喜びを、ひしひしと感じている。

学校にとっての十年という年月は、まだほんのスタートにすぎないとと思う。しかし、これから何十年、何百年という歴史を重ねる上での大切な「初めの一歩」であったと思う。ただ単に一歩と言つてしまふと簡単であるが、この一歩は言うまでもなく、多くの生徒と、親と、教師と地域の人々等、諸々の人の力で築いてきた一歩である。そう考へると、實に重く価値のある一歩ではないだろうか。

私は一期生なので、北高と直接関わつたのは初めの三年間である。当



時は施設が不十分で、雨の日の室内での体育や、工事の音に悩まされながらの授業など、新設校ならではの苦労が多かったのが思い出される。

しかし今ではその苦労も、懐かしい思い出の一つになっている。思い出は苦労ばかりではない。何もない所からスタートをしたので、一つ一つ話し合い協力しながら、自分たちの手で学校をつくって行った。そんな中で、学年を越えた友情が芽生えたり、先生方とのふれ合いもたくさんあつたように思う。当時は、そんな生活が嫌で、不満をもらしたりもしたが、今考えると、とても貴重な体験であったと思う。

先にも書いたように、十年といつてもまだ歩き始めたばかりである。これからも、何歩何十歩と歩いて行かなければならない。卒業生として切に願うことは、たとえわずかな一步でも、重く確かな一步を歩んで行って欲しいということである。

現在、在校中の生徒の方や先生方は、現在なりのご苦労をされていると思うが、ぜひ、力を合わせて、後輩たちのために確かな足跡を残して行って欲しい。卒業生として微力ではあるが、陰ながら見守って行けたらと思う。

したから……。



第一期生 森 田 早 苗

「一期生」とか「新設校」と言われながら、あつという間に十年がたってしましました。入学して校舎一棟とただの空き地のようなグラウンドから始まつた高校生活でしたが、今では立派な学校になりました。

でも、何もない時に学んだとしても、別に後悔はしていません。それがかえつて開拓精神を目覚めさせてくれましたから……。

現在、私は株式会社アウフヘーベンという会社で、パソコンコンピュータを利用しての営業活動に取り組んでおります。以前は、一店舗（日吉台店）で営業・販売をしておりましたが、現在は郷部店も開設され、優秀な人材も増えてきました。スタッフの中に北高卒業生もおります。お客様の中には北高の先生方や、もちろん卒業生・在学生の方もおります。

そして、今、パソコンスクール事業の営業開発をメインに取り組んでおります。教室は、今のところ日吉台校だけですが、九月からは八日市場校、十一月からは旭校と、どんどん拡張していく予定です。対象は、全くの初心者から、実践でパソコンを使用しているビジネスマンやインストラクター希望者まで、各人のレベルとニーズに合わせた考え方をしております。

私とパソコン

もともと、パソコンを使いたいというのは、卒業時の私の目標でしたので、これからどういうふうに活用していくか、広めていくか、更に目標を立てて頑張って行きたいと思います。これを機会に、ぜひ皆さんも、時代に合ったコンピュータの使い方を勉強していただけたらと思います。もはや、ビジネス社会では、パソコン一人三台の時代ですから。

最後に、成田北高校十周年記念おめでとうございます。一卒業生として、益々のご健闘とご発展をお祈りします。

母校を振り返つて

第二期生 大野ゆかり

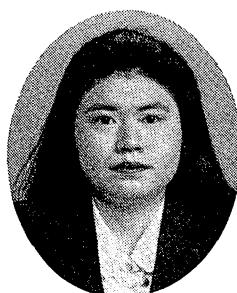


「お前たちは、北高の看板を背負つていいんだぞ！」——人差指を立てて怒つておられた先生の姿。登校時校門で、ものさしを持つて立つておられた先生の姿。今でも鮮明に思い出されます。一センチでもスケートを長くしたい、学校の規則に拘束されるのはいや、などと思つたあのころ。今では会社の後輩に、あの当時の先生方と同じ言葉を言っています。卒業して八年が経つた今、御指導を頂いた先生方のありがたさを感じ、母校北高を誇りに思います。

今年創立十周年を迎えた成田北高は、今ではすっかり地域社会に定着し、活気ある立派な学校に成長したことを、一卒業生としてとても嬉しく、また頗もしく思っています。しかし、大変なのはこれからです。十年という歴史のうえに、これから更に一つ一つ歴史を積み上げていかなればなりません。成田北高が、今よりもさらに魅力ある独特的の校風をもつたすてきな学校として、ますます成長し発展していくことを心から

成田北高創立十周年によせて

第二期生 重吉寿美恵



私は、昭和五十六年に第二期生として成田北高等学校に入学しました。当時はまだ体育館がなかったため、成田西高等学校の体育館で入学式をしたことを、とても懐かしく思い出します。また、あの時から九年という歳月が経つてしまったとは、改めて時の流れのはやさを感じています。

当時は、北高の周辺には人家などなく、ただぱつんと一棟の校舎と雨が降れば泥沼と化す大きなグラウンドだけがありました。

しかし、私が在学していた三年間に、次々と新しい校舎、体育館が完成し、グランドも徐々にではありましたが整備されていきました。私の高校時代は、まさにまだ生まれたばかりの成田北高を、先生方、一期生の先輩方、そして後輩たちとともに創り、成長してきた三年間だったと思います。

今年創立十周年を迎えた成田北高は、今ではすっかり地域社会に定着し、活気ある立派な学校に成長したことを、一卒業生としてとても嬉しく、また頗もしく思っています。しかし、大変なのはこれからです。十年という歴史のうえに、これから更に一つ一つ歴史を積み上げていかなればなりません。成田北高が、今よりもさらに魅力ある独特的の校風をもつたすてきな学校として、ますます成長し発展していくことを心から

願つてやみません。私も、北高の卒業生としての誇りを持ち、母校の発展のために少しでもお役にたてればと思っています。

在学時の思い出



高校時代を顧みて真っ先に思うのは、大好きな友人たちと出会い、その仲間と一緒に過ごした日々が貴重だったことです。今自分があるのも、そんな時を経たからだと思います。

学校生活の中で印象深いのは、バレーボーイの活動のことです。部活動が終わってからで一年生だけ残り、夜遅くまで練習し、毎日楽しかったことを覚えています。そんな私たちが中心となる二年生になった時、皆、もっと充実した練習をしようと一生懸命でした。それは先生も同じでしたが、計画や具体的な方法などで考えが合わず、結果として退部者を出すことになりました。この時には精一杯努力したつもりでしたし、今となっては良い思い出です。現在も、バレー部の仲間とはよく会いますが、色々なことを一緒に、同じような思いで経験したからではないでしょうか。ずっと大切にしていきたい友人たち、高校時代です。

伝統のない北高で、新しいことを試み、築いていった人たちを忘れず、思い出深い母校の発展を願います。

質問される教師になりたい

第四期生 安部志朗



北高のブレザーを着ていたころ、私は放課後、数学準備室へよく駆け込んだものだった。数学の問題で分からなかつた箇所を質問するためである。どうしても得意教科にしたいと思ったからだ。そしてついに私は数学準備室の常連になってしまった。一年は志田先生、二年は香取一成先生、そして三年は赤井先生に数学を教わった。これらの先生方に教科書を持っていてよく質問した。また有美先生や斎藤先生にも質問したことがある。

さて平成二年六月四日、私は教育実習生として、母校北高に来た。その二週間、教室において数学の授業をさせていただいた。実習生とはいえ、今度は教える立場である。授業をする前、その範囲の下調べをし、生徒にどうそれを説明するのかを考えるのである。それがなかなかまづくいかない。授業の時は間違ったことを教えてはならない、ともう緊張の連続であった。そんな折にある生徒の反応に出会った。授業を終えた私を、教科書を持ち質問に来た生徒である。その生徒との出会いを通じ、私は、生徒の意欲を感じ、授業を真剣に聞いてくれていたことに感心と感じたのであった。

創立十周年に寄せて

ようになります。これからも、ますます発展していくことと思います。
十五年、二十年後も期待しています。

第四期生 高 尾 早 苗



私は、北高第四期生として高校生活を過ごしました。卒業して四年後の今年、教育実習生として再び北高で学ぶことができました。自分が通っていたころと四年後の現在と、北高の移り変わりを実際に見て感じることができました。

創立10周年に寄せて Ⅱ

巣立ちをした雛の思い

第四期生 中 川 瑠璃子



野を越え、山越え、今私は普通のOJに落ちついている。高校を卒業して、もう五年目になるだろうか。

私が在学していたころは、全学年一八クラス。学校全体、こぢんまりとしていました。ですから、先生方や先輩たちと、クラブや行事等で交流する機会が多かったと思います。今は全学年三〇クラス、空いていた教室が全部教室になっており、自分たちのころと違う雰囲気に圧倒されてしましました。休み時間になると、他の教室や廊下で楽しそうにしている光景は今も変わらず昔を思い出しました。

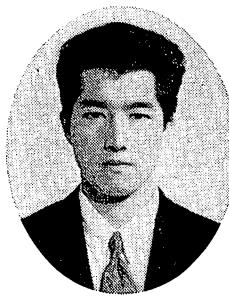
私たちが入学した時は、第一回の卒業生を送り出した年でした。それまでの新設校というイメージから脱皮しようとする時だったと思います。部活動も着実に力をつけ、同好会も新しく増えました。自分たちで大きくしていったり、何か新しいものを作ったりする時期でした。自由に伸び伸びと過ごしてきたようにも思いますが、規則の面では厳しいものがありました。今は、昔よりもやわらかくなつて、授業時間が五時間の日も増えて自分の時間が多くもてるようになつっていました。それだけ生徒の自主性を重んじて、自己を見つめて行動する機会が与えられてる

ふと思い出すと言えば、やっぱり高校時代のことなのである。高校時代が、そのまま成長して今につながっている。今、自分をとり囲んでいる仲間や友だちは高校時代につきあいのあった連中であり、苦しかつたけれど青春ドラマしていたバレーボー部は、JALバレーボー部で残っており、夢中になつていたバンドも、時間をおいてメンバーこそ変わつたけれど、なんとなく復活して現在に至つている。高校時代やりたいようにやつた事はそのまま「道」として続いている。思えばいろいろな事に手を出し、首を突っ込んで閑なくしていたのも今、そのまま私の姿である。

短大には、辛うじて受験の難関を突破して行つたけれど、もうそこに伸び伸びと過ごしてきたようにも思いますが、規則の面では厳しいものがありました。逆に中学は本当に幼くて、自分をどうかばつても赤面する事ばかり思い出す。高校時代こそ大人と子供の狭間で、あらゆるものに反抗し、流されながらも自分を固めていった時期だったのだと今にして思う。

こんな私個人の小さな人生のようなものが百人二百人集まって三年間の歴史になり、十周年を迎えた北高は十年間の、そしてそれぞれ三年ずつそこで学んだ人たちの、人生の歴史を背負っている。人の記憶は日を追って薄れて行くけれど、確かな形がなくとも残るものがあると信じて、私はその不確かなる支えにしている。この莊厳な母校の歴史を中心から尊敬し、お祝い致します。

教育実習を終えて



第五期生 大沼弘史

教育実習で、母校である成田北高に来て、クラス数が増えていたことに驚かされた。そして、何の目的もなく家と学校の往復だけしている生徒が多いように思えて、少しさびしかった。高校で何かに打ち込む。何かに燃える。そんなことが少なくなってきた。燃えるものは何であろうとかまわない。部活、勉強など、自分のやりたいことをおもいつきりやってみる。高校時代には、高校時代にしか出来ないような、何かがあるはずだと思う。『燃えろ、北高生!』——そんな思いでひさしぶりの母校を見つめていた。



私は第五期の卒業で、現在、玉川大学文学部芸術学科に在学しております。六月四日から二週間、高校の美術教員を目指して、母校である成田北高等学校へ教育実習生としてお世話をになりました。

第五期生 多田雅乃

あのころと今——現在の北高生を見て——
高校に通いながら、自分の今後の進路を考えていかなければならぬと思います。悲観的にならず、高校生活でしか得られないものを探してもらいたいです。

北高の思い出

第一の誕生

第六期生 小柴 乃里与



私が北高を卒業してから、三年がたちました。高校時代を思い起こすと、毎日とても楽しく過ごしていたように思います。球技大会やスポーツ大会、修学旅行など何かと行事が多く、忙しい毎日でしたが、その中でも特に文化祭の事が、鮮明に思い出されます。

「喫茶店」をやろうと決めたものの、最初はクラス内が全くバラバラでした。日がたつにつれ、一人増え、二人増え、結局クラス全員参加で行うことができました。準備が大変で、毎日遅くまで残っていたものです。当日は大成功に終わりました。確かにあの時です。「やればできるのだ」という強い思いを感じたのは……。

今思うと、高校時代は、全く何の心配もなく、実にのびのびと過ごしていましたように思います。こわいもの知らずで何でもできたあのころが懐かしく思われ、また笑う時も怒る時も常に真剣だった友人たちとの生活を思いだすと、何故か心がとても安らぎます。のようなエネルギーが、明るい高校生活が後輩たちにくり返されていくことを願います。

成田北高は、私の「母校」であり、「心のあるさと」です。この大切な宝が、更に発展することを、いつでも深く願っています。

創立10周年に寄せて 】

よさをのばして欲しいと思います。

第七期生 立川 敦子



北高で過ごした三年間で、私は実に多くの思い出を創ることができた。今回、この原稿を書くにあたって、題材をこの中から選ぼうと思ったのだが、どれもすばらしいものがあり、甲乙をつけることができない。そこであれこれ考えた結果、三年間通じて一番多くの時間を過ごした「生徒会室」について書こうと思う。

生徒会室は、御存じのように教官室に囲まれたような位置にあり、あまり近づきたくないエリアに属している。それでも私はこの部屋に行くのが好きだった。あの部屋にいるとなぜか心が安らぐのだ。そんな私のことを、当時の友人たちは半ばあきれ見ていたが、自分でも不思議に思うほど、「生徒会室」への思いは強かったのである。

以前、「高校生活で何を学んだか」という質問を受けたことがあります。同じ質問を今もう一度されたら、「人ととのつながりの大切さを学んだ」と、私はそう答えるだろう。そしてこのことを最も多く教えてくれた瞬間は、「生徒会室」の中で生まれたのである。あの部屋で友人や先生方と本音で話し合う中から、私は人間として大切な物を見つけることができ、それは現在でも日々の生活に生きている。

私をこの世に生み出したのは母であるが、人として、足場を固めて生

み出したのは、北高の「生徒会室」からだと思う。社会の一構成員として歩き始めた私は、この部屋を思い出すたび、あの日々の風景が鮮かに浮かび上がってくるのである。

高校時代の思い出

第八期生 今村玲子



思い出のたくさん入った小箱を開けてみると、黎明祭、修学旅行など次から次へと、まるでびっくり箱のように思い出たちが飛び出します。その思い出たちの中で、私の心に強く残っているのは、三年の黎明祭です。

この年は、私が加入していた合唱同好会は、『歌劇（オペラ）』をやりました。もちろん初めての試みです。歌劇をやると決めた時私は、不安と喜びで一杯でした。その歌劇の題は、『あまんじやくとうりこひめ』です。これは、ソロも多く、私は、一人で音楽室中に声を響かせられるか不安でした。

時には、練習が嫌になつたり、声が出ず、響かなくて、悔しかつた事もありました。しかし、みんなで協力し、一生懸命に練習して作り上げました。そして当日、私は、緊張していて、無我夢中だったので、発表中の事をあまり覚えていません。でも、終わった時のすがすがしい気持ちは、今でもよく覚えています。私は、本当に『歌劇をやれて、よかつた』と思っています。

他にも思い出はたくさんあります。どれも良き仲間・先生方に恵まれたからこそ、私は、良い思い出が作れました。そして、その時々私は、仲間の大切さを、より知ることができたのです。

嬉しい一日

第八期生 村越誠



あれはいつの日であつただろうか。確かにちょうど今ごろの、小雨の降る日の出来事だった。

その日は朝から天候がおもわしくなかつた。高校生活も残すところ卒業式だけとなつていた僕は、卒業式の練習をすませ、家路へと向かつている途中であつた。停留所へ時間より少し早く着いてバスを待つていた。すると、反対車線の停留所へバスが止まつた。女の方が二人降りたのだが、一人の方は北高の門の前で立ち止まつて、グランドを見ながらこちらの停留所へ來た。僕がバスの遅れを気にしていると、その方が話しかけてきた。

「成田北高はここでいいのですか。」と尋ねてきたので、僕は「はい」と答えたが、聞くところによると、この方は今年北高を受験する子のお母さんだという。いろいろと北高のことと聞かれたので返事をしていたが、会話の最後に僕は、「北高はいい所ですよ。」

という言葉を添えた。すると、三年間の高校生活の思い出が頭の中をか

けめぐった。入学式の桜、球技大会の汗、林間学校や黎明祭での共同作業、修学旅行……。バスの中でもその余韻が残り、涙がにじんできた。

バスを降りた時、そのお母さんは会釈をしたが、本当は僕の方が御礼のあいさつをしたいくらいだった。

今、このお母さんのお子さんは無事に入学していると思うが、お子さんが卒業をする時には、三年間の思い出が沢山残っているよう、充実した高校生活を送ってほしいものである。

それにしても、なつかしい思い出にひたれた、嬉しい一日であった。

心に残る部活動

三年A組 高橋伸子

我が母校成田北高も、今年で十年目を迎えることになりました。全学年三〇クラスと大きく成長した北高の在校生として、記念すべき十周年を迎えることは、偶然とはいえラッキーなことだと思います。そして北高の生徒であることをうれしく思っています。ほのぼのとした学校生活、良き先生方の御指導のもと、楽しく過ごしています。なによりも、苦しみや喜びを分かちあえる仲間に出会い、その仲間と一緒に初めてバスケットボールの県大会へ出場し、二回戦に進出して伝統の昭和学院と戦うことができましたが、そうした部活動に参加できたことが良い思い出です。

今こうして学校生活を楽しく充実して過ごせたのも、開校から今日までの先生方や先輩方の努力の御陰と感謝しています。そして私たち在校生もより一層この北高を成長させ、次の北高生にバトンを渡したいです。

十年目の使命

一年A組 西原耕平

成田北高校が県立高等学校として、第一歩を踏み出して以来、十年目に到達しようとしている。開校当時の写真を見てみると、現在の成田北

創立十周年を迎えて

三年E組 脇田潤

入学式の時、ある先生が「君たちがこの学校の伝統を作る」とおっしゃったのを覚えています。その時、そんなことは私には関係のないことだ、たかが五年・十年で伝統が作れるものか、というような思いでした。しかし、今、こうして筆を取つて考えてみると、十年で作られたものはあると思います。私は、それは校風だと思います。（もちろん校風が伝統を築いていくものではありますようが……）良いか悪いかは別として、伸び伸びとし、のんびりした空気が流れ、だらしない所まではいっていいということが、北高の校風ではないかと思います。それはまた、現校長先生の羽生先生の人柄も多大な影響を与えていると思います。例えば、行事などの折、自分たちでは「何か不足している」と思っていても、校長先生は必ず褒めてくださいます。それゆえ、私たちも伸び伸びと行動できるのではないかと思います。今、他校の友人たちから、「感じがいい」と評判が良い自分たちの北高の雰囲気・校風が私は好きです。

高しか知らない自分からは、とても考えつかない状況であった。校門から校舎に向かう道は、ひどく荒れた砂利道であり、また、自分の所属しているサッカーチームのグラウンドは、まるで池のような水溜りがあり、完全に水がひくまで一週間位はかかりそうな状態であった。それが今は、道はアスファルトで舗装され、春には桜が、秋にはいちょうの葉が鮮やかに季節を彩る並木道となり、グラウンドはすっかり整備され、水はけもよくなつた。サッカーフィールドは、シート板も建てられ、ゴールの数も増え、何一つ不自由せずに練習できるすばらしい環境となつた。

今、十周年という、大きな節目の年に在学している自分たちに与えられた使命とは、十年かけて創りあげられた基盤をもとに、どんな中身の学校にしていくかということだと思う。部活動においても、勉強においても、先輩たちの築きあげた成果を、更に発展させ乗り越えていけるよう、努力しようと思っている。

次の峰を目指して

二年J組 青野和子

悔いのない出発の年にしたい

一年C組 野澤瑞佳

北高に入学した当初、いろいろな不安を抱いていた。実際に高校生活をおくるようになると、「勉強」のことや「これから将来にむけて今何をすべきか」などといった、現実的な不安を抱くようになつた。特に勉強の方は、将来の進路に深く関係していることもあって、高校生として切つても切れないものになつてきました。

高校では、さまざまな中学校から来た人たちとも友だちになることができ、中学の時とは比べものにならないほど交友関係が広がりはじめた。できれば、高校生活の三年間に、友人や先輩や先生たちから、中学の時とはまた違つたことを学びたいと思っている。

僕にとって創立十周年という年を、目標にむかって悔いのないよう高校生活を過ごしていく出発の年にしたいと思う。

いうことは、山登りと同じだと思います。そして、今はちょうど登り初めて最初の休憩地ではないかと考えます。ここで一息入れて、険しかった道を通りかえり、ペースの遅速を検討し、荷物の具合をたしかめてみる、そうして、はるかな頂をしっかりと確かめあって、隊列を整える必要があると思います。早く上へ上へと急ぐ必要はないのです。一八八名という生徒数と、数人の先生方とで始まつた寂しい山登りも、今では一三〇〇余名となりました。次の峰を目指して、これだけの多人数で一步一歩踏み固めていけるということは、壯観な山登りと言えるのではないでしようか。

大きな時の流れのなかに

一年C組 竹中靖子

校章の貝、スクールカラーの青、そして校歌の二番——若草萌ゆる
土深く 太古の海が 眠りゐて 校庭に散りしく 白き貝——。

成田北高のあたりはかつては海でした。その時に堆積した貝化石が校
庭からたくさん出てきます。現在のようなりっぱな校舎が立ち並んでい
る北高を見ると、太古の時代には海だつたなんて想像できませんが、大
きな時の流れを感じます。

私は、その大きな時の流れのなかにある北高に、新鮮な気持ちで入学
してきました。北高の発展とともに、自分も大きく飛躍できるよう努力
していくつもりです。また、北高の楽しく、自由で、明るい校風が、い
つまでも続くことを願っています。最後に、創立十周年おめでとうござ
います。

成田北高を語る



卒業生座談会

いまだから話そう！

出席者 卒業生 大橋光夫・木口政章・安部志朗・

日 時 平成2年8月5日(日)

佐藤(飯田)浩美・白塚(石畑)朋子

11:00~12:40

職 員 司会一高岡誠次 記録一坂元善典

場 所 本校応接室

録音・撮影一手島和史・田口富男

十年たつのはほんとうに速い

司会 きょうはお忙しいところご出席いただき、ご苦労さまです。本校も創立十周年を迎えた。このたび記念誌を発行することになりました。その中にぜひ卒業生の話を載せてほしいということで、このように集まっていたいたいわけです。最初に皆さんのが自己紹介と、十周年を迎えた北高の感想をひと言ずつお願いします。

大橋 一期生の大橋光夫です。成田信用金庫酒々井支店に勤務しています。卒業してから七年になり、北高は創立十周年を迎えた。とてもうれしいです。これからも北高ならではのものをひとつひとつ築いていってほしいです。

白塚 一期生の白塚朋子です。旧姓は石畑です。とにかく十年たつのが速かったです。自分がそれだけ年を取ったのに、相変わらず中身は成長していないなあ、とつくづく思う。先生方も学校の様子も、この十年の間に変わってしまい、ちょっと寂しいなあ、という気もします。

木口 一期生の木口政章です。千葉市消防局都賀出張所に勤務しています。久しぶりに

学校へきました。いまの生徒はしないようなことを一期生のころはしていた。植えた木がすごく大きくなつたとか、そういう変化が懐かしいですね。その当時の建物 자체は全然変わつてないんですけど、そういう生き物というのはどんどん生長していくし、変わつていくんだなあ、とつくづく思いました。

佐藤 一期生の佐藤浩美です。旧姓、飯田です。佐倉東小学校に勤めています。やはり十年たつのは速いなあ、というのがまず印象です。学校周辺は何もなかつたんですが、いまではたくさんの住宅が立ち並んで、ずいぶん変わりました。学校の施設とか環境とともに充実して、十年の重みを感じざるをえません。耳に入つてくる北高のうわさとか情報は、どれしもけつこういいことが多くて、卒業生としてもうれしいです。創立十周年といふのは、学校としてもまだ若いほうだと思うので、これからもいろんな面で活躍し、どんどん成長していってほしいです。

安部 四期生の安部志朗です。……うん…

…。(笑)

木口 (安部の肩をたたいて) だいぶ緊張

しているなあ。

安部 そりや緊張していますよ。ええ、現

在、城西大学理学部数学科四年に在学しています。高校時代に学んだことや先生方からの指導が、随所随所で今日に生かされていると思います。北高で生活できて、ほんとうによかったと思っています。……どうも先生方ありがとうございました。（笑）ぼくはとても元気です。（笑）

涙で校歌が歌えなくて

司会 きょうは一期生に多く集まっていただいたいですが、在学中の苦労とか思い出などを気楽に話してほしいですね。大橋君は

野球部に所属していましたね。どうですか？

大橋 高校時代、野球部に入つていて、卒業してみれば、「ああ、よかつたなあ」と思いましたが、その当

時は、「ああ、きつたなあ」という感じで、気軽に受けていました。

白塚 そうですねえ、何もないから、部活にしても生徒会にしても、他の高校に比べて苦労はしましたが、あとになつてよかつたなあ、と思える点が多くありますね。生徒会で、私は会長や会計の方とぶつかり合うことがけつこうあつたんですが、そういうふうには、成田大谷津球場で延長十四回まで戦つて、初めて勝った、ということです。そのあ



大橋 光夫

と、校歌を歌うときになぜか涙が出てきて、校歌が歌えなかつたことを、いまで思い出します。思い出といったら野球のことだけですね。授業中はもう居眠りばかりしていて。（笑）だけど先生たちは全然気がつかなかつたようですね居眠りの仕方がうまかったのかどうかわかんないけど。（笑）それほど野球に熱中していました。

司会 居眠りしていてあの成績はとれないでしょう。大橋君の場合は勉強と部活が両立しているんだと思っていましたけど。（笑）

なんでわかつてくれないの！

司会 白塚さんはどうですか？ 何もないところから生徒会が設立されて、副会長として活躍されましたが、そのへんの苦労話などざつくばらんにお願いします。

白塚 そうですねえ、何もないから、部活に変えられてしまつたんで、先生方に対し、「なんでこうなつたの、なんでわかつてくれないの」って、役員みんなで大泣きしたんだよね。とにかく悔しかつたのを覚えています。

佐藤 なんだったんだろう？ 体育館で劇か何かをやる予定だったんじやなかつたつけか何かをやる予定だつたんじやなかつたつけに変えられてしまつたんで、先生方に対し、「なんでこうなつたの、なんでわかつてくれないの」って、役員みんなで大泣きしたんだよね。とにかく悔しかつたのを覚えています。

司会 当時、文化祭は未公開だよね。

白塚 そうですね。

佐藤 すごく小規模だったけど、私たち最初の年は、役員同士での意見のぶつかり合いで多かつたので苦労しました。二年目、三

年目になつて、文化祭というものの形がだんまりしてきたときに、今度は文化祭実行委員と先生方とでぶつかり合いがありました。先生方に私たちの気持ちがうまく通じなくつて、実行委員全員で泣いたのを覚えていました。あとは苦労というよりも皆でわいわいやつて楽しかった。

ンを作つたりとか、それなりに燃えたんだよね。

木口 初めて模擬店とかもやつたんじやない。

白塚 当時はなんであんなに熱くなつたのかなあ。人数が少なかつたんで、よけいまとまりやすかつたからかなあ。ひとつひとつのことのみんなで集まつてぶつかつていけたんだなあ。

司会 最初は四クラスで始まつて、何か行事をやつてもまとまりやすかつた点もあるが、逆に人数が少ないので寂しいという感じもあつたね。

白塚 そうですねえ。体育館もまだなくて、部活とかもグラウンドが整備されていくて、石拾いとか魚釣りとか……。雨の日の体育の授業は、あいている教室を使ってマッ

ト運動とか卓球しかできなくて。

木口 あれでみんな卓球うまくなつたよねえ。(笑) 体育の授業は卓球ばかりだったからねえ。

大橋 ほかの学校と卓球の試合やつてたら勝つてたね。(笑)

木口 グラウンドはぐちゃぐちゃだしさ。

白塚 走るしかない。

木口 当時のグラウンドは沼みたいだったからね。

コーヒー牛乳、入れる入れない

佐藤 いまではほんとうに何でもないような、自動販売機にコーヒー牛乳を入れる入れないですごく先生方ともめたりとか。(笑) どうして黒いストッキングをはいてはいけないのとかで、けつこういろいろと……。

木口 コーヒー牛乳はなあ……。おれは牛乳が飲めないんだ。(笑) だからコーヒー牛乳が欲しかつたんだ、すごく。(笑) コーヒー牛乳が入るようになつても、数が少なくつて、すぐなくなつてしまふやつやつて言つたりしてさ。いまはいろんなのが売つてるでしょ。いやあすごいなあ。

司会 牛乳の件で言うと、飲んだあと、捨てる散らかしたパックの始末だけれど、生徒会の平野さんを中心に、パック捨いというのを相当やらなかつたかな。それがきちつとできないと牛乳の販売を中止にするということ、生徒会や美化委員会で呼びかけてやつたよね。全校集会でも平野さんがみんなにそのことを訴えたりしたよね。

佐藤 先生方の意見は、「牛乳パックの後始末が悪いから、さらにコーヒー牛乳は入れられないんだよ」ということを覚えています。

司会 それから牛乳というのは栄養の面でよくて、(笑) コーヒー牛乳は糖分が多く、栄養価は低いので、牛乳だけでいいんだ、ということを通してきましたよね。

木口 他校の友だちに聞いても、そういうところはないって言うんだよね。(笑) 牛乳だけなんていうところは……。それに弁当なんかも早弁して、昼には外へ行つてパンを買ってきたりするしかなかつたですね。

司会 弁当やパンもいまでは校内販売するようになつたけど、当時は家庭の愛情のこもつた弁当を持参するという方針が強かつたからねえ。

木口 当時も、ぜひパンを校内販売してほしいと訴えましたけど、受け入れてもらえないかった。

司会 パンの校内販売をするようになつたのも、まだ歴史は浅いんだよね。いまでも、できるだけ愛情のこもつた弁当を持参するということが前提なんだけど。

木口 おれたちのときは、いまみたいなタ

ツバ式の弁当箱じゃなくて、ブリキの弁当箱を新聞紙に包んで持つて来たもんです。ちょっとずれると汁がこぼれたりして、(笑) 困ったもんです。いま、販売している弁当は、事前に業者に予約するんですか?

司会 その日に業者が持つて来た中から、生徒が並んで買うんです。まあ、十年前には考えられなかつたね。(笑)

木口 ほとんど売れちゃいますねえ。

司会 何種類もそろつてゐるからねえ。

木口 それは学校の収入にもなるんじょう。

司会 全然収入にはならないよ。ボランティア関係の人たちにやつてもらつていてるから。自動販売機も電気代だけは受け取るが、学校側の収入は一切ないんだよ。

穴を掘るといつぱいの貝殻が……

司会 あと、みんなには植樹をしてもらつたと思うんだけど、佐藤さん覚えてますか? ソゲを植えてもらつたでしよう。

佐藤 クラスの代表がやつたんだよね。

司会 みんなで苦労して大きな穴をスコップで掘ると、貝殻がといつぱい出てきてさ。関東ローム層って言うんだつけ?

大橋 成田層ですね。あれは全員でやりましたね。向こうの自転車置場のほうでした。

白塚 草取りやつたのは覚えてます。

木口 夏休みに登校してやつたねえ。

佐藤 校内がほとんど舗装されてなかつたので、雨が降ると靴がすぐ泥だらけになつた。体育も校舎



佐藤 浩美

走らざれたりして、こんな学校

はほかにないだろうと思った。部活も、私はテニス部だったけど、増築中の校舎でよく壁打ちしたのを見えていました。テニスコートを作るのにも、その土台作りを自分たちで手伝つたりして、満足感を覚えていた。とにかく雨が降ると一週間から十日ぐらい水が引かなくて、だいぶ悩ませられたなあ。

木口 いまのグラウンドのあたりはもともと沼だったので、子どものころ自転車でここまで来ると、ずいぶん遠くまで來たなあ、と思つていて。

大橋 子どものときに泳いでいたよ。(笑)

釣りもしたし、発泡スチロールに乗つて沼を一周したりもしたよ。昔はとにかく広い沼だ

つたんだよね。

部室の壁で目と目がばつたり

佐藤 当時は、バス停がいまの給食センターのほうにあつて、そこからみんなで歩いて学校へ來た。ほんとうにニュータウンのはずれに学校があるんだと思った。スクールバスも朝と夕方に二台ずつしか出してく

れなかつた。それに乗りそこねると一般のバスは一日に数本しかなくて、とにかく交通の便は悪かつた。いま思うと、普通の学校では体验できないことをたくさん体验させてもらつたなあ、という感じ。校旗・校歌制定式というのがあって、歌の先生に一生懸命校歌の練習を視聴覚室でさせられた。制定式は中央公民館でやつたね。

木口 入学試験と入学式は成田西高でやつた。

司会 校旗も校歌も、北校舎も体育館も、すべて一期生の歩みとともにそろつてきて、三年生になったときにはほとんどのものがそろつたんじゃないかな。

佐藤 部室はプレハブで形だけだつたけど。

大橋 あの部室は壁に穴があいててよかつ

たよ。(笑) 目と目が合つたりしてねえ。(笑)

木口 壁はペニヤ板一枚しかなかつた。サッカー部と陸上部が合同になつていて、倉庫をはさんで野球部だけが独立していたから、「なんで野球部だけ」って文句を言つていた。

佐藤 予餞会のときには、ふだん厳しいイメージの先生方が、コメディータッチの劇をして下さつて、とてもうれしかつた。

大橋 木口君のシブガキ隊がおもしろかつた。(笑)

司会 予餞会の職員劇だね。あれは斎藤(富山)先生がほとんど脚本を書いてくれて、去年までばらしい劇を毎年やつたんだよ。そういうの記憶に残っているんだね。先生方に伝えよう。

佐藤 「クレーマー、クレーマー」という映画を何かの行事で見ました。

司会 映画は年に二回ぐらいやつているからねえ。

佐藤 北校舎と体育館の建築工事で、杭打ちの音が授業中にずいぶん響きましたねえ。

木口 地盤がゆるいので、普通の倍の長さの杭を打ちこんでいたんだよねえ。大工事だったんだね。

佐藤 いまは掃除とかは全員でやらないの

ですか?

司会 いまは生徒数があえたから、大掃除以外は全員でやらない。交替でやつてある。

ぼくたちは幸せでした

司会 安部君は四期生で、一期生とは入れ違いになるね。一期生の話を聞いてどうですか?

安部 ええ、だいぶ感じが違いますね。ほんとうにぼくたちは幸せでした。(笑)

司会 四期生のころの苦労というと何かありますか?

安部 先輩方に比べると、ほんとうに苦労という苦労はありませんねえ。

白塚 あのう、新聞の北星はまだ続いていました?

安部 ぼくたちの代は続いていました。

白塚 文化祭のとき看板作りました?

安部 作りました。編集委員会のほうで作りました。たぶんいまでも続いていると思いますけど。

司会 文化祭の看板は、もっと大きく立派になって、いまでも続いているね。

木口 先輩のしごきとかなかつた?

安部 それはありませんでした。みんなや

さしい先輩ばかりで、ほんとうに先輩に恵まれてうれしかつたです。(笑) もよつと冗談を言われた程度はありますけど、しごかれたという思い出はほんとうになかつたです。

木口 古い学校へ行つた友人に聞くと、部活でもなんでも、先輩は絶対的存在で、そういうのがあとで役に立つてゐるようです。

安部 上下関係の区切りというのはありますけど、絶対服従というのではなくて、和気あいあいとした感じの関係でした。そういう面での苦労はほとんどありませんでした。先輩と後輩の行き違いとかはなかつたと思います。いじめとかもなかつたですね。学校の施設面の苦労もほとんどなかつたです。

司会 一期生と二期生ぐらいが、特に苦労していたんだね。

安部 ただ、駐車場がちょっとせまかつたかな、という程度です。

司会 駐車場?

安部 いや、駐輪場でした。(笑)

木口 自転車の利用者は多かつたよね。

佐藤 最初だけバスで、途中から自転車を使うようになった。

白塚 帰りのバスがなくなつて、一時間も二時間もかけて駅まで歩いたりした。当時の



白坂 朋子

ニュータウンの

中は、いまと違つて住宅がそれほどなくて、風景がどこも同じ

に見えたので、よく道に迷つたりした。

司会 二年目の八月に北校舎ができて、テニスコートもその年の九月にできたんだよね。だから特に施設面できつかったのは、一年目から二年目にかけてだね。

木口 運動会はやらなかつたね。

司会 スポーツ大会をずっとやつてたから。

白塚 バレーボール大会とかソフトボール大会もやつたね。

読感画コンクールで日本一に

司会 卒業してから新聞とかで後輩の活躍ぶりを見たりしている?

木口 しおり見てます。新聞のスポーツ欄で、野球の活躍とかいつも見ていま

す。それで試合の結果なんかが新聞の下のほうに小さく出ることが多いなあ。(笑)なんだからなんて。

司会 去年の野球は、キーナン投手が活躍

したんだよね。スポーツ新聞でもずいぶん大きくなり上げられてねえ。三回戦で惜敗したんだけどね。いまは就職して社会人野球に専念しているのかな。将来有望な選手だよ。

木口 やっぱり目立つのは野球だものね。

ベスト16でもベスト8でも、それくらいまでいけば、自然と地元の有望な選手が集まつて、さらに強くなるよ。

司会 スポーツ関係の活躍のほうが目立つのかな。

木口 そうですね。

大橋 あと新聞で見たけど、東洋大学で主催している百人一首にも、北高生の作品が多く選ばれて入つてました。

司会 それともう一つあるんだけど。きょううみんなに渡した学校案内の表紙にも載つてるんだけど、その絵は、実は昨年度の読書感想画コンクールで日本一になった作品なんだ。

佐藤 私の職場に、読書感想画コンクールで入賞した作品を載せた、カレンダーが配られたんですが、まさか北高生の作品が載つてるとは思いませんでした。

大橋 発行できるようになると、よいと思うんだけど会長さん(同窓会会长の大橋君)どうですかねえ?

大橋 そうですねえ。いざれそうしたいですねえ。

懐古とか回想が先に立つ

司会 北高生の良い所悪い所を、皆さんはどういうふうにみますか?

白塚 卒業してしまうと、北高や北高生を懐かしいなあ、と思う点が先にきてしまい、在校生を見てどこが悪いとか感じるような状

すばらしい成績を残してきてるよね。三期生の北川公子さんの絵は玄関にも飾つてあるし、みんなもよく知っていると思うけど、それ以来ずつと賞をとっているんだよ。そういうふうに後輩たちも活躍しているんだね。どちらかというとスポーツ関係のほうが大きく取り上げられるけど、文化系のほうでも活躍しているんです。

木口 スポーツだけでなく、ほかの活躍ぶりも新聞などで大きく取り上げてくれると、知る機会も多くなるんですけどねえ。

司会 将来、同窓会会報が年に一回ぐらい発行できるようになると、よいと思うんだけど会長さん(同窓会会长の大橋君)どうですかねえ?

大橋 そうですねえ。いざれそうしたいですねえ。

態ではないです。懐古とか回想が先に立つてしまします。

司会 安部君はこの間まで教育実習で来ていただけど、自分の在学中のときと比べて、いまでの生徒はどうですか?

安部 すごくみんな熱心に勉強していて、偉いと思いました。(笑)

司会 すごく謙虚ですね。(笑)

安部 ほんとうに自分が恥ずかしくなってしました。(笑)

司会 皆さんの中年だと、「いまの高校生は」という感じではまだみられないのかな。

白塚 自分たちがやっていたことと、いまの在校生がやっていることが、同じに見えるんですね。

司会 まだ同じ世代の中にいるのかな。

大橋 批判するとか注文するとかはないですね。とにかく自分が打ちこめることを一生懸命やって、納得がいくようにすればいいですね。

木口 そういう

うのを自分で見つけるというのと、先生たちが

見つけ出してあ



政章

げる、引き出してあげる、というようにしていけばね。高校に入つてからこんな才能があつたとか、どこで何が見つかるかわからないですからねえ。

司会 一期生を見ていて、いちばん幸せだったんじゃないかなと思うなあ。「なんとかして一期生のいいところを見つけ出してやりたいなあ」と先生方はみんな思っていたんじゃないかな。

結果よりも過程が大事

司会 いまは生徒数がふえてできなくなつたけど、当時、習熟度別の授業をやつていたよね。

佐藤 やつっていました。英語と数学を、それぞれ α と β に分けてやついました。

司会 ああいうのはどうだった?

佐藤 私はいやでした。

司会 あれは生徒の能力をより伸ばしたいということでやつたんだけどね。

木口 内容はそんなに違つていたのかな。

佐藤 違つてたよ。教科書も違つてたんじやないかな。でも、そのほうが伸びるんだと思つんですけど……。

木口 進学校に来ちやつたのかなと思つち

やつた。(笑)進学とか考えてなかつたけど。

大橋 α に選ばれた人はいいんですけど、選ばれなかつた人ってのはどういう感覚で授業を受けていたのかな……。

司会 ただ、授業をやるのに、クラスのどのへんのレベルにポイントを置いたら、うまく進めることができると、ということを考え、習熟度別の授業をやつたりしていたんだね。

佐藤 当時はいやだつたんですけど、いまは逆に小学校で自分が教える立場にいるので、やはりそういうほうがやりやすいなあ、ということがよくわかりますねえ。義務教育では実際にそういうことはやりませんけど、大勢だとどのへんを標準として教えたらしいかむずかしいですね。

司会 ひとクラス何人ぐらいいるの?

佐藤 三十三人です。

司会 能力はみんな同じではないだらうから、勉強の遅れがちな子にはどうしているの?

佐藤 個別指導をしています。

木口 何年生教えているの?

佐藤 一年生です。とてもかわいいです

司会 習熟度別というのは、教える側として、いろいろと悩むわけですね。

大橋 勉強ができるできないというよりも、精神的な面での教育のほうが大事じゃないかと思う。たとえば、いまは会社でも能力評価とかあるけど、そうじゃなくて、人間としての教育、育成のほうが大事じゃないのかな。

司会 皆さんのお校への思いとしては、何かにひたむきに取り組む中で、結果的にどうこうということではなくて、とにかく過程を大事にしてほしいということですか。

何ごとも積極的に取り組んで

佐藤 やっぱり私たちはそれなりにがんばっていたつもりでも、積極性に欠けていたと思うんですよ。だからいまの在校生に強いて望むとすれば、いちばん動けて、いちばんエネルギーッシュで、いちばん何かできそうな時期だと思うんで、何ごとも積極的に取り組んで、みずから道を切り開いていってほしいですね。当時の私たちは、生徒会でも何でもそうだけど、与えられたものだけをやっていたような気がするんで、そうなってほしくはないですね。

司会 どちらかというと、北高生は消極的でおとなしい感じがするね。必ずしもそれだけではなくて、何か夢中になれるものを見つけると積極的に活動するんだけれどもね。ただ、それを見つけるまでが消極的なんだよね。でも、全体的にみるといい学校だという気がしている。それと、あまり地域の評判とかを気にすぎると、生徒を見間違えてしまう。外部の人と内部の人とは、生徒に対して少し価値観が違っているわけだからね。外部の人の評判を気にすぎると、遅刻も全然ない、服装もきちんとしている、何も文句のないような北高にしたいんだ、ということになり、いろいろ問題も起きてくる。形にとらわれすぎるとそういう感じがしますね。ところが、皆さんの話を聞くとそういうことじゃなくて、物事の過程が大事だということで、われわれもそういう面を考えて指導していくたいな思いますね。

ほんの冗談から本当の企画へ

司会 これから北高がこうあってほしいなあ、と思うことを、ひとまずつお願いします。安部君の発言がどうしても少なくなっちゃうんですけど。(笑) 思い出がどうしても一期生のほうへいらっしゃもんで。

木口 高校生はまだしつかりした年代じゃないですからね。型にはめちゃうと動けなくなっちゃいますよね。

司会 どうですか、今度は若い順に安部君から。

佐藤 個性も大事ですかねえ。

司会 あまり型にとらわれない、外部の評

佐藤 最低限のルールというものを教えていただかないと困ると思うんですけど、ある一定の枠の中ではいろんな個性を出すのは大事だと思います。何でもきもちきもちというのではなくて、それがまた社会に出てプラスになってるんじゃないかな。一期生は規則の中に閉じこめられていたところもあったので、殻を破りたいとか、からだを伸ばしたいという気持ちがあったから、ぶつかり合いもあつたんですね。

司会 一期生はどちらかというと、型にはめられていたところもあったかも知れないけど、それがまた社会に出てプラスになってるんじゃないかな。一期生は規則の中に閉じこめられていたところもあったので、殻を破りたいとか、からだを伸ばしたいという気持ちがあったから、ぶつかり合いもあつたんですね。

安部 そうですねえ……ぼくは在学中、文化祭にだいぶ力を入れたんですけど、その

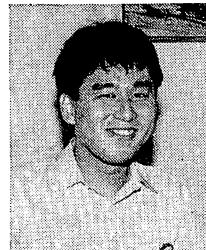
後、後輩の皆さんが文化祭で毎年がんばっていることを、生徒会の会報などで知ることができます。ぜひこれから企画を持ち続けて下さい。そういうのは非常に楽しいことだし、すばらしいことだと思います。がんばって下さい。

司会 卒業してからは、スポーツとか文化祭とかを通して母校を思い出すことが多いですか?

安部ええ、そうです。

司会 北高の文化祭は、卒業生の目から見ても何か特別な感慨がありますか?

安部ええ、あります。いまでも続いている、生徒会主催の文化祭のクイズ企画は、ぼくの代から始まっているんです。そのクイズ



志朗

をやるようになつたきっかけと、いうのは、ぼくのほんの冗談で

ら、まわりの人たちも協力してくれて、いつのまにか本当の企画になってしまった、ということです。だから、あのときぼくが冗談を言わなければ、ああいった企画もなかつたわ

けだし、ほんとうに恐ろしいですね。(笑)

司会 どんな冗談を言ったの?

何かありますか?

白塚 結果として、美術で賞を取りたりしていいことだと思います。これからもこれを維持しながら、かつ向上していってほしい。

ただ、あくまでそれは一生懸命やつたうえで本気にして、手伝ってくれる仲間があつたんです。そして彼らが文化祭実行委員に加わつてくれて、全校参加の企画になつたんです。それが伝統となつて代々続いているようで、ほんとうにうれしく思っています。

司会 生徒全員が何か一つのこととに燃えるという、そんな学校を卒業生としては期待しているわけですか?

安部ええ。

司会 次に木口君、これから北高は、勉強面でがんばつてほしいのか、それとも部活動や文化祭などの行事でがんばつてほしいのか、どうですか?

木口 やっぱり全部というものは無理だから、何か一つに力を入れて、みんなでがんばつてくれればいいと思います。普通の高校ではなくて、何か一つでも専門的なものが学べるというような、特色のある学校になつてほ

しいです。

司会 白塚さんは後輩に期待することなど

ありますか?

白塚 結果として、美術で賞を取りたりしていいことだと思います。これからもこれを維持しながら、かつ向上していってほしい。

司会 高校時代は三年間なんだから、その間に何に燃えるか、ということだね。

白塚 欲ばかりになつていいと思うんですね。

司会 若いんだからね。未知の世界に飛びこんでいくという気持ちになつてほしいね。

未知の世界に飛びこむ

特に新設校へ来たということはそういうことかなあ。既設校がいっぱいあるのに、なぜ北高を選択したか、ということも、ちょっとと聞きたいたねえ。

大橋 北高を選択したのはやはり、中学時代に野球部で毎日ケツバットを三発とか五発とかくって、陰湿な感じだったので、北高なら先輩がいないからいいなあ、と思つたからです。何もないゼロからのスタートで、いまではいい思い出です。

司会 入つてからいろいろとがんばつてくれたんだけど、後輩には何を期待しますか？

大橋 どんなことでも自分自身の持つている力で、納得いくような責任ある行動をしてもらえば、結果はどうであれ、いいと思います。一生勉強だと思いますので、とにかく後悔しないような勉強を、そういう気持ちでがんばつてもらいたいですね。

司会 青春の一ページだから後悔しないようにな。佐藤さんはどうですか？

佐藤 皆さんとほとんど同じなんですが、私が北高を選んだのは、未知数のものとか、新しいものに期待したからです。新しい学校というのは、おもしろそうだなとか、何があるんじやないかとか、きまりきつていな

いんじゃないかとか思つたからです。これらの北高は有名になるのも大事ですけど、もつと生徒ひとりひとりが内容を充実させてほしい。卒業してから、「北高で学んでほんとうによかったなあ」と思えるような生活をしてほしい。それぞれの生徒が何かに取り組んで、三年間楽しい思い出を作つたりして過ごしてほしい。

司会 私の立場で言うと、生徒が「北高に入つてよかつたなあ、三年間充実した高校生活が送れてよかつたなあ」と思つて卒業してくれるとうれしい。また、卒業生も「自分たちの出身校が、こんなにも世間に認められているんだ」と胸を張れるような、そういう学校にしたいなあ、と思っている。まとまりませんでしたけど、いろいろと皆さんから実のある話をうかがえて、とてもよかったです。もうお疲れさまでした。

在校生座談会

創立十周年を迎えて

出席者 荒井利尚(3年・生徒会長)茨木真純(3年)・
高橋伸子(同)・林利浩(同)・日暮匡人(同)・
石井克哉(2年)・片倉順子(同)・三枝光広
(同)・多田茂行(同)・松崎吉洋(同)

司会 安藤 清記録一手島和史 録音梶本一之・兼坂仁

日時 平成2年8月6日(月)

10:00~12:00

場所 本校会議室

司会 きょうは十周年を迎えた本校をふり返つて今後を展望するということで、生徒を代表してみなさ

構いるのですが、金江津から通っている茨木さんなんかはどんなイメージを持つていますか。

代表してみなさ



安藤 清
語っていただき
という企画を持

ちました。生徒会本部役員、黎明祭の責任者、部活動に三年間とりくんで来た人などです。思っていることを率直に話してもらいたいと思います。まず、中学生の時、みなさんには成田北高をどう見ていましたか。

安心感のある学校

日暮 中学生の頃は、北高はチェックのズボンとブレザーで、他の高校とは違うという印象を持っていました。学校の雰囲気については、先輩の話などからなかなかおもしろい学校かな、と思つてました。

林 自分の兄が北高にいたので、北高の生徒を身近に見ていたわけで、自分も北高の制服を着たいなあと思つてました。それと家からも近いので自然と北高を選んでいた感じです。

司会 茨城県の方から通学している人も結構いました。



茨木 真純
紙の上でとい
か、パンフレッ
トを見て考えた
だけです。それ

と、新設校だから伝統もなくて頼りない感じを持っていました。志望した理由はやはり偏差値で決めました。

高橋 私は、二人の兄が通っていたせいもあって、北高を考える時、安心感のようなものを持ってました。学校の雰囲気はなんとな
く自由で、のびのびしている感じでした。

司会 安心感というと。

高橋 ある程度学校について情報があったから。こういう先生がいるとか、こういうことがあるとかいろいろ聞けたので、何も知らない学校より入った時にとまどわないですむかなと思つて選んだ感じです。

司会 茨木さんのいう『頼りなさ』は?

高橋 それはありませんでした。むしろ学

校生活の楽しさを感じてました。兄が、学校生活を楽しんでましたので。(笑)それで北高って楽しいんだな、と思ってまして、行くんなら楽しい学校へ行きたいと考へたわけです。

三枝 ぼくは、中学の時に持つていたイメージと入学してからの印象と一致してました。明るくて、元気がいいイメージです。特に今年卒業したある先輩の影響が強く、そういうイメージを持つてたわけです。

多田 中学の時文化祭を見に来て、すごく盛り上がっていて、明るく楽しそうだった。その時の印象が強く、北高を選んだ感じです。

片倉 私にとっては成田西高のイメージが強かったです。なんとなく華やかで……。

北高について

片倉 順子 は、制服のイメージもわからなかつた。近所にも北高へ行っていました。

人がいなかつたので、よくわからなかつた。

松崎 ぼくにとって北高は、玉造の住宅地の方にあつたので、どちらかというと地味な

存在でした。北高の情報は入学する前はあまりなかつたです。

石井 ぼくは並木町に住んでるわけですけれど、北高は遠くてイヤだな、と思って

見ました。で

石井 克哉 も、先生から勧められて志望することになりました。

荒井 ぼくは佐原に住んでますけど、成田

北高の情報は全くありませんでした。まわりに先輩もいませんでした。まわりの先輩はみんな西高に行つてました。ぼくが北高を選んだのは、とにかく「下り」の電車には乗りたくなかった。だから、成田に通いたかったわけですね。本当は西高へ行きたかったですね。

北高について

司会 どうも、みんなの話を聞いていると、西校への「ライバル意識」というか、西高をとても意識してたんだね。

一同 そう。(笑い)

高橋 私はちょっと違つて、友だちは結構、西高のセーラー服が着たい、って言つてましたけど、私はどっちかというと、こわい

とか、異和感がありました。西高の方が大人びたところがありましたね。北高は何かのびのびしていて、落着いた感じだったで

生徒の人間関係はどうもよい!
司会 入学してからのイメージはどうだった。それと、北高の先輩は後輩に手を出さないというか、いわゆるやイジメがなかつたのがよかつた。他の

荒井 利尚 高校では、いろいろ聞いていたから。廊下なんかでも、全然知らない先輩が通ると挨拶しなければならないなかつたけど、北高はそういうことは気にななくてよかつたから、いい意味でスゴイ学校だな、と思つた。

三枝 同感ですね。中学の時、先輩のこといろいろあつたから、北高はよかつたです。

片倉 私も中学の時、先輩に廊下で会う

と、「おはようござります」なんて挨拶しな

ければならなかつたけど、北高では、そんな風に気にしないですむのがいいですね。それに学校がきれいだと思った。新鮮な感じがした。

司会 うん、北高は他の学校と比べてきれいかもしれないね。では、今度は「イヤなイメージ」というか、そんな所はどうですか。

多田 新鮮な感じはしたんだけど、活気がないと思う。

司会 茨木さんは、北高に対して特に何も感じてなかつたようですが……。

茨木 通学のラッシュに苦しんで、学校のことはあまり考えなかつた。二学期からはいよい学校だなと思つた。

日暮 ぼくの中学校は、成田市で一番小さい学校だと思うんだけど、北高へ来て、やはり上級生、下級生の違いを強く感じたですね。特に一年生の時には、三年生はすごくおとなに見えた。

司会 北高の上級生と下級生の関係はかなりよいようですね。君たちの中学時代で、先輩への挨拶が問題になつているようだけど、挨拶自体は悪くないのでないですか。

三枝 挨拶するのではなく「させられる」

感じなんですね。

片倉 中学一年の時などは、廊下を歩く時

は顔を上げて歩けない。うつむいて歩くんです。学年によつてネクタイの色が違うから、その色を見て挨拶したりしました。

司会 部活動をやつてきた高橋さんなんかはどうですか。

高橋 部活動をやつていると、自然と先輩とも仲良くなるから、「挨拶しろよ」なんて言つたり言われた

多田 りしなくても、下級生から挨拶されたり、上級生から声をかけたりして、気になることはないですね。私の中学ではイヤなことなかつたけど、友だちからは、先輩と目を合わせないようになつたとか、三回挨拶しないと呼び出されたとか聞いてましたけど。

司会 茨木普通では経験できないことが経験できたからよかったです。

片倉 私も高校生活の目標みたいなものは持つていないのでけれど、楽しく過せればいいと思います。そういう点でやはり友だち関係が一番大事ですね。

高橋 部活動をやつていてよかつたとは思いましたけれど、唯、勉強が手につかなかつたという重大な問題がありますけど……。でも「帰宅部」の人よりはよかつたと思います。

同じ学年だけじゃなくて、上からも下からもいるようだけど、部活動をやつているとそういうことです。

部活に打ち込んでよかったです！

司会 みなさんはそれぞれ、生徒会なり部活なりいろいろやつて来ましたが、どんな高校生活を送りたいと考えて来たんですか。

多田 ぼくは、やはり部活中心に過したいと思っています。

日暮 ぼくは友だちをつくりたいです。中三の時、受験で苦労したから、高校では一年でしっかり勉強して三年では楽をしたいと思っています。

司会 茨木さんにとって、生徒会はどうでしたか。

茨木 普通では経験できないことが経験で



伸子
高橋
下級生から挨拶

されたり、上級生から声をかけ

片倉 私も高校生活の目標みたいなものは持つていませんけれど、楽しく過せればいいと思います。そういう点でやはり友だち関係が一番大事ですね。

高橋 部活動をやつていてよかつたとは思いましたけれど、唯、勉強が手につかなかつたという重大な問題がありますけど……。でも「帰宅部」の人よりはよかつたと思います。

同じ学年だけじゃなくて、上からも下からもいるようだけど、部活動をやつているとそういうことです。

関係があつたということや、苦しい時もがんばるということはいい経験でしたね。

茨木 それはあるよね。

高橋 ただ、家に帰つても寝るだけ、といふ生活をして来ちやつたから、引退してからあせつています。

司会 引退する前は?

高橋 あせつてましたけれど、テスト前につめ込んで、テストが終ると忘れちやう、という生活をくり返してましたから。テスト前の休みも、部活の疲れをとるような形で過しちやう。言い訳ですけど。

林 高校生活で心がけて来たことは、勉強だけでなく、部活や行事で得られることって大きいから、そういうことにも力を入れてやつて來たつもりです。だから、部活をやって、これから何事にも耐えられるよう、そういうところは養えたと思う。



高橋 利浩

が出来て、よかったです。

松崎 ぼくは何でもよいから、何か三年間やり通すことを持つことが大切だと思ってます。

三枝 ぼくは、あまり目標というようなことは考えないで来てしました。

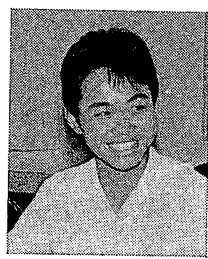
石井 友だちが一番大事だと思ってやってきました。

北高生には『存在感』がない!?

司会 高校生活へのそれぞれの思いを語つてもらいましたけれど、では、北高のよい所というとどんな所でしょうか。

茨木 自由というか、何だかんだと言つても生徒の意志を尊重してくれているところだと思います。予餉会なんかにしても、あそこまでやつてくれる先生はいないと思う。

三枝 まわりの人からあまり悪く思われてないのではないかですか。他校生が固まつていて、生徒もそれを受けとめているから、そこから北高の雰囲気が生まれているのだろうね。では、北高の問題点は何だろう。



三枝 光広

という感じ。(笑)

司会 それは逆に言えば、存在感がないということ。(笑)

多田 制服のイメージにもよるものではないですか。

茨木 北高の制服は明るいよね。

石井 他校生より圧迫感はないですね。

日暮 それから、北高の生徒指導はしっかりとしていると思う。そして、生徒指導の範囲内では自由だな、と思う。

司会 そういうのって、重荷ではない?

三枝 北高の生徒指導で言つてることはあります。頭ごなしに言うのではなくて、ある程度理解させてから指導しているところがあるから特に問題はないと思う。言わなければ直らない人もいるから、必要なんじやないかな。

高橋 そう、あたりまえのことと言つてゐる。頭ごなしに言うのではなくて、ある程度理解させてから指導しているところがあるから特に問題はないと思う。言わなければ直らない人もいるから、必要なんじやないかな。

司会

先生方もそれなりに一所懸命やっていて、生徒もそれを受けとめているから、そこから北高の雰囲気が生まれているのだろうね。では、北高の問題点は何だろう。

「あ、いるな」

受け身・人まかせ・消極的！

でも、協力はしてくれる！

高橋 やらなければいけない時にやる気を出さないところではないかと思う。クラスで文化祭のことを話し合っても、めんどくさいとか、誰かがやれば手伝うけど自分からはやりたくない。受身っていうんですか、自分でやる、っていうより、一歩うしろからというのが欠点だと思います。

林 消極的になり過ぎている。行事でも部活でも、もっと積極的になれば活気が出て、西高にも勝てるんじゃないかと思う。（笑）

松崎 あまり自分の意見を出さないで、他人に従ってしまうところがある。ホームルームにしてもルー

ム長にまかせつ
きりにしたり、
生徒会にしても
誰かがやるだろ
うと。もつとみんながやる気を持つべきだと
思う。

司会 それは、なるようになれ、といいうい加減さと人のよさなのかもしれないね。

高橋 協力性はあると思うんですよ、協力

性は。でも、ひっぱる人があまりにも少ないのではないか。

松崎 自分から進んでやる、という人がたしかに少ない。

片倉 そういう点、西高の方が上まわってるんじゃないかな。（笑）

厳しさに鍛えられていない

茨木 あと、生徒同士の競争心がないのではないか。

一同（同感）（笑）

司会 その辺が、北高生ののびのびしているところとおだやかなところを出さしているのでは？

高橋 よいところもあるけど、やはり欠

ム長にまかせつ
きりにしたり、
生徒会にしても
誰かがやるだろ
うと。もつとみんながやる気を持つべきだと
思う。

高橋 予備校に行っているけど、他の学校の人は競争心があるというか、人を蹴落しても、というところがあるのだけれど、私なんか行つてただけで気疲れしちゃう。私のクラス、結構、人数がいるんだけど、私のところだけ場所が違うんです。（笑）あたたかすぎ

るっていうか。外へ出るのがこわい。

茨木 そう。それは言える。

松崎 進学についてもそういう感じ。

司会 ホームルームの生徒を見てても、たしかに、進路を決める時にお互いが競争相手にならないんだな。

日暮 でも、男子はちょっと違うんじゃないかなと思う。女子はグループの中で割合まとまっちゃうけど、男子は、それぞれ別のこと

をやる。むしろ、もっと注意しあったり、自分の意見を言った方がよい。

茨木 たしかに女子はグループに合わせて動いてしまうけど。

司会 競争心や厳しさに欠けるのはどこに原因があるのだろうか。

多田 みんなが先のことを考えていない。

生徒の姿勢の問

題だと思う。こ

の前の進路説明

多田 茂行 の前の進路説明
会でも、真剣に
聞いている人が

少ない。
片倉 寝ている人が結構いた。

松崎 なるようになるさ、という人が多い。まわりの人がやってくれるという依存心。講習会などにもみんなが行くから行く。

片倉 ふだんおひとりと過しているから。

進路についても、今の生活の延長でしか考えていないのだと思います。

北高に求められているものは?

茨木 先生のあり方に問題があるのでないでしょうか。先生は先生、生徒は生徒といふ違いをもつとはつきりさせた方がいいのでは……。姉の学校では、先生と生徒が冗談なんか言いあえない。

高橋 たしかに、北高のよい面が裏目に出ていると思います。先生と生徒の関係が変わら、北高の良さがなくなってしまう。やはり、あまりにものんびりした『校風』のせいではないですか。このままでは北高を卒業したらどうにもならないと思う。どこかで競争しなければならなくなる。

茨木 校風は好き。校風はこのまま残したい。

司会 でも、先生と生徒の関係が北高の良さ、校風を作っているのではないですか。

高橋 生徒はその雰囲気に染つている。

三枝 先生と生徒が冗談を言いあえることが問題なのではないと思う。生徒自身の自覚と責任だと思う。

茨木 先生が、どうしたらよいか、ちょっと教えてくれてもいいと思う。

三枝 そういうところが、甘えなのではないかな。

日暮 ぼくはやはり本人次第だとと思うから、このままでいい。

茨木 自主性がほしいですね。

高橋 進路のこと、どこかで本当に行きづまらないと変わらないのではないか。

三枝 せっぱつまつて考えていないからだと思う。

松崎 高校受験のときの志望校の決め方やその時の気持の持ち方に問題があると思う。ここからもう意欲を失なつてしまふのだと思う。

高橋 私の中学生の北高志望者は、みんな意欲を持ってやって来ます。

多田 ある先生に補習で指導してもらつた時すごく成績が上がった。だから、学校生活のやり方が大事だと思う。

司会 どのような形で、どのような気持で入学したかはとても大事だけれど、でも、高校三年間がそこで決つてしまつというのはどんなものだろう。

多田 ゼひ、先生方が、ぼくたち生徒に迫つてほしいと思います。

茨木 私も、先生方にぐいぐい私たちに迫つてほしいと思っています。

高橋 そういう気持は甘えではないですか。自分たちの気持の持ちようだと思うのですが。

茨木 でも、それが私たちに思うようにできない。だから、先生方に教えてもらいたいと思うのです。授業でも、すごく厳しい先生もいます。

多田 北高の生徒は、何かが始まるとすごい団結力を見せる。でも、そこまでに持つていくのに時間がかかるように思います。

茨木 精神的に強い人は、いろんな課題を乗り越えられると思いますけど、弱い人にはなかなかできないと思うんです。

日暮 中学と高校は違うと思います。成人になる一歩手前。だから依頼心はよくないと

思います。ただ、


茨木 匠人
北高の進学指導
にもっと力を入れてほしいと思つています。

高橋 みんな、ある程度、自分でつまずいてみないと本当のことはわからないのではないか

いでしょうか。北高のよい所を残しながら厳しく鍛えてほしいですね。

荒井 今のような北高がいいですね。卒業すれば、みんなそれなりにやっていくと思う。積極性がのびれば何ができるかを考えていたんだけど、今の北高がいいですね。

片倉 一人ひとりがもつと自覚を持って、自立することが必要だと思います。

多田 クラスなどを見ると、やはり、今一つ何かが足らない。

松崎 自分たちが意欲を持つてやっていくべきだと思う。先生と生徒の信頼関係は残しながら、生徒を甘やかさないでやってほしいです。

林 なりふりかまわずやっていく人が一人でも多く出て欲しい。

司会 北高の良さ、北高生の良い面を大事にしながら、北高の課題にどうとりくむか。今日の話しあいを、ここだけで終らせないで、ここで深めた問題意識を、ぜひ、これからの中学校生活に生かしてほしいですね。今日は、どうもご苦労さまでした。

高校生活への抱負・成田北高への期待

— 平成二年度入学生並びに保護者へのアンケートの集計結果について —

一 はじめに

本校創立十周年を記念し、本校の十年のあゆみがどのように受けとめられ、本校への期待がどのようなものであるのかを把握するために、平成二年度の新入生と保護者を対象に「千葉県立成田北高についてのアンケート調査」を実施した。集計結果については、一七九ページから一九二ページに紹介してあるが、ここに若干の考察を付しておきたいと思う。

文中で、新入生のアンケートについては「アンケートI」、保護者のアンケートについては「アンケートII」と略称する。なお、アンケートIの質問「20」「26」「28」「29」は、総務庁青少年対策本部が実施した世界青年意識調査の調査項目を利用し、本校新入生と日本の青年ならびにアメリカ、イギリスを中心に諸外国の青年との比較検討を試みた。世界青年意識調査の調査結果は、昭和六三年一月から六月までの間に、十八歳から二十四歳までの青年を対象に十一カ国で行なわれたものである。日本の青年の回答者数は一〇八二名で、平均年齢は二十一歳であった。したがって、本校新入生とは、年齢的にも生活基盤の面でも異なっているので、単純な比較検討は慎まなければならないことは言を俟たない。

二 志望の動機と本校の印象について

アンケートの冒頭で、まず高校へ進学した目的を尋ねたところ、新入

生の四一・三%、保護者の三七・六%が、「大学に進学するため」という回答であった。進学・就職・勉学・部活動等、何らかの目的意識を自覚している回答は、新入生で六〇%、保護者で七〇・五%であった。「高校位出でいないと……困る」など、高校に入ること 자체を目的としている回答は、新入生の四一%、保護者の二九・五%ほどであった（アンケートI・IIの「1」）。

本校を志望した理由としては、「本校の教育方針や校風にひかれた」り、「本校で勉強や部活動などに期するものがあつたから」という、主体性のある積極的な回答は、新入生で二五・九%と低い数字であったが、保護者では四〇・九%に達していた。現在の受験事情からやむを得ないところかもしれないが、「自分の学力」を考慮して志望したという回答が、新入生で五四・五%、保護者で三五・一%もあった（アンケートI・IIの「2」）。本校に対する印象は、「生徒の人間関係」がよい、生徒がまじめで明るいなど、プラス評価をしている新入生が五五・七%あり、「わからない」の三二・四%、マイナス評価の一・九%を大きく上まわっていた。保護者も、プラスの評価をしている方が六三・六%と、きわめて高い数字であったが、新入生が、生徒間の人間関係のよさを評価する回答が二四・八%と一番多かったのに對し、保護者は、生徒がはじめて明るいと受けとめている方が一番多かった（三五%）（アンケートI・IIの「3」）。

中学時代の反省としては、七〇%近くの新入生がプラス評価をしていた。その理由としては「友人とのこと」が八五・一%、「部活動のこと」が五六・三%で、「勉強のこと」をあげた新入生はわずかに九%であった。逆にマイナス評価をしている新入生は一八・三%であったが、その理由として、部活動が五〇%、勉強が四七・六%に上っている。特に勉

強については、その意義を受けとめて意欲的にとりくんだという回答が三一・七%であったのに對し、「苦痛であり、嫌であった」という回答は四五・五%もあった。勉強の中で不得意（嫌いな）科目を尋ねたところ、数学が四三・三%と半数に近く、英語が三八・四%でそれに次いでいたが、英語については、男子は二六・一%が得意（好き）、四七・六%が不得意（嫌い）としているのに対し、女子は三二%が得意（好き）、二六・三%が不得意（嫌い）としているのが注目された（アンケートIの「4」「5」「6」「7」「10」「11」）。

三 悩みや悩みの相談相手について

中学・高校時代は、人生の中でも最も多感で正義感も強く、したがって、悩みや迷いや心の動搖も少なくない時期である。新入生の悩みや心配ごとのトップは「勉強のこと」（三五・五%）で、続いて「進学のこと」（三四・四%）であった。「友人や仲間のこと」（一一・一%）、「異性との交際のこと」（八・九%）、「性格のこと」（六・七%）、「政治や社会のこと」（一・六%）など、予想外に低い数字であった。「お金のこと」をあげた新入生は五一名（一一・四%）であった（アンケートIの「29」）。

次表は、世界青年意識調査の日本・アメリカ・イギリスの結果である。本校の調査項目では一部変更してあるが、日本・アメリカ・イギリスの青年とも、お金、就職、仕事など、生活にかかわる悩みや心配ごとが多い。これは、本校の新入生と各国の青年との年齢的な違いから来るものであろう。本校新入生も各国の青年も、友人や仲間との人間関係や異性のことについての悩みや心配ごとが意外に低い数字となっている。また、自分の性格についても、日本の青年を除いては、本校新入生とも

悩みや心配ごとについて

	日本	アメリカ	イギリス
	%	%	%
1 勉強のこと	15.4	16.8	3.9
2 進学のこと	9.9	10.2	1.9
3 就職のこと	25.5	24.9	23.6
4 仕事のこと	32.3	16.9	12.9
5 家族のこと	16.4	17.0	11.3
6 友人や仲間のこと	15.3	8.9	4.1
7 異性との交際のこと	24.0	17.2	9.0
8 セックスに関すること	4.4	6.7	2.5
9 お金のこと	35.0	53.1	45.8
10 政治や社会のこと	6.9	22.3	13.7
11 性格のこと	20.6	7.6	4.2
12 健康のこと	21.0	15.1	13.4
13 容姿のこと	16.2	14.0	8.6
14 その他	7.3	5.3	3.8
15 悩みや心配ごとはない	12.8	17.0	26.2
16 無回答	5.0	0.2	2.1

「世界の青年との比較から見た日本の青年」

（総務庁青少年対策本部編）

こうした悩みにどのように対応しているのか。まず、進路についての相談相手を尋ねてみたところ、五一・七%の回答が母親であり、男女差はほとんどなかった（男子五一・一%，女子五四・六%）。次いで友人の四四%（男子三二・七%，女子五八・八%）、「学校の先生」は第三位で三一%（男子二八・七%，女子三四%）であった。父親はわずかに一九・二%であったが、とりわけ女子は九・三%にすぎなかつた（アンケートIの「12」）。

悩みや心配ごとの相談相手について

	日本	アメリカ	イギリス	フランス	スウェーデン
父	17.4%	28.5%	23.2%	23.1%	44.2%
母	35.7%	55.8%	47.8%	51.4%	68.7%
きょうだい (略)	18.9%	32.4%	21.8%	27.1%	30.0%
先生	3.5%	3.9%	0.7%	1.2%	1.8%
近所や学校の友だち (略)	48.2%	24.7%	20.8%	28.4%	23.1%
だれとも相談しない	11.1%	3.9%	8.9%	7.6%	3.6%
無答	3.5%	0.2%	1.0%	0.6%	0.9%

「世界の青年との比較から見た日本の青年」(同)より

友人とのトラブルの相談相手としては、四八・四%の回答が友人をあげていた。母親は一一・八%。父親は三・一%

%で、なかでも女子で父親をあげた新入生は皆無であった。「学校の先生」は七・四%、そして、一五・八%の回答が「ひとには相談しない」であった(アンケートIの「13」)。

異性の友人についての悩みや性についての相談相手としては、友人をあげた回答が一番多かった(友人については三五・八%、性については三四・六%)。母親をあげた者も意外に少なく(友人については四・九%、性については一二・三%)、父親は、なんと〇・七%と一%という数字であった。女子は、友人についても性についても、父親を一人もあげていない。「学校の先生」も、友人一・一%、性〇・七%という低さであった(アンケートIの「14」「15」)。

世界青年意識調査でも「悩みや心配ごとの相談相手を尋ねているが、回答状況の一部を紹介してみると右表のようである。そこには、本校の生徒や日本の青年の回答状況とは異なり、各国の青年にとって「悩みや心配ごと」の相談相手に占める両親の存在がきわめて大きいという傾向

が読みとれる。逆に、相談相手として友だちをあげている回答が、本校生徒や日本の青年よりはるかに少ない。

四 家庭生活について

親子関係については、「両親とよく話しあう」という新入生の回答が三四・四%あったが、保護者の受けとめ方は四五・三%という数字であった。しかし、新入生の三一・三%、保護者の三六・三%が「必要に応じて、又はその時の気分で」と答えていたのは留意べきところである(アンケートIの「16」、同IIの「4」)。また、両親に対する気持ちを尋ねたところ、「両親共好きである」が三五・三%と一番多く、次が「両親共敬愛している」の二一・九%であった。三〇・四%の「なんともいえない」という回答は、年齢的な条件を考慮すれば問題とするほどのことではないと考えられるので、全体として親子関係はきわめて落着いた、よい関係にあるといえるだろう(アンケートIの「19」)。

家の仕事を毎日責任を持って分担しているという新入生の回答は二〇・六%(保護者の受けとめ方は一四%)で、六三・四%の回答は「必要に応じて手伝う程度」であった(保護者は四三・八%)。家事や家業の手伝いに子どもの「手」を必要としない(当然にしない)生活環境や社会状況の反映であろう。子どもがやっている仕事も、自分の部屋の清掃が一番多く(五八%)、ふとんのあげさげ(三四・四%)、風呂の水替え(三四・二%)、食事の後片付け(三一・七%)などが続いている。炊事の手伝いや洗濯など、家族の日々の生活に欠かすことのできない仕事に携わっているという回答は、それぞれ一三・七%、一〇・七%ときわめて少ない(アンケートIの「17」「18」)。保護者の受けとめ方もほぼ符合している(同IIの「5」「6」)。

五 友人について

友人関係については、同性の親しい友人がいるという回答が七五・三%で、同性・異性の両方の親しい友人がいるという回答が二四・六%であった（アンケートIの「20」）。左表に見るように、日本の青年は同性の友人、同性・異性両方の友人がいる、という回答がほぼ伯仲しているが、アメリカ・イギリスでは八〇%前後の回答が「両方ともいる」と回答している。この傾向は、西ドイツやフランス、スウェーデンなど、欧米諸国に共通した傾向であるが、韓国や中国の数字は、日本の数字に近い。本校の新入生と日本の青年の回答状況の違いは年齢的なものであろう。

	日本	アメリカ	イギリス
同性の親しい友人がいる	44.5%	12.0%	13.5%
異性の親しい友人がいる	2.7%	4.2%	2.6%
両方ともいる	48.5%	81.8%	78.3%
いない	3.0%	1.9%	5.3%
無 答	1.4%	0.1%	0.3%

「世界の青年との比較から見た日本の青年」(同)より

「親しい友人」の内容としては、「考え方や生き方などを話しあえる友人」が三二・九%、「相手のことを真剣に考えあえる友人」が一六・三%で、あわせると四八・二%で、ほぼ半数に達している。子どもの友人についての保護者の願いは、同じ項目をあわせた数字が六六・七%（前者が四六・八%、後者が一九・九%）という高さを見せていく。しかし、新入生の男女差を見てみると、女子の六九・六%に対し、男子は三一・九%と女子の半数にも達していない。保護者の回答や新入生の女子の回答には、「親しい友人」に対する期待感や理想がこめられていると思われる。因みに、男子の「親しい友人」観は、「趣味や好みが一致し、楽しい友人」と「一緒に遊ぶや買物をする友人」をあわせた回答が五一・一%で一番多かった（女子は一九・五%、保護者は一五・一%）（アンケートIの「20」、同IIの「7」）。最近の中・高校生の友人関係は、いじめや暴力事件をはじめとして全般的にきわめて希薄になっている。回答には、こうした現状とあるべき友人関係への思いが混在しながら反映しているといえるだろう。

六 余暇の利用と小遣いについて

余暇の活用としては、テレビが中心になっている。一日二時間以上テレビを見ている新入生は七四・二%にも上っている（アンケートIの「22」）。一時間以上レコードやラジオを聴いているという回答は五八・五%（同Iの「23」）。ふだんよく読む本としては、半数をこえる五三・八%の新入生がマンガをあげている。次いで週刊誌の二九・二%。小説では推理小説の一六・七%が一番多く、学園ものなどが一五・八%で、古典的な評価を受けている小説や、エッセイ、アカデミックな分野は非常に少なかった。

小遣いは、三千円から五千円という範囲が男女とも一番多かった（四二・二%）。次いで五千円から一万円の三一・三%で、保護者の回答もほぼ同じ傾向を示していた（アンケートIの「25」、同IIの「8」）。

七 人生観や生きがいについて

新入生はどのような人生観・価値観を持っているのか。まず、人生の目標を聞いてみたところ、四二・四%（男子三九・八%、女子四五・九%）の回答が、「自分の好きなように暮す」であった。「経済的に豊かになる」は三九・七%で、「社会のために尽くす」という回答はわずかに一

二・三%、「社会的な地位を得る」は四・一%にすぎなかつた。ところが、保護者が自分の子どもの人生に寄せる思いは、「社会のために尽くしてほしいが一番多く、一九・三%という数字であつた。「経済的に豊かになる」は二八・七%で、「自分の好きなよう」な人生を望む回答は二三・四%と、新入生の半数ほどであつた。保護者の方は、ほとんどの方が四十代・五十代である。戦前・戦中・戦争直後の厳しい生活体験からの生活意識や人生観をふまえての回答である。一方、新入生は、日本経済が世界的にも注目されるほどの発展を見せた時代に生まれ、育つてい

る。世代として、「生きる」厳しさを体験していない生活感覚からの回答である。なお、「社会的地位」を求める回答は、新入生と同様、保護者も六・三%と低かつた。高い学歴はめざしても、必ずしもそれが立身出世の願いにはつながっていないということであろう。このことは、次の

「人生にとって一番大切なものの」を尋ねた回答からも読みとれる。「社会的地位」をあげたのは、新入生で〇・九%、保護者で〇・四%であった。ただ、ここでは、「学歴」は二・九%(保護者〇・一%)、

経済力は四・七%(保護者一・八%)といずれも低く、「人間性」(三三三%)、保護者四四・二%、「健康」(一九・九%)、保護者二六%、「考え方や生き方」(一五・二%)、保護者一四・九%が上位を占めていた。人生に対する理想的な思いがこめられていると思われる。同時に、「仕事」をあげた回答が、新入生にも保

人の暮らし方について			
	日本	アメリカ	イギリス
経済的に豊かになる	38.7	15.2	18.6
社会的な地位を得る	5.1	7.3	16.6
自分の好きなように暮す	46.6	66.3	56.4
社会のために尽くす	2.8	10.2	6.7
無 答	6.8	1.1	1.7

「世界の青年との比較から見た日本の青年」(同)より

護者にも一つもなかつたことも注目された(アンケートIの「26」「27」、同IIの「9」「10」)。

世界青年意識調査の結果は上の通りであるが、本校の新入生の回答状況と日本の青年のそれはきわめて似通っている。欧米諸国では、「自分の好きなように暮す」が、日本よりはるかに高く、「経済的に豊かになる」が、どの国も日本より低い。かわりに西ドイツやフランスでは、「社会的地位を得る」の回答が多く、それぞれ二〇・八%、二六・八%となつていて。

生きがいについても「アンケートIの『26』」に共通する結果が出ている。生きがいを感じる時は、「スポーツや趣味に打ち込んでいる時」が一番多くて四二・九%(男子四八%、女子三六・一%)、それに次いで「友人や仲間といいる時」が三四・四%(男子二七・一%、女子四三・八%)となつていて。「社会のために役立つ」(九・一%)、「勉強に打ち込」む(二・九%)、「仕事を打ち込」む(二・七%)などは非常に低い数字である。年齢的な条件を考慮しても考えさせられる結果であると思う

	日本	アメリカ	イギリス
社会のために役立つことをしているとき	9.7	33.9	22.0
仕事に打ち込んでいるとき	27.6	40.4	38.9
勉強に打ち込んでいるとき	10.5	23.4	15.0
スポーツや趣味に打ち込んでいるとき	58.3	39.6	36.7
家族といいるとき	21.3	77.8	61.6
友人や仲間といいるとき	62.0	81.2	75.3
他人にわづらわされず一人でいるとき	13.7	22.1	15.5
無 答	6.9	0.0	1.2

「世界の青年との比較から見た日本の青年」(同)より

「28」。

上表は、世界青年意識調査の結果である。この調査は複数

回答を認めていたので、本校の調査と同列には論じられないが、十分参考になる結果が出ている。「友人や仲間とするとき」は、韓国（四二・九%）や中国（三九・九%）は若干低いが、日本を含め他の国々は非常に高い数字を示している。本校の新入生も、各国の青年と同様に高い数字であると考えられる。本校の新入生や日本の青年は、「スポーツや趣味」に多くの回答を寄せており、アメリカ・イギリス・韓国（三一%）、中國（一五%）などの青年は決して多くない。特に、「社会のために役立つことをしているとき」や「家族とするとき」は、本校の新入生や日本の青年は、きわめて低い回答数であるが、アメリカをはじめ欧米諸国は、はるかに高い数字となっている。

八 進路に対する希望と本校への期待について

高校卒業後の進路については、四年制大学（四八%）、短大（一八・一%）、専修学校（一三・一%）と、八〇%近くが上級学校への進学を希望している（アンケートIの「30」）。保護者の回答もほぼ同じような傾向である（同IIの「11」）。しかし、将来の職業に対する希望については、三三%の新入生がまだ「わからない」と答えている。入学直後のこともありますあり無理からぬところかと思うが、人生設計が明確にならないままに卒業を迎える高校生が少なくないので、留意すべきところであろう（アンケートIの「31」）。

最後に、本校への希望を尋ねたところ、新入生の三五・七%が、生徒間のよい人間関係を求めていた。この点については、男子の二三・二%に対して女子は五一・一%と、男子の倍以上の数字となっている。教師とのよい人間関係を求めていた回答も一四・一%と、三番目に高い数字となっている。保護者では、一番多い回答が、教師とのよい人間関係を

望むもので三五%、次いで、生徒間のよい人間関係を求める回答が多く、二三・一%であった。学校における人間関係がよい状態であつてほしいという願いは、新入生も保護者もきわめて強い。在校生の座談会でも、中学時代のイジメや、上級生と下級生の人間関係のゆがみが強く指摘され、本校にそうした状況がないことを評価しあつてたが、今後の本校のあるべき姿として心していきたいところである（アンケートIの「32」、同IIの「12」）。質問「3」で本校についての印象を尋ねたが、新入生の回答で一番多かったのが、「生徒の人間関係がよく、安心してすごせる学校」であった（一四・八%）ことが思い起される。保護者も一九%と、「一番目に多い回答を寄せていたのである。なお、本校への希望で、新入生が二番目に多く寄せていたものは、「わかりやすく、充実した授業」への期待であった（一八・五%）。保護者は三番目で一七・三%である。活発な部活動を求める新入生の声も一三・六%と高いものであった。

九 おわりに

時間的な制約もあって、アンケートの集計結果について十分な分析や検討がなされていないが、とりあえず中間報告として、集計結果の紹介と若干の考察を試みた。

このアンケートの結果は、いわば、成田北高十年のあゆみの一つの総括の意味合いを持つと同時に、成田北高の二十年、三十年へ向けての期待と課題を指し示している。年度当初のあわただしい時期に、アンケートに取組んで下さった保護者のみなさまと新入生諸君に心からお礼を申し述べるとともに、アンケートに寄せられた思いを、明日からの本校の教育実践、学校づくりにどのように生かしていくかが大きな課題である。

千葉県立成田北高についてのアンケート調査集計結果（Ⅰ）

——本校平成2年度入学生——

調査目的 本校の教育並びに高校生活に対する意見や希望を集約する

調査時期 平成2年4月上旬

調査対象 本校平成2年度入学生 459名（男263名、女196名）

回収状況 448名（97.6%）〔男254名、女194名〕

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
1 あなたの高校進学の主な目的は何ですか。次の項目から一つを選んで下さい。		
ア 大学に進学するため	185	41.3
イ 専修学校（専門学校）に進学するため	22	4.9
ウ 資格をとるために、高卒の学歴が必要なため	4	0.9
エ 高卒の学歴がないと就職に不利なため	22	4.9
オ 高校位出ていないいろいろ困ると思ったため	83	18.5
カ 高校卒業後の進路というより、高校で勉強したかったため	19	4.2
キ 高校での部活動をやりたかったため	17	3.8
ク 高校生という立場で3年間を過したかったため	78	17.4
ケ 中学卒業で実社会に出たくなかったため	17	3.8
コ 唯なんとなく（まわりの人に行くので）	6	1.3
サ その他	1	0.2
無 答	0	0
2 あなたが本校への志望を決めた主な理由を一つ選んで下さい。		
ア 中学校の先生に勧められたから	23	5.1
イ 謹や予備校の先生に勧められたから	1	0.2
ウ 親にすすめられたから	10	2.2
エ 兄姉にすすめられたから	2	0.4
オ 先輩や友人にすすめられたから	5	1.1
カ 自分自身が本校の教育方針や校風にひかれたから	83	18.5
キ 本校で勉強や部活動などに期するものがあったから	33	7.4
ク 通学に便利だから	36	8.0
ケ 自分の学力に見合っていると考えたから	244	54.5
コ 親しい友人と一緒だから	4	0.9
サ 唯なんとなく	8	1.8
シ その他	1	0.2
無 答	1	0.2
3 あなたは本校にどのような印象を持っていましたか。主なものを一つ選んで下さい。		
ア まじめな生徒が多く、明るく生き生きした雰囲気	75	16.7
イ 勉強に意欲的で、よい緊張感がある学校	15	3.3
ウ 生徒会活動や部活動が活発で個性のある学校	49	10.9
エ 生徒の人間関係がよく、安心してすごせる学校	111	24.8

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
オ おとなしい生徒が多いが、勉強や部活動などに意欲が欠ける感じ カ 落着きはあるが、これという特徴がない学校 キ 校則などが厳しそうで、きゅうくつな感じ ク 生活態度やマナーがだらしなく、いい加減な感じ ケ 特に考えたことがない コ よくわからない サ その他 無 答	7 25 17 4 80 65 3 0	1.6 5.6 3.8 0.9 17.9 14.5 0.7 0
4 あなたは、中学時代を振り返ってどのような感じを持っていますか。一つ選んで下さい。 ア とても充実していてすばらしい3年間だった イ どちらかといえば、充実したすばらしい3年間だったといえる ウ どちらかといえば、つらいことや後悔することの方が多い エ つらいことや後悔することばかりである オ どちらともいえない カ その他 無 答	94 217 70 12 62 2 0	21.0 48.4 15.6 2.7 13.8 0.4 0
5 「4」で「ア」又は「イ」と答えた人 そのように振り返ることの出来る主な理由を、右の枠内から二つまで選んで下さい。 ア 勉強のこと イ 部活動のこと ウ 生徒会や委員会活動のこと エ 先生とのこと オ 友人とのこと カ 親とのこと キ きょうだいとのこと ク 趣味のこと ケ 学校や家庭外でのこと コ よくわからない サ その他 無 答	28 175 25 42 265 3 3 18 21 1 2 0	9.0 56.3 8.0 13.5 85.2 1.0 1.0 5.8 6.8 0.3 0.6 0
6 「4」で「ウ」又は「エ」と答えた人 そのように振り返らざるを得ない主な理由を、右の枠内から二つまで選んで下さい。 ア 勉強のこと イ 部活動のこと ウ 生徒会や委員会活動のこと エ 先生とのこと オ 友人とのこと カ 親とのこと キ きょうだいとのこと ク 趣味のこと ケ 学校や家庭外でのこと コ よくわからない サ その他	39 41 6 10 25 2 0 6 10 3 0	47.6 50.0 7.3 12.2 30.5 2.4 0 7.3 12.2 3.7 0

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
無 答	0	0
7 中学時代を振り返って、勉強に対してどのような感じを持っていますか。一つ選んで下さい。		
ア 人間にとて大切なことであり、やりがいを感じとりくんだ	20	4.5
イ どちらかといえば、大切さ、やりがいを感じとりくんだ方だと思う	122	27.2
ウ どちらかといえば、苦痛であり、嫌であった	181	40.4
エ とても苦痛であり、嫌であった	23	5.1
オ どちらともいえない	103	23.0
カ その他	0	0
無 答	0	0
8 中学時代を振り返って、部活動に対してどのような感じを持っていますか。一つ選んで下さい。		
ア 学校生活にとって大切なことであり、やりがいを感じとりくんだ	143	31.9
イ どちらかといえば、大切さ、やりがいを感じとりくんだ方だと思う	166	37.1
ウ どちらかといえば、苦痛であり、嫌であった	72	16.1
エ とても苦痛であり、嫌であった	13	2.9
オ 部活動には参加していなかった	8	1.8
カ 部活動は途中でやめてしまった	41	9.2
キ その他	5	1.1
無 答	0	0
9 あなたは、小学校や中学校に、尊敬する先生、又は心に残る先生がおりましたか。		
ア 小学校の時にも、中学校の時にもいた	209	46.7
イ 小学校の時にいた	59	13.2
ウ 中学校の時にいた	92	20.5
エ どちらの時にもいない	27	6.0
オ よくわからない	60	13.4
カ その他	4	0.9
無 答	0	0
10 中学校時代、得意な科目、又は好きな科目を右の枠内から二つまで選んで下さい。		
ア 国 語	82	18.3
イ 社 会	151	33.7
ウ 数 学	93	20.8
エ 理 科	87	19.4
オ 英 語	103	23.0
カ 音 楽	56	12.5
キ 美 術	62	13.8
ク 保 体	104	23.2
ケ 技 家	69	15.4
コ 特になし	14	3.1
無 答	0	0
11 中学校時代、不得意な科目、又は嫌いな科目を、右の枠内から二つまで選んで下さい。		
ア 国 語	89	19.9

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
イ 社会	80	17.9
ウ 数学	194	43.3
エ 理科	101	22.5
オ 英語	172	38.4
カ 音楽	63	14.1
キ 美術	62	13.8
ク 保育	44	9.8
ケ 技・家	26	5.8
コ 特になし	6	1.3
無 答	0	0
12 あなたは、進路などの問題でとても困ったり、悩んだりした時、誰に相談しましたか（相談しますか）。右の枠内から二つまで選んで下さい。		
ア 父	86	19.2
イ 母	236	52.7
ウ 兄弟姉妹	30	6.7
エ 祖父母	1	0.2
オ 親戚の人	5	1.1
カ 学校の先生	139	31.0
キ 友人	197	44.0
ク 知人	10	2.2
ケ 塾や予備校の先生	29	6.5
コ 電話相談など外部の専門機関	0	0
サ ひとには相談しない	31	6.9
シ 困ったり悩んだりしたことがないのでわからない	33	7.4
ス その他	1	0.2
無 答	0	0
13 あなたは、イジメやケンカなど、友人とのトラブルでとても困ったり悩んだりした時、誰に相談しましたか（相談しますか）。右の枠内から二つまで選んで下さい。		
ア 父	14	3.1
イ 母	53	11.8
ウ 兄弟姉妹	17	3.8
エ 祖父母	2	0.4
オ 親戚の人	0	0
カ 学校の先生	33	7.4
キ 友人	217	48.4
ク 知人	31	6.9
ケ 塾や予備校の先生	2	0.4
コ 電話相談など外部の専門機関	1	0.2
サ ひとには相談しない	71	15.8
シ 困ったり悩んだりしたことがないのでわからない	140	31.3
ス その他	0	0
無 答	1	0.2

成田北高を語る

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
14 あなたは、異性の友人との交際について、とても困ったり、悩んだりした時、誰に相談しましたか（相談しますか）。右の枠内から二つまで選んで下さい。		
ア 父	3	0.7
イ 母	22	4.9
ウ 兄弟姉妹	20	4.5
エ 祖父母	1	0.2
オ 親戚の人	2	0.4
カ 学校の先生	5	1.1
キ 友人	268	59.8
ク 知人	27	6.0
ケ 塾や予備校の先生	4	0.9
コ 電話相談など外部の専門機関	2	0.4
サ ひとには相談しない	66	14.7
シ 困ったり悩んだりしたことがないのでわからない	132	29.5
ス その他	2	0.4
無 答	0	0
15 あなたは、性の問題でとても困ったり、悩んだりした時、誰に相談しましたか（相談しますか）。右の枠内から二つまで選んで下さい。		
ア 父	9	2.0
イ 母	55	12.3
ウ 兄弟姉妹	9	2.0
エ 祖父母	0	0
オ 親戚の人	2	0.4
カ 学校の先生	3	0.7
キ 友人	155	34.6
ク 知人	19	4.2
ケ 塾や予備校の先生	3	0.7
コ 電話相談など外部の専門機関	0	0
サ ひとには相談しない	68	15.2
シ 困ったり悩んだりしたことがないのでわからない	218	48.7
ス その他	1	0.2
無 答	0	0
16 あなたは、両親とよく話しますか。		
ア 両親とよく話しあう	154	34.4
イ 父とはよく話しあう	11	2.5
ウ 母とはよく話しあう	115	25.7
エ 両親とほとんど話しあわない	17	3.8
オ 必要に応じて、又は、その時の気分で話しあう程度である	140	31.3
カ その他	8	1.8
無 答	3	0.7
17 あなたは、家の仕事の手伝いをどのようにやっていますか。一つ選んで下さい。		
ア 毎日、自分のやる仕事が決められていて、その仕事に責任を持たされている	93	20.6
イ 一週間に何日か（何回か）、自分のやる仕事が決められていて、その	24	5.4

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
仕事に責任を持たされている		
ウ 日曜日など、学校の休みの日に、自分のやる仕事が決められている	15	3.3
エ 必要に応じて手伝う程度である	284	63.4
オ ほとんど手伝わない	31	6.9
カ 全く手伝わない	7	1.6
キ その他	1	0.2
無 答	1	0.2
18 あなたは家でどのような仕事をしていますか。よくやっているものを幾つでも選んで下さい。		
ア ふとんを敷いたり片付けること（ベッドメーキング）	154	34.4
イ 炊事の手伝い	106	23.7
ウ 食事の後片付け	142	31.7
エ 買 物	83	18.5
オ 洗 灌	48	10.7
カ 部屋の清掃	129	28.8
キ 庭の清掃	13	2.9
ク 自分の部屋の清掃	260	58.0
ケ 雨戸などの開け閉め	134	29.9
コ 病気の家族の世話	7	1.6
サ 弟妹の世話	27	6.0
シ 風呂の水替え（風呂洗い）	153	34.2
ス 家の修理など	10	2.2
セ 針仕事	7	1.6
ソ 家業の手伝い	30	6.7
タ 犬などのペットの世話	86	19.2
チ その他	7	1.6
無 答	5	1.1
19 あなたは、自分の親をどのように感じていますか。一つ選んで下さい。		
ア 両親共敬愛している	98	21.9
イ 両親共好きである	158	35.3
ウ 父を敬愛している	14	3.1
エ 父が好きである	5	1.1
オ 母を敬愛している	11	2.5
カ 母が好きである	16	3.6
キ 両親共敬愛していない	5	1.1
ク 両親共好きでない	8	1.8
ケ なんともいえない	136	30.4
コ 両親共いない	0	0
サ その他	2	0.4
無 答	0	0
20 あなたは、親しい友人がいますか。一つ選んで下さい。		
ア 同性の親しい友人がいる	338	75.4
イ 異性の親しい友人がいる	6	1.3
ウ 両方ともいる	110	24.6
エ いない	5	1.1
オ その他	6	1.3
無 答	0	0

成田北高を語る

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
21 あなたにとって「親しい友人」とはどのような友人ですか。一つ選んで下さい。		
ア 趣味や好みが一致し、楽しく話しあえる友人	113	25.2
イ おたがいに誘いあって、遊びや買物に一緒に出かける友人	55	12.3
ウ 悩みごとを相談しあったり、考え方や生き方、進路のことなどを話しあえる友人	143	31.9
エ 自分のことと同様に相手のことを考えあい、時には相手のために、相手から嫌われるようなことでも言いあえる友人	73	16.3
オ 一緒に趣味やスポーツ、レジャーなどを楽しみあうが、おたがいのプライバシーには干渉しない友人	10	2.2
カ 相手の人格を尊重しあうが、おたがいに切磋琢磨して、不斷に努力しあう友人	2	0.4
キ 気が向いた時に一緒に過したり遊んだりして、なんとなく気持の安らぎを覚える友人	19	4.2
ク おたがいにイジワルしたりしないで、ふだん、普通に話しあえる友人	16	3.6
ケ 特に考えたことはない	14	3.1
コ その他	3	0.7
無 答	0	0
22 あなたは、一日平均、何時間位テレビを見ますか。右の枠内から一つ選んで下さい。		
ア 1時間未満	22	4.9
イ 1 h 以上 2 h 未満	97	21.7
ウ 2 h 以上 3 h 未満	162	36.2
エ 3 h 以上 4 h 未満	96	21.4
オ 4 h 以上 5 h 未満	46	10.3
カ 5時間以上	28	6.3
無 答	1	0.2
23 あなたは、一日平均、何時間位レコードやラジオを聴いていますか。右の枠内から一つ選んで下さい。		
ア 1時間未満	189	42.2
イ 1 h 以上 2 h 未満	139	31.0
ウ 2 h 以上 3 h 未満	76	17.0
エ 3 h 以上 4 h 未満	23	5.1
オ 4 h 以上 5 h 未満	11	2.3
カ 5時間以上	14	3.1
無 答	0	0
24 あなたは、ふだんどんな本をよく読みますか。二つまで選んで下さい。		
ア 普通の小説（夏目漱石の作品など）	56	12.5
イ S F 小説	32	7.1
ウ 推理小説	75	16.7
エ 学園ものなど（コバルトブックなど）	71	15.8
オ 週刊誌など	131	29.2
カ エッセイ	7	1.6
キ マンガ	241	53.8
ク 社会科学関係など	3	0.7
ケ 自然科学関係など	6	1.3

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
コ 特に決まっていない サ 本はほとんど読まない シ その他 無 答	73 17 13 0	16.3 3.8 2.9 0
25 あなたのおこづかいは、平均して一ヶ月いくら位ですか。一つ選んで下さい。（学用品、昼食代などは除く）		
ア 3,000円未満 イ 3,000円以上5,000円未満 ウ 5,000円以上10,000円未満 エ 10,000円以上15,000円未満 オ 15,000円以上20,000円未満 カ 20,000円以上 キ その他 無 答	76 189 140 14 9 1 18 1	17.0 42.2 31.3 3.1 2.0 0.2 4.0 0.2
26 あなたは、人の暮らし方について、どのような考え方を持っていますか。 一つ選んで下さい。		
ア 経済的に豊かになる イ 社会的な地位を得る ウ 自分の好きなように暮す エ 社会のために尽くす オ その他 無 答	178 19 190 55 7 0	39.7 4.2 42.4 12.3 1.6 0
27 あなたは、あなたの人生にとって一番大切なものは何であると考えていますか。 一つ選んで下さい。		
ア 人間性 イ 考え方や生き方 ウ 自由や権利 エ 経済力 オ 社会的地位 カ 学歴 キ 家庭の幸せ ク 仕事 ケ 学習 コ 健康 サ 趣味 シ レジャー・遊び ス その他 無 答	148 68 26 21 4 13 52 2 5 89 9 10 3 0	33.0 15.2 5.8 4.7 0.9 2.9 11.6 0.4 1.1 19.9 2.0 2.2 0.7 0
28 あなたは、どんな時に生きがいを感じますか。一つ選んで下さい。		
ア 社会のために役立つことをしている時 イ 仕事に打ち込んでいる時 ウ 勉強に打ち込んでいる時 エ スポーツや趣味に打ち込んでいる時 オ 家族といふ時 カ 友人や仲間といふ時 キ 他人にわざわざされず、一人でいる時	41 12 13 192 9 154 12	9.2 2.7 2.9 42.9 2.0 34.4 2.7

成田北高を語る

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
ク その他 無 答	13 2	2.9 0.4
29 現在、あなたは悩みや心配ごとを持っていますか。持っている場合は、該当するものを幾つでも選んで下さい。		
ア 勉強のこと	159	35.5
イ 進学のこと	154	34.4
ウ 就職のこと	34	7.6
エ 仕事のこと	11	2.5
オ 家族のこと	21	4.7
カ 友人や仲間のこと	99	22.1
キ 異性との交際のこと	40	8.9
ク セックスに関すること	7	1.6
ケ お金のこと	51	11.4
コ 政治や社会のこと	7	1.6
サ 性格のこと	30	6.7
シ 健康のこと	21	4.7
ス 容姿のこと	29	6.5
セ 部活動のこと	60	13.4
ソ 学校や先生のこと	20	4.5
タ 悩みや心配ごとはない	88	19.6
チ その他 無 答	0 5	0 1.1
30 あなたは、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。一つ選んで下さい。		
ア 民間会社への就職	16	3.6
イ 公務員関係	6	1.3
ウ 家業に従事	3	0.7
エ 四年制大学への進学	215	48.0
オ 短大への進学	81	18.1
カ 専修学校への進学	59	13.2
キ まだわからない	66	14.7
ク その他 無 答	3 2	0.7 0.4
31 あなたは、将来、どのような職業につきたいと考えていますか。一つ選んで下さい。		
ア 事務職	73	16.3
イ 販売	15	3.3
ウ 技術	53	11.8
エ 専門職（保母・看護婦・教員など）	84	18.8
オ 自営（商店などの経営）	25	5.6
カ 農業	1	0.2
キ 自由業（芸能人・弁護士など）	25	5.6
ク 家事従事	8	1.8
ケ わからない	148	33.0
コ その他 無 答	16 1	3.6 0.2

質 問 項 目	回 答 状 況	
	人 数	割合(%)
32 あなたは、学校への希望としてどのようなものを考えていますか。一つ選んで下さい。		
ア わかりやすく充実した授業が受けられること	83	18.5
イ 生活指導が徹底され、きちんとした学校生活が送られること	19	4.2
ウ 部活動などが活発で、個性的で特徴のある学校であること	61	13.6
エ 進路指導が徹底され、多様な進路希望が実現されること	23	5.1
オ 生徒同士の交流が活発に行なわれ、豊かな人間性が育くまれること	160	35.7
カ 先生と生徒のふれあいが盛んで、人間味ある学校であること	63	14.1
キ 施設・設備が整っていて、快適な学校生活が送れること	18	4.0
ク 特に希望はない	22	4.9
無 答	1	0.2

千葉県立成田北高についてのアンケート調査集計結果(Ⅱ)

—平成2年度入学生保護者—

調査目的 お子さまの高校生活や本校についての意見を集約する。

調査時期 平成2年4月中旬

調査対象 本校平成2年度入学生保護者 459人(世帯)

回収状況 457人(世帯)(99.6%) [回答者 父母—104人、父—64人、母—289人]

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
1 お子さまの高校進学の主な目的は何ですか。次の中から一つ選んで下さい。		
ア 大学に進学させるため(4年制大学・短大)	172	37.6
イ 専修学校(専門学校)に進学させるため	19	4.2
ウ 資格をとるために、高卒の学歴が必要なため	12	2.6
エ 高卒の学歴がないと就職に不利なため	19	4.2
オ 高校位出ていないといろいろと困ると思ったため	52	11.4
カ 高校卒業後の進路というより、高校で勉強させたかったため	97	21.2
キ 高校で部活をやらせたかったため	3	0.7
ク 高校生という立場で3年間を過させたかったため	77	16.8
ケ 中学卒業で実社会に出させたくなかったため	5	1.1
コ 唯なんとなく(まわりのお子さんたちが行くので)	1	0.2
サ その他	0	0
無 答	0	0
2 お子さまを本校へ進ませた主な理由を一つ選んで下さい。		
ア 中学校の先生に勧められたから	44	9.6
イ 塾や予備校の先生に勧められたから	1	0.2
ウ 私たち(父母)が勧めたから	19	4.2
エ 子どもの兄姉が勧めたから	1	0.2
オ 子どもの先輩や友人が勧めたから	3	0.7
カ 親戚や知人が勧めたから	5	1.1
キ 子ども自身が本校の教育方針や校風にひかれたから	103	22.5
ク 子ども自身が本校での勉強や部活動などに期待して	84	18.4
ケ 通学に便利だから	22	4.8
コ 子どもの学力を考えて	161	35.2
サ 子どもの親しい友人と一緒だったので	6	1.3
シ 唯なんとなく	0	0
ス その他	0	0
無 答	9	2.0
3 あなたは本校にどのような印象を持っていましたか。主なものを一つ選んで下さい。		
ア まじめな生徒が多く、明るく生き生きした雰囲気	160	35.0
イ 勉強に意欲的で、よい緊張感がある学校	31	6.8
ウ 生徒会活動や部活動が活発で個性のある学校	13	2.8

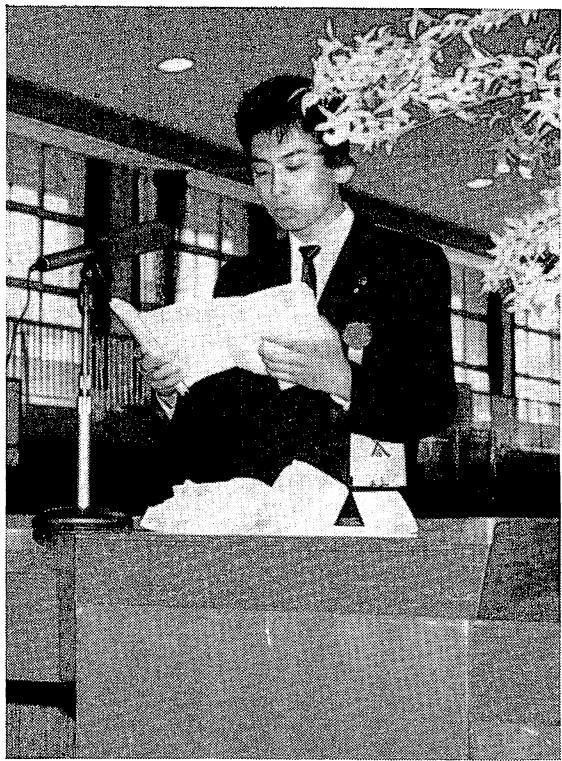
質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
エ 生徒の人間関係がよく、安心してすごせる学校	87	19.0
オ おとなしい生徒が多いが、勉強や部活動などに意欲が欠ける感じ	20	4.4
カ 落着きはあるが、これという特徴がない学校	21	4.6
キ 校則などが厳しそうで、きゅうくつな感じ	5	1.1
ク 生活態度やマナーがだらしなく、いい加減な感じ	3	0.7
ケ 特に考えたことがない	55	12.0
コ よくわからない	62	13.6
サ その他	7	1.5
無 答	0	0
4 お子さまは、ご両親とよく話しますか。		
ア よく話しあう	207	45.3
イ 父とはよく話しあう	4	0.9
ウ 母とはよく話しあう	72	15.8
エ ほとんど話しあわない	10	2.2
オ 必要に応じて、又は、その時の気分で話しあう程度である	166	36.3
カ その他	2	0.4
無 答	0	0
5 お子さまの家の仕事の手伝いについてどうされていますか。一つ選んで下さい。		
ア 家の仕事を毎日分担させている	64	14.0
イ 毎日ではないが、定期的に仕事を分担させている	25	5.5
ウ 日曜日ごとに仕事を手伝わせている	8	1.8
エ 必要に応じて仕事を手伝わせている	200	43.8
オ 自分の部屋の清掃や身のまわりのことをさせている	119	26.0
カ ほとんど手伝わない	34	7.4
キ 全く手伝わない	2	0.4
ク その他	4	0.9
無 答	4	0.9
6 お子さまは、家でどのような仕事をしていますか。よくやっているものを幾つでも選んで下さい。		
ア ふとんを敷いたり片付けること（ベッドメーキング）	153	33.5
イ 炊事の手伝い	105	23.0
ウ 食事の後片付け	131	28.7
エ 買 物	87	19.0
オ 洗 灌	50	10.9
カ 部屋の清掃	105	23.0
キ 庭の清掃	16	3.5
ク 自分の部屋の清掃	286	62.6
ケ 雨戸などの開け閉め	132	28.9
コ 病気の家族の世話	5	1.1
サ 弟妹の世話	35	7.7
シ 風呂の水替え（風呂洗い）	147	32.2
ス 家の修理など	18	3.9
セ 針仕事	9	2.0
ソ 家業の手伝い	36	7.9

成田北高を語る

質問項目	回答状況	
	人數	割合(%)
タ 犬などのペットの世話	100	21.9
チ その他	8	1.8
無 答	1	0.2
7 お子さまが一番親しくしている友人は、どんな友人であってほしいですか。一つ選んで下さい。		
ア 趣味や好みが一致し、楽しく話しあえる友人	56	12.3
イ おたがいに誘いあって、遊びや買物に一緒に出かける友人	13	2.8
ウ 憶みごとを相談しあったり、考え方や生き方、進路のことなどを話しあえる友人	214	46.8
エ 自分のことと同様に相手のことを考えあい、時には相手のために、相手から嫌われるようなことでも言いあえる友人	91	19.9
オ 一緒に趣味やスポーツ、レジャーなどを楽しみあうが、おたがいのプライバシーには干渉しない友人	6	1.3
カ 相手の人格を尊重しあうが、おたがいに切磋琢磨して、不斷に努力しあう友人	42	9.2
キ 気が向いた時に一緒に過したり遊んだりして、なんとなく気持の安らぎを覚える友人	12	2.6
ク おたがいにイジワルしたりしないで、ふだん、普通に話しあえる友人	12	2.6
ケ 特に考えたことはない	6	1.3
コ その他	1	0.2
無 答	4	0.9
8 お子さまのこづかいは、平均して一ヶ月いくら位ですか。一つ選んで下さい。(学用品、昼食代などは除く)		
ア 3,000円未満	84	18.4
イ 3,000円以上5,000円未満	246	53.8
ウ 5,000円以上10,000円未満	96	21.0
エ 10,000円以上15,000円未満	8	1.8
オ 15,000円以上20,000円未満	4	0.9
カ 20,000円以上	0	0
キ その他	8	1.8
無 答	11	2.4
9 あなたは、お子さまの人生がどうあってほしいとお考えですか。一つ選んで下さい。		
ア 経済的に豊かになる	131	28.7
イ 社会的な地位を得る	29	6.3
ウ 自分の好きなように暮す	107	23.4
エ 社会のために尽くす	134	29.3
オ その他	48	10.5
無 答	8	1.8
10 あなたはお子さまの人生にとって一番大切なものは何であると考えていますか。一つ選んで下さい。		
ア 人間性	202	44.2
イ 考え方や生き方	68	14.9
ウ 自由や権利	2	0.4
エ 経済力	8	1.8

質 問 項 目	回 答 状 況	
	人 数	割合(%)
オ 社会的地位	2	0.4
カ 学歴	1	0.2
キ 家庭の幸せ	46	10.1
ク 仕事	0	0
ケ 学習	1	0.2
コ 健康	119	26.0
サ 趣味	0	0
シ レジャーや遊び	1	0.2
ス その他	1	0.2
無 答	6	1.3
11 お子さまの高校卒業後の進路をどのように考えていますか。一つ選んで下さい。		
ア 民間会社への就職	20	4.4
イ 公務員関係	24	5.3
ウ 家業に従事	3	0.7
エ 四年制大学への進学	196	42.9
オ 短大への進学	76	16.6
カ 専修学校への進学	51	11.2
キ まだわからない	71	15.5
ク その他	8	1.8
無 答	8	1.8
12 あなたは、学校への希望としてどのようなものを考えていますか。一つ選んで下さい。		
ア わかりやすく充実した授業が受けられること	79	17.3
イ 生活指導が徹底され、きちんとした学校生活が送られること	47	10.3
ウ 部活動などが活発で、個性的で特徴のある学校であること	14	3.1
エ 進路指導が徹底され、多様な進路希望が実現されること	44	9.6
オ 生徒同士の交流が活発に行なわれ、豊かな人間性が育くまれること	106	23.2
カ 先生と生徒のふれあいが盛んで、人間味ある学校であること	160	35.0
キ 施設・設備が整っていて、快適な学校生活が送れること	4	0.9
ク 特に希望はない	2	0.4
無 答	3	0.7

現況並びに資料



校訓

自律 協調 健全

教育目標

本校は教育基本法および学校教育法に基づき、高等学校普通科の教育を行う。教育の理想は知育・德育・体育の調和によって、円満な人間形成を目指すことにある。これらの目標を達成するため、次の教育方針を設定する。

1. ひとりひとりの生徒を尊重し、個性の伸長と能力の開発を重点に自主・自律の精神をもつ青年の育成につとめる。
2. 社会連帯の意識を養い、勤労と責任を重んじ、協調性に富む青年の育成につとめる。
3. 心身ともに健全でたくましい実践力のある青年の育成につとめる。

努力目標

本校教育目標の具現化を図るため、適切な教育計画の作成とその実践により、生徒が充実した学校生活を体験できるよう努める。このため、特に次の重点努力目標を定める。

1. 学習指導の充実
2. 進路指導の推進
3. 生徒指導の充実
4. 体育・保健活動の充実
5. 特別活動・部活動の育成
6. 環境の整備・美化の推進

在籍生徒数の推移（4月10日現在）

年 度	1 学 年			2 学 年			3 学 年			合 计		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和55	118	70	188	—	—	—	—	—	—	118	70	188
56	96	86	182	117	69	186	—	—	—	213	155	368
57	107	73	180	93	89	182	113	69	182	313	231	544
58	137	134	271	105	72	177	91	88	179	333	294	627
59	164	111	275	137	134	271	106	69	175	407	314	721
60	140	134	274	159	111	270	134	132	266	433	377	810
61	176	144	320	140	132	272	156	112	268	472	388	860
62	182	148	330	176	143	319	138	134	272	496	425	921
63	251	219	470	181	147	328	177	145	322	609	511	1,120
平成元	220	252	472	248	219	467	178	149	327	646	620	1,266
2	263	196	459	213	251	464	247	218	465	723	665	1,388

入学志願者数・入学者数および卒業者数の推移

年 度	募集定員 (学級数)	志願者数			入 学 者 数			卒 業 者 数			累計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
昭和55	180 (4)	153	89	242	118	70	188	—	—	—	
56	180 (4)	126	100	226	96	86	182	—	—	—	
57	180 (4)	150	90	240	105	73	178	112	69	181	181
58	270 (6)	144	138	282	137	134	271	89	88	177	359
59	270 (6)	185	123	308	164	111	275	106	69	175	533
60	270 (6)				140	134	274	134	131	265	798
61	315 (7)				176	144	320	156	110	266	1,064
62	329 (7)				182	148	330	136	132	268	1,332
63	470 (10)				251	219	470	176	144	320	1,652
平成元	470 (10)				220	252	472	177	148	325	1,977
2	450 (10)				263	196	459	—	—	—	—

出身中学校別入学者数の推移

学区	地 区	出身中学校	年 度										
			昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2
学 区	成 田 市	成 田	17	15	9	36	19	40	31	27	42	39	31
		遠 山	13	10	10	23	12	8	9	12	9	21	17
		久 住	10	3	2	9	8	5	10	2	5	8	5
		豊 住	3	4	4	3	6	5	10	6	10	4	4
		西	29	22	22	43	51	40	28	29	52	56	48
		中 台	15	18	21	14	31	31	41	33	42	27	31
		吾 妻	5	15	8	27	35	33	36	31	33	46	35
		玉 造							18	23	31	24	23
	佐 倉 市	佐 倉	2			1		1	3	5		2	1
		佐 倉 東 津	14	7							1		
		志 南 部	1								1		1
		上 志 津	3	9	3	2					2	2	
		白 井	3	6	4	1						1	1
		白 井 西											
内	四 街 道 市	四 街 道		1	4		2	1		1	1		
		四 街 道 西	2	3	1								
		四 街 道 北											
		千 代 田	2	1	3		3						
		旭	1		6								1

学区	地区	出身中学校	年 度										
			昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2
学 区 内	印 旛	富里	21	26	23	42	27	33	13	14	20	28	26
		富里北				6	6	8	14	28	14	16	
		富里南	14	12	11	5	3	3	4	2	6	8	8
		酒々井				2	1		1	41	42	49	5
		八街	4	3	5	13	16	20	41	42	59	49	50
	郡	中央		2					1			8	
		栄	4			13			41			4	9
		東西				7	2	7	6	5	10	1	8
		印船	1				7		1	3	7	1	5
		本塙				1	4		3	7	2	4	8
学 区 外 (隣接)	我孫子市	我孫子							1	1			
		湖布							1	1	4	1	3
		佐佐							1	3	4	1	3
	八千代市	上東	3	3	1	2							
		蘇田	1	2									
		和田	1		8								
		千代台		1	1								
	香取郡	勝田		1	4								
		八千代台		1	3								
		西津			1								
	佐原市	高											
		下神	10	5	2	4	3	5	7	4	7	21	12
		崎	1	2	7	5	7	3	5	11	20	15	15
	佐原市	昭栄	1			9	17	11	10	21	26	12	24
		大栄				9							
		須賀		1		1			1		2	17	7
	山武郡	大多栗											
		小見川											
		源川											
千葉市	千葉市	原二	9	1		2	3	6	12	5	12	20	19
		三								1	1	1	1
		五島								5	5	13	13
		島								3	3		
千葉市	千葉市	横芝		1	2	5	9	3	4	6	5	8	6
		橋町			3		1						
		幸花	1	2	2	1							
		見川			5								1
千葉市	千葉市	椿花			1								
		見川			1								
		森											
		野浜			1		1						

現況並びに資料

学区	地区	出身中学校	年 度										
			昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	
学 区 外 (隣 接)	千葉市	若松 さつきが丘 千城台南 花園 新宿						1				1 1	
	東葛飾郡	風早										1	
	鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷 鎌ヶ谷二										1 1	
	船橋市	古和釜					1					1	
	茨城県	金江津 東新利根 新新館	1	1	2		5	4	4	6	15 1	6 1 9 4	
	柏市	柏三勢 富										1 1	
学 区 外	松戸市	牧野原		1									
	市川市	福栄				1							
	習志野市	習志野四								1			
	市原市	八幡東			1								
	八日市場市	八日市場二										1	
	北海道	釧路北 深堀									1		
	岩手県	衣川						1					
	宮城県	南光台		1									
	群馬県	高崎一										1	
	東京都	雪谷 中野三十 目黒	1				1				1		
	神奈川県	大谷磯馬 大有 御幸		1			1			1			
	愛知県	伊良湖岬				1							
	大阪府	天王 竹見台		1			1						
	京都府	桃山									1		
合 計			188	182	180	271	275	274	320	330	470	472	459

卒業生の進路状況

(1) 卒業生進路状況

進路分野		卒業年度	昭和57	58	59	60	61	62	63	平成元
進 学	大 学		14	10	17	15	20	14	17	12
	短 期 大 学		16	24	8	32	27	27	47	37
	専修・各種学校		61	41	63	89	92	93	118	122
就 職			57	65	59	87	72	77	73	76
そ の 他			33	37	28	42	55	57	65	78
合 計			181	177	175	265	266	268	320	325

(2) 進学・就職先 (順不同・実数・過年卒を含む)

① 大学

大 学		年 度	昭61	62	63	平元	2
立 教 大		1					
東京電機大			2				
日本 大		1		1			1
明 治 大					1		
法 政 大				1	2		
専 修 大			1				
東 洋 大						2	
文 教 大		1					
東 京 理 大				1			
武藏野美大					1		
国 立 音 大			1	1			
大 東 文 化 大				1			1
駒 澤 大		2					
二 松 学 舎 大		1					
亞 細 亞 大					1		
青 春 学 院 大						1	
東 海 大				1	1		
東 邦 大					1		
東京国際大					1		
明 星 大						1	
城 西 大			1	1			
玉 川 大			1				

創 値 大		1		
杏 林 大				2
立 正 大			1	
帝 京 大	1	5		1 2
大 正 大			1	1
東京工芸大			1	
上野学園大				1
國士館大		2		3 2
足利工大	2	1		1
湘南工科大		1		
神奈川工科大				1
鎌倉女子大				1
上 武 大			1	
流 通 経 大	1			1
常 磐 大				1
山梨学院大	1			
盛 岡 大				1
八 戸 大	1			
東北福祉大				1
長 野 大				1
大 阪 芸 大			1	
札 島 大				1
道 都 大				1
旭 川 大				1

現況並びに資料

日本文理大	1				1
第一工大	2	1	1		1
千葉工大	2				
千葉商大	2	2	1	1	2
和洋女子大	1	1	1		
川村学園女子大				1	1
東京情報大				1	
帝京技科大		1	1		
明海大			2		1
八千代国際大				2	
中央学院大	1	2	3	3	4
国際武道大		1			
敬愛大			1		

② 短期大学

年 度	昭61	62	63	平元	2
短 大					
茨大工業短大				1	
前橋市立工業短大				1	
立教女学院短大				1	
文京女子短大	1	1			1
桜美林短大	1				
目白学園女子短大	3	1			
東京成徳短大		1		1	1
日本大短大		1			
女子美短大				1	
跡見学園短大				1	
駒澤短大					1
文化女子短大				1	
淑徳短大			1		
杉野女子短大		1			
尚美学園短大					1
東京電機大短大				1	
東京工芸短大					1
東海大短大		1			1
聖徳栄養短大	4	2	2	2	1
田中千代学園短大	1			1	

國土館短大				1	
帝京女子短大					1
東京女子体育短大		1			
専大北海道短大		2			
北海道拓殖短大					1
高山短大			1		1
秋草学園短大				1	
小田原女子短大		1			
水戸短大					1
敦賀女子短大				1	
和洋女子短大	3	6	3	2	3
千葉敬愛短大	1	1	1	3	4
昭和学院短大	1		2	3	4
日本橋女学館短大				2	1
江戸川女子短大				2	
千葉経済短大	3		3	6	5
日本キリスト教短大	3	7	5	8	8
千葉明徳短大		2	5	3	1
聖徳学園短大	8	2	1	5	1
清和女子短大					1
千葉短大					1
爱国学園短大		2	2		2

③ 専修・各種学校

年 度	昭61	62	63	平元	2
専修・各種					
県保育専				1	1
千葉総訓	1				
成田総訓(航空整備)	1	1			
県立千葉高等技専	1	3	3		
県立船橋高等技専		5	3	3	1
県立市原高等技専			1	1	1
県立旭高等技専		3	1		2
県立芝山高等技専	1	1	1		
県立我孫子高等技専			4		
県農業大学校		1	1	1	
千葉大園芸学部別科		1			

日本自動車整備専					3
日産自動車整備専					2
中央自動車技専					1
県自動車技専	2	5	1		3
県自動車産技専			1		
ニホンオートモービルバイテクニカルスクール				3	1
国際航空専					1
日本工学院専	6	3	1	2	4
東京工業専			3	3	1
読売理工専	1	1	3	1	1
東京工学院	2	1			1
日本電子専	3		2		
千代田工科芸専	5	18	1		1
東京工科専	2				1
関東理工専					1
埼玉工大専		1			
東京電子専	1			3	
英進情報処理専					1
朝日コンピュータースクール				1	1
日本医療電子専		1			
富士コンピューター専	1	3	5	6	11
明生情報処理専				4	2
水戸電子専					1
中央工学校	3		2	1	4
東京建築専					1
青山製図専			1	1	
攻玉社専			1		
建設実務専	1				
国土建設学院			1		
日本溶接専		1			
東京医科大看護専					1
成田赤十字看護専	1			1	
旭中央病院看護専	1			2	1
東洋公衆衛生学院	1			1	
北原歯科衛生士学院	1		2	2	2

新東京歯科技工専				1	
日本柔道整復専				1	
東京健康科学専				1	
国際医療管理専			1		1
岐阜視能訓練専					1
東京医薬専	1	1	1		
国際医療専			1		
東京医療専				1	
赤堀栄養専					1
香川栄養専	1				
華学園栄養専		1			1
服部栄養専	1				
武藏野栄養専				1	1
佐伯栄養専					1
東京食糧栄養専					1
新宿調理師専		2			
華調理師専	1	1		2	2
東京学園調理師専				1	
千葉調理師専	2				
辻調理師専		2		1	
武藏野調理師専	1	2			
スカイラークアカデミー				1	
千葉美容専	6	1	1	2	2
東洋理美容専		1	2		3
国際理美容専		1		1	2
山野美容専		1	1	1	
東京総合理美容専					1
千葉理容専		1			
窪田理美容専					1
東京愛犬美容専					1
文化服装学院	3	1	1	1	1
千葉ドレスメーカー					1
植草文化服装学院	1				
加藤和裁学院	1				
華服飾専					3

現況並びに資料

東京モード学院	1				
大塚テキスタイルデザイン専			1		
東京デザイン専				1	
東京デザイナー学院		2	2	3	1
東京デザイナー専		1			
日本デザイナー学院			1		
日本デザイン専			3		
東京YMCAデザイン専			1	2	
共立短大家政専修	1				
東京スクールオブビジネス		1		1	3
千代田ビジネス専		1		1	3
中野スクールオブビジネス	1				
アーバンデザインカレッジ					1
一橋スクールオブビジネス		1	2		
東京ビジネス専		1			
P A L ビジネス専				1	
千葉スクールオブビジネス		1	1		
船橋情報ビジネス専	3			3	2
千葉情報経理専		4	6	6	10
東京会計法律専	4	5		1	6
大原簿記学校	3		4	12	5
村田簿記学校	1				
東京商科学院	5	1	7	2	
東京国際専			1	1	1
日本医療秘書専	1				1
東京法科学院専		1			2
お茶の水医療秘書専					1
神田外語学院	3			2	1
東京外語専			1	1	1
東京YMCA英語専	1	1	1		1
日本外語専		1	1		1
駿台E L S 英語専		1	4	4	1
東京一橋外語専				1	
飯田橋外語専				1	
日米会話学院					1

アジア・アフリカ語専				1	
アメリカンランゲージアカデミー					1
文化外語専					1
国際観光文化学院			1	1	
駿台トラベル専				1	
トラベルジャーナル旅行専					1
国際トラベル&モード専			1	1	2
東京写真専					2
東京コミュニケーションアート			1		
東洋美術学校				2	2
日本映画学校	1				
東京コンセルヴァトール				1	
東京音楽音響専		1			
音響技専		1		1	
東京教育専				1	
千葉女子専	1				
植草幼児教育専			2	2	
江戸川豊四季専				1	2
ワタナベ学園津田沼校					1
聖徳学園保母養成学校					1
日本ジャーナリスト専					1
イーエスピーミュージカルアカデミー				1	1
ザザン・イリノイユニバーシティ新潟校					1
参議院速記者養成所					1

④ 就職

事業所	年 度		昭61	62	63	平元	2
藤倉電線						2	1
T F K	4	2	2	3		1	
T D K				1	2	3	
コスマ企業		4	3			1	
コ ク ョ						1	
日立ツール	2		1			2	
利根コカコーラ			1			1	
エスエス製薬			1				
米屋本店			1				

東芝モノフラックス	1				
ミムロ食品	1	1	1		
N D C	1			1	
YKK千葉		1			
山一電機工業				1	1
日商グラビア					1
カコ印刷工業			1		
シンボ印刷				1	
新星鋼業				1	
鈴木金属工業				1	
千葉東陶		2			
日立千葉エレクトロニクス	1				
日機電装					1
洋菓子のヒロタ					1
ユアサフナショク		1			
日本セミコン			2		
岩井金属工業			3		
丸山硝子産業	1				
東洋鉄芯工業					1
日本鉄塔工業					1
佐藤ゴム化学工業		1			
市川ゴム工業	2				
東京めいらく		1			
常磐植物化学研究所	1				
長谷川歯車				1	
日本インターヴェール					1
タダノ					1
メリーチョコレートカンパニー					1
町山製作所					1
東京施設工業		1			
大成建設		1			
東洋外柵					1
千葉銀行	1	1			
京葉銀行	1		1		
成田信用金庫	3	2		3	3

日本信販	1		1		
千葉そごう			1		1
船橋そごう			2		
西友		1			1
イトーヨーカ堂	1	1			2
十字屋		2	1	1	
丸井	2				
千葉三越	1				1
船橋東武	1				
扇屋ジャスコ		2	1		
ダイエー		2	1		1
イズミヤ		3	1		1
長崎屋	1				
カメラのきむらや		1			
愛眼	1		1		
ラオックス	1				1
ギンレス	1			2	
ヤマデン			2		
レオ	1	1			
タイヨー				1	1
資生堂		1			
アサヒビール飲料					1
東魁樓				1	
西原屋				1	
グルメ杵屋					1
トウショウ					1
スエヒロレストラン				1	
新宿東京会館		1			
グリーンパーク長命泉		1	1		
千葉中央三協販売					1
まる中					1
エムパイヤエアポートサービス					1
エムパイヤエアポートレストラン					1
東京丸善実業			1		
プレジール篠利			1		

現況並びに資料

日産プリンス千葉販売					1
千葉マツダ自動車			1		
トヨタ部品千葉共販	1				
トヨタピスタ北販売		1			
トヨタオート千葉				1	1
日通東京支店				2	
日本空港サービス	2			1	1
航空手荷物サービス	2				
A G S		1		1	1
国際空港上屋			1		
国際航空貨物サービス	1				
空港旅客サービス		1			
日本サービス					1
佐藤航業	1				
つるや航業		1			1
藤田運輸	1	1			
新東京空港事業				1	
日航アビオニクス					1
日立物流	1				
中野輸送					1
東洋流通サービス					2
大崎運送		1			
営団地下鉄			1	1	
京王帝都電鉄		1			
京成電鉄		1	2	4	2
千葉都市モノレール			1		
藤田観光自動車			1		
東都観光					1
東京ヤサカ観光バス			1		
N T T					1
総合警備保障	1		1		
成田空港警備		1	1		
空港保安事業センター	1	1	1	1	
日本コンピュータ開発	1		1		
デイ・エス・イー	1	1	2	1	2

ジェイ・エス・エス					2
アイ・シー・エス					1
京葉データ		1			
サンライズ			1		
アーネスト美容室					1
観光美容室			1		
ふなばし生協		1	1	1	
案町農協			1		
成田市農協		1	1	1	1
成田山新勝寺		2			
成田赤十字病院		3			
藤立病院		3			
西佐倉病院		1		1	
日吉台病院				1	
佐倉厚生園				1	
山崎眼科				1	
橘医院		1			
コスマス歯科医院		1		2	
富里病院		1			
オリエンタルランド			1		
平安閣				1	
ホテル日航成田		1		2	1
成田全日空ホテル				4	1
シェラトン・ランデット・ウ キヨー・ベイホテル					1
成田プリンスホテル			1	1	
成田ビューホテル		3	2		2
成田東急イン				1	
ホテルセントラーザ成田		1			
ホテルレッツ成田				1	
総武カントリークラブ			1	1	1
スカイウェイカントリー 俱楽部		2	2	3	1
成田ゴルフクラブ				3	1
空港エンタープライズ					1
明治総合ゴルフセンター					1
富里ゴルフクラブ					1

真理谷ゴルフクラブ					1
富里町役場		1	1	1	
栄町役場		2	1		
千葉県庁				1	
千葉市立新宿中学校					1
東京消防庁				1	1
千葉県警本部					2
皇宮警察本部					1
自衛隊		1	1	1	
浦和地方検察庁			1		
気象庁	1				
東京税関				1	
関東郵政局				1	4

教育課程の変遷

昭和55年度

教 科	科 目	標 準 単位数	1 年	2 年	3 年		単位数合計			
					文科系コース	理科系コース	文	理	文	理
国 語	現代国語	7	3	2	3	2	8	7	16	14
	古典Ⅰ乙	5	2	2			4	4		
	古典Ⅱ	3			4	3	4	3		
社 会	倫理・社会	2		2			2	2	15	14
	政治・経済	2			3	2	3	2		
	日本史	3			4	4	4	4		
	世界史	3		3			3	3		
	地理B	3	3				3	3		
数 学	数学Ⅰ	6	6				6	6	14	16
	数学ⅡB	5		5			5	5		
	数学Ⅲ	5			3	5	3	5		
理 科	物理Ⅰ	3		3			3	3	14	17
	物理Ⅱ	3			(3)	(3)	0~3	0~3		
	化学Ⅰ	3		3			3	3		
	化学Ⅱ	3			(3)	(3)	0~3	0~3		
	生物Ⅰ	3	3				3	3		
	生物Ⅱ	3			(3)	(3)	0~3	0~3		
	地学Ⅰ	3	2				2	2		
	地学Ⅱ	3			(3)	(3)	0~3	0~3		
保 健 体 育	体 育	7~9	男4 女2	男4 女2	3	3	男11 女7	男11 女7	男13 女9	男13 女9
	保 健	2	1	1			2	2		
芸 術	音 樂Ⅰ	2	(2)				0~2	0~2	6	6
	音 樂Ⅱ	2		(2)			0~2	0~2		
	音 樂Ⅲ	2			(2)	(2)	0~2	0~2		
	美 術Ⅰ	2	(2)				0~2	0~2		
	美 術Ⅱ	2		(2)			0~2	0~2		
	美 術Ⅲ	2			(2)	(2)	0~2	0~2		
	書 道Ⅰ	2	(2)				0~2	0~2		
	書 道Ⅱ	2		(2)			0~2	0~2		
	書 道Ⅲ	2			(2)	(2)	0~2	0~2		
外 国 語	英 語 B	15	6	5	7	5	18	18	18	16
家 庭	家庭一般	4	女2	女2			女4	女4	女4	女4
各教科以外 の教育活動	ホームルーム	3	1	1	1	1			3	
	クラブ活動	3	1	1	1	1			3	
合 計			34	34	34	34			102	
備 考	(1) 3年文系の理科Ⅱは4科目から1科目選択。(2) 3年理系の理科Ⅱは4科目から2科目選択。 (3)芸術は1科目継続選択。									

生徒の実態を考え併せ、幅広い選択肢を設け、国際都市成田にふさわしく、英語を増加単位で学習することなどが配慮されている。

昭和60年度

教 科	科 目	標準 単位数	1 年	2 年	3 年		単位数合計		合 計
					文科系	理科系	文科系	理科系	
国 語	国 語 I	4	5				5	5	文 12 理 12 14
	国 語 II	4		4			4	4	
	国 語 表現	2				[2]		0~2	
	現 代 文	3			3	3	3	3	
	古 典	4			4		4		
社 会	現 代 社 会	4	4				4	4	文 16 理 12
	日 本 史	4			5	4	5	4	
	世 界 史	4		(4) — 4			0~4	0~4	
	地 球 地 理	4		(4) — 4			0~4	0~4	
	倫 理	2			(3) — 3		0~3		
数 学	政 治 ・ 経 済	2			(3) — 3		0~3		文 11 理 17
	數 学 I	4	5				5	5	
	代 数 ・ 幾 何	3		3			3	3	
	基 础 解 析	3		3			3	3	
	微 分 ・ 積 分	3				3		3	
理 科	確 率 ・ 統 計	3				3		3	文 12 理 14
	理 科 I	4	4				4	4	
	物 理	4		(4) —	(4) —	(6) —	0~4	0~4~6	
	化 学	4		(4) — 4	(4) — 4	(6) — 6	0~4	0~4~6	
	生 物	4		(4) —	(4) —	(6) —	0~4	0~4~6	
保健体育	地 学	4			(4) —		0~4		男 13 女 9
	体 育	7~9	男4・女2	男4・女2	3	3	男11・女7	男11・女7	
芸 術	保 健	2	1	1			2	2	文 6 理 4 6
	音 楽 I	2	(2) —				0~2	0~2	
	音 楽 II	2		(2) —			0~2	0~2	
	音 楽 III	2			(2) —	(2) —	0~2	0~2	
	美 術 I	2	(2) — 2				0~2	0~2	
	美 術 II	2		(2) — 2			0~2	0~2	
	美 術 III	2			(2) — 2	(2) — [2]	0~2	0~2	
	書 道 I	2	(2) —				0~2	0~2	
	書 道 II	2		(2) —			0~2	0~2	
	書 道 III	2			(2) —	(2) —	0~2	0~2	
外 国 語	英 語 I	4	5				5	5	16
	英 語 II	5		2	3	3	5	5	
	英 語 II B	3		3			3	3	
	英 語 II C	3			3	3	3	3	
家 庭	家 庭 一 般	4	女2	女2			女4	女4	女 4
特別活動	ホームルーム	3	1	1	1	1		3	6
	ク ラ ブ 活 動	3	1	1	1	1		3	
	計		32	32	32	32		96	96
() の組よりそれぞれ1科目選択 3年理系は()より1科目選択									

全学年が7学級規模でそろった年である。学校規模21学級編成に合わせて、理系選択科目として芸術3科目（音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ）と国語表現の4科目から1科目を選択できるようになっている。これは、生徒の進路や興味の多様化に合わせて、昭和57年度より準備されてきたものである。

現況並びに資料

平成2年度

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年		単位数合計		合計
					文科系	理科系	文科系	理科系	
国語	国語 I	4	5				5	5	文-16 理-12 18 14
	国語 II	4		4			4	4	
	国語表現	2			(2)	(2)	0~2	0~2	
	現代文	3			3	3	3	3	
	古典	4			4		4		
社会	現代社会	4	4				4	4	文-16 理-12
	日本史	4			5	4	5	4	
	世界史	4		(4)-4			0~4	0~4	
	地理	4		(4)-4			0~4	0~4	
	倫理	2			(3)-3		0~3		
数学	政治・経済	2			(3)-3		0~3		文-11 理-17 13
	数学 I	4	5				5	5	
	代数・幾何	3		3			3	3	
	基礎解析	3		3			3	3	
	微分・積分	3				3		3	
理科	確率・統計	3			(2)	3	0~2	3	文-12 理-14
	理科 I	4	4				4	4	
	物理	4		(4)-4	(4)-4	(6)-6	0~4	0~6	
	化学	4		(4)-4	(4)-4	(6)-6	0~4	0~6	
	生物	4		(4)-4	(4)-4	(6)-6	0~4	0~6	
保健体育	地学	4			(4)-4		0~4		男-13 女-9
	体育	7~9	男4・女2	男4・女2	3	3	男11・女7	男11・女7	
芸術	保健	2	1	1			2	2	4 6
	音楽 I	2	(2)-				0~2	0~2	
	音楽 II	2		(2)-			0~2	0~2	
	音楽 III	2			(2)-	(2)-	0~2	0~2	
	美術 I	2	(2)-				0~2	0~2	
	美術 II	2	-2	(2)-			0~2	0~2	
	美術 III	2		-2	(2)-	(2)-	0~2	0~2	
	工芸 I	2	(2)-		-[2]	-[2]	0~2	0~2	
	工芸 II	2		(2)-			0~2	0~2	
	工芸 III	2			(2)-	(2)-	0~2	0~2	
	書道 I	2	(2)-				0~2	0~2	
	書道 II	2		(2)-			0~2	0~2	
外国語	書道 III	2			(2)-	(2)-	0~2	0~2	16 18
	英語 I	4	5				5	5	
	英語 II	5		5			5	5	
	英語 II A	3			(2)	(2)	0~2	0~2	
	英語 II B	3			3	3	3	3	
家庭	英語 II C	3			3	3	3	3	女-4
	家庭一般	4	女2	女2			女4	女4	
	ホームルーム	3	1	1	1	1	3		
特別活動	クラブ活動	3	1	1	1	1	3		6
	合計		32	32	32	32	96	96	

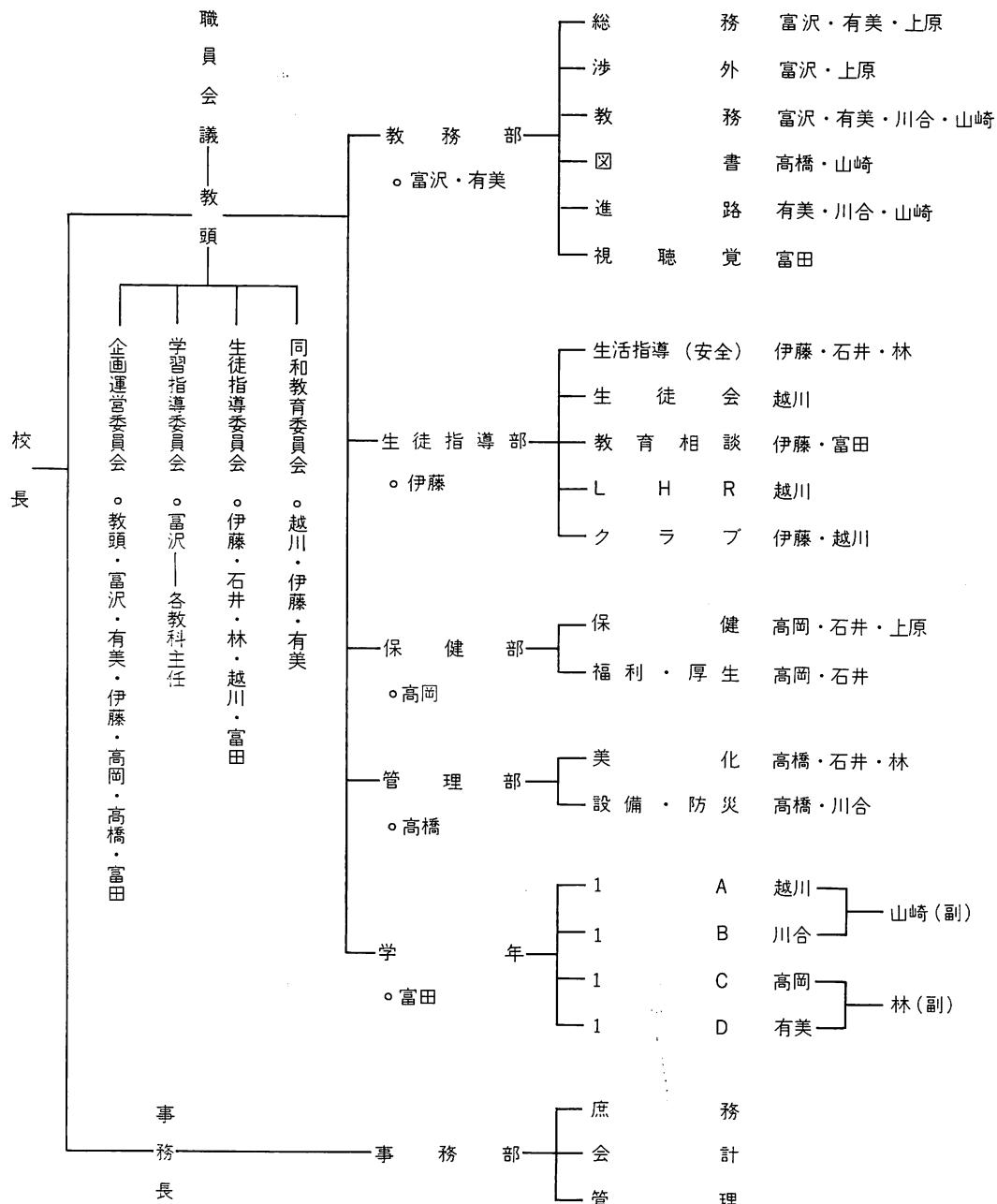
注1. 各学年とも()および〔 〕の組より1科目選択

注2. 3年文科系は、国語表現、確率・統計、芸術、英語II Aより1科目選択。3年理科系は、国語表現、芸術、英語II Aより1科目選択

全学年が10学級規模でそろう、平成2年度の教育課程に向けての手直しがはっきりと表われている。学年10学級に合わせて、芸術科目に工芸が設置（昭和63年度入学生より）され、さらには、10学級規模での生徒の適性・興味・進路の多様化に対応すべく、芸術4科目と国語表現・英語II A・確率統計の幅広い選択肢から1科目（2単位）を選択履修できるようになっている。

昭和55年度

学校運営組織・分掌の変遷



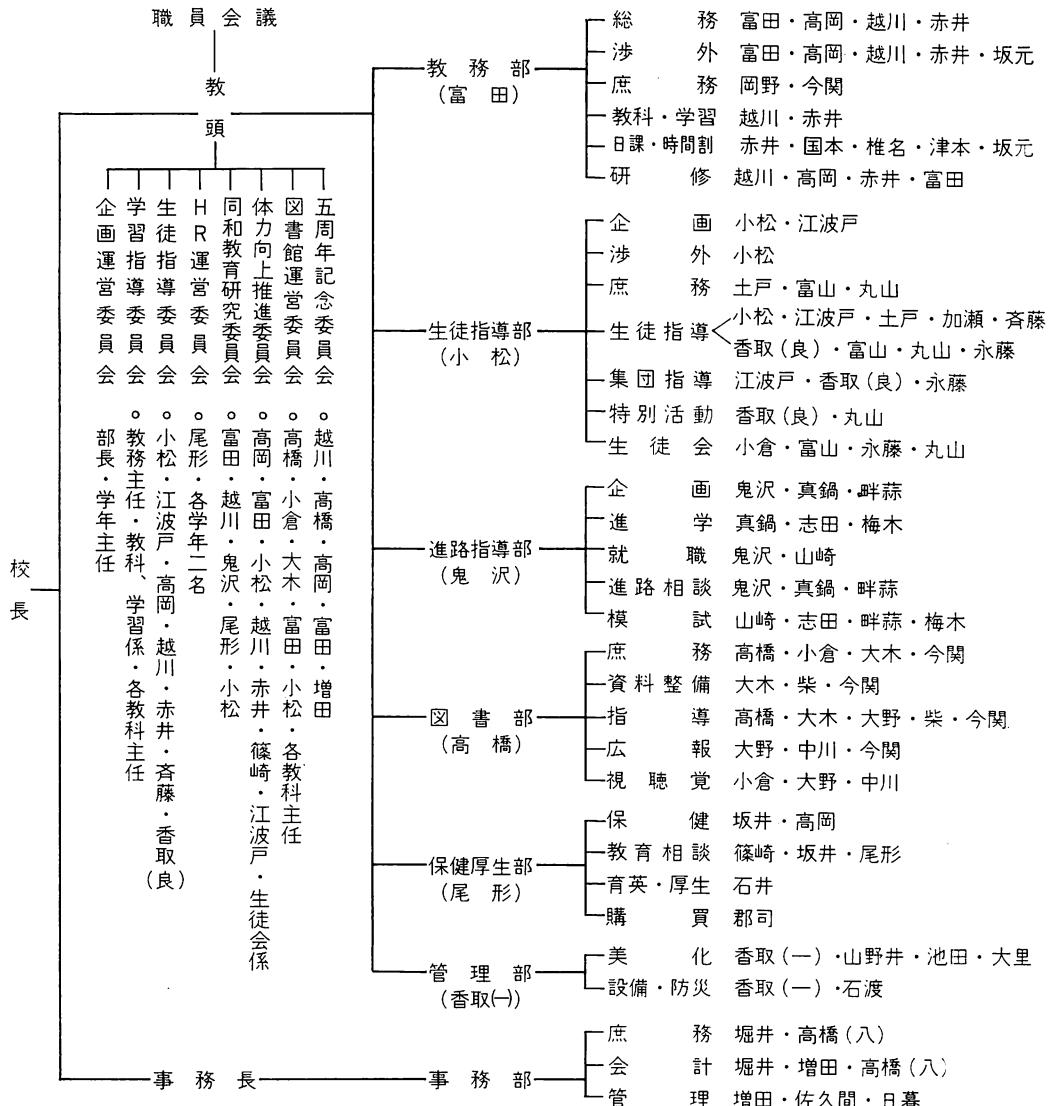
教科主任

国語	社会	数学	理科	保健体育	芸術(音)	英語	家庭
越川	伊藤	有美	富田	高岡	上原	高橋	長谷川

4 学級のスタートらしく、少ない職員でいかに効率的な運営をするかに注意がはらわれた。

現況並びに資料

昭和60年度



〔学 年〕

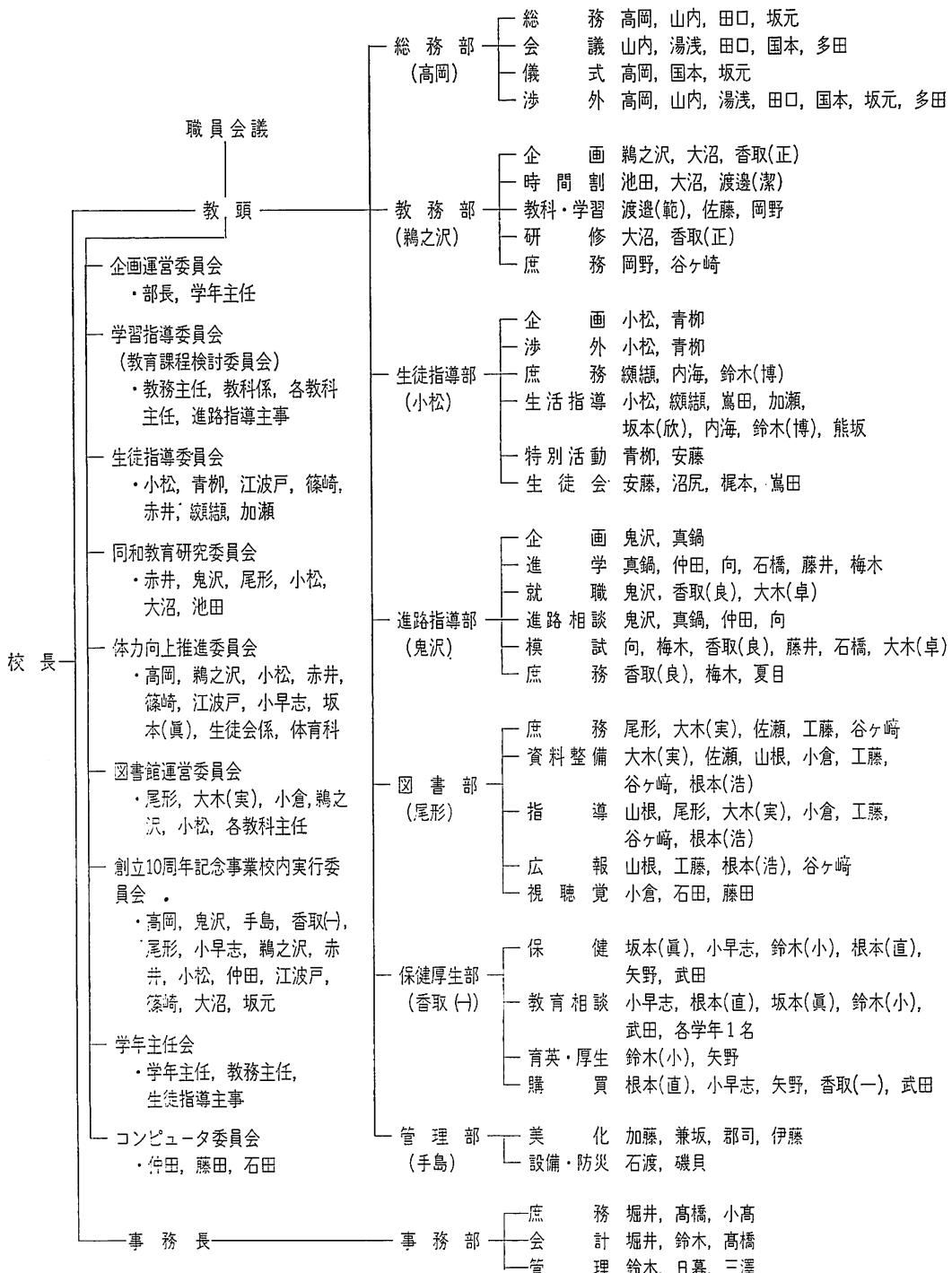
学年	主任	A	B	C	D	E	F	副担任
1	高岡	大木	山崎	大野	加瀬	志田	江波戸	石渡・国本・椎名・中川
2	越川	丸山	斎藤	戸津	本坂	元	真鍋	山野井・岡野・大里・梅木
3	赤井	小倉	富山	香取(良)	篠崎	永藤	畔蒜	郡司・石井・柴・池田

※○印は副主任

国語	社会	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭
越川	尾形	香取(一)	富田	高岡	津本	高橋	郡司

7学級編成の職員数に合わせて、生徒の活動の充実化も図られ、HR運営・体力向上推進・図書館運営の各委員会ならびに五周年記念委員会が組織されている。

平成2年度



創立10周年にあたり、記念事業校内実行委員会が組織されているのが目につく。さらには、学年間のコミュニケーションや各行事の調整を行なうため、学年主任会、また情報教育を含めた情報処理等の研究・運営のためにコンピュータ委員会が設けられている。

主な年間行事予定表

昭和55年度

4月	開校式並びに入学式、オリエンテーション、課題テスト、身体測定、X線、月末大掃除
5月	尿検、遠足、生徒面接週間、眼検、中間考查、月末大掃除
6月	歯科・内科検診、貧血検査、生徒会設立総会、PTA設立総会、保護者面接週間、心電図検査、月末大掃除
7月	期末考查、球技大会、映画会、防災訓練、成績会議、終業式、夏季休業、林間学校
8月	全校登校日、転入学試験、リーダー研修会
9月	始業式、課題テスト、生徒面接週間、月末大掃除
10月	スポーツ大会、中間考查、月末大掃除
11月	保護者面接週間
12月	期末考查、作文指導、交通講話、防災訓練、成績会議、終業式、冬季休業
1月	始業式、課題テスト、月末大掃除
2月	耐寒マラソン、入学学力検査
3月	入学許可候補者発表、期末考查、作文指導、成績会議、終業式、転入学試験、転入学会議、学年末休業

昭和60年度

4月	始業式、入学式、1年オリエンテーション、2・3年実力テスト、第1回尿検査、新入生歓迎会、身体計測、進路希望調査、全校集会、第2回尿検査、胸部X線撮影、心電図検査、大掃除
5月	第1回大学模試、公務員受験説明会、貧血検査、全校集会、第1回就職模試、登下校時指導、PTA理事会、内科検診、生徒総会、PTA総会、第1回公務員模試、中間テスト、1年生林間学校、3年進路別説明会、2年進路適性検査、映画会、大掃除
6月	眼科検診、スポーツテスト、内科検診、第1回短大模試、第2回就職模試、登下校時指導、第1回高一・高二実力テスト、耳鼻科検診、歯科検診、全校遠足、保護者面談旬間、進路別保護者説明会、リーダー研修会、芸術鑑賞会、全校集会、第2回公務員模試、第3回就職模試
7月	期末テスト、救急法講習会、生徒指導講話、第2回短大模試、第2回大学模試、避難訓練、球技大会、作文指導、全校集会、野球応援、大掃除、終業式、転入学試験
8月	全校登校日、学年登校日、同窓会総会、課外授業
9月	始業式、実力テスト、学年集会、第3回公務員模試、第4回就職模試、全校集会、文化祭、第3回大学模試、大掃除
10月	立会演説会、第2回高一・高二実力テスト、スポーツ大会、登下校時指導、生徒総会、中間テスト、第3回短大模試、第4回大学模試、インフルエンザ予防接種、登下校時指導、大掃除
11月	2年生修学旅行、第5回大学模試、インフルエンザ予防接種、2年公務員模試・就職模試、2年進路別説明会、保護者面談旬間、学年PTA、登下校時指導、大掃除
12月	献血、期末テスト、全校集会、転入学試験、作文指導、防災訓練、生徒指導部講話、大掃除、終業式
1月	始業式、実力テスト、2年公務員模試・就職模試、全校集会、第3回高一・高二実力テスト
2月	3年生期末テスト、予餞会、3年生テーブルマナー、耐寒マラソン大会、登下校時指導、2年公務員模試・就職模試、全校集会、大掃除、入学学力検査
3月	全校集会、卒業式、期末テスト、転入学試験、映画鑑賞会、作文指導、学年集会、大掃除、終業式

平成 2 年度

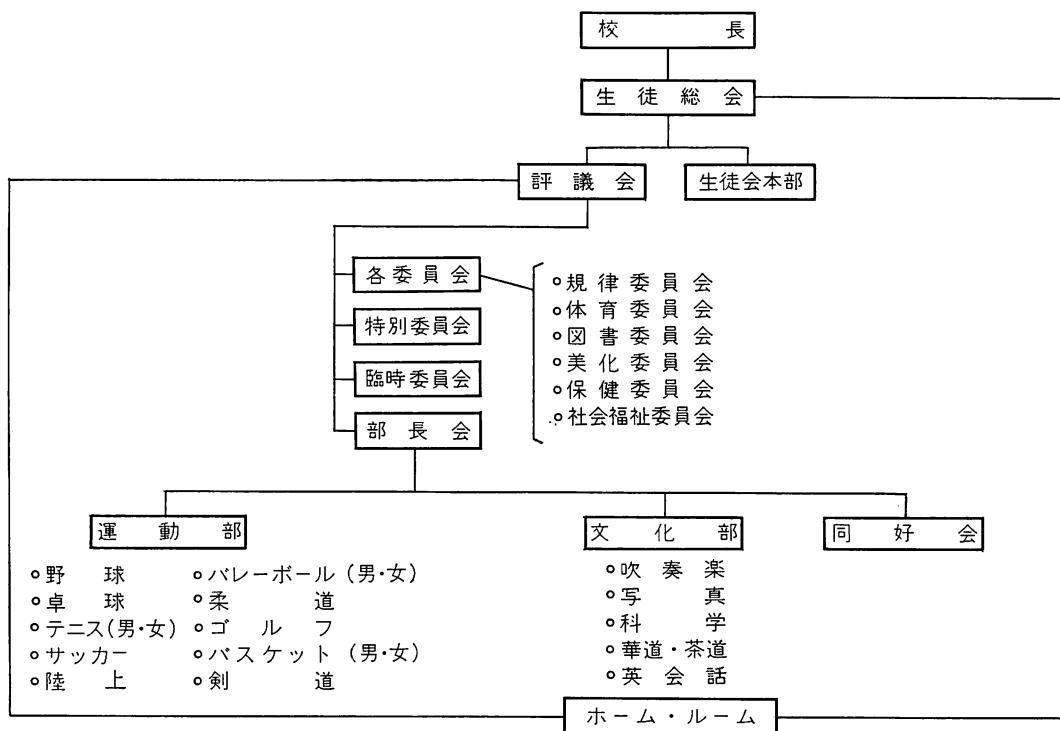
4 月	始業式、入学式、新入生オリエンテーション、対面式、部活紹介、写真撮影、尿検査、身体測定、新入生テスト、胸部X線撮影、貧血検査、3年基礎力水準テスト、眼科検診、耳鼻科検診
5 月	心電図検査、生徒総会、内科検診、第1回公務員・就職模試、大清掃、中間テスト、1年林間学校、3年進学講演会・進路別一斉指導、2・3年遠足、第1回短大模試、第1回大学模試、スポーツテスト、PTA総会
6 月	リーダー研修会、第2回公務員・就職模試、第1回高1・高2実力テスト、3年保護者進路説明会、歯科検診、大清掃、3年就職生徒一斉指導、保護者面談期間、第3回公務員・就職模試
7 月	期末テスト、生徒指導講話、球技大会、2年進学講演会、就職生徒面接指導、第2回短大模試、第2回大学模試、野球応援、大清掃、終業式、夏季進学補習、就職指導週間
8 月	同窓会総会、後援会総会
9 月	大清掃、始業式、防災講話、1・2年実力テスト、就職生徒面接個別指導、第3回短大模試、第3回大学模試、進学生徒一斉指導、文化祭（黎明祭）
10 月	大清掃、体育祭（10周年記念）、第4回短大模試、第4回大学模試、第2回高1・高2実力テスト、生徒会役員選挙、中間テスト、献血、第5回大学模試、防災訓練
11 月	生徒総会、大清掃、2年第1回公務員・就職模試、創立10周年記念行事、3年センター試験模試、私大直前模試、2年専門学校説明会、学年PTA
12 月	期末テスト、生徒指導講話、大清掃、終業式、スキー教室
1 月	始業式、大清掃、1年実力テスト、2年第2回公務員・就職模試、3年期末テスト、予餞会
2 月	第3回高1・高2実力テスト、マラソン大会、2年修学旅行、大清掃、創立10周年記念誌刊行、学検
3 月	3年進路動向調査、大清掃、卒業式、1・2年期末テスト、生徒指導講話、終業式

生徒通学状況の推移

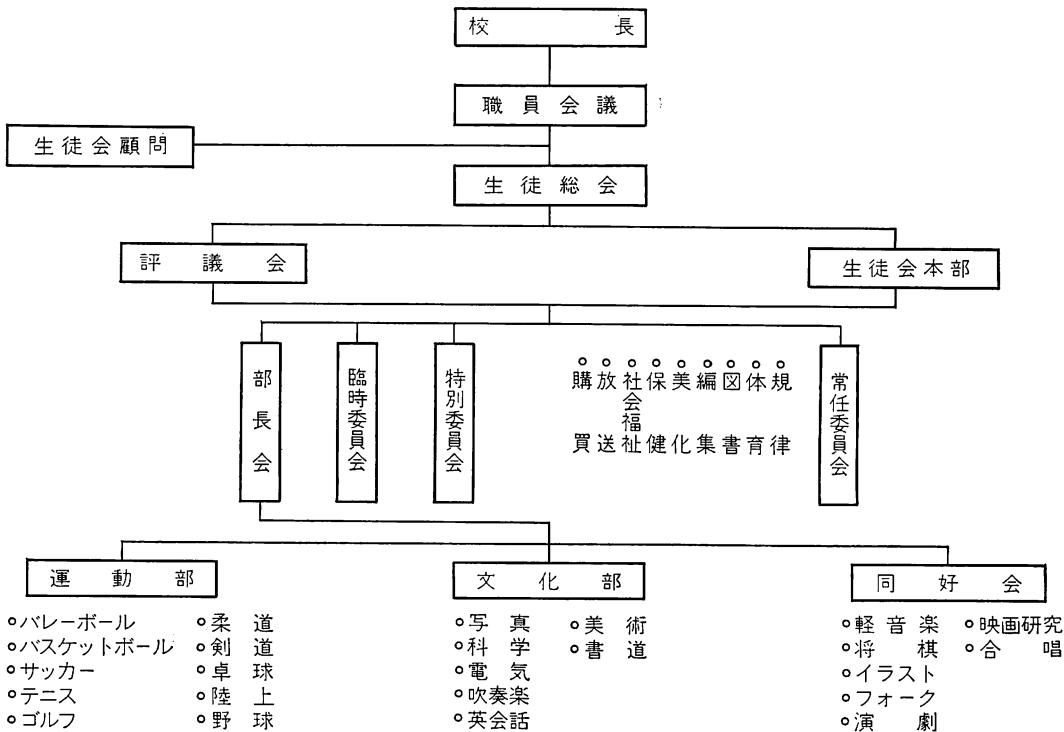
年 度		昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2
徒歩	人 数	5	18	24	32	35	47	50	61	59	51	55
	最長時間(分)	30	30	30	30	30	30	20	60	40	30	45
	最遠距離(km)				4	3	3	4	5	4	2	4
自転車	人 数	49	99	173	252	342	412	453	481	627	698	736
	最長時間(分)	40	60	60	80	80	80	70	90	70	70	90
	最遠距離(km)				20	20	20	18	30	30	25	28
電車	人 数	74	134	197	155	137	124	187	221	275	322	384
	最長時間(分)	90	100	90	60	120	120	120	85	120	100	90
	最遠距離(km)				40	48	48	48	41	50	35	40
バス	人 数	60	117	150	188	207	227	170	158	159	195	213
	最長時間(分)	70	90	60	50	90	90	90	55	120	100	90
	最遠距離(km)				35	35	33	30	25	40	36	30
合 計 人 数		188	368	544	627	721	810	860	921	1,120	1,266	1,388

昭和56年度

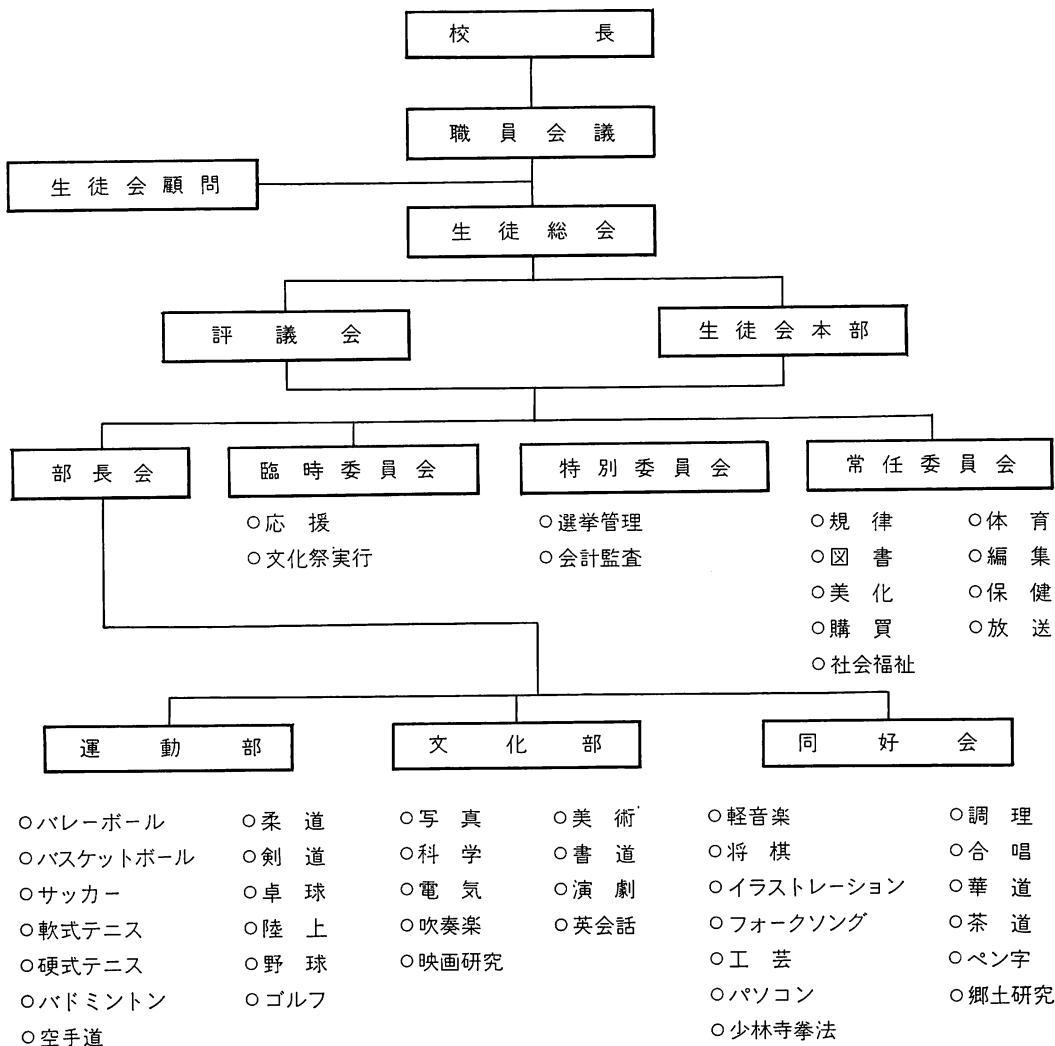
生徒会組織図



昭和60年度



平成2年度



映画会上映作品

昭和57年度	6・17(木)	クレーマー・クレーマー☆	3・19(月)	ああ野麦峠
〃 58〃	6・1(水)	ロッキー☆	3・19(火)	マタギ
〃 59〃	5・31(水)	チャップリンの独裁者☆	3・19(水)	風の谷のナウシカ
〃 60〃	5・30(木)	ウエストサイド物語☆	3・19(木)	アウトサイダー
〃 61〃	5・29(木)	ネバーエンディングストーリー☆	3・19(土)	スタンド・バイ・ミー
〃 62〃	5・7(木)	ファンダンゴ☆	3・20(月)	モモ
〃 63〃	5・14(土)	戦場のメリークリスマス☆◎	3・20(火)	あしたのジョー2
平成元〃	10・31(火)	幸福の黄色いハンカチ		

☆印はアンケートを実施して選出、その他は生徒会にて選出。

◎印は成田国際文化会館にて上映、その他は本校体育館にて上映。

現況並びに資料

修 学 旅 行 の 行 程

昭和60年度

11月4日(月)	ひかり241号 東京 → 広島 平和公園 宮島口 宮島 旅館「ひがしや」 バス 8:17(昼食) 13:51 14:15 14:45 16:15 17:00 17:15 17:30 17:50 バス 14:15 14:45 16:15 17:00 17:15 17:30 17:50 ※写真撮影 (宿舎)「ひがしや」広島県佐伯郡宮島町海岸通り 電話 08294(4)2151
11月5日(火)	「ひがしや」 嶺島神社参拝 「ひがしや」 船着場 宮島 宮島 宮島 宮島 7:30 8:45 9:00 9:10 9:20 9:30 9:53 (昼食) こだま524号 13:00 14:40 +++++ 広島 姫路 姫路城 京都宿舎 10:19 10:51 12:30 12:45 18:00 ※写真撮影 (宿舎)「鴻臚」京都市中京区桟町通六角北東角 電話 075(221)7807
A組	宿舎 亀岡 レストラン嵐山① 映画村(昼食) 8:00 9:30 11:40 12:00 13:45 二条城 下鴨神社 京都宿舎(泊) 14:15 15:15 15:30 16:00 16:30 (宿舎)11月5日に同じ
B組	宿舎 亀岡 保津川下り 嵐山 レストラン嵐山② 嵐山パークウェー(昼食) 8:00 9:30 11:30 11:40 高雄 梅小路機関区 京都宿舎(泊) 13:10 14:30 15:20 16:00 16:30 (宿舎)11月5日に同じ
C組	宿舎 亀岡 嵐山 各班ごと食事 レストラン嵐山③ 8:00 9:30 11:30 13:40 広隆寺 二条城 京都宿舎(泊) 14:10 14:40 15:10 16:10 16:30 (宿舎)11月5日に同じ
D組	宿舎 亀岡 嵐山 各班ごと食事 レストラン嵐山④ 8:00 9:30 11:30 13:10 広隆寺 仁和寺 金閣寺 京都宿舎(泊) 13:30 14:00 14:30 15:15 15:30 16:00 16:30 (宿舎)11月5日に同じ
E組	宿舎 亀岡 嵐山 各班ごと食事 レストラン嵐山⑤ 8:00 9:30 11:30 13:00 映画村 二条城 京都宿舎(泊) 13:20 14:40 15:10 16:10 16:30 (宿舎)11月5日に同じ
F組	宿舎 亀岡 嵐山 嵐山 嵐山 8:00 9:30 11:30 念仏寺下集合 映画村 京都宿舎(泊) 14:10 14:40 16:10 16:45 (宿舎)11月5日に同じ
11月7日(木)	ひかり4号 京都 清水寺 京都御所 京都 東京 8:00 9:00 10:20 11:00 11:50 12:20 13:19(昼食) 16:16 (東京駅八重洲北口団体集合場所にて解散)

近代の不幸な出来事を二度とくり返すまいと広島を訪ね、その後、京都にて古き歴史を訪ねるというコースである。保津川下りは生徒の人気的ともなった。

昭和61年度

	上野 → 盛岡 → わんこそば愛真館 → 渋民村 8:40 やまびこ1号 11:25 11:40 12:20 13:30 14:30 15:10
10/22 (水)	小岩井農場 → 田沢湖高原(泊) 16:10 16:50 18:20
	(宿舎) 「駒ヶ岳観光ホテル」秋田県田沢湖町駒ヶ岳2-30 ☎0187-46-2211
	田沢湖高原 → 角館(伝承館・武家屋敷) → 田沢湖畔 8:00 9:00 10:00 10:40 11:00
10/23 (木)	トロコ温泉 → 後生掛 → 八幡平頂上 → 大湯リンゴ狩 12:40 13:20 13:40 14:20 15:50 16:30
	発荷峠 → 十和田湖(泊) 17:30
	(宿舎) 「ホテル十和田荘」青森県十和田湖畔休屋 ☎0176-75-2221
	十和田湖 → 休屋 → 子の口 → 雲井ノ滝 8:00 8:15 遊覧船 9:15 9:30
10/24 (金)	奥入瀬散策 → 銚子大滝 → 休屋 → マインランド尾去沢 90分 11:00 11:30(昼食) 12:30 13:40 14:40
	八幡平I・C → 花巻I・C → 新鉛温泉(泊) 15:00 16:30 17:00
	(宿舎) 「愛隣館」岩手県花巻市鉛字西鉛 ☎0198-25-2341
	新鉛温泉 → 花巻I・C → 平泉前沢I・C → 中尊寺・見学後昼食 8:00 8:30 東北自動車道 9:10 9:30 11:15 12:00
10/25 (土)	ノ関 → 上野 12:30 13:15 やまびこ52号 16:34

東北新幹線の開通に伴い、陸奥の自然に触れ、歴史を訪ねるコースとなっている。生徒にとっては、わんこそばを食べたことも思い出の1シーンとして残るであろう。いかにも古語の「ののしる」のような光景の中での昼食は、壮観であった。また、当日駒ヶ岳観光ホテルに宿泊した折には、一行を迎えるかのごとく、雪が降り、千葉の子供達にとっては、すばらしき旅になったと思われる。

現況並びに資料

昭和62年度

10月24日 (土)	集合 東京駅八重洲北口団体集合場所 8時40分										
	ひかり103号	広 島	バス	平和公園(原爆資料館)	宮島口	船	宮 島			
	9:12 (食事) 14:06	14:30	15:00		17:00	17:15	17:25				
.....宿舎(宮島ロイヤルホテル) 17:30											
10月25日 (日)	ひかり4号										
	宿 舎	嚴島神社参拝	宮 島	宮島口	広 島	岡 山				
	8:00		9:30 9:40	9:50 10:16	10:40 11:08	11:55	12:15				
倉敷美観地区(大原美術館など)	新倉敷	京 都	宿 舎						
	12:45 (食事・班別)	15:15	15:40	16:02	17:44	18:10(洛兆)					
10月26日 (月)	全クラス 共 通	保津川下り 京都(洛兆) 亀 岡 嵐 山 以下クラス別コース									
	A	嵐山船着場	① レストラン嵐山	映画村						
		11:15	11:30	12:00							
 広隆寺 二条城 平安神宮 宿舎										
		14:00	14:30 15:30	15:50 16:20	16:50						
	B	嵐山船着場	※食事・自由	嵯峨野めぐり:班別研修						
		11:15									
 念仏寺下集合 映画村 三十三間堂 宿舎										
		13:15	13:50 15:30	16:00 16:30	16:40						
	C	嵐山船着場	※食事・自由	嵯峨野めぐり:班別研修						
		11:15									
 念仏寺下集合 映画村 三十三間堂 宿舎										
		13:15	13:50 15:30	16:00 16:30	16:40						
	D	嵐山船着場	① レストラン嵐山	映画村						
		11:15	11:30	12:00 13:40							
 大原の里(三千院) 宿舎										
		14:50	16:00	16:50							
	E	嵐山船着場	① レストラン嵐山	映画村						
		11:15	11:30	12:00							
 広隆寺 竜安寺 二条城 宿舎										
		13:40	14:10 14:50	15:20 16:20	16:40						
	F	嵐山船着場	① レストラン嵐山	映画村						
		11:15	11:30	12:00 13:40							
 竜安寺 清水焼窯元(絵付) 宿舎										
		14:00 14:40	15:20	16:10	16:40						
	G	嵐山船着場	① レストラン嵐山	映画村						
		11:15	11:30	12:00							
 広隆寺 竜安寺 二条城 宿舎										
		13:40	14:10 14:50	15:20 16:20	16:40						
10月27日 (火)	ひかり230号										
	宿 舎	銀閣寺	清水寺	京都駅	東京駅						
	8:30	9:00 9:40	10:10 11:40	12:00 12:44	(食事) 15:28						
	解 散	東京駅八重洲北口団体集合場所	16時								

この年の修学旅行の特徴は、平和都市広島、古都京都の歴史を訪ねるコースの中に、倉敷美観地区・保津川下りを加えた工夫がなされ、生徒の思い出作りにも配慮されている。

昭和63年度

10月20日 (木)	集合……東京駅八重洲北口団体集合場所 9時20分 (駅構内図参照)										
	15番線 東京駅 ひかり219号 広島 バス ※写真撮影 平和公園(原爆資料館) 10:04 (食事) 15:32 15:50 16:10 17:30 船 宮島口 ~~~~~ 宮島宿舎(宮島ロイヤルホテル) 18:10 18:20 18:30 18:40										
10月21日 (金)	※写真撮影 宿舎……厳島神社参拝……宮島~~~~~宮島口~~~~~広島 ひかり202号 7:45 8:45 8:55 9:05 9:27 9:53 10:16 (昼食は各自自由) 新倉敷~~~~~倉敷美観地区(大原美術館など)~~~~~岡山 ひかり282号 11:20 11:35 12:00 14:30 15:20 16:02 京都~~~~~宿舎(ホテルりょうぜん) 17:21 17:40 18:00										
10月22日 (土)	① 食事:全体 嵐山~~~~~レストラン嵐山~~~~~映画村~~~~~竜安寺~~~~~金閣寺~~~~~新京極~~~~~△ 11:15 11:20 12:20 12:40 14:10 14:30 15:10 15:30 16:10 16:40 18:20 18:50 ② 食事:各自払い 嵐山~~~~~嵯峨野めぐり~~~~~念佛寺下集合~~~~~金閣寺~~~~~新京極~~~~~△ 11:15 (グループ行動) 14:30 14:40 15:10 15:50 16:30 18:20 18:50 ③ 食事:全体 ※広隆寺は自由見学 嵐山~~~~~レストラン嵐山~~~~~映画村~~~~~妙心寺~~~~~金閣寺~~~~~新京極~~~~~△ 11:15 11:20 12:20 12:40 14:10 14:30 15:15 15:30 16:00 16:40 18:20 18:50 ④ 食事:各自払い 嵐山…レストラン嵐山…映画村…平安神宮付近…知恩院…銀閣寺…新京極…△ 11:15 11:30 11:50 13:30 14:00 15:00 15:30 16:10 16:40 18:20 18:50 ⑤ 食事:各自払い 嵐山…嵯峨野めぐり…大覚寺④集合…新京極…△ 11:15 (グループ別行動) 16:00 16:40 18:20 18:50 ⑥ 食事:全体 嵐山…レストラン嵐山…付近散策…レストラン嵐山…映画村…金閣寺…新京極…△ 11:15 11:20 13:00 13:20 15:00 15:30 16:10 16:40 18:20 18:50 ⑦ 食事:各自払い 京都~~~~~神戸北野(異人館めぐり)~~~~~大阪(万博記念公園)~~~~~新京極~~~~~△ 8:00 10:30 13:00 14:00 15:30 16:50 18:20 18:50										
10月23日 (日)	※写真撮影 宿舎~~~~~清水寺~~~~~京都駅~~~~~東京駅 ひかり264号 8:00 8:20 10:10 10:30 11:21 14:08 解散……東京駅八重洲北口団体集合場所 14時30分										

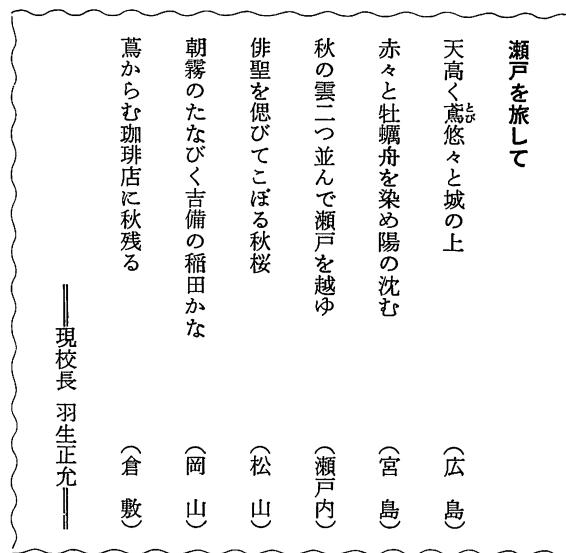
前年度と同じようなコースの中に、クラスのコース別に工夫や希望が生かされ、神戸・大阪(万博記念公園)へと足をのばして楽しんだクラスもあった。

現況並びに資料

平成元年度

	17番線 ひかり215号	東京駅	広 島	平和公園（原爆資料館）	
10月27日 (金)		8:04 (食事) 13:32	14:00 14:30		16:15
		バス	船		
		宮島口	宮 島	ホテルいつくしま	
		17:00 17:10 17:20		17:30	
10月28日 (土)			◎しづかね5クラス ◎小富士5クラス		
		宿 舎 嶽島神社 宮島桟橋		松山港	
		7:15 7:20 8:30 8:40	9:20 船中昼食(弁当)	12:20	12:40
		松山城	子規堂	子規記念館	
		13:10 14:40	15:00 15:30 15:50	16:30	
		子規堂	松山城	子規記念館	ホテル奥道後
		13:10 13:40	14:00 15:30 15:50	16:30	
		子規記念館	子規堂	松山城	
		13:10 13:50	14:10 14:40 15:00	16:30	
10月29日 (日)		宿 舎 小 松 土居I.C 豊浜S.A	普通寺I.C		
		7:45 9:00 9:20	11:00	11:20	
		琴平(金刀比羅宮見学) : 食事	坂出I.C	与島P.A	
		11:40	14:00	15:00	咸臨丸
		船			クルージング
		早島I.C	ホテル白雲閣		
		16:00 16:20	17:40		
10月30日 (月)		宿 舎 倉敷美観地区散策	後楽園 岡 山	ひかり24号	東京駅
		8:00 8:45	9:45 10:30 11:20 11:40	12:43	16:32

瀬戸大橋の完成に伴い、平和祈願を込めて広島を訪ね、その後四国へ渡るコースである。松山では歴史を訪ねると共に、俳聖正岡子規に触れたりもした。奥道後では、全体ミーティングにおいて、羽生校長より旅行中綴った俳句の披露があり、良き思い出となつた。



図書館利用状況統計一覧

1. 年間貸出統計（月別統計）

※ 昭和63年5月よりコンピュータシステム稼働

2. 年間利用者統計（月別統計）

分類別蔵書集計表

	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	TOTAL
昭和 63 年	660	220	797	827	1,205	309	112	828	514	3,498	8,970
平成 元年	781	309	998	1,035	1,289	410	123	990	685	3,688	10,308
平成 2 年	865	316	1,052	1,114	1,336	436	180	1,071	720	4,312	11,402

分類別蔵書集計表

90/08/21 ☆和書・洋書 (上段から 金額冊数)

種 類	総 記	哲学・宗教	歴史・地誌	社会科学	自然科学	技術・工業 産 業	芸術・spo 言語・語学 文学				TOTAL
基本 図 書	844,490 96	9,500 10	84,780 29	66,990 52	191,241 40	89,130 26	4,540 3	177,830 50	93,920 24	144,910 49	1,707,331 379
参考 図 書	814,081 362	72,870 53	1,396,635 426	473,370 280	1,030,270 530	272,960 135	36,850 35	840,200 330	676,970 219	1,886,450 1,302	7,500,656 3,672
図 鑑・図 表	1,140 1	0 0	520 1	9,500 2	91,230 35	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	102,390 41
年 鑑・統 計	299,000 47	0 0	6,800 1	29,600 6	1,380 2	0 0	12,500 1	0 0	0 0	0 0	349,280 57
集団読書テキスト	2,000 7	16,600 98	33,350 107	40,330 142	14,220 39	20,600 56	15,980 52	11,060 54	118,470 327	37,980 226	310,590 1,108
娯 楽・趣 味	0 7	0 0	0 0	0 3	1,520 1	0 0	2,200 1	6,910 79	0 0	3,600 30	14,230 121
教科指定図書	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2,500 1	0 0	0 0	2,500 1
一般教養図書	401,681 345	117,420 155	539,403 488	626,902 629	791,960 689	218,362 219	117,609 88	946,214 557	147,440 150	1,272,108 2,703	5,179,099 6,023
TOTAL	2,362,392 865	216,390 316	2,061,488 1,052	1,246,692 1,114	2,121,821 1,336	601,052 436	189,679 180	1,984,714 1,071	1,036,800 720	3,345,048 4,312	15,166,076 11,402

日 課 表 の 変 遷

昭和55・56年度

(月～金)		(土)	
職員打合せ	8：30～8：35	職員打合せ	8：30～8：35
S H R	8：40～8：45	S H R	8：40～8：45
1	8：45～9：35	1	8：45～9：35
2	9：45～10：35	2	9：45～10：35
3	10：45～11：35	3	10：45～11：35
4	11：45～12：35	4	11：45～12：35
昼 休 み	12：35～13：20	S H R	12：35～12：40
5	13：20～14：10	清 掃	12：40～12：55
6	14：15～15：05		
S H R	15：05～15：10		
清 掃	15：10～15：25		

昭和57年度

(月～金)		(土)	
職員打合せ	8：30～8：35	職員打合せ	8：30～8：35
S H R	8：40～8：45	S H R	8：40～8：45
1	8：45～9：35	1	8：45～9：35
2	9：45～10：35	2	9：45～10：35
3	10：45～11：35	3	10：45～11：35
4	11：45～12：35	4	11：45～12：35
昼 休 み	12：35～13：20	清 掃	12：35～12：50
5	13：20～14：10	S H R	12：50～12：55
6	14：20～15：10		
清 掃	15：10～15：25		
S H R	15：25～15：30		

昭和58・59年度

(月～金)		(土)	
職員打合せ	8：25～8：30	職員打合せ	8：25～8：30
S H R	8：35～8：40	S H R	8：35～8：40
1	8：45～9：35	1	8：45～9：35
2	9：45～10：35	2	9：45～10：35
3	10：45～11：35	3	10：45～11：35
4	11：45～12：35	清 掃	11：35～11：50
昼 休 み	12：35～13：20	S H R	11：50～11：55
5	13：20～14：10		
6	14：20～15：10		
清 掃	15：10～15：25		
S H R	15：25～15：30		

現況並びに資料

昭和60・61年度

(月～金)		(土)	
職員打合せ	8：25～8：30	職員打合せ	8：25～8：30
S H R	8：35～8：40	S H R	8：35～8：40
1	8：45～9：35	1	8：45～9：35
2	9：45～10：35	2	9：45～10：35
3	10：45～11：35	3	10：45～11：35
4	11：45～12：35	清　　掃	11：35～11：50
昼　休　み	12：35～13：20	S H R	11：50～11：55
5	13：20～14：10	{ 4	11：45～12：35
6	14：20～15：10	{ 清　　掃	12：35～12：50
清　　掃	15：10～15：25	S H R	12：50～12：55
S H R	15：25～15：30		

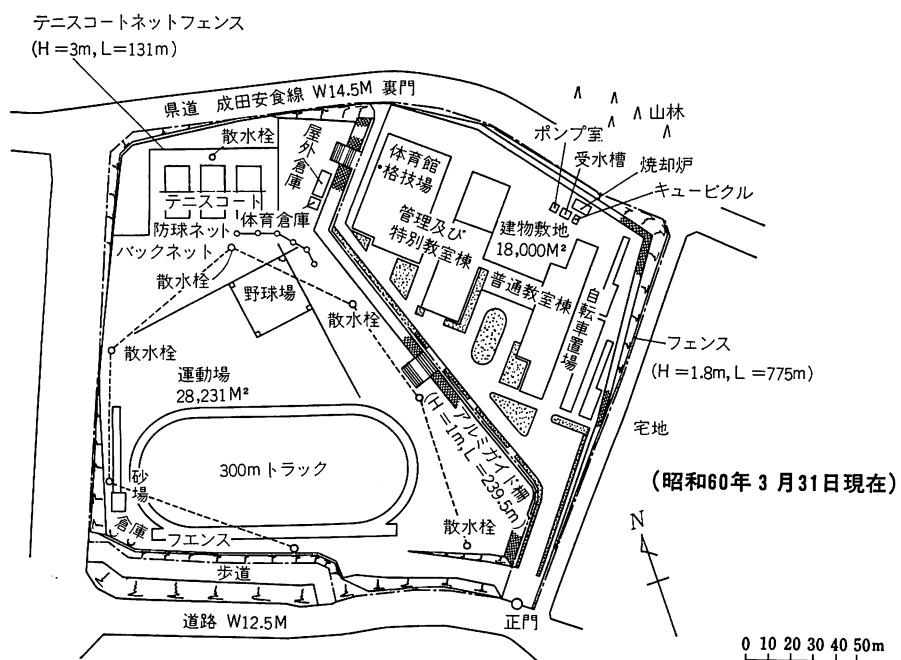
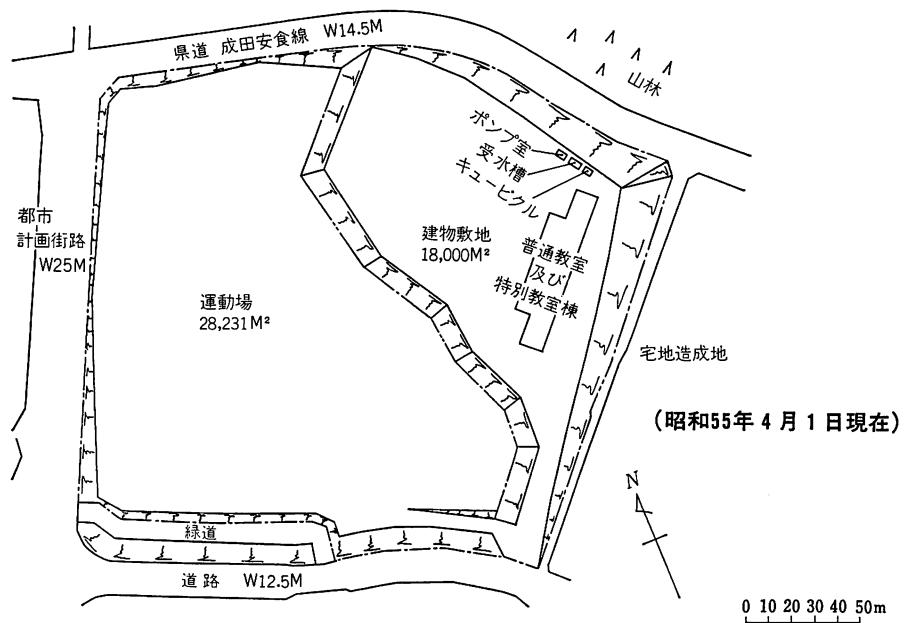
昭和62年度

(月～金)		(土)	
職員打合せ	8：20～8：25	職員打合せ	8：20～8：25
S H R	8：35～8：40	S H R	8：35～8：40
1	8：45～9：35	1	8：45～9：35
2	9：45～10：35	2	9：45～10：35
3	10：45～11：35	3	10：45～11：35
4	11：45～12：35	清　　掃	11：35～11：50
昼　休　み	12：35～13：20	S H R	11：50～11：55
5	13：20～14：10		
6	14：20～15：10		
清　　掃	15：10～15：25		
S H R	15：25～15：30		

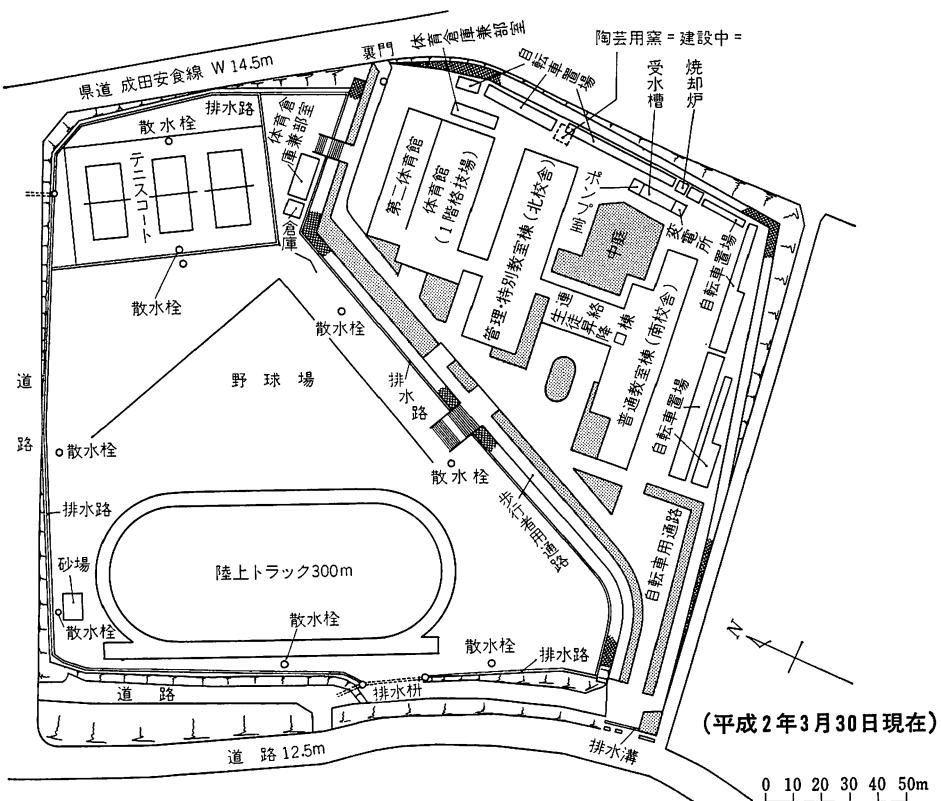
昭和63年度、平成元・2年度

(月～金)		(土)	
職員打合せ	8：20～8：25	職員打合せ	8：20～8：25
S H R	8：35～8：40	S H R	8：35～8：40
1	8：45～9：35	1	8：45～9：35
2	9：45～10：35	2	9：45～10：35
3	10：45～11：35	3	10：45～11：35
4	11：45～12：35	S H R	11：35～11：45
昼　休　み	12：35～13：20	清　　掃	11：45～12：00
5	13：20～14：10		
6	14：20～15：10		
S H R	15：10～15：20		
清　　掃	15：20～15：35		

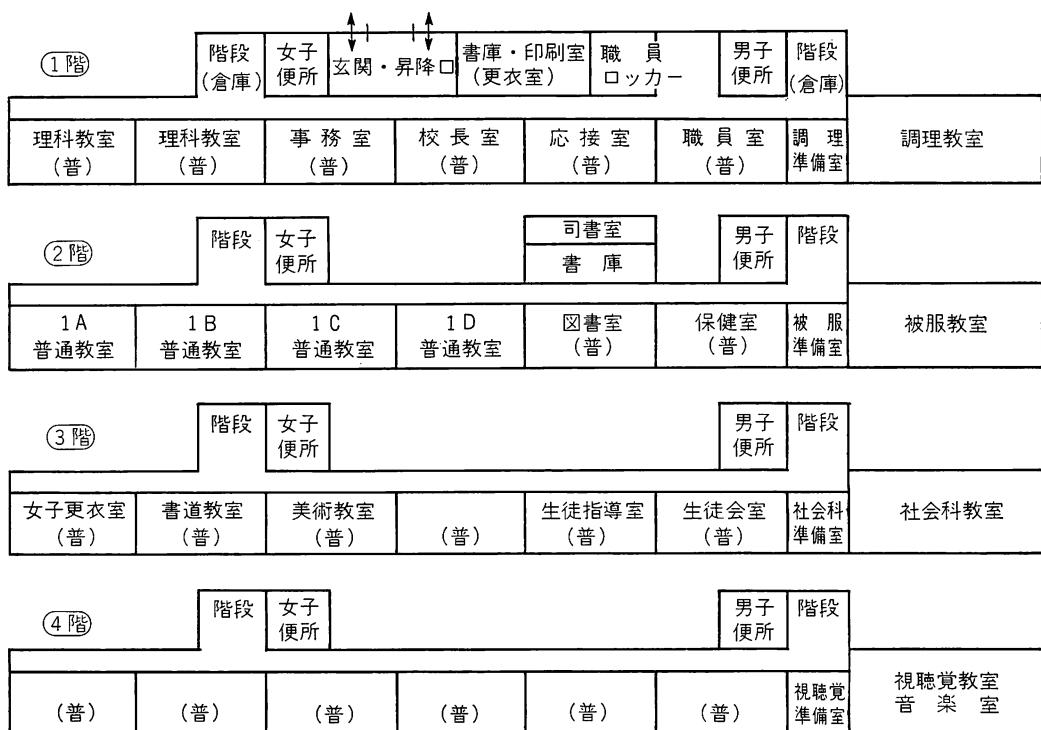
学校配置図



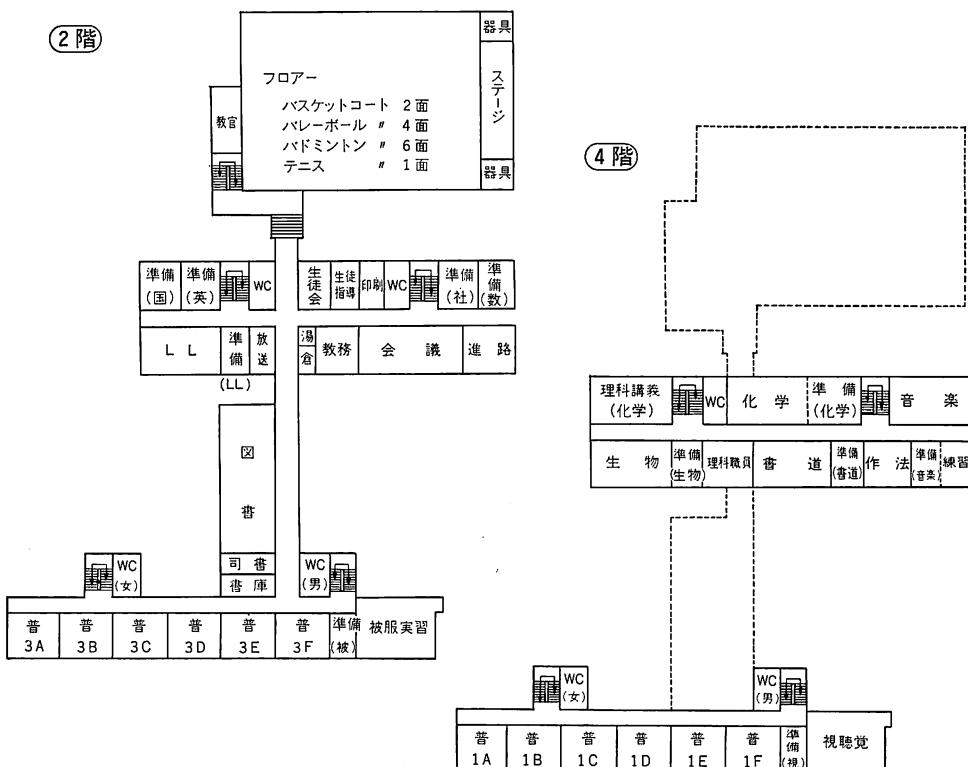
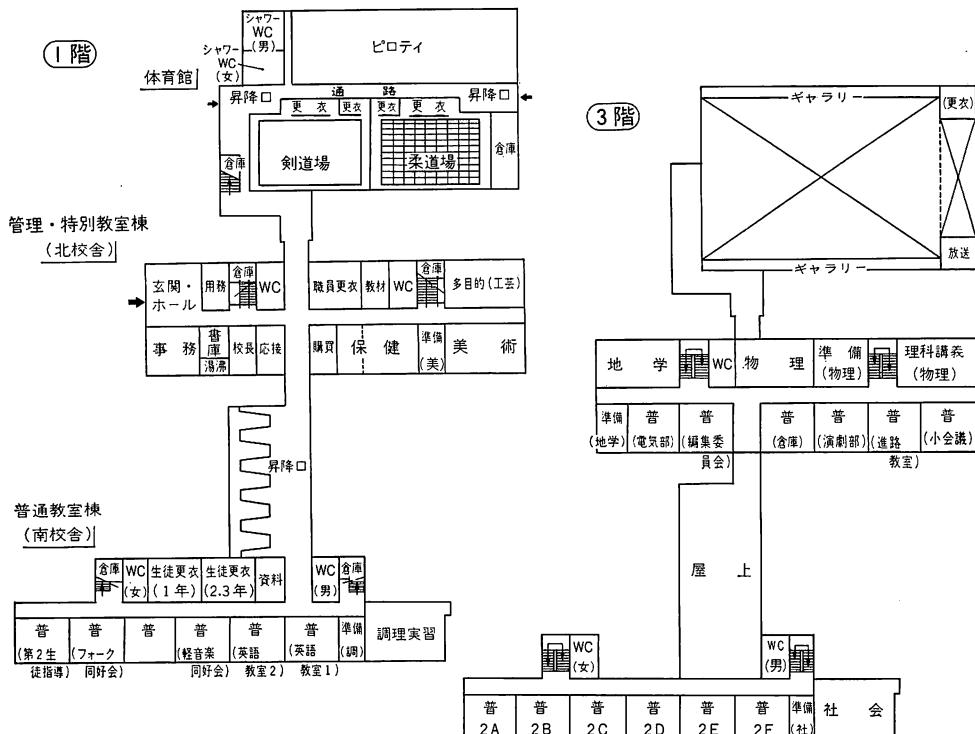
現況並びに資料



昭和55年度 教室配置図

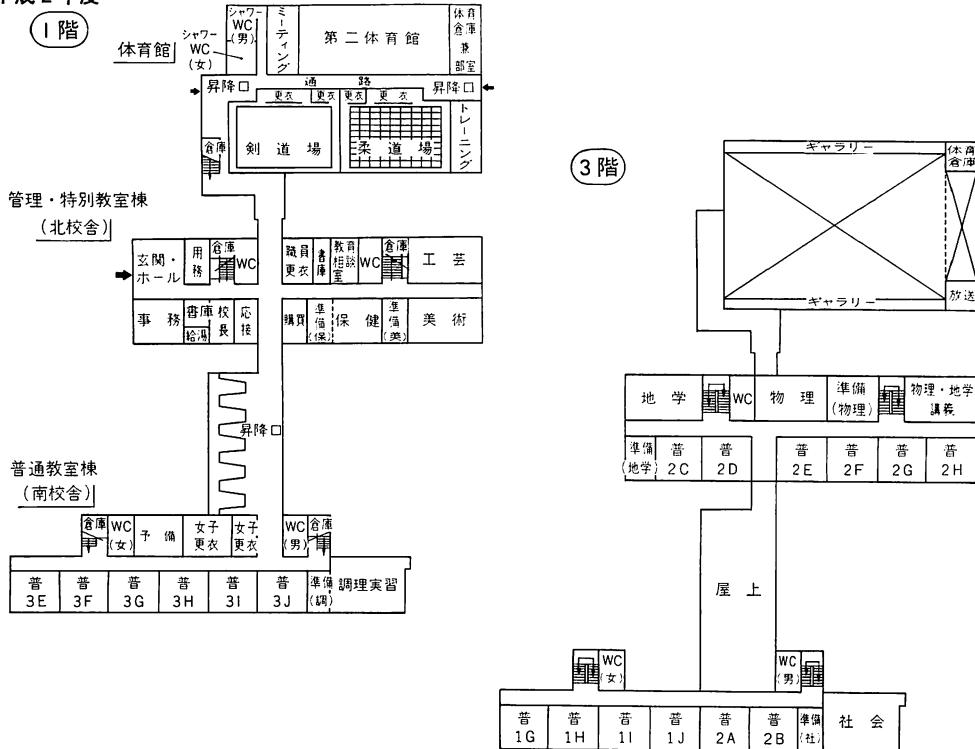


昭和60年度

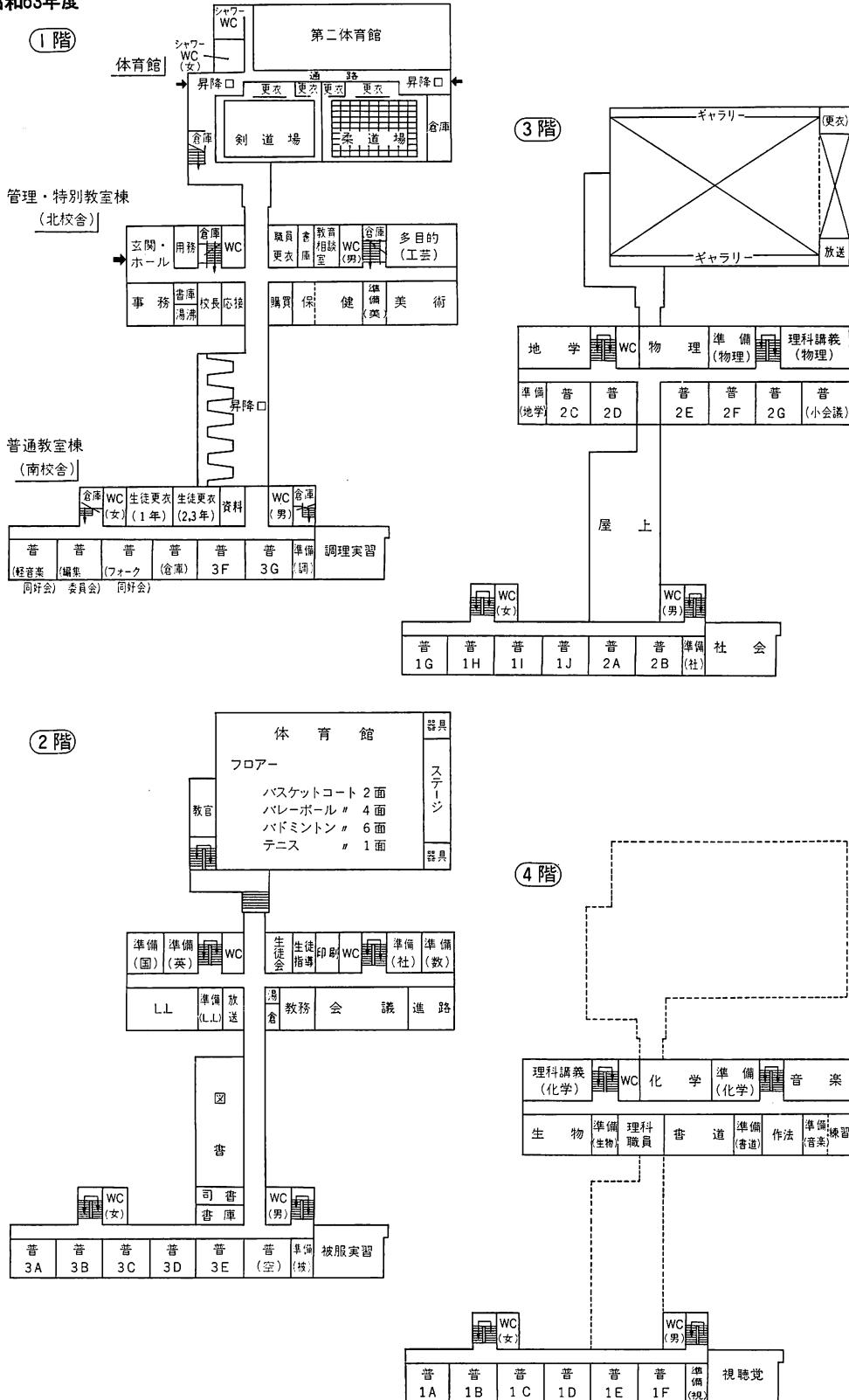


現況並びに資料

平成2年度



昭和63年度



職員在職一覧

職名・教科	氏名(旧姓)	年 度										
		昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2
校長	岩上利男											
	石井功											
	羽生正允											
教頭	石井寛											
	菅谷泰夫											市原八幡高校(校長)
	香取秀紀											
国語	越川雄次郎											千葉県教育庁高校教育課
	平山(山崎)啓子											茂原農業高校
	小關光比古											鎌ヶ谷西高校
	丸山直樹											群馬県立藤岡高校
	藤田(山崎)昭子											船橋芝山高校
	柴恵美子											銚子西高校
	坂元善典											
	池田三男											
	山根(斎藤)昌子											
	加藤祐司											君津農林高校
	米山茂											
	大沼功											
	田口富男											
	繩纈康世											
	大木卓											
社会	櫻井裕子											県立銚子高校
	磯貝智											
	根本浩美											
	伊藤龍芳											富里高校(教頭)
	尾形肇											
社会	鬼沢三郎											
	香取良和											
	小倉晶文											
	椎名克明											野田北高校
	加瀬政一											
	梅木範夫											
	手島和史											
	安藤清											
	香取正巳											
	佐藤茂子											

職名・教科	氏名(旧姓)	年 度											2
		昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元		
数学	富澤 浩												佐倉東高校(教頭) 佐倉南高校
	有美 譲												
	真鍋 憲雄												
	赤井 正男												
	志田 妙子												実穀高校
	香取 一成												
	齋藤 伸之												
	宮部 智哉												東総工業高校 四街道高校
	仲田 恵一												
	藤田 利夫												
	青柳 佳親												
	石橋 博道												
理科	熊坂 典雄												
	富田 金秋												若葉看護高校(教頭) 市立銚子高校 旭農業高校
	林真一												
	畔蒜 正												
	大木 実												
	山野 井晃												幕張東高校 柏西高校
	大里 晃之												
	伊東(石田)明宏												
	藤井 章裕												
	梶本 一之												
	兼坂 仁												
	鵜之 沢健												
保健体育	嵐田 裕美												
	渡邊 潔												
	高岡 誠次												
	石井 恵美子												佐倉東高校
	石渡 真												
	國本 正美												
	永藤 孝一												成東高校 佐原高校(定時制)
	大八木 正明												
	小早志剛規												
	今村 和彦												布佐高校
	矢野 耕平												

現況並びに資料

職名・教科	氏名(旧姓)	年 度										2
		昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	
保健体育	鈴木 小枝子											
	坂本 欣人											
	鈴木 博之											
音 樂	齊藤(上原)令子											
	柴田(岡野)倫代											
芸 術	齋藤(富山)公美子	(非講)										佐倉高校
	湯浅 仁											
工 芸	多田 敏										(非講)	
書 道	津本 英昭											佐原女子高校
	山内 美和											
英 語	高橋 安雄											
	川合 俊夫											
	泉(三矢)しのぶ											
	小松栄三郎											
	江波戸好文											
	土戸 富子											
	大野 冬彦											
	篠崎 昌美											
	中川 真伸											
	根本 直美											
	渡邊 篤夫											
	佐瀬 郁夫											
	向 秀男											
	中嶋 洋美											
	沼尻 俊次											
家 庭	武田 浩二											
	内海 曜子											
	伊藤 千恵子											
養護教諭	郡司 美枝											
	東(坂井)美栄子											佐原高校(定時制)
	坂本 真砂子											

職名・教科		氏名(旧姓)	年 度										
			昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2
実習助手	今 関 久 江												
	中 根 純 子								—				
	工 藤 真 由 美												
	谷 ケ 崎 明 子												
	夏 目 信 子												
事務長	渡 辺 和 男												
	今 井 万 峯												
	椎 名 悅 史												
	大 又 一 雄												
主事	主任 川合(菅谷)幸子												
	主任 増田登志明												
	主任 高橋八重子												
	主任 堀井章代												
	主任 石橋隆男												
用務員	鎌形栄一												
	小高綠												
	鈴木重孝												
	主任 佐久間茂広												
委嘱講師	主任 日暮勝												
	華道 岡嶋ふじ子												
	茶道 中野孝子												
非常勤講師	茶道 和田幸子												
	劍道 岡嶋ふじ子												
	保健体育 飯田正雄												
家庭	出口雄一								—				
	長谷川康子												
	中西ヒデ												
AET		パトリシア・オーロクリン エイミィ・ロビンソン											
学校医	眼科 田辺正義												
	内科 鳥居敏明												
	内科 川辺敏												
	耳鼻科 気賀澤昭三												
	外科 塩沢博												
学校歯科医		斎藤憲一 野澤隆之											
薬剤師		宍倉清											

編集後記

◇『黎明十年』——さうなる飛躍をめざしてのエネルギーに満ち満ちた生徒・職員・保護者に囲まれながら、成田北高十周年記念誌の編集に携わることができたことを大変嬉しく思っております。原稿を寄せていただいた皆様に、心からお礼を申し上げます。

◇「十年一昔」とよくいわれますが、最近は、「十年」の時間の早さと「十年」の変化の激しさ、大きさを痛感させられます。本校にとってもこの十年の歳月はきわめて大きな意味あいを持つおりました。四学級からスタートした学校規模は、六学級から七学級へ、さらに一〇学級へと拡大されましたが、多少の糾余曲折をへながらも、確実に成田北高の教育を前進させ、今後の発展の礎を築いてまいりました。保護者の皆様、卒業生・在校生諸君をはじめ、旧現職員並びに関係各位のご協力とご援助によって成った記念誌『黎明十年』は、この十年の歳月の重みを体現したものです。編集中で、皆様の玉稿にこめられた本校に寄せるお気持ちに接し、大変感銘を受けました。

◇さて、編集にあたっては、本記念誌をご高覧いただく方々に、少しでも、楽しみつつ読んでいただきたいと思い、『見る』『読む』という両面を併せて考えたつもりでございます。各記事にはなるべく多く写真を掲載し、『見』『読』んでいただきつゝ『見』てほしい、との気持ちで編集いたしました。

◇口絵及び沿革の中に掲載する写真の撮影・収集・選択・割付にあたっては、一目で本校のあゆみが理解でき、ページを繰るのが楽しくなるこ

とを第一に考えて、それぞれの作業を進めました。本校には、開校以来さまざまな行事を克明に記録した、膨大な写真が大切に保管されています。それらを最大限に活用し、かつ、先に刊行された『創立五周年記念誌』のものと、できる限り重複しないように努めました。それでも、誌面の都合で割愛せざるをえないものが多數あったのは残念です。

◇創立十周年を記念して、卒業生・在校生の座談会を催しました。また平成二年度入学生並びに保護者の方に、成田北高についてのアンケート調査をお願いいたしました。十年間の本校に対する印象や意見をお聞きするとともに、新入生に「成田北高生像」をさぐってみました。二十年後、三十年後の成田北高の姿と対比する資料として残れば嬉しく思います。

◇開校時から五年間の沿革や写真については、『創立五周年記念誌』並びに同誌の編集にあたられた諸先生のご協力に負うところが多々あります。深く感謝申し上げます。

◇十周年記念誌の編集という重大な責務を自覚するとともに、この作業を通して「ものをつくる喜び」をも再認識させられました。皆様のご高覧に堪え、本校の十年のあゆみを記念するにふさわしい記念誌を、と編集委員一同努力してまいりましたが、不充分な点も多かるうと思います。どうぞ皆様のご意見、ご教示を賜りますよう心からお願い申し上げます。

なお、誌面の都合上、一部、原稿に手を入れさせていただきました。何卒、ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

編集委員 高岡誠次・大沼 功

坂元善典・手島和史

黎明十年

平成三年三月九日 発行

編集 千葉県立成田北高等学校
創立十周年記念誌編集委員会

発行 千葉県立成田北高等学校

〒286
千葉県成田市玉造五丁目一番
電話 ○四七六（二一七）三四二一

印刷 協 聖 ようせい

〒162
東京都新宿区西五軒町四一
電話 大代表 ○三（三一六八）二一四一